

衆驚き潰え、死傷太半なり。祭走りて陽郷に保す。稚等、其の營に據り、器械軍資を獲ること、勝げて數ふ可からず。且に及びて、祭、稚等の兵少きを見、更に劉雅生と與に、餘衆を收めて之を攻む。漢主聰、太尉范隆をして騎を帥めて之を助けしむ。稚等と相持し、苦戦すること二十餘日、下す能はず。李矩、兵を進めて之を救ふ。漢の兵、河に臨みて拒ぎ守り、矩の兵、濟るを得ず。稚等、其の獲たる所の牛馬を殺し、其の軍資を焚き、圍を突きて虎牢に犇る。詔して、矩を以て

河南の三郡の諸軍事を都督せしむ。

漢の龔斯則百堂、災あり、漢主聰の子會稽王康等二十一人を燒殺す。

聰、其子濟南王驥を以て大將軍・都督中外諸軍事・錄尚書と爲し、齊王勰を大司徒と爲す。

焦嵩・陳安、兵を舉げて上邽に逼る。相國保、使を遣はして急を張寔に告ぐ。寔、金城の大守竇濤を遣はし、步騎二萬を督して之に赴かしむ。軍、

新陽に至る。「愍帝崩じ、保、尊號を稱せんと謀る」と聞く。破羌都尉張詵、寔に言つて曰はく、

「南陽王は國の疏屬にして、其の大恥を忘れ、而して亟かに自ら尊くせんと欲す。必ず功を成す能はざらん。晉王は近親にして、且つ名徳有り。當に天下を帥めて以て之を奉ずべし」と。寔、之

に従ふ。牙門蔡忠を遣はし、表を奉じて建康に詣らしむ。至るに比びて、帝已に位に即けり。寔、江東の年號を用ひず、猶ほ建興と稱す。

夏四月丁丑朔、日、之を食する有り。

王敦に江州の牧を、王導に驃騎大將軍・開府儀同三司を加ふ。導、八部の從事を遣はして揚州の郡國を行らしめ、還るとき、同時に俱に見る。

諸從事、各二千石官長の得失を言ふ。獨り顧和のみ言ふ無し。導、之に問ふ。和曰はく、「明公、輔と作り、寧んぞ綱をして吞舟(魚)を漏らさしむるや。何に緣りてか風聞を採聽し、察察を以て政を爲さんや」と。

導、恚嗟して善しと稱す。和は榮の族子なり。

成の丞相范長生・卒す。成主雄、長生の子侍中賁を以て丞相と爲す。

長生、博學にして藝能多く、年、百歳に近し。蜀人、之を奉すること神の如し。

漢の中常侍王沈の養女、美色有り。漢主聰、立てて以て左皇后と爲す。尚書令王鑒・中書監崔懿之・中書令曹恂、諫めて曰はく、「臣聞く、王者、后を立て、徳を乾坤に比し、生きては宗廟に承へ、没しては后土に配す。必ず世徳・名宗・幽閑・令淑なるを擇び、乃ち四海の望に副ひ、神祇の心に稱ふと。

【一〇】 河西の張氏、建興の年號を用ふる事、九世四十九年を歴、孝宗升平五年に至り、張天錫、乃ち升平の年號を奉す。

【一一】 揚州。時に丹陽・會稽・吳・吳興・宣城・東陽・臨海・新安の八郡を統ぶ。

【一二】 乾坤。乾は父道なり、君徳をこれに比す。坤は母道なり、后徳をこれに比す。

〔三〕孝成帝、趙飛燕を以て后と爲し、繼嗣をして絶滅し、社稷をして墟と爲らしむ。此れ前鑑なり。
 〔四〕麟嘉より以來、中宮の位、徳を以て擧げず。借し沈の弟の女ならしむるも、刑餘の小醜にして、猶ほ以て椒房を塵汗す可からず。沈んや其の家婢なるをや。六宮の妃嬪は、皆、公子・公孫なり。柰何ぞ一旦にして婢を以て之に主とせんや。臣、國家の福に非ざらんことを恐る」と。聰大に怒り、中常侍宣懷をして太子榮に謂はしめて曰はく、「鑿等小子、狂言侮慢し、復た君臣上下の禮無し。其れ速かに考實せよ」と。是に於て、鑿等を收めて市に送り、皆、之を斬る。
 金紫光祿大夫王延、馳せて將に入りて諫めんとす。門者、通せず。鑿等、刑に臨むや、王沈、杖を以て之を叩きて曰はく、「庸奴、復た能く惡を爲さんや。乃公、何ぞ汝の事に與らん」と。鑿、目を瞑らして之を叱して曰はく、「豎子、大漢を滅ぼさん者は、正に汝鼠輩と斬準とに坐するのみ。要す當に汝を先帝に訴へ、汝を地下に取りて之を治すべし」と。準、鑿に謂つて曰はく、「吾、詔を受けて君を收ふ。何の不善有りて、君、漢の滅ぶるは吾に由らん」と言ふや」と。鑿曰はく、「汝、皇太弟を殺し、主上をして不友の名を獲しむ。國家、汝が輩を畜養す。何ぞ滅びざるを得ん」と。懿之、準に謂つて曰はく、「汝の心は、梟獍の如し。必ず國の患を爲さん。汝、既に人を食ふ。人も亦當に汝を食ふべし」と。聰、又、宣懷の養女を立てて中皇后と爲す。

〔三〕 孝成帝云云。三十二卷漢の哀帝建平元年に見ゆ。
 〔四〕 麟嘉。愍帝の建興四年は即ち漢の麟嘉元年なり。
 〔五〕 梟獍。梟は母を食ひ破る鳥。獍は父を食ひ破る獸。

司徒荀組、許昌に在り、石勒に逼られ、其の屬數百人を帥ゐて、江を渡る。組に詔して、太保西陽王業と、竝に尙書の事を録せしむ。
 段匹磾が疾陸春の喪に犇るや、劉琨、其の世子羣をして之を送らしむ。匹磾が敗るるや、羣、段末柁の得る所と爲る。末柁厚く之を禮し、琨を以て幽州の刺史と爲すを許し、之と與に匹磾を襲はんと欲し、密に使を遣はし、羣の書を齎し、琨に内應を爲さんことを請はしむ。匹磾の選騎の得る所と爲る。時に琨、別に 征北の小城に屯し、知らざるなり。來りて、匹磾を見る。匹磾、羣の書を以て琨に示して曰はく、「意、亦、公を疑はず。是を以て公に白すのみ」と。琨曰はく、「公と同盟し、國家の恥を雪がんことを庶ふ。若し兒の書密に達すとも、亦、終に一子の故を以て公に負きて義を忘れざるなり」と。匹磾雅より琨を重んず。初め琨を害する意無く、將に屯に還るを聽さんとす。其の弟叔軍、匹磾に謂つて曰はく、「我は胡夷のみ。能く晉人を服する所以は、吾が衆を畏るればなり。今、我が骨肉乖離す。是れ其の良圖の日なり。若し琨を奉じて以て起る有らば、吾が族盡されん」と。匹磾遂に琨を留む。琨の庶長子遵、誅を懼れ、琨の左長史楊橋等と與に、門を閉ちて自ら守る。匹磾攻めて之を抜く。代郡の太守辟閭嵩、後將軍韓據、復た潜に匹磾を襲はんと謀る。事泄る。匹磾、嵩・據及び其の徒黨を執へ、悉く之を誅す。五月癸丑、匹磾、詔と稱して琨を收へ、之を

〔二六〕 征北の小城。蓋し征北將軍の治する所。
 〔二七〕 我云云。末柁と相攻むるをいふ。

縊り殺し、并せて其の子姪四人を殺す。琨の從事中郎盧諶・崔悅等、琨の餘衆を帥ゐて、遼西に犇り、段末柁に依り、劉羣を奉じて主と爲す。將佐多く石勒に犇る。悦は【二六】林の曾孫なり。朝廷、匹磾尙ほ疆きを以て、其の能く河朔を平げんことを冀ひ、乃ち琨の爲めに哀を擧げず。温嶠・表す、「琨、忠を帝室に盡し、家破れ身亡ぶ。宜しく衰恤に在るべし」と。盧諶・崔悅、末柁の使者に因りて、亦上表し、琨の爲めに冤を訴ふ。後數歳、乃ち琨に太尉・侍中を贈り、諡して愍と曰ふ。是に於て、夷・晋、琨が死せるを以て、皆、匹磾に附かず。末柁、其の弟を遣はして匹磾を攻む。匹磾、其の衆數千を帥ゐ、將に邵續に犇らんとす。勒の將石越、之を【二九】鹽山に邀へ、大に之を敗る。匹磾、復た還りて薊に保す。末柁自ら幽州の刺史と稱す。初め温嶠、劉琨の爲めに表を奉じて建康に詣るや、其の母崔氏、固く之を止む。嶠、裙を絶ちて去る。既に至るや、屢、返命せんと求むれども、朝廷許さず。會、琨死す。散騎侍郎に除せらる。嶠、母亡すと聞けども、亂に阻てられ、喪に犇り葬に臨むを得ず。固く讓りて拜せず、苦ろに北に歸らんことを請ふ。詔して曰はく、「凡そ禮を行ふ者は、當に理をして【三〇】經通す可からしむべし。今、桀逆未だ梟せられず、諸軍、梓宮を奉迎すれども、猶ほ未だ進むを得ず。嶠、一身を以て、何に於てか其の私難を濟はんとして、王命に従はざるや」と。嶠、已むを得ずして拜を受く。

【二六】 林・崔林・魏に仕へて、司空に至る。

【二九】 鹽山。勃海の高城縣に在り。今の直隸省津海道鹽山縣なり。

【三〇】 經。常なり。

初め曹巖既に青州に據り、乃ち【三一】漢に叛きて來り降る。又、建康【三二】懸遠にして、勢援・接せざるを以て、復た石勒と相結ぶ。勒、巖に東州大將軍・青州の牧を授け、琅邪公に封す。

六月甲申、刁協を以て尙書令と爲し、荀崧を左僕射と爲す。協、性剛悍にして、物と多く忤ふ。侍中劉隗と、俱に帝に寵任せられ、時弊を矯めんと欲し、毎に上を崇び下を抑へ、豪彊を排沮す。故に王氏に疾まる。諸の【三三】刻碎の政は、「皆、隗・協の建つる所なり」と云ふ。協、又、酒を使ひ放肆にして、公卿を侵毀す。見る者、皆、目を側て之を憚る。

戊戌、皇子晞を封じて武陵王と爲す。

劉虎、朔方より、拓拔鬱律の西部を侵す。秋七月、鬱律、虎を撃ち、大に之を破る。虎走りて塞を出づ。從弟路狐、其の部落を帥ゐて、鬱律に降る。是に於て、鬱律、西は烏孫の故地を取り、東は【三四】勿吉以西を兼ね、士馬精彊にして、北方に雄たり。

漢主聰、疾に寝ね、大司馬曜を徵して丞相と爲し、石勒を大將軍と爲し、皆、尙書の事を録し、遺詔を受けて、政を輔けしむ。曜、勒・固辭す。乃ち曜を以て丞相と爲し、雍州の牧を領せしめ、勒を大將軍と爲し、幽・冀二州の牧を領せしむ。勒、辭して受けず。上洛王景を以て太宰と爲し、濟南

【三一】 使を遣はして建康に詣らしめ、表を奉じて勸進するを謂ふ。

【三二】 懸遠。遙に遠き也。

【三三】 刻碎。苛刻煩碎。

【三四】 劉虎が朔方に徙ること、八十七卷懷帝永嘉四年に見ゆ。

【三五】 勿吉。通古斯民族。松花江畔に據れる部族なり。

王驥を大司馬と爲し、昌國公顗を太師と爲し、朱紀を太傅と爲し、呼延晏を太保と爲し、竝に尙書の事を録せしめ、范隆を守尙書令・儀同三司とし、靳準を大司空と爲し、司隸校尉を領し、皆、迭に尙書の奏事を決せしむ。癸亥、聰・卒す。甲子、太子榮、位に即く。皇后靳氏を尊びて皇太后と爲し、樊氏を弘道皇后と號し、武氏を弘德皇后と號し、王氏を弘孝皇后と號し、其の妻靳氏を立てて皇后と爲し、子元公を太子と爲す。大赦し、漢昌と改元す。聰を宣光陵に葬り、諡して昭武皇帝と曰ひ、廟を烈宗と號す。靳太后等、皆、年二十に盈たず。榮多く無禮を行ひ、復た哀戚する無し。靳準、陰に異志有り、私に榮に謂つて曰はく、『聞くが如くんば、諸公、伊霍の事を行ひ、先づ太保及び臣を誅し、大司馬を以て萬機を統べしめんと欲すと。陛下、宜しく早く之を圖るべし』と。榮從はず。靳氏をして之を言はしむ。榮乃ち之に従ひ、其の

【三六】 二靳氏。聰の后と榮の后なり。
 【三七】 長安に奔る。劉曜に奔る也。
 【三八】 上林。蓋し上林苑を平陽に起せる也。

太宰景・大司馬驥・驥の母弟車騎大將軍吳王逞・太師顗・大司徒齊王勸を收へ、皆、之を殺す。朱紀・范隆、長安に奔る。八月、榮、兵を上林に治め、石勒を討たんと謀り、丞相曜を以て相國と爲し、中外の諸軍事を都督せしめ、仍て長安に鎮せしめ、靳準を大將軍と爲し、尙書の事を録せしむ。榮常に後宮に遊宴し、軍國の事、一に準に決す。準、詔を矯め、從弟明を以て車騎將軍と爲し、康を衛將軍と爲す。準將に亂を作さんとし、王延に謀る。延從はず、馳せて將に之を告げんとし、靳康

に遇ふ。康を劫して以て歸る。準遂に兵を勸して光極殿に升り、甲士をして榮を執へしめ、數めて之を殺し、諡して隱帝と曰ふ。劉氏の男女、少長と無く、皆、東市に斬る。永光・宣光の二陵を發き、聰の屍を斬り、其の宗廟を焚く。準自ら大將軍・漢天王と號し、制を稱して百官を置く。安定の胡嵩に謂つて曰はく、『古より、胡人の天子と爲る者無し。今、傳國璽を以て汝に付す。還りて晉家に如け』と。嵩、敢て受けず。準怒りて之を殺す。使を遣はして司州の刺史李矩に告げて曰はく、『劉淵は屠各の小醜なり。晉の亂るるに因りて、矯りて天命と稱し、二帝をして幽没せしむ。輒ち衆を率ゐて、梓宮を扶持す。請ふ以て上聞せよ』と。矩馳せて帝に表す。帝、太常韓胤等を遣はし、梓宮を奉迎せしむ。漢の尙書・北宮純等、晉人を招集し、東宮に堡す。靳康、攻めて之を滅ぼす。準、王延を以て左光祿大夫と爲さんと欲す。延罵りて曰はく、『屠各の逆奴、何ぞ速かに我を殺さざる。吾が左目を以て西陽門に置け。相國の入るを見ん。右目を殺さざる。』大將軍の入るを觀ん』と。準、之を殺す。相國曜、亂を建春門に置け。長安より之に赴く。石勒、精銳五萬を帥ゐて以て準を討ち、襄陵の北原に據る。準、數戰を挑む。勒、壁を堅くして以て之を挫く。冬、十月、曜、赤壁に至る。太保呼延晏等、平陽より之に歸し、太傅朱紀等

【三九】 永光。淵の墓。
 【四〇】 漢天王、晉書載記には漢大王に作る。
 【四一】 傳國璽。洛陽の陷るや、傳國璽、平陽に遷りし也。
 【四二】 北宮純が漢に降ること、八十七卷懷帝永嘉五年に見ゆ。
 【四三】 相國劉曜が將に西より兵を進めんとするをいふ。
 【四四】 大將軍石勒が將に東より兵を進めんとするをいふ。

と、共に尊號を上る。曜、皇帝の位に即く。大赦す。惟だ靳準の門は、赦の例に在らず。光初と改元す。朱紀を以て司徒を領せしめ、呼延晏をして司空を領せしめ、太尉范隆以下、悉く本位を復す。石勒を以て大司馬・大將軍と爲し、九錫を加へ、封十郡を増し、爵を進めて趙公と爲す。勒進みて準を平陽に攻む。巴及び羌羯の降る者十餘萬落、勒、皆、之を所部の郡縣に徙す。漢主曜、征北將軍劉雅・鎮北將軍劉策をして、汾陰に屯し、勒と共に準を討たしむ。

十一月乙卯、日、夜出で、高さ三丈。

詔して、王敦を以て荊州の牧と爲し、陶侃に都督交州諸軍事を加ふ。敦固く州牧を辭す。乃ち聽して刺史と爲す。

庚申、羣公卿士に詔して、各得失を陳べしむ。御史中丞熊遠・上疏して以爲はく、『胡賊、夏を猾り、梓宮未だ返らざるに而も、軍を遣はして進討する能はず。一の失なり。羣官、讎賊未だ報せられざるを以て恥と爲さず、務、調戲酒食に在るのみ。二の失なり。官を選び人を用ふるに、實徳を料らず、惟だ白望に在り、才幹を求めず、惟だ請託を事とし、官に當る者は、事を治むるを以て俗吏と爲し、法を奉ずるを苛刻と爲し、禮を盡すを諂諛と爲し、從容たるを高妙と爲し、放蕩なるを達士と爲し、驕蹇なるを簡雅と爲す。三の失なり。世の惡む所の者は、泥滓に陸沈し、時の善しとする所の者は、雲霄に翱翔す。是を以て、萬機未だ整はず、風俗僞薄にして、朝廷の羣司、從順なるを以て善しと爲し、相違ふは貶せらる。安んぞ朝に辨争の臣有り・士に祿仕の志無きを得んや。古の士を取るは、敷き奏むるに言を以てす。今、光祿試みず、甚だ古義に違ふ。又、賢を擧ぐるに世族を出でず、法を用ふるに權貴に及ばず。是を以て、才、務を濟さず、姦、懲るる所無し。若し此の道改めず、以て亂を救はんことを求むるは、難し』と。是より先、帝、離亂の際なるを以て、人心を慰悦せんと欲し、州郡の秀孝、至る者は試みず、普く皆吏に署す。尙書陳頴も亦上言す、『宜しく漸く舊制に循ひ、試みるに經策を以てすべし』と。帝、之に従ひ、仍て詔す、『科に中らざる者は、(之ヲ舉)刺史・太守、官を免せん』と。是に於て、秀孝、皆、敢て行かず。其の到る有る者も、亦、皆、疾に託し、三年に比ぶまで、試に就く者無し。帝、特に孝廉の已に到れる者を官に除せんと欲す。尙書郎孔坦、奏議して以爲はく、『近郡、君父を累はさんことを懼れ、皆、敢て行かず。遠近、試みられざるを冀ひ、冒昧して來り赴けるものに、今若し徧く除署を加へば、是れ、身を謹み法を奉ずる者は分を失ひ、

【四五】 襄陵。縣の名。平陽郡に屬す。今の山西省河東道襄陵縣。

【四六】 赤壁。今の山西省河東道安澤縣の南に在り。

【四七】 曜。字は永明、淵の族子なり。

【四八】 巴。巴氏なり。魏の武帝、漢中を平げ、巴氏を關中に遷す。其の後、種落滋蔓し、河東・平陽に皆これ有り。

【四九】 汾陰。縣の名、故城は今の山西省河東道榮河縣の北に在り。

【五〇】 陸沈。水無くして沈むをいふ。

【五一】 尙書堯典(今の舜典)に曰はく、敷き奏むるに言を以てすと。敷は陳ぶる也。奏は進むる也。各、治體の言を陳べ進むる也。

【五二】 秀才・孝廉、試みずして吏に署するを謂ふ。

【五三】 州郡の秀孝。州郡の擧ぐる所の秀才・孝廉。

【五四】 君父。刺史・太守をいふ。【五五】 遠近。一本には遠郡に作る。尙書孔愉傳には遠州の邊郡に作る。

僥倖して 投射する者は官を得と爲す。頽風蕩教、恐らくは此より始まらん。若かず、一切罷め歸し、之が爲めに期を延ばし、學に就くを得しめんには。則ち法均しくして令信ならん」と。帝、之に従ひ、孝廉に。申べて七年に至りて乃ち試するを聽す。坦は愉の從子なり。

靳準、侍中ト泰をして乘輿服御を送らしめ、和を石勒に請ふ。勒、泰を囚へて漢主曜に送る。曜、泰に謂つて曰はく、「先帝、末年、實に 大倫を亂る。司空、伊霍の權を行ひ、朕をして此に及ばしむ。其の功、大なり。若し早く大駕を迎へば、當に悉く政事を以て相委ぬべし。況んや死を免るるをや。卿、朕が爲めに城に入り、具に此の意を宣べよ」と。泰、平陽に還る。準、自ら、曜の母と

兄とを殺せるを以て、沈吟して未だ從はず。十二月、左右車騎將軍喬泰、王騰、衛將軍靳康等、相與に準を殺し、尙書令靳明を推して主と爲し、ト泰を遣はして、傳國の六璽を奉じて漢に降る。石勒大に怒り、軍を進めて明を攻む。明出で戦ひ、大に敗れ、乃ち城に嬰りて固く守る。

丁丑、皇子煥を封じて琅邪王と爲す。煥は鄭夫人の子、生れて二年なり。帝、之を愛す。其の疾篤きを以て、故に之を王とす。己卯、薨す。

帝、成人の禮を以て之を葬り、吉凶の儀服を備へ、園陵を營起す。功費甚だ廣し。琅邪國の 右常侍會稽の孫霄、上疏して諫めて曰はく、「古は

凶荒には禮を 殺ぐ。況んや今海内喪亂するをや。憲章の舊制すら、猶ほ宜しく節省すべし。而るに 禮典の無き所、顧つて崇飾することは是の如くならんや。已に罷るるの民を竭して、無益の事を營み、已に困しむの財を殫して、無用の費を修む。此れ臣が安んせざる所なり」と。帝從はず。

彭城の内史周撫、沛國の内史周默を殺し、其の衆を以て石勒に降る。下邳の内史劉遐に詔して、彭城の内史を領し、徐州の刺史蔡豹、泰山の太守徐龕と其に之を討たしむ。豹は 質の玄孫なり。

石虎、幽冀の兵を帥ひ、石勒に會して平陽を攻む。靳明屢敗れ、使を遣はして救を漢に求む。漢主曜、劉雅、劉策をして之を迎へしむ。明、平陽の士女萬五千人を帥ひて

漢に犇る。曜、西して 粟邑に屯し、靳氏の男女を收へ、少長と無く、皆、之を斬る。曜、其の母胡氏の喪を平陽より迎へ、粟邑に葬る。號して陽陵と曰ひ、諡して宣明皇太后と曰ふ。石勒、平陽の宮室を焚き、裴憲、石會をして永光、宣光の二陵を修めしめ、漢主粲已下百餘口を收めて之を葬り、成を置きて歸る。

成の梁州の刺史李鳳、數、功有り。成主雄の兄の子稚、晉壽に在り、之を疾む。鳳、巴西を以て

【六】 投射。機に投じて利を射る也。

【七】 申。延期する也。

【八】 大倫云云。榮が其の諸母に蒸せるをいふ。

【九】 曜の母兄云云。曜の母胡氏、準に殺さる。兄は史、其の名を失す。

【一〇】 沈吟。猶豫して、決せざる也。

各一人を置く。

【一】 殺。降し滅する也。

【二】 無服の傷を葬るに成人の禮を以てすることは、古典に無き所なり。

【三】 蔡質は漢の人、蔡邕の叔父なり。

【四】 粟邑。縣、馮翊に屬す。今の陝西省關中道白水縣の西北三十里に在り。

【五】 晉壽。縣は、梓潼郡に屬す。故城は今の四川省嘉陵道昭化縣の東南五十里に在り。

叛く。雄自ら涪に至り、太傅驥をして鳳を討たしめ、之を斬る。李壽を以て前將軍と爲し、巴西の軍事を督せしむ。

卷の第九十一

晉紀十三

中宗元皇帝中

大興二年、春二月、劉遐・徐龕、周撫を寒山に撃ち、破りて之を斬る。數千家を帥ゐ、壘を結びて以て自ら保つ。遠近多く之に附く。曹嶷、其の疆きを惡み、將に之を攻めんとす。峻、衆を帥ゐて海に浮びて來奔す。帝、峻を以て鷹揚將軍と爲し、劉遐を助けて周撫を討たしむ。功有り。詔して、遐を以て臨淮の太守と爲し、峻を淮陵の内史と爲す。

石勒、左長史王修を遣はし、捷を漢に獻す。漢主曜、兼司徒郭汜を遣はし、勅に太宰を授け、大將軍を領せしめ、爵を趙王に進め、殊禮を加へ、出づるに警し入るに蹕せしめ、曹公が漢を輔けし故事の如くす。王修及び其の副劉茂を拜して、皆、將軍と爲し、列侯に封す。修の舍人曹平樂、修に従つて栗邑に至り、因つ

初め 掖の人蘇峻、郷里

- 【一】 大興二年。西紀三一九年なり。
- 【二】 寒山。今の江蘇省徐海道銅山縣の東南に在り。
- 【三】 掖。戰國時代の夜邑。今の山東省膠東道掖縣の地。
- 【四】 淮陵。惠帝の元康七年、臨淮を分ちて淮陵郡を置く。安徽省淮泗道盱眙縣の北。

て留まりて漢に仕へ、曜に言つて曰はく、「大司馬、修等を遣はして來らしむるは、外は至誠を表し、内は大駕の彊弱を覘ひ、其の復命するを俟ち、將に乘輿を襲はんとするなり」と。時に漢の兵、實に疲弊す。曜、之を信ず。乃ち汜を追うて還らしめ、修を市に斬る。三月、勒還りて襄國に至る。劉茂逃げ歸り、修の死する状を言ふ。勒大に怒りて曰はく、「孤、劉氏に事へ、人臣の職に於て、加ふる有り。彼の基業は、皆、孤が爲す所なり。今、既に志を得、還つて、相圖らんと欲す。趙王・趙帝は、孤自ら之と爲らん。何ぞ彼を待たんや」と。乃ち曹平樂の三族を誅す。

帝、羣臣をして郊祀を議せしむ。尙書令刁協等以爲はく、「宜しく洛に還るを須ちて乃ち之を修むべし」と。司徒荀組等曰はく、「漢の獻帝、許に都し、即ち郊祀を行へり。何ぞ必ずしも洛邑ならん」と。帝、之に従ひ、郊丘を建康城の巳の地に立つ。辛卯、帝親ら南郊に祀る。未だ北郊有らざるを以て、地祇を并せて之を合祭す。詔す、「琅邪の恭王は、宜しく皇考と稱すべし」と。賀循曰はく、「禮に、子は敢て己の爵を以て父に加へず」と。乃ち止む。

初め、蓬陂の塢主陳川、自ら陳留の太守と稱す。祖逖が樊雅を攻むるや、川、其の將李頭を遣はして之を助く。頭、力戰して功有り。逖厚く之を遇す。頭毎に嘆じて曰はく、「此の人を得て主と爲さば、降る。吾死すとも恨無し」と。川聞きて之を殺す。頭の黨馮龍、其の衆を帥ゐて逃に降る。川益々怒り、大に豫州の諸郡を掠む。逃、兵を遣はして撃ちて之を破る。夏四月、川、浚儀を以て、叛きて石勒に降る。

周撫の敗走するや、徐寵の部將于藥、追うて之を斬る。朝廷の功を論ずるに及びて、劉遐、之に先だつ。寵怒り、泰山を以て叛きて石勒に降り、自ら兖州の刺史と稱す。

漢主曜、還りて長安に都し、二、妃羊氏を立てて皇后と爲し、子熙を皇太子と爲し、子襲を封じて長樂王と爲し、闡を太原王と爲し、冲を淮南王と爲し、敞を齊王と爲し、高を魯王と爲し、徽を楚王と爲し、諸の宗室は、皆、封を郡王に進む。羊氏は即ち故の惠帝の后なり。曜嘗て之に問うて曰はく、「吾は、司馬家の兒に何如」と。羊氏曰はく、「陛下は開基の聖主、彼は亡國の暗夫なり。何ぞ竝べて言ふ可けんや。彼は貴きこと帝王と爲り、一婦・一子及び身の三つ有るのみ、曾ち・庇ふ能はず。妾、爾の時に於て、實に生を欲せず、意に謂へらく、世間の男子は皆然りと。巾櫛を(陛下)奉せしより已來、始めて天下に自ら丈夫有るを知れるのみ」と。曜甚だ之を寵し、頗る國事に干預す。

- 【九】 浚儀縣は陳留郡に屬す。故の大梁なり。故城は、今の河南省開封道開封縣の北に在り。
- 【一〇】 栗邑より長安に還り、遂に都を定む。
- 【一一】 妃羊氏。曜が羊后を納るること、八十七卷懷帝永嘉五年に見ゆ。
- 【一二】 司馬家の兒。惠帝をいふなり。

南陽王保、自ら晉王と稱し、建康と改元し、百官を置き、張寔を以て征西大將軍・開府儀同三司と爲す。陳安自ら秦州の刺史と稱し、漢に降り、又、成に降る。上邽大に饑る、士衆困迫す。張春、保を奉じて、南安の祁山に之く。寔、韓璞を遣はし、步騎五千を帥めて之を救ふ。陳安退きて、(三) 縣諸に保す。保、上邽に歸る。未だ幾くならずして、保復た安に逼らる。寔、其の將宋毅を遣はして之を救ふ。安乃ち退く。

江東大に饑う。百官に詔して、各封事を上らしむ。益州の刺史應詹・上疏して曰はく、『元康以來、(四) 經を賤しみ道を尙び、玄虛宏放を以て夷達と爲し、儒術清儉を以て鄙俗と爲す。宜しく儒官を崇獎し、以て俗化を新にすべし』と。

祖逖、陳川を蓬關に攻む。石勒、石虎を遣はし、兵五萬を將めて之を救ふ。浚儀に戰ふ。逖の兵敗れ、退きて梁國に屯す。勒、又、桃豹を遣はし、兵を將めて蓬關に至らしむ。逖退きて、淮南に屯す。虎、川の部衆五千戸を襄國に徙し、豹を留めて川の故城を守らしむ。

石勒、石虎を遣はし、鮮卑の日六延を朔方に撃ち、大に之を破る。斬首二萬級、俘虜三萬餘人。孔萇、幽州の諸郡を攻め、悉く之を取る。段匹磾、士衆飢ゑて散じ、移りて、(八) 上谷に保せんと欲す。代

王鬱律、兵を勅し、將に之を撃たんとす。匹磾、妻子を棄て、(九) 樂陵に奔り、邵續に依る。

(一〇) 曹嶷、使を遣はして石勒に賂ひ、河を以て境と爲さんと請ふ。勒、之を許す。

梁州の刺史周訪、杜曾を撃ち、大に之を破る。馬雋等、曾を執へて以て降る。訪、之を斬る。并せて荊州の刺史、(三) 第五猗を獲、武昌に送る。訪、猗が本中朝の署する所にして、加ふるに時望有るを以て、王敦に白す、『宜しく殺すべからず』と。敦聽かずして之を斬る。初め敦、杜曾の制し難きを患へ、訪に謂つて曰はく、『若し曾を擒にせば、當に(三) 相論じて荊州と爲すべし』と。曾が死するに及びて、敦用ひず。王廙、荊州に在り、多く陶侃の將佐を殺し、皇甫回が侃の敬する所たるを以て、其の己に詣らざるを責め、收へて之を斬る。士民怨み怒り、上下安んぜず。帝、之を聞き、廙を徵して散騎常侍と爲し、周訪を以て廙に代りて荊州の刺史と爲す。王敦、訪の威名を忌み、意に之を難る。從事中郎、(三) 郭舒、敦に説きて曰はく、『鄙州は荒弊すと雖も、乃ち武を用ふるの國なり。以て人に假す可からず。宜しく自ら之を領すべし。訪、梁州と爲らば、足りなん』と。敦、之に従ふ。六月丙子、詔して、訪に安南將軍を加ふ。餘は故の如し。訪大に怒る。敦、手書して、(四) 譬解し、并せて玉環・玉枕

- 【三】 縣諸。天水郡に屬す。今の甘肅省渭川道天水縣の東。
- 【四】 經を賤み道を尙ぶ。儒を賤みて老莊を尙ぶをいふ。
- 【五】 夷達。夷曠閼達。
- 【六】 蓬關。蓬波と同じ。
- 【七】 淮南。此の淮南郡は壽春に治す。今の安徽省淮泗道壽縣。
- 【八】 上谷郡は沮陽縣(即ち今の直隸省口北道懷來縣)に治す。

- 【九】 樂陵郡は厭次縣に治す。續、これを保ちて以て晉を奉ず。厭次縣の故城は今の山東省濟南道陽信縣に在り。
- 【一〇】 嶷已に河に緣りて成を置けるに、今、勒に賂して、河を以て境と爲さんと請ふは、勒の侵略を懼るればなり。
- 【三】 第五猗が杜曾に従へること、八十九卷愍帝建興四年に始まる。
- 【三】 相論す。功を論するをいふ。
- 【三】 郭舒。先に荊州に在り、劉弘・王澄に歷事す。
- 【四】 譬解。諭解する也。

を遣り、以て厚意を申ぶ。訪、之を地に抵ちて曰はく、「吾、豈に賈豎にして寶を以て悦ばず可けんや」と。訪、襄陽に在り、農を務め兵を訓へ、陰に、敦を圖るの志有り。守宰、缺くる有れば、輒ち補し、然る後言上す。敦、之を患ふれども、制する能はず。魏該、胡寇に逼られ、宜陽より、衆を率ゐて、南して新野に遷り、周訪を助けて杜曾を討ち、功有り、順陽の太守に拜す。趙固・死し、郭誦留まりて、陽翟に屯す。石生屢、之を攻むれども、克つ能はず。

漢主曜、宗廟・社稷・南北郊を長安に立つ。詔して曰はく、「吾の先は、北方より興れり。光文、漢の宗廟を立て、以て民望に従へり。今、宜しく國號を改め、單于を以て祖と爲すべし。亟かに議して以て聞せよ」と。羣臣・奏す、「光文、始め、盧奴伯に封せられ、陛下、又、中山に王たりき。中山は趙の分なり。請ふ國號を改めて趙と爲さん」と。之に従ひ、冒頓を以て天に配し、光文を上帝に配す。

徐龜、濟・岱(同)を寇掠し、東莞を破る。帝、將帥の以て龜を討つ可き者を王導に問ふ。導以爲はく、「太子の左衛率泰山の羊鑿は、龜の州里の冠族なり。必ず能く之を制

【三五】 魏該。懷帝の末より、宜陽の界の一泉塢に屯す。

【二六】 宜陽。縣の名、弘農郡に屬す。今の河南省洛陽道宜陽縣の地。

【二七】 新野。縣の名、義陽郡に屬す。今の河南省汝陽道新野縣の地。

【二八】 陽翟。河南郡に屬す。今の河南省開封道禹縣治。

【二九】 光文云云。八十五卷惠帝永興元年に見ゆ。

【三〇】 盧奴伯。晉の成都王穎、劉淵を封じて盧奴伯と爲す。

【三一】 濟・岱。今の山東省濟南道方面。岱は泰山なり。

【三二】 東莞。郡の名、莒に治す。今の山東省濟寧道莒縣是れなり。

【三三】 段文鴛。時に其兄匹磾に従つて厭次に在り。

【三四】 二十四郡。河内、魏、汲、頓丘、平原、清河、鉅鹿、常山、中山、長樂、樂平、趙國、廣平、陽平、章武、勃海、河間、上黨、定襄、范陽、漁陽、武邑、燕國、樂陵。

【三五】 貫志。貫は姓、志は名。

【三六】 勒、經學祭酒・律學祭酒・史學祭酒・門臣祭酒を置く。

【三七】 中壘將軍は後趙創めて置く。

【三八】 衣冠華族。衣冠の士及び中華の人。

せん」と。鑿深く辭す、「才、將帥に非ず」と。都鑿も亦表す、「鑿は才に非ず。使ふ可からず」と。導從はず。秋八月、羊鑿を以て征虜將軍・征討都督と爲し、徐州の刺史蔡豹・臨淮の太守劉遐・鮮卑の段文鴛等を督して之を討たしむ。

冬、石勒の左右長史張敬・張賓・左右司馬張屈六・程遐等、勒に尊號を稱せんことを勸む。勒許さず。十一月、將佐等、復た勒に請ふ、「大將軍・大單于と稱し、冀州の牧・趙王を領し、漢の昭烈が蜀に在り、魏武が鄴に在りし故事に依り、河内等の二十四郡を以て趙國と爲し、太守を皆内史と爲し、禹貢に準じて冀州の境を復し、大單于を以て百蠻を鎮撫し、并・朔・司の三州を罷め、通じて部司を置きて以て之を監せよ」と。勒、之を許し、戊寅、趙王の位に即き、大赦し、春秋の時の列國に依りて元年と稱す。初め勒、世亂れて律令煩多なるを以て、法曹令史、貫志に命じ、其の要を采集し、辛亥制五千文を作らしめ、施行すること十餘年、乃ち律令を用ふ。理曹參軍上黨の續咸を以て、律學祭酒と爲す。咸、法を用ふること詳平にして、國人、之を稱す。中壘將軍支雄・游擊將軍王陽を以て門臣祭酒を領し、専ら胡人の辭訟を主らしむ。重ねて胡人に禁じて、衣冠華族を陵侮するを得ざらしめ、胡を號して國人と爲す。使

を遣はして州郡を循行し、農桑を勸課せしむ。朝會に、始めて天子の禮樂を用ふ。衣冠儀物、從容として觀る可し。張賓に大執法を加へ、専ら朝政を總べしむ。石虎を以て單于元輔・都督禁衛諸軍事と爲し、尋いで驃騎將軍・侍中・開府を加へ、爵中山公を賜ふ。自餘の羣臣、位を授け爵を進むること、各差有り。張賓、任遇優顯にして、羣臣及ぶもの莫し。而して謙虛にして敬慎し、懷を開きて士に下り、阿私を屏絶し、身を以て物を帥ゐ、入りては則ち規を盡し、出でては則ち美を歸す。勒甚だ之を重んじ、朝する毎に常に之が爲めに容貌を正しうし、辭令を簡にし、呼びて右侯と曰ひて、敢て名いはす。

十二月乙亥、大赦す。

平州の刺史 崔恣、自ら中州の人望なりと以ひ、遼東を鎮す。而して士民多く慕容廆に歸す。(恣)心、平かならず。數、使を遣はして之を招けども、皆、至らず。廆が之を拘留するを意ひ、乃ち陰に高句麗・段氏・宇文氏に説き、共に之を攻めしめ、廆を滅ぼして其の地を分たんと約す。恣の親しむ所の勃海の高瞻・力諫す。恣、從はず。三國、兵を合はせて廆を伐つ。(廆)諸將、之を撃たんと請ふ。廆曰はく、「彼、崔恣に誘はれ、(二)一切の利を邀めんと欲し、軍勢初めて合し、其の鋒甚だ鋭し、與に戰ふ可からず。當に固く守りて以て之を挫くべし。彼、烏合して來り、既に統壹無く、相歸服する莫し。久しくば必ず擧

【三】張賓、大臣の節有り、石勒の禮貌を膺くる所以なり。
 【四】崔恣。崔琰の曾孫なり。琰、魏の時に在りて、冀州の人士の首たり、子孫、遂に冀州の冠族となる。
 【四二】一切。晉書前燕載記には、一時に作る。

貳せん。一には則ち吾と恣と詐りて之を覆すと疑はん。二には則ち三國自ら相猜忌せん。其の人情の離貳するを待ち、然る後之を撃たば、之を破らんこと必せり」と。三國進みて棘城を攻む。廆、門を閉ちて自ら守り、使を遣はして獨り牛酒を以て宇文氏を犒ふ。二國、宇文氏と廆と謀有るを疑ひ、各兵を引ききて歸る。宇文の大人悉獨官曰はく、「二國は歸ると雖も、吾、當に獨り之を取るべし」と。宇文氏の士卒數十萬、營を連ぬること四十里。廆、其の子 翰を徒河より召さしむ。翰、使を遣はして廆に白して曰はく、「悉獨官、國を擧げて寇を爲す。彼は衆くして我は寡し。計を以て破り易く、力を以て勝ち難し。今、城中の衆、以て寇を禦ぐに足る。翰請ふ、奇兵を外に爲し、其の間を伺うて之を撃たん。内外俱に奮ひ、彼をして震駭し、備ふる所を知らざらしめば、之を破らんこと必せり。今、兵を并せて一と爲さば、彼、意を専らにして城を攻むるを得、復た它の虞無からん。策の得たる者に非ざるなり。且つ衆に示すに怯を以てす。恐らくは士氣、戰はずして先づ沮まん」と。廆猶は之を疑ふ。遼東の韓壽、廆に言つて曰はく、「悉獨官は、遼東の志有り、將驕り卒惰り、軍、堅密ならず。若し奇兵卒に起り、其の備無きを、拵かば、必ず破るの策なり」と。廆乃ち翰に「徒河に留まるを聽す。悉獨官、之を聞きて曰はく、「翰素より驍果に名あり。今、城に入らず。或は能く患を爲さん。當に先づ之を取るべし。城は憂ふるに足らず」と。乃ち數千騎を分ち遣はして翰を襲ふ。翰、之を知り、詐

【三】翰。愍帝建興元年より、徒河に鎮す。
 【四】拵。後より率く也。

りて段氏の使者の爲して、道に逆へて曰はく、「慕容翰久しく吾が患を爲す。聞く、當に之を撃つべしと。吾、已に兵を嚴して相待り。宜しく速かに進むべきなり」と。使者既に去るや、翰即ち城を出で、伏を設けて以て之を待つ。宇文氏の騎、使者を見て大に喜び、馳せ行き、復た備を設けず、進みて伏中に入る。翰、奮撃して盡く之を獲たり。勝に乗じて徑に進み、間使を遣はして魔に語り、「兵を出して大に戦へ」と。魔、其の子就をして、長史裴巖と與に、精銳を將ゐて前鋒と爲らしめ、自ら大兵を將ゐて之に繼ぐ。悉獨官、初め備を設けず、魔至ると聞きて驚き、衆を悉して出でて戦ふ。前鋒始めて交はるや、翰、千騎を將ゐて、旁より直に其の營に入り、火を縱ちて之を焚く。衆皆惶擾し、爲す所を知らず。遂に大に敗る。悉獨官、僅に身を以て免る。魔盡く其の衆を俘にし、皇帝の玉璽三紐を獲たり。

【四四】 皇帝の玉璽。即ち宇文の大人晉回が出でて獵して得たる所の者。

【四五】 河城、棘城附近なるべし。

崔恚、之を聞きて懼れ、其の兄の子燾をして、棘城に詣りて偽り賀せしむ。會、三國の使者も亦至りて和を請うて曰はく、「我が本意に非ず。崔平州、我に教へしなるのみ」と。魔、以て燾に示し、之に臨むに兵を以てす。燾、懼れて首服す。魔乃ち燾を遣り歸し、恚に謂つて曰はしむ、「降るは上策、走るは下策なり」と。兵を引きて之に隨ふ。恚、數十騎と與に、家を棄てて高句麗に走る。其の衆悉く魔に降る。魔、其の子仁を以て征虜將軍と爲し、遼東に鎮せしむ。官府市里、案堵すること故の如し。高句麗の將如奴子、河城に據る。魔、將軍張統を遣はし、掩撃して之を擒にし、其の

衆千餘家を俘にし、崔燾・高瞻・韓恆・石琮を以て、棘城に歸る。待つに客の禮を以てす。恆は安平の人、琮は、鑿の孫なり。魔、高瞻を以て將軍と爲す。瞻、疾と稱して、就かず。魔數、臨みて之を候ひ、其の心を撫でて曰はく、「君の疾は此に在り。它に在らざるなり。今、晉室・喪亂す。孤、諸君と共に世難を清め、帝室を翼戴せんと欲す。君は中州の望族なり。宜しく斯の願を同じうすべし。奈何ぞ華夷の異なるを以て、介然として之を疎んずるや。夫れ功を立て事を立つるは、惟だ志略何如を問ふのみ。華夷は何ぞ問ふに足らんや」と。瞻、猶ほ起たず。魔頗る不平なり。龍驤の主簿宋該、瞻と隙有り。魔に之を除かんことを勸む。魔從はず。瞻、憂を以て卒す。

【四六】 鑿。石鑿、武帝・惠帝に事ふ。

【四七】 望族。名望ある氏族。

【四八】 介然。堅くして移らざる貌。

【四九】 龍驤の主簿。魔、龍驤將軍となり、該を以て府の主簿と爲す。

【五〇】 鞠羨が死すること、八十六卷懷帝永嘉元年に見ゆ。

【五一】 曹巖云。事、八十七卷永嘉三年に見ゆ。

【五二】 郷里。彭と巖と、皆、齊の人なり。

初め、鞠羨既に死し、苟晞復た羨の子彭を以て東萊の太守と爲す。會、曹巖、青州を狗へ、彭と相攻む。巖の兵、彊しと雖も、郡人皆彭の爲めに死戦し、巖、克つ能はず。之を久しうして、彭、歎じて曰はく、「今、天下大に亂れ、彊者、雄と爲る。曹も亦郷里(人)にして、天の相くる所たり。苟くも依憑す可くんば、即ち民の主と爲らん。何ぞ必ずしも之と力争し、百姓をして肝腦・地に塗れしめん。吾、此を去らば、則ち禍自ら息まん」と。郡人、以て不可と爲し、争うて、巖を拒ぐの策を獻す。彭、一に用ふ

る所無く、郷里千餘家と與に、海に浮びて崔毖に歸す。北海の鄭林、東萊に客たり。彭・巖が相攻むるや、林の情、彼此無し。巖、之を賢とし、敢て侵掠せず。彭、之と俱に去る。遼東に至る比、毖已に敗る。乃ち慕容廆に歸す。廆、彭を以て龍驤の軍事に參せしめ、鄭林に車牛粟帛を遺る。皆、受けず、躬ら野に耕す。宋該、廆に勸め、捷を江東に獻せしむ。廆、該をして表を爲らしむ。裴巖、之を奉じ、得たる所の三璽を并せ、建康に詣りて之を獻す。高句麗、數、遼東に寇す。廆、慕容翰・慕容仁を遣はして之を伐つ。

【三】高句麗王乙弗利。即ち美川王なり。

【四】陳倉。故城は今の陝西省關中道寶雞縣の東に在り。

【五】陰密。甘肅省涇原道靈臺縣の西五十里に在り。

【六】草壁。陝西省關中道舊郿州内。

【七】南氏。氏種の陳倉の南に居る者。

【八】桑城。甘肅省蘭山道舊蘭州府内。

高句麗王乙弗利、逆へ來りて盟を求む。翰・仁乃ち還る。是の歲、蒲洪、趙に降る。趙主曜、洪を以て率義侯と爲す。屠各の路松多、兵を新平の扶風に起し、以て晉王保に附く。保、其の將楊曼・王連をして、陳倉に據り、張顛・周庸をして、陰密に據り、松多をして、草壁に據らしむ。秦隴の氏羌、多く之に應ず。趙主曜、諸將を遣はして之を攻む。克たず。曜自ら將として之を撃つ。

三年、春正月、曜、陳倉を攻む。王連・戰死し、楊曼、南氏に奔る。曜進みて草壁を抜く。路松多、隴城に奔る。又、陰密を抜く。晉王保懼れ、桑城に遷る。曜、長安に還り、劉雅を以て大司徒と爲す。張春、晉王保を奉じて涼州に奔らんと謀る。張寔、其の將陰監を遣はし、兵を將ゐて之を迎へしむ。翼衛すと聲言し、其の實は之を拒ぐ。

段末杯、段匹磾を攻めて之を破る。匹磾、邵續に謂つて曰はく、「吾は本夷狄なり。義を慕ふを以て家を破る。君、久要を忘れずんば、請ふ相與に共に末杯を撃たんと。」續、之を許す。遂に相與に末杯を追撃し、大に之を破る。匹磾、弟文鸯と與に、薊を攻む。後趙王勒、續の勢孤なるを知り、中山公虎を遣はし、兵を將ゐて厭次を圍む。孔萇、續の別營十一を攻め、皆、之を下す。二月、續自ら出でて虎を撃つ。虎、騎を伏して其の後を斷ち、遂に續を執へ、(續ナ)其の城を降さしめんとす。續、兄の子竺等と呼ばれて謂つて曰はく、「吾が志、國に報いんと欲し、不幸にして此に至れり。汝等努力し、匹磾を奉じて主と爲し、貳心有る勿かれ」と。匹磾、薊より還り、未だ厭次に至らず、續已に没せりと聞き、衆懼れて散じ、復た虎に遮らる。文鸯、親兵數百を以て力戦し、始めて城に入るを得、續の子緝・兄の子存・竺等と與に、城に嬰りて固く守る。虎、續を襄國に送る。勒、以て忠と爲し、釋して之を禮し、以て從事中郎と爲す。因つて令を下す、「今より敵に克ち、士人を獲ば、擅に殺すを得る毋かれ。必ず之を生致せよ」と。吏部郎劉胤、續攻めらると聞き、帝に言つて曰はく、「北方の藩鎮盡きたり。」

【一】久要。舊約。

【二】匹磾。邵續に奔り、薊、石氏の爲めに取らる。

【三】後趙。是の時、劉曜・石勒、國號を皆趙と曰ふ。史、石趙を以て後趙と爲して以てこれを別つ。

【四】胤は續の遣はす所なり。八十九卷愍帝建興二年に見ゆ。

惟だ邵續を餘すのみ。如し復た石虎の滅ぼす所と爲らしめば、義士の心に孤き、本に歸るの路を阻てん。愚謂ふに宜しく兵を發して之を救ふべし」と。帝從ふ能はず。續已に没せりと聞き、乃ち詔を下し、續の位任を以て其の子緝に授く。

趙の將尹安・宋始・宋恕・趙愼の四軍、洛陽に屯し、叛きて後趙に降る。後趙の將石生、兵を引きて之に赴く。安等復た叛き、司州の刺史李矩に降る。矩、潁川の太守郭默をして、兵を將ゐて洛に入らしむ。石生、宋始の一軍を虜にし、北して河を渡る。是に於て、河南の民、皆、相帥ゐて矩に歸す。洛陽遂に空し。

三月、裴嶷、建康に至り、盛に慕容廆の威徳・賢雋皆之が用を爲すを稱す。朝廷始めて之を重んず。帝、嶷に謂つて曰はく、「卿は中朝の名臣なり。當に江東に留まるべし。朕、別に龍驤に詔して、卿が家屬を送らしめん」と。嶷曰はく、「臣、少くして國恩を蒙り、省闈に入らせり。若し復た輦轂に奉するを得ば、臣の至榮なり。但だ以ふに、舊京・淪没し、山陵・穿毀せられ、名臣・宿將と雖も、能く恥を雪ぐもの莫し。獨り慕容龍驤、忠を王室に竭し、凶逆を除かんと志す。故に臣をして萬里誠を歸せしむ。今、臣來りて・返らずんば、必ず朝廷其の僻陋なるを以て之を棄つと謂ひ、其の義に嚮ふの心に孤き、賊を討つに懈體せしめん。此れ臣が甚だ惜む所なり。是を以て、

【七】 朝廷始め蠻夷を以て慕容を待つ。今、嶷の言を以て始めてこれを重んず。
【八】 國恩云云。嶷、西朝に仕へて、中書侍郎給事黃門郎を歴たり。
【九】 懈體。晉書載記には懈怠に作る。是なるに似たり。

敢て私に狗つて公を忘れざるなり」と。帝曰はく、「卿の言、是なり」と。乃ち使を遣はして嶷に隨はしめ、廆を安北將軍・平州の刺史に拜す。

閏月、周顛を以て尙書左僕射と爲す。

晉王保の將張春・楊次、別將楊韜と協はず、保に之を誅せんことを勸め、且つ陳安を撃たんと請ふ。保、皆、從はず。夏五月、春・次、保を幽して之を殺す。保、體肥大にして、重さ八百斤、睡るを喜み、書を讀むを好む。而れども暗弱にして斷無し。故に難に及ぶ。保、子無し。張春、宗室の子瞻を立てて世子と爲し、大將軍と稱す。保の衆、散じて涼州に奔る者、萬餘人。陳安、趙主曜に表し、瞻等を討たんと請ふ。曜、安を以て大將軍と爲し、瞻を撃らて之を殺す。張春、枹罕に奔る。安、楊次を執へ、保の柩前に於て之を斬り、因つて以て保を祭る。安、天子の禮を以て、保を上邽に葬り、諡して元王と曰ふ。

【一〇】 敢て云云。江東に留まるは、乃ち是れ一身の私計に狗ふなり。棘城に歸れば、則ち廆を輔けて以て賊を討つ可く、乃ち天下の公義なり。
【一一】 枹罕。今の甘肅省蘭山道導河縣治。
【一二】 檀丘。魯國卞縣の東南に在り。山東省濟寧道舊兗州府内。

羊鑿、徐龕を討ち、兵を下邳に傾め、敢て前まず。蔡豹、龕を檀丘に敗る。龕、救を後趙に求む。後趙王勒、其の將王伏都を遣はして之を救ひ、又、張敬をして兵を將ゐて之が後繼を爲さしむ。勒、邀求する所多く、而して伏都・淫暴なり。龕、之を患ふ。張敬、東平に至る。龕、其の己を襲はん

ことを疑ひ、乃ち伏都等三百餘人を斬り、復た來りて降を請ふ。勒大に怒り、張敬に命じて、險に據りて以て之を守らしむ。帝も亦、龔の反覆せるを惡み、其の降を受けず、鑿・豹に救して、時を以て進み討たしむ。鑿猶ほ疑ひ憚りて・進まず。尙書令刁協、鑿を劾奏す。死を免し、名を除く。蔡豹を以て代りて其の兵を領せしむ。王導、擧ぐる所人を失へるを以て、自ら貶せんと請ふ。帝、許さず。

六月、後趙の孔萇、段匹磾を攻む。勝を恃みて・備を設けず。段文鸯、襲撃し、大に之を破る。

京兆の人劉弘、涼州の天梯山に客居し、妖術を以て衆を惑はす。從つて道を受くる者千餘人。

西平の元公張寔の左右、皆、之に事ふ。帳下閻涉・牙門趙印は、皆、

弘の郷人なり。弘、之に謂つて曰はく、「天、我に神璽を與ふ。應に涼州に

王たるべし」と。涉・印、之を信じ、密に寔の左右十餘人と、寔を殺して

弘を奉じて主と爲さんと謀る。寔の弟茂、其の謀を知り、弘を誅せん

と請ふ。寔、牙門の將史初をして之を收へしむ。未だ至らざるに、涉等、刃を懷にして入り、寔を

外寢に殺す。弘、史初至るを見、謂つて曰はく、「使君已に死せり。我を殺すとも何をか爲さん」と。

初怒り、其の舌を截りて之を囚へ、姑臧の市に〔二五〕輶し、其の黨與數百人を誅す。左司馬陰元等、寔

の子駿が尙ほ幼なるを以て、張茂を推して涼州の刺史・西平公と爲し、其の境内に赦す。駿を以て撫軍

將軍と爲す。

〔三〕武威の姑臧城（今の甘肅省甘涼道武威縣治）の南に天梯山あり。

〔四〕元公。張寔の諡。

〔五〕輶。車裂なり。

丙辰、趙の將解虎及び長水校尉尹車、反を謀り、巴酋〔二六〕句徐・庫彭等と相結ぶ。事覺はれ、虎、

車、皆、誅に伏す。趙主曜、徐・彭等五十餘人を阿房〔二七〕に囚へ、將に之を殺さんとす。光祿大夫游子

遠諫めて曰はく、「聖王之刑を用ふるは、惟だ元惡を誅するのみ。宜しく多く殺すべからず」と。之

を爭ひ、叩頭して血を流す。曜怒り、以て逆を助くと爲して之を囚へ、盡く徐・彭等を殺し、諸を市

に尸すこと十日、乃ち水に投ず。是に於て、巴衆盡く反し、巴酋句渠知を推して主と爲し、自ら大秦

と稱し、改元して平趙と曰ふ。四山の氏羌・巴羯、之に應ずる者、三十餘萬。

關中大に亂れ、城門晝閉つ。子遠、又、獄中より上表して諫争す。曜手づ

から其の表を毀りて曰はく、「大荔奴、命の須臾に在るを憂へず、猶ほ

敢て此の如し。死の晚きを嫌ふや」と。左右を叱して、速かに之を殺さし

む。中山王雅・郭汜・朱紀・呼延晏等諫めて曰はく、「子遠・幽囚せられ、禍、

測られざるに在りてすら、猶ほ諫争するを忘れず、忠の至なり。陛下、縦ひ用ふる能はずとも、奈何

ぞ之を殺さん。若し子遠朝に誅せられば、臣等も亦當に夕に死すべし。以て陛下の過を彰さば、天

下、將に皆陛下を捨てて去らんとす。陛下、誰と與に居らんや」と。曜、意解け、乃ち之を赦す。曜、

内外に救して戒嚴し、將に自ら渠知を討たんとす。子遠、又、諫めて曰はく、「陛下、誠に能く臣の策

を用ひば、一月にして定む可し。大駕、必ずしも親征せざるなり」と。曜曰はく、「卿、試に之を言

〔二六〕句徐。句は姓、徐は名。
〔二七〕庫彭。庫は姓、彭は名。
〔二八〕阿房。即ち秦の阿房宮の舊基、亦これを阿城と謂ふ。
〔二九〕大荔奴。大荔は戎の種落の名。子遠は、蓋し戎の出なり。

へ」と。子遠曰はく、「彼、大志有りて、非望を圖らんと欲するに非ざるなり。直に陛下の威刑を畏れ、死を逃れんと欲するのみ。陛下、廓然として大赦し、之と更始するに若くは莫し。應に前日・虎・車等の事に坐して、其の家の老弱、奚官に没入すべき者は、皆、之を縦ち遣り、之をして自ら相招き引かしめ、其の業に復するを聽せ。彼既に生路を得ば、何爲れぞ降らざらん。若し其中、自ら・罪の重きを知り、屯結して散せざる者は、願はくは臣に弱兵五千を假さば、必ず陛下の爲めに之を梟せん。然らずんば、今、反する者、山に彌り谷に被りたれば、天威を以て之に臨むと雖も、恐らくは歲月に除く可きに非ざらん」と。曜大に悦び、即日、大赦し、子遠を以て車騎大將軍・開府儀同三司・都督雍秦征討諸軍事と爲す。子遠、雍城に屯す。降る者十餘萬。移りて安定に軍す。反する者皆降る。惟だ句氏の宗黨五千餘家、陰密に保す。進み攻めて之を滅ぼす。遂に兵を引きて隴右を巡る。是より先、氐羌十餘萬落、險に據りて服せず。其の酋虛除權渠、自ら秦王と號す。子遠進みて其の壁に造る。權渠、兵を出して之を拒ぎ、五戰して皆敗る。權渠、降らんと欲す。其の子伊餘、衆に大言して曰はく、「往者、劉曜自ら來れるさへ、猶ほ我を若何ともする無かりき。況んや此の偏師をや。何ぞ降ると謂ふや」と。勁卒五萬を帥ゐて、晨に子遠の壘門を壓す。諸將、之を撃たんと欲す。子遠曰はく、「伊餘は勇悍にして、當今、敵無し。將ゐる所の兵、復た我よりも精なり。又、其の父新に敗れ、怒氣方に盛なり。其の鋒、當る可からざるなり。如

【一〇】非望。帝王の事は常人の望むべき所に非ざるをいふ。

【三】勝。刀を以て面を割する也。

【二】瀘池。上林苑中に在り。

【三】衛の文公云云。衛、狄人に滅ぼさる。文公、徙りて楚宮に居り、大布の衣、大帛の冠、材を務め農を訓へ、商を通じ工を惠み、始めて城市を建てて、宮室を營むに、其の時制を得たり。百姓これを悅び、國家殷富にして、衛以て復た興る。康叔始めて衛に封ぜられしより、其の滅ぶるに至るまで、九百餘年。

【四】涼州。河西の張氏をいふなり。

【五】吳蜀。吳は晉を謂ひ、蜀は李特をいふ。

【六】齊魏。齊は曹巖を謂ひ、魏は石勒をいふ。

【七】齊・魏を壹にす可し。

かず、之を緩くして、氣をして竭きしめ、而る後之を撃たんには」と。乃ち壁を堅くして・戰はず。伊餘、驕れる色有り。子遠、其の備無きを伺ひ、夜、兵を勒して蓐食し、且、大に風ふき塵昏きに値ひ、子遠、衆を悉して出でて之を掩ひ、伊餘を生擒し、盡く其の衆を俘にす。權渠大に懼れ、髪を被り面を、勢け、降らんと請ふ。子遠、曜に啓して、權渠を以て征西將軍・西戎公と爲し、伊餘兄弟及び其の部落二十餘萬口を長安に分ち徙す。曜、子遠を以て大司徒と爲し、尙書の事を録せしむ。曜、太學を立て、民の神志の教ふ可き者千五百人を選び、儒臣を擇びて以て之を教へしむ。鄧明觀及び西宮を作り、陵霄臺を瀘池に起し、又、霸陵の西南に於て壽陵を營む。侍中喬豫・和苞、上疏して諫めて以爲はく、「衛の文公、亂亡の後を承け、用を節し民を愛し、宮室を營建し、其の時制を得たり。故に能く康叔の業を興し、九百の祚を延べたり。前に詔書を奉ずるに、鄧明觀を營む。市道の細民、咸、其の奢を譏りて曰く、「一觀(ナ起)の功を以て、涼州を平ぐるに足らん」と。今、又、阿房に擬して西宮を建て、瓊臺に法りて陵霄を起さんと欲す。其の勞費たるや、鄧明に億萬(倍)す。若し以て軍旅に資せば、乃ち、吳・蜀を兼ねて

又聞く、壽陵を營建し、周圍四里、深さ三十五丈、銅を以て椁と爲し、飾るに黄金を以てす。功費此の若くなるは、殆ど國內の能く辦する所に非ざるなり。秦の始皇、下、三泉を鑄し、土未だ乾かずして發毀せられたり。古より、亡びざるの國、掘られざるの墓無し。故に聖王の儉葬は、乃ち深遠の慮なり。陛下、奈何ぞ中興の日に於て、而も亡國の事を踵かんや」と。

曜、詔を下して曰はく、「二侍中、懇懇として、古人の風有り。社稷の臣と謂ふ可し。其れ悉く宮室の諸役を罷め、壽陵の制度は、一に霸陵の法に遵はん。豫を安昌子に、苞を平輿子に封じ、竝に諫議大夫を領せしむ。仍て天下に布告し、區區の朝の其の過を聞かんことと欲するを知らしむるなり」と。又、鄆水園を省き、以て貧民に與ふ。

【一】 秦の始皇云云。三十一卷漢の成帝永始元年劉向の封事に見ゆ。

【二】 中興。曜、靳氏の難を平げて自ら立つ。故に其の臣、これを中興といふ。

【三】 東燕。縣、陳留郡に屬す今の河南省開封道鹿邑縣の境に在らん。

祖逖の將韓潛、後趙の將桃豹と、分ちて陳川の故城に據り、豹は西臺に居り、潛は東臺に居り、豹は南門より、潛は東門より出入し、相守ること四旬。逖、布囊を以て土を盛り、米の狀の如くし、千餘人をして運びて臺に上らしめ、又、數人をして米を擔うて道に息はしむ。豹の兵、之を逐ふ。擔を棄てて走る。豹の兵久しく飢ゑ、米を得て以爲へらく、逖の士衆は豊飽すと。益々懼る。後趙の將劉夜堂、驢千頭を以て糧を運びて豹に饋る。逖、韓潛及び別將馮鐵をして、汴水に邀へ撃たしめ、盡く之を獲たり。豹、宵遁れ、東燕城に屯す。逖、潛をして進みて

封丘に屯して以て之に逼らしめ、馮鐵をして二臺に據らしめ、逖、雍丘に鎮し、數兵を遣はして後趙の兵を邀へ撃つ。後趙の鎮戍、逖に歸する者甚だ多く、境土漸く蹙まる。是より先、趙固・上官已・李矩・郭默、互に相攻撃す。逖、使を馳せて之を和解し、示すに禍福を以てす。遂に皆逖の節度を受く。秋七月、詔して、逖に鎮西將軍を加ふ。逖、軍に在りて、將士と甘苦を同じくし、己を約にして施を務め、農桑を勸課し、新附を撫納し、疎賤なる者と雖も、皆、結ぶに恩禮を以てす。河上の諸塢、先に任子の・後趙に在る者有れば、皆、兩屬するを聽す。時に游軍を遣はして僞りて之を抄するまねせしめ、其の未だ附かざるを明かにす。塢主、皆、恩に感じ、後趙に異謀有れば、輒ち密に以て告ぐ。是に由りて、克獲する所多し。河より以南、多く後趙に叛きて晉に歸す。逖、兵を練り穀を積み、河北を取るの計を爲す。後趙王勒、之を患へ、乃ち幽州に下して、逖の爲めに祖父の墓を修め、守家二家を置かしめ、因つて逖に書を與へ、使を通じ及び互市せんことを求む。逖、報書せず、而して其の互市を聽し、利を收むること十倍す。逖の牙門、童建、新蔡の内史周密を殺し、後趙に降る。勒、之を斬り、首を逖に送りて曰はく、「叛臣・逖吏は、吾の深仇なり。將軍の惡は、猶ほ吾が惡のごときなり」と。逖深く之を徳とす。是より、後趙の

【一】 封丘。縣、陳留郡に屬す。今の河南省河北道封丘縣の地。

【二】 雍丘。縣、陳留郡に屬す。故城は今の河南省開封道杞縣に在り。

【三】 兩屬云云。兩界の上に居る者は、兩方に屬することゝ聽し、因つて以て間と爲す也。

【四】 祖父の墓。逖は范陽の人、其の祖父の墓ここに在り。

【五】 童建。童は姓、建は名。

【六】 逖、河上の諸塢の兩屬す

人、叛きて逃に歸する者は、逃、皆、納れず。諸將に禁じて、後趙の民を侵暴せしめず。邊境の間、稍、休息するを得たり。

八月辛未、梁州の刺史周訪・卒す。訪、士衆を撫するに善く、皆、爲めに死を致す。王敦が不臣の心有るを知り、私に常に切齒す。敦、是に由りて、訪の世を終るまで、未だ敢て逆を爲さず。敦、從事中郎郭舒を遣はし、襄陽の軍を監せしむ。帝、湘州の刺史甘卓を以て梁州の刺史と爲し、河北の諸軍事を督し、襄陽に鎮せしむ。舒、既に還る。帝、徵して右丞と爲す。敦、留めて遣らず。

後趙王勒、中山公虎を遣はし、步騎四萬を帥ゐて、徐龕を撃たしむ。龕、妻子を送りて質と爲し、降らんと乞ふ。勒、之を許す。蔡豹、卞城に屯す。豹退きて下邳を守り、徐龕に敗らる。虎、兵を引きて封丘に城きて旋る。士族三百家を徙し、襄陽に遷し、崇仁里を實き、公族大夫を置きて以て之を領せしむ。

後趙王勒、法を用ふること甚だ嚴に、胡を諱むこと尤も峻なり。宮殿既に成り、初めて門戸の禁有り。醉胡有り、馬に乗りて止車門に突入す。勒大に怒り、宮門の小執法馮翊を責む。翊、惶懼して諱を忘れ、對へて曰はく、「向に醉胡有り、馬に乗りて馳せ入る。甚だ之を呵禦すれども、與に語る可からず」と。勒笑つて曰はく、「胡人正に自ら・與に言ひ難し。と。恕して罪せず。勒、張賓をして選を領せしめ、初め五品を定め、後更めて九品を定め、公卿及び州郡に命じて、歳ごとに秀才・至孝・廉清・賢良・直言・武勇の士各一人を擧げしむ。

西平公張茂、兄の子駿を立てて世子と爲す。蔡豹既に敗れ、將に建康に詣りて罪に歸せんとす。北中郎將王舒、之を止む。帝、豹退くと聞き、使を遣はして之を收へしむ。舒、夜、兵を以て豹を圍む。豹、以て它の寇と爲し、麾下を帥ゐて之を撃つ。詔有りと聞き、乃ち止む。舒、豹を執へて建康に送る。冬十月丙辰、之を斬る。

王敦、武陵の内史向碩を殺す。帝の始めて江東に鎮するや、敦、從弟導と、心を同じくして翼戴す。帝も亦心を推して之に托す。敦は征討を總べ、導は機政を専らにし、羣從子弟、顯要に布列す。時の人、之が語を爲して曰はく、「王と馬と天下を共にす」と。後、敦、自ら・功有り。且つ宗族強盛なるを恃み、稍く益驕恣なり。帝畏れて之を惡む。乃ち劉隗・刁協等を引きて、以て腹心と爲し、稍く王氏の權を抑損す。導も亦漸く疎外せらる。中書郎孔愉陳ぶ、「導は忠賢にして、命を佐くるの勳有り。宜しく委任を加ふべし」と。帝、愉を出して司徒の左長史と爲す。導、能く眞に任

るを聽せるは、此れ間を用ふるの智なり。然れども石勒が逃の爲めに祖父の墓を修め、童建を斬りて其の首を送れるは、亦、逃が鋒を推き河を越ゆるの心を懈らす所以なり。

六一八
【一】 石勒の墓を修め、童建を斬りて其の首を送れるは、亦、逃が鋒を推き河を越ゆるの心を懈らす所以なり。
【二】 卞城。今の山東省濟寧道泗水縣。
【三】 崇仁里。勒が命名して以て衣冠の族を處く所なり。
【四】 胡を諱む。勒はもと、胡人なり、故に以て諱と爲す。其の語を用ひしめざるなり。

【三九】 史、王敦が殺を専らにするを書し、以て其の君を無みするの罪を著す。
【四〇】 托。一本には任に作る。
【四一】 懷帝の永嘉五年、帝、敦を以て揚州の刺史とし、都督征討諸軍事を加ふ。華軼・杜弢・王機・杜曾を討ちしは、皆、其の功なり。
【四二】 尙書は、萬機の本なり。導、尙書の事を録す、是れ機政を専らにする也。

じ分を推し、澹如たり。有識、皆、其の善く興廢に處するを稱す。而して敦益、不平を懷き、遂に嫌隙を構ふ。初め敦、吳興の沈充を辟して參軍と爲す。充、同郡の錢鳳を敦に薦む。敦、以て鑑曹參軍と爲す。二人、皆、巧諂凶狡にして、敦が異志有るを知り、陰に之を贊成し、之が爲めに畫策す。敦、之を寵信す。勢、内外を傾く。敦、上疏して、導の爲めに屈を訟ふ。辭語怨望す。導、封じて以て敦に還す。敦復た遣はして之を奏す。左將軍譙王承、忠厚にして志行有り、帝、之を親信す。夜、承を召し、敦の疏を以て之に示して曰はく、『王敦、頃年の功を以て、位任足れり。而るに求むる所已まず、言、此に至る。將に之を若何せんとする』と。承曰はく、『陛下、早く之を裁せずして、以て今日に至れり。敦必ず患を爲さん』と。劉隗、帝の爲めに謀り、心腹を出し、以て方面に鎮せしむ。會敦、表して、宣城の内史沈充を以て、甘卓に代りて湘州の刺史と爲さんとす。帝、承に謂つて曰はく、『王敦の姦逆已に著はる。朕、惠皇と爲らんこと、其の勢遠からじ。湘州は、上流の勢に據り、三州の會を控ふ。叔父を以て之に居らしめんと欲す。何如』と。承曰はく、『臣、詔命を奉承し、惟だ力を是れ視る。何ぞ敢て辭する有らん。然れども湘州は、蜀寇の餘を経、民物凋弊す。若し部に之くを得ば、三年に及ぶ比、

- 【三】導云云。導、尙書を録し、先づ敦の疏を見る。故にこれを封じて還す也。
- 【四】惠皇云云。當に憲帝の如く、制を強臣に受くべきをいふ。
- 【五】三州。荊州、交州、廣州。
- 【六】叔父。古は、同姓の諸侯を、天子、伯父・叔父と謂ふ。承は宣帝の從孫にして、帝は宣帝の曾孫なり、屬に於ても亦叔父なり。
- 【七】蜀寇。杜陵の亂をいふ。

乃、戎に即かしむ可し。苟くも未だ此に及ばずんば、復た身を灰にすとも雖も、亦、益無からん』と。十二月、詔して曰はく、『晉室、基を開き、方鎮の任には、親賢並に用ふ。其れ譙王承を以て湘州の刺史と爲す』と。長沙の鄧騫、之を聞きて歎じて曰はく、『湘州の禍は、其れ斯に在らんか』と。承行きて武昌に至る。敦、之と宴し、承に謂つて曰はく、『大王は、雅素、佳士なり。恐らくは將帥の才に非ざらん』と。承曰はく、『公、未だ知られざるのみ。鉛刀も豈に一割の用無からんや』と。敦、錢鳳に謂つて曰はく、『彼、懼るるを知らずして、壯語を學ぶ。其の武ならざるを知るに足る。能く爲す無きなり』と。乃ち鎮に之くを聽す。時に湘土荒殘し、公私困弊す。承躬自ら儉約し、心を傾けて綏撫す。甚だ能名有り。高句麗、遼東に寇す。慕容仁與に戦ひ、大に之を破る。是より、敢て仁の境を犯さず。

- 【八】戎。兵なり。
- 【九】雅素。平素なり。
- 【一〇】鉛刀云云。後漢の班超の言。
- 【一一】承、忠餘り有りと雖も才足らず。敦窺ひ見て、其の能く爲す無きを知る。
- 【一二】武陵は疑ふらくは當に武威に作るべからん。
- 【一三】武公。張軌の諡。

四年、春二月、徐龜、復た降らんと請ふ。

張茂、靈鈞臺を築く、基の高さ九仞、武陵の閭曾、夜、府門を叩き、呼びて曰はく、『武公、我を遣はして來りて言はしむ、何が故に民を勞し臺を築く』と。有司、以て妖と爲し、之を殺さんと請

ふ。茂曰はく、「吾信に民を勞せり。曾、先君の命と稱し、以て我を規す。何ぞ妖と謂はんや」と。乃ち之が爲めに役を罷む。

三月癸亥、日中に黒子有り。著作佐郎河東の郭璞、帝の刑を用ふること差に過ぐるを以て、上疏して以爲はく、「陰陽の錯繆するは、皆、繁刑の致す所なり。赦は數するを欲せず。然れども、子産、刑書を鑄るは、政の善なるものに非ざるを知れども、作らざるを得ざるは、須ちて以て弊を救ふが故なり。今の宜しく赦すべきは、理、亦、之の如し」と。

後趙の中山公虎、幽州の刺史段匹磾を厭次に攻む。孔萇、其の統内の諸城を攻め、悉く之を拔く。段文鸯、匹磾に言つて曰はく、「我、勇を以て開ゆ。故に民の倚望する所と爲る。今、民の掠めらるるを視て、救はざるは、是れ怯なり。民、望む所を失はん。誰か復た我が爲めに死を致さん」と。遂に壯士數十騎を帥ゐて出で戦ふ。後趙の兵を殺すこと甚だ衆し。馬乏伏して起つ能はず。虎、之を呼びて曰はく、「兄と我と、俱に夷狄なり。久しく兄と同じく一家と爲らんと欲せり。今、天、願に違はず、此に於て相見るを得たり。何爲れぞ復た戦はん。請ふ仗を釋かん」と。文鸯罵りて曰はく、「汝、寇賊を爲し、死に當すること日久し。吾が兄、吾が策を用ひず。故に汝をして此に至るを得しむ。我寧ろ關つて死すとも、汝に屈せられじ」と。遂に馬を下り

- 【三】 日中に黒子あるは、陰、陽を侵すの象なりと云ふ。
- 【四】 子産、鄭の人。刑書を鑄ること左傳に見ゆ。
- 【五】 乏伏、つかれ、たふる。
- 【六】 吾が兄云云。七十八卷懷帝永嘉六年に見ゆ。

て苦戦す。槩折れ刀を執りて戦ひ、已まず、辰より申に至る。後趙の兵、四面に馬羅披を解きて自ら鄣ぎ、前みて文鸯を執ふ。文鸯、力竭きて執らる。城内、氣を奪はる。匹磾、單騎にて朝に歸せんと欲す。邵續の弟樂安の内史洎、兵を勸して聽かず。洎復た、臺使王英を執へて虎に送らんと欲す。匹磾、色を正しくして之を責めて曰はく、「卿、兄の志に違ふ能はず、吾に逼りて、朝に歸するを得ざらしむ。亦已甚し。復た天子の使者を執へんと欲す。我、夷狄と雖も、未だ聞かざる所なり」と。洎、兄の子緝・竺等と、櫬を輿うて出で降る。匹磾、虎を見て曰はく、「我、晉の恩を受け、志、汝を滅ぼすに在り。不幸にして此に至る。汝に敬を爲す能はざるなり」と。後趙王勒及び虎、素、匹磾と結びて兄弟と爲る。虎即ち起ちて之を拜す。勒、匹磾を以て冠軍將軍と爲し、文鸯を左中郎將と爲し、諸の流民三萬餘戸を散じて、其の本業に復せしめ、守宰を置きて以て之を撫す。是に於て、幽・冀・并の三州、皆、後趙に入る。匹磾、勒に禮を爲さず、常に朝服を著、晉節を持す。之を久しうして、文鸯・邵續と、皆、後趙に殺さる。五月庚申、詔して、中州の良民の難に遭うて揚州諸郡の僮客と爲る者を免じ、以て征役に備ふ。尙書令刁協の謀なり。是に由りて、衆益之を怨む。

- 【七】 槩。長さ丈八尺なる矛。
- 【八】 辰より申に至る。午前八時より午後四時に至る。
- 【九】 馬羅披。障泥。
- 【一〇】 臺使。晉朝より遣はす所の者。
- 【一一】 終南山。長安の南山。

終南山崩る。

秋七月甲戌、尙書僕射戴淵を以て征西將軍・都督司兗豫并雍冀六州諸軍事・司州の刺史と爲し、合肥に鎮せしめ、丹陽の尹劉隗を鎮北將軍・都督青徐幽平四州諸軍事・青州の刺史と爲し、淮陰に鎮せしめ、皆、節を假し兵を領せしむ。名は胡を討つと爲せども、實は王敦に備ふるなり。隗、外に在りと雖も、而も朝廷の機事、士大夫を進退するに、帝、皆、之と密に謀る。敦、隗に書を遺りて曰はく、「頃、聖上の足下を顧眄するを承る。今、大賊未だ滅びず、中原鼎のごとく沸く。足下及び周生の徒と力を王室に戮せ。共に海内を静めんと欲す。若し其れ泰ならば、則ち帝祚是に於てか隆ならん。若し其れ否ならば、則ち天下永く望無からん」と。隗答へて曰はく、「魚は江湖に相忘れ、人は道術に相忘る。股肱の力を竭し、之を效すに忠貞を以てするは、吾の志なり」と。敦、書を得て甚だ怒る。壬午、驃騎將軍王導を以て侍中・司空と爲し、節を假し、尙書を録し、中書監を領せしむ。帝、敦の故を以て、并せて導を疎忌す。御史中丞周嵩、上疏して以爲はく、「導は忠素にして誠を竭し、大業を輔成す。宜しく孤臣の言を聽き、疑似の説に惑ひ、舊徳を放逐し、佞を以て賢に伍し、既往の恩を虧き、將來の患を招くべからず」と。帝頗る感寤す。導、是に由りて、全きを得たり。

【三】合肥。縣の名、淮南郡に屬す。今の安徽省安慶道合肥縣の地。

【四】淮陰。故城は今の江蘇省淮揚道淮陰縣の南に在り。

【五】周生。周頤を謂ふ。敦、素より頤を憚る。故に擧げて以て言を爲す。

【六】泰。通ずる也。

【七】否。塞がる也。

【八】魚云云。莊子の大宗師の言。

【九】佞を以て賢に伍す。賢と佞と列を同じくする也。

八月、常山崩る。

豫州の刺史祖逖、戴淵が吳の士にして、才望有りと雖も、弘致遠識無く、且つ己、荆棘を翦り、河南の地を收め、而して淵・雍容として、一旦來りて之を統ぶるを以て、意甚だ怏怏たり。又、王敦が劉刁と隙を構へ、將に内難有らんとするを聞き、大功の遂げざるを知り、感激して病を發す。九月、壬寅、雍丘に卒す。豫州の士女、父母を喪ふ若し、譙・梁の間、皆、爲めに祠を立つ。王敦久しく異志を懷く。逖・卒すと聞き、益・憚る所無し。冬十月壬午、逖の弟約を以て平西將軍・豫州の刺史と爲し、逖の衆を領せしむ。約、綏御の才無く、士卒の附く所と爲らざる。初め范陽の李産、亂を避けて逖に依る。約の志趣異常なるを見、親しむ所に謂つて曰はく、「吾、北方鼎沸するを以て、故に遠く來りて此に就き、宗族を全くせんことを冀へり。今、約の爲す所を觀るに、測る可からざるの志有り。吾、名を姻親に託す。當に早く自ら計を爲し、復た身を不義に陥るるを事とする無かるべきなり。爾が曹、目前の利を以てして長久の策を忘る可からず」と。乃ち子弟十餘人を帥ゐ、間行して郷里に歸る。

【一】常山。常山郡上曲陽縣即今の直隸省保定道曲陽縣の西北に在り。其の地、時に石勒に屬す。

【二】戴淵は廣陵の人なり。廣陵は故の吳王濞の都なり。

【三】李産父子、後、慕容儁に事す。

十一月、皇孫衍生る。

後趙王勒、悉く武郷の耆舊を召して襄國に詣らしめ、之と共に坐して歡飲す。初め、勒、微なる時、

李陽と居を鄰し、數、漚麻池を争うて相歐つ。陽、是に由りて、獨り敢て來らず。勅曰はく、「陽は壯士なり。漚麻は布衣の恨なり。孤、方に天下を兼ね容る。豈に匹夫を讎とせんや」と、遽に召して與に飲む。陽の臂を引きて曰はく、「孤、往日、卿の老拳に厭き、卿も亦孤の毒手に飽けり」と。因つて參軍都尉に拜す。武郷を以て豊沛に比し、之を復すること二世。勅、民始めて業に復し、資儲未だ豊ならざるを以て、是に於て、重く制して釀を禁じ、郊祀宗廟に、皆、醴酒を用ふ。之を行ふこと數年、復た釀す者無し。

- 【三】 漚麻池。麻をひたして柔かにする池。
- 【四】 武郷云云。漢の高祖・光武帝の故事に倣へるなり。
- 【五】 醴酒。一夜にして熟する酒。
- 【六】 東横。横は餐と通ず。學舎なり。晉書載記には東岸に作る。
- 【七】 平郭。遼東郡にあり。故城は今の奉天省遼瀋道蓋平縣の東に在り。

十二月、慕容廆を以て都督幽平二州東夷諸軍事・車騎將軍・平州の牧と爲し、遼東公に封ず。單于たること故の如し。謁者を遣はし、即きて印綬を授け、制を承けて官司守宰を置くを聽す。廆、是に於て、僚屬を備置し、表巖・遊遂を以て長史と爲し、表開を司馬と爲し、韓壽を別駕と爲し、陽耽を軍諮祭酒と爲し、崔燾を主簿と爲し、黃泓・鄭林を參軍事とす。廆、子就を立てて世子と爲し、東横を作り、平原の劉讚を以て祭酒と爲し、就をして諸生と同じく業を受けしむ。廆、暇を得れば、亦親ら臨みて之を聽く。就、雄毅にして權略多く、經術を喜む。國人、之を稱す。廆、慕容翰を徙して遼東に鎮せしめ、慕容仁をして平郭に鎮せしむ。翰、民夷を撫安し、

甚だ威惠有り。仁、亦、之に次ぐ。

拓跋猗叵の妻惟氏、代王鬱律の彊きを忌み、其の子に利あらざらんことを恐れ、乃ち鬱律を殺して、其の子賀儔を立つ。大人の死する者數十人。鬱律の子什翼健、幼にして襁褓に在り。其の母王氏、袴中に匿し、之を祝して曰はく、「天苟くも汝を存せば、則ち啼く勿かれ」と。之を久しくして啼かず。乃ち免るるを得たり。惟氏、専ら國政を制し、使を遣はして後趙に聘す。後趙の人、之を女國の使と謂ふ。

- 【七】 鬱律の立つこと八十九卷愍帝建康四年に見ゆ。
- 【八】 女國。惟氏、政を専らするを以て、故にこれを女國と謂ふ。

國譯資治通鑑第五終

資治通鑑卷第七十四

魏紀六

烈祖明皇帝下

景初二年春正月帝召司馬懿於長安使將兵四萬討遼東議臣或以為四萬兵多役費難供帝曰四千里征伐雖云用奇亦當任力不當稍計役費也帝謂懿曰公孫淵將何計以待君對曰淵棄城豫走上計也據遼東拒大軍其次也坐守襄平此成禽耳帝曰然則三者何出對曰唯明智能審量彼我乃豫有所割棄此既非淵所及又謂今往孤遠不能支久必先拒遼水後守襄平也帝曰還往幾日對曰往百日攻百日還百日以六十日為休息如此一年足矣公孫淵聞之復遣使稱臣求救於吳吳人欲戮其使羊循曰不可是肆匹夫之怒而捐霸王之計也不如因而厚之遣奇兵潛往以要其成若魏伐不克而我軍遠赴是恩結遐夷義形萬里若兵連不解首尾離隔則我虜其傍郡驅略而歸亦足以致天之罰報雪曩事矣吳主曰善乃大勒兵謂淵使曰請俟後問當從簡書必與弟同休戚又曰司馬懿所向無前深為弟憂之帝問於護軍將軍蔣濟曰孫權其救遼東乎濟曰彼知官備已固利不可得深入則非力所及淺入則勞而無獲權雖子弟在危猶將不動況異域之人兼以往者之辱乎今所以外揚此聲者譎其行人疑之於我我之不克冀其折節事己耳然沓渚之間去淵尚遠若大軍相守事不速決則權之淺規或得輕兵掩襲未可測也○帝問吏部尚書盧毓誰可為司徒者毓薦處士管寧帝不能用更問其次對曰敦篤至行則太中大夫韓暨亮直

清方則司隸校尉崔林貞固純常則太常常林二月癸卯以韓暨爲司徒○漢主立皇后張氏
前后之妹也立王貴人子瑤爲皇太子瑤爲安定王大司農河南孟光問太子讀書及情性
好尙於祕書郎郤正正曰奉親虔恭夙夜匪懈有古世子之風接待羣僚舉動出於仁恕光
曰如君所道皆家戶所有耳吾今所問欲知其權略智謀何如也正曰世子之道在於承志
竭歡既不得妄有施爲智謀藏於智懷權略應時而發此之有無焉可豫知也光知正慎宜
不爲放談乃曰吾好直言無所回避今天下未定智意爲先智意自然不可力彊致也儲君
讀書寧當傲吾等竭力博識以待訪問如博士探策講試以求爵位邪當務其急者正深謂
光言爲然正儉之孫也○吳人鑄當千大錢○夏四月庚子南鄉恭侯韓暨卒○庚戌大赦
○六月司馬懿軍至遼東公孫淵使大將軍卑衍楊祚將步騎數萬屯遼隧圍塹二十四里
諸將欲擊之懿曰賊所以堅壁欲老吾兵也今攻之正墮其計且賊大衆在此其巢窟空虛
直指襄平破之必矣乃多張旗幟欲出其南衍等盡銳趣之懿潛濟水出其北直趣襄平衍
等恐引兵夜走諸軍進至首山淵復使衍等逆戰懿擊大破之遂進圍襄平秋七月大霖雨
遼水暴漲運船自遼口徑至城下兩月餘不止平地水數尺三軍恐欲移營懿令軍中敢有
言徙者斬都督令史張靜犯令斬之軍中乃定賊恃水樵牧自若諸將欲取之懿皆不聽司
馬陳珪曰昔攻上庸八部俱進晝夜不息故能一句之半拔堅城斬孟達今者遠來而更安
緩愚竊惑焉懿曰孟達衆少而食支一年將士四倍於達而糧不淹月以一月圖一年安可
不速以四擊一正令失半而克猶當爲之是以不計死傷與糧競也今賊衆我寡賊饑我飽
水雨乃爾功力不設雖當促之亦何所爲自發京師不憂賊攻但恐賊走今賊糧垂盡而圍
落未合掠其牛馬抄其樵采此故驅之走也夫兵者詭道善因事變賊憑衆恃雨故雖饑困
未肯束手當示無能以安之取小利以驚之非計也朝廷聞師遇雨咸欲罷兵帝曰司馬懿

臨危制變禽淵可計日待也雨霽懿乃合圍作土山地道楯櫓鉤衝晝夜攻之矢石如雨淵
窘急糧盡人相食死者甚多其將楊祚等降八月淵使相國王建御史大夫柳甫請解圍却
兵當君臣面縛懿命斬之檄告淵曰楚鄭列國而鄭伯猶肉袒牽羊迎之孤天子上公而建
等欲孤解圍退舍豈得禮邪二人老耄傳言失指已相爲斬之若意有未已可更遣年少有
明決者來淵復遣侍中衛演乞克日送任懿謂演曰軍事大要有五能戰當戰不能戰當守
不能守當走餘二事但有降與死耳汝不肯面縛此爲決就死也不須送任壬午襄平潰淵
與子脩將數百騎突圍東南走大兵急擊之斬淵父子於梁水之上懿既入城誅其公卿以
下及兵民七千餘人築爲京觀遼東帶方樂浪玄菟四郡皆平淵之將反也將軍綸直賈範
等苦諫淵皆殺之懿乃封直等之墓顯其遺嗣釋淵叔父恭之囚中國人欲還舊鄉者悉聽
之遂班師初淵兄晃爲恭任子在洛陽先淵未反時數陳其變欲令國家討淵及淵謀逆帝
不忍市斬欲就獄殺之廷尉高柔上疏曰臣竊聞晃先數自歸陳淵禍萌雖爲凶族原心可
恕夫仲尼亮司馬牛之憂祁奚明叔向之過在昔之美義也臣以爲晃信有言宜貸其死苟
自無言便當市斬今進不赦其命退不彰其罪閉著囹圄使自引分四方觀國或疑此舉也
帝不聽竟遣使齎金屑飲晃及其妻子賜以棺衣殯斂於宅○九月吳改元赤烏○吳步夫
人卒初吳主爲討虜將軍在吳娶吳郡徐氏太子登所生庶賤吳主令徐氏母養之徐氏妬故
無寵及吳主西徙徐氏留處吳而臨淮步夫人寵冠後庭吳主欲立爲皇后而羣臣議在徐
氏吳主依違者十餘年會步氏卒羣臣奏追贈皇后印綬徐氏竟廢卒於吳○吳主使中書
郎呂壹校諸官府及州郡文書壹因此漸作威福深文巧詆排陷無辜毀短大臣纖介必
聞太子登數諫吳主不聽羣臣莫敢復言皆畏之側目壹誣白故江夏太守刁嘉謗訕國政
吳主怒收嘉繫獄驗問時同坐人皆畏怖壹竝言聞之侍中北海是儀獨云無聞遂見窮詰

累日詔旨轉厲羣臣爲之屏息儀曰今刀鋸已在臣頸臣何敢爲嘉隱諱自取夷滅爲不忠之鬼顧以聞知當有本末據實答問辭不傾移吳主遂舍之嘉亦得免上大將軍陸遜太常潘濬憂壹亂國每言之輒流涕壹白丞相顧雍過失吳主怒詰責雍黃門侍郎謝宏語次問壹顧公事何如壹曰不能佳宏又問若此公免退誰當代之壹未答宏曰得無潘太常得之乎壹曰君語近之也宏曰潘太常常切齒於君但道無因耳今日代顧公恐明日便擊君矣壹大懼遂解散雍事潘濬求朝詣建業欲盡辭極諫至聞太子登已數言之而不見從潘乃大請百寮欲因會手刃殺壹以身當之爲國除患壹密聞知稱疾不行西陵督步騭上疏曰顧雍陸遜潘濬志在竭誠寢食不寧念欲安國利民建久長之計可謂心膂股肱社稷之臣矣宜各委任不使他官監其所司課其殿最此三臣思慮不到則已豈敢欺負所天乎左將軍朱據部曲應受三萬緡工王遂詐而受之壹疑據實取考問主者死於杖下據哀其無辜厚棺斂之壹又表據吏爲據隱故厚其殯吳主數責問據據無以自明藉草待罪數日典軍吏劉助覺言王遂所取吳主大感悟曰朱據見枉況吏民乎乃窮治壹罪賞助百萬丞相雍至廷尉斷獄壹以囚見雍和顏色問其辭狀臨出又謂壹曰君意得無欲有所道乎壹叩頭無言時尙書郎懷叙面置辱壹雍責叙曰官有正法何至於此有司奏壹大辟或以爲宜加焚裂用彰元惡吳主以訪中書令會稽闕澤澤曰盛明之世不宜復有此刑吳主從之壹既伏誅吳主使中書郎袁禮告謝諸大將因問時事所當損益禮還復有詔責諸葛瑾步騭朱然呂岱等曰袁禮還云與子瑜子山義封定公相見竝咨以時事當有所先後各自以不掌民事不肯便有所陳悉推之伯言承明伯言承明見禮泣涕懇惻辭旨辛苦至乃懷執危怖有不自安之心聞之悵然深自刻怪何者夫惟聖人能無過行明者能自見耳人之舉厝何能悉中獨當已有以傷拒衆意忽不自覺故諸君有嫌難耳不爾何緣乃至於此乎與諸君

從事自少至長髮有二色以謂表裏足以明露公私分計足用相保義雖君臣思猶骨肉榮福喜戚相與共之忠不匿情智無遺計事統是非諸君豈得從容而已哉同船濟水將誰與易齊桓有善管子未嘗不歎有過未嘗不諫諫而不得終諫不止今孤自省無桓公之德而諸君諫諍未出於口仍執嫌難以此言之孤於齊桓良優未知諸君於管子何如耳○冬十一月壬午以司空衛臻爲司徒司隸校尉崔林爲司空○十二月漢蔣琬出屯漢中○乙丑帝不豫○辛巳立郭夫人爲皇后○初太祖爲魏公以贊令劉放參軍事孫資皆爲祕書郎文帝卽位更名祕書曰中書以放爲監資爲令遂掌機密帝卽位尤見寵任皆加侍中光祿大夫封本縣侯是時帝親覽萬機數興軍旅腹心之任皆二人管之每有大事朝臣會議常令決其是非擇而行之中護軍蔣濟上疏曰臣聞大臣太重者國危左右太親者身蔽古之至戒也往者大臣秉事外內扇動陛下卓然自覽萬機莫不祇肅夫大臣非不忠也然威權在下則衆心慢上勢之常也陛下既已察之於大臣願無忘之於左右左右忠正遠慮未必賢於大臣至於便辟取合或能工之今外所言輒云中書雖使恭慎不敢外交但有此名猶惑世俗況實握事要在目前儻因疲倦之間有所割制衆臣見其能推移於事卽亦因時而向之一有此端私招朋援臧否毀譽必有所與功負賞罰必有所易直道而上者或壅曲附左右者反達因微而入緣形而出意所狎信不復猜覺此宜聖智所當早聞外以經意則形際自見或恐朝臣畏言不合而受左右之怨莫適以聞臣竊亮陛下潛神默思公聽竝觀若事有未盡於理而物有未周於用將改曲易調遠與黃唐角功近昭武文之績豈牽近習而已哉然人君不可悉任天下之事必當有所付若委之一臣自非周公旦之忠管夷吾之公則有弄權敗官之敝當今柱石之士雖少至於行稱一州智效一官忠信竭命各奉其職可竝驅策不使聖明之朝有專吏之名也帝不聽及寢疾深念後事乃以武帝子燕王宇爲大將軍

與領軍將軍夏侯武衛將軍曹爽屯騎校尉曹肇驍騎將軍秦朗等對輔政爽真之子肇休之子也帝少與燕王宇善故以後事屬之劉放孫資久典機任獻肇心內不平殿中有鷄棲樹二人相謂曰此亦久矣其能復幾放資懼有後害陰圖間之燕王性恭良陳誠固辭帝引放資入臥內問曰燕王正爾為對曰燕王實自知不堪大任故耳帝曰誰可任者時惟曹爽獨在側放資因薦爽且言宜召司馬懿與相參帝曰爽堪其事不爽流汗不能對放資其足耳之曰臣以死奉社稷帝從放資言欲用爽懿既而中變敕停前命放資復入見說帝帝又從之放曰宜為手詔帝曰我因篤不能放即上牀執帝手強作之遂齎出大言曰有詔免燕王宇等官不得停省中皆流涕而出甲申以曹爽為大將軍帝嫌爽才弱復拜尚書孫禮為大將軍長史以佐之是時司馬懿在汲帝令給使辟邪齎手詔召之先是燕王為帝畫計以為關中事重宜遣懿使道自軹關西還長安事已施行懿斯須得二詔前後相違疑京師有變乃疾驅入朝

三年春正月懿至入見帝執其手曰吾以後事屬君君與曹爽輔少子死乃可忍吾忍死待君得相見無所復恨矣乃召齊秦二王以示懿別指齊王芳謂懿曰此是也君諦視之勿誤也又教齊王令前抱懿頸懿頓首流涕且日立齊王為皇太子帝尋殂帝沈毅明敏任心而行料簡功能屏絕浮偽行師動衆論決大事謀臣將相咸服帝之大略性特彊識雖左右小臣官簿性行名跡所履及其父兄弟一經耳目終不遺忘

孫盛論曰聞之長老魏明帝天姿秀出立髮垂地口吃少言而沈毅好斷初諸公受遺輔導帝皆以方任處之政自己出優禮大臣開容善直雖犯顏極諫無所摧戮其君人之量如此其偉也然不思建德垂風不固維城之基至使大權偏據社稷無衛悲夫太子即位年八歲大赦尊皇后曰皇太后加曹爽司馬懿侍中假節鉞都督中外諸軍錄尚

書事諸所興作宮室之役皆以遺詔罷之爽懿各領兵三千人更宿殿內爽以懿年位素高常父事之每事諮訪不敢專行初并州刺史東平畢軌及鄧颺李勝何晏丁謐皆有才名而急於富貴趨時附執明帝惡其浮華皆抑而不用曹爽素與親善及輔政驟加引擢以為腹心晏進之孫謐斐之子也晏等咸共推戴爽以為重權不可委之於人丁謐為爽畫策使爽白天子發詔轉司馬懿為太傅外以名號尊之內欲令尚書奏事先來由己得制其輕重也爽從之二月丁丑以司馬懿為太傅以爽弟羲為中領軍訓為武衛將軍彥為散騎常侍侍講其餘諸弟皆以列侯侍從出入禁闈貴寵莫盛焉爽事太傅禮貌雖存而諸所興造希復由之爽徙吏部尚書盧毓為僕射而以何晏代之以鄧颺丁謐為尚書畢軌為司隸校尉晏等依執用事附會者升進違忤者罷退內外望風莫敢忤旨黃門侍郎傅嘏謂爽弟羲曰何等叔外靜而內躁銛巧好利不念務本吾恐必先惑子兄弟仁人將遠而朝政廢矣晏等遂與嘏不平因微事免嘏官又出盧毓為廷尉畢軌又枉奏毓免官衆論多訟之乃復以為光祿勳孫禮亮直不撓爽心不便出為揚州刺史○三月以征東將軍滿寵為太尉○夏四月吳督軍使者羊簡擊遼東守將俘人民而去○漢蔣琬為大司馬東曹掾健為楊戲素性簡略琬與言論時不應答或謂琬曰公與戲言而不應其慢甚矣琬曰人心不同各如其面從後言古人所誠戲欲贊吾是邪則非其本心欲反吾言則顯吾之非是以默然是戲之快也又督農楊敏嘗毀琬曰作事慣慣誠不及前人或以白琬主者請推治敏琬曰吾實不如前人無可推也主者乞問其慣慣之狀琬曰苟其不如則事不理事不理則慣慣矣後敏坐事繫獄衆人猶懼其必死琬心無適莫敏得免重罪○秋七月帝始親臨朝○八月大赦○冬十月吳太常潘濬卒吳主以鎮南將軍呂岱代濬與陸遜共領荊州文書岱時年已八十體素精勤躬親王事與遜同心協規有善相讓南士稱之○十二月吳將廖式殺臨賀太守

嚴綱等自稱平南將軍攻零陵桂陽搖動交州諸郡衆數萬人呂岱自表輒行星夜兼路吳主遣使追拜交州牧及遣諸將唐咨等絡繹相繼攻討一年破之斬式及其支黨郡縣悉平岱復還武昌○吳都鄉侯周胤將兵千人屯公安有罪徙廬陵諸葛瑾步騭爲之請吳主曰昔胤年少初無功勞橫受精兵爵以侯將蓋念公瑾以及於胤也而胤恃此醜淫自恣前後告諭曾無悔改孤於公瑾義猶二君樂胤成就豈有已哉迫胤罪惡未宜便還且欲苦之使自知耳以公瑾之子而二君在中間苟使能改亦何患乎瑜兄子偏將軍峻卒全琮請使峻子護領其兵吳主曰昔走曹操拓有荊州皆是公瑾常不忘之初聞峻亡仍欲用護聞護性行危險用之適爲作禍故更止之孤念公瑾豈有已哉○十二月詔復以建寅之月爲正

邵陵厲公上

正始元年春旱○越嶲蠻夷數叛漢殺太守是後太守不敢之郡寄治安定縣去郡八百餘里漢主以巴西張巖爲越嶲太守巖招慰新附誅討彊猾蠻夷畏服郡界悉平復還舊治○冬吳饑

二年春吳人將伐魏零陵太守殷札言於吳主曰今天棄曹氏喪誅累見虎爭之際而幼童泄事陛下身自御戎取亂侮亡宜滌荆揚之地舉彊羸之數使彊者執戟羸者轉運西命益州軍于隴右授諸葛瑾朱然大衆直指襄陽陸遜朱桓別征壽春大駕入淮陽歷青徐襄陽壽春困於受敵長安以西務禦蜀軍許洛之衆執必分離犄角竝進民必內應將帥對向或失便宜一軍敗績則三軍離心便當秣馬脂車陵蹈城邑乘勝逐北以定華夏若不悉軍動衆循前輕舉則不足大用易於屢退民疲威消時往力竭非上策也吳主不能用夏四月吳全琮略淮南決芍陂諸葛恪攻六安朱然圍樊諸葛瑾攻相中征東將軍王凌揚州刺史孫

禮與全琮戰於芍陂琮敗走荊州刺史胡質以輕兵救樊或曰賊盛不可追質曰樊城卑兵少故當進軍爲之外援不然危矣遂勒兵臨圍城中乃安○五月吳太子登卒○吳兵猶在荊州太傅懿曰相中民夷十萬隔在水南流離無主樊城被攻歷月不解此危事也請自討之六月太傅懿督諸軍救樊吳軍聞之夜遁追至三州口大獲而還○閏月吳大將軍諸葛瑾卒瑾太子恪先已封侯吳主以恪弟融襲爵攝兵業駐公安○漢大司馬蔣琬以諸葛亮數出秦川道險運糧難卒無成功乃多作舟船欲乘漢河東下襲魏興上庸會舊疾連動未時得行漢人咸以爲事有不捷還路甚難非長策也漢主遣尙書令費禕中監軍姜維等喻指琬乃上言今魏跨帶九州根蒂滋蔓平除未易若東西并力首尾犄角雖未能速得如志且當分裂蠶食先摧其支黨然吳期二三連不克果輒與費禕等議以涼州胡塞之要進退有資且姜胡乃心思漢如渴宜以姜維爲涼州刺史若維征行銜制河右臣當帥軍爲維鎮繼今涪水陸四通惟急是應若東北有虞赴之不難請徙屯涪漢主從之○朝廷欲廣田畜穀於揚豫之間使尙書郎汝南鄧艾行陳項以東至壽春艾以爲昔太祖破黃巾因爲屯田積穀許都以制四方今三隅已定事在淮南每大軍出征運兵過半功費巨億陳蔡之間土下田良可省許昌左右諸稻田并水東下令淮北二萬人淮南三萬人什二分休常有四萬人且田且守益開河渠以增溉灌通漕運計除衆費歲完五百萬斛以爲軍資六七年間可積三千萬斛於淮上此則十萬之衆五年食也以此乘吳無不克矣太傅懿善之是歲始開廣漕渠每東南有事大興軍衆汎舟而下達于江淮資食有餘而無水害○管寧卒寧名行高潔人望之者邈然若不可及卽之熙熙和易能因事導人於善人無不化服及卒天下知與不知無不嗟嘆

魏紀 邵陵厲公上正始元年——三年

三年春正月漢姜維率偏軍自漢中還住涪○吳主立其子和爲太子大赦○三月昌邑景

侯滿寵卒。秋七月乙酉，以領軍將軍蔣濟為太尉。○吳主遣將軍聶友、校尉陸凱將兵三萬擊儋耳、珠崖。○八月，吳主封子霸為魯王，霸和母弟也。寵愛崇特，與和無殊。尚書僕射是儀、領魯王傅上疏諫曰：「臣竊以為魯王，天誕懿德，兼資文武，當今之宜，宜鎮四方，為國藩輔，宣揚德美，廣耀威靈，乃國家之良規，海內所瞻望，且二宮宜有降殺，以正上下之序，明教化之本。」書三四上，吳主不聽。

四年春正月，帝加元服。○吳諸葛恪襲六安，掩其人民而去。○夏四月，立皇后甄氏。天赦后，文昭皇后兄儼之孫也。○五月朔，日有食之。既。○冬十月，漢蔣琬自漢中還住涪，疾益甚，以漢中太守王平為前監軍，鎮北大將軍，督漢中。○十一月，漢主以尚書令費禕為大將軍，錄尚書事。○吳丞相顧雍卒。○吳諸葛恪遠遣諜人觀相徑要，欲圖壽春。太傅懿將兵入舒，欲以攻恪。吳主徙恪屯於柴桑。○步騭朱然各上疏於吳主曰：「自蜀還者咸言：『蜀欲背盟與魏交通，多作舟船，繕治城郭，又蔣琬守漢中，聞司馬懿南向，不出兵乘虛以掎角之。』反委漢中，還近成都，事已彰灼，無所復疑，宜為之備。」吳主答曰：「吾待蜀不薄，聘享盟誓，無所負之，何以致此？」司馬懿前來入舒，旬日便退，蜀在萬里，何知緩急，而便出兵乎？昔魏欲入漢川，此間始嚴，亦未舉動，會聞魏還而止，蜀寧可復以此有疑邪？人言若不可信，朕為諸君破家保之。○征東將軍都督揚豫諸軍事王昶上言：「地有常險，守無常勢，今屯宛去襄陽三百餘里，有急不足相赴，遂徙屯新野。」○宗室曹罔上書曰：「古之王者必建同姓，以明親親，必樹異姓，以明賢賢，親親之道專用，則其漸也微弱，賢賢之道偏任，則其敝也劫奪。先聖知其然也，故博求親疎而並用之，故能保其社稷，歷紀長久。今魏尊此法，雖明親親之道未備，或任而不重，或釋而不任，臣竊惟此寢不安席，謹撰合所聞論其成敗曰：昔夏商周歷世數十，而秦二世而亡，何則？三代之君與天下共其民，故天下同其憂，秦王獨制其民，故傾危而莫救也。秦觀

周之敝以為小弱見奪，於是廢五等之爵，立郡縣之官，內無宗子，以自毗輔，外無諸侯，以為藩衛，譬猶芟刈股肱，獨任智腹，觀者為之寒心，而始皇晏然，自以為子孫帝王萬世之業也。豈不悖哉！故漢祖奮三尺之劍，驅烏合之衆，五年之中，遂成帝業，何則？伐深根者難，為功摧枯朽者易，為力理勢然也。漢監秦之失，封殖子弟，及諸呂擅權，圖危劉氏，而天下所以不傾動者，徒以諸侯疆大，磐石膠固也。然高祖封建，地過古制，故賈誼以為欲天下之治安，莫若衆建諸侯而少其力，文帝不從，至於孝景，猥用鼂錯之計，削黜諸侯，遂有七國之患，蓋兆發高帝，釁鍾文景，由寬之過制，急之不漸，故也。所謂末大必折，尾大難掉，尾同於體，猶或不從，況乎非體之尾，其可掉哉！武帝從主父之策，下推恩之令，自是之後，遂以陵夷，子孫微弱，衣食租稅，不預政事，至于哀平，王氏秉權，假周公之事，而為田常之亂，宗室諸侯，或乃為之符命，頌莽恩德，豈不哀哉！由斯言之，非宗子獨忠孝於惠文之間，而叛逆於哀平之際也。徒權輕執弱，不能定耳。賴光武皇帝挺不世之姿，擒王莽於已成，紹漢嗣於既絕，斯豈非宗子之力也。而曾不監秦之失策，襲周之舊制，至於桓靈，閹宦用事，君孤立於上，臣弄權於下，由是天下鼎沸，姦宄竝爭，宗廟焚為灰燼，宮室變為榛藪，太祖皇帝龍飛鳳翔，掃除凶逆，大魏之興，于今二十有四年矣。觀五代之存亡，而不用其長策，觀前車之傾覆，而不改於轍迹，子弟王空虛之地，君有不使之民，宗室竄於閭閻，不聞邦國之政，權均匹夫，執齊凡庶，內無深根不拔之固，外無盤石宗盟之助，非所以安社稷，為萬世之業也。且今之州牧郡守，古之方伯諸侯，皆跨有千里之土，兼軍武之任，或比國數人，或兄弟竝據，而宗室子弟曾無一人聞廁其閒，與相維制，非所以彊幹弱枝，備萬一之虞也。今之用賢，或超為名都之主，或為偏師之帥，而宗室有文者必限小縣之宰，有武者必置百人之上，非所以勸進賢能，褒異宗室之禮也。語曰：百足之蟲，至死不僵，以其扶之者衆也。此言雖小，可以譬大，是以聖王安不忘危。

存不忘亡。故天下有變而無傾危之患矣。問冀以此論感悟曹爽，爽不能用。五年春正月，吳主以上大將軍陸遜為丞相，其州牧都護領武昌事。如故。○征西將軍都督雍涼諸軍事夏侯玄，大將軍爽之姑子也。玄辟李勝為長史，勝及尚書鄧颺欲令爽立威名於天下，勸使伐蜀。太傅懿止之，不能得。三月，爽西至長安，發卒十餘萬人，與玄自驛口入漢中。漢中守兵不滿三萬，諸將皆恐，欲守城不出，以待涪兵。王平曰：「漢中去涪垂千里，賊若得關，便為深禍。今宜先遣劉護軍據興勢，平為後拒。若賊分向黃金，平帥千人下自臨之，比爾間涪軍亦至此，計之上也。」諸將皆疑，惟護軍劉敏與平意同。遂帥所領據興勢，多張旗幟，彌互百餘里。閏月，漢主遣大將軍費禕督諸軍救漢中。將行，光祿大夫來敏詣禕別求共圍棊。子時，羽檄交至，人馬擐甲，嚴駕已訖。禕與敏對戲，色無厭倦。敏曰：「向聊觀試君耳，君信可人，必能辦賊者也。」○夏四月丙辰朔，日有食之。○大將軍爽兵距興勢，不得進。關中及氐羌轉輸不能供，牛馬騾驢多死。民夷號泣道路。涪軍及費禕兵繼至，參軍楊偉為爽陳形勢，宜急還。不然將敗。鄧颺、李勝與偉爭於爽前，偉曰：「颺勝將敗國家事，可斬也。爽不悅。太傅懿與夏侯玄書曰：「春秋責大德重，昔武皇帝再入漢中，幾至大敗，君所知也。今興勢至險，蜀已先據，若進不獲戰，退見邀絕，覆軍必矣。將何以任其責？」玄懼，言於爽。五月，引軍還。費禕進據三嶺，以截爽。爽爭險苦戰，僅乃得過，失亡甚衆。關中為之虛耗。○秋八月，秦王詢卒。○冬十二月，安陽孝侯崔林卒。○是歲，漢大司馬琬以病固讓州職於大將軍禕。漢主乃以禕為益州刺史，以待中董允守尚書令，為禕之副。時戰國多事，公務煩猥，禕為尚書令，識悟過人，每省讀文書，舉目暫視，已究其意旨，其速數倍於人。終亦不忘，常以朝晡聽事，其間接納賓客，飲食嬉戲，加之博奕，每盡人之歡事，亦不廢。及董允代禕，欲毀禕之所行，旬日之中，事多愆滯，允乃歎曰：「人才力相遠若此，非吾之所及也。乃聽事終日而猶有不暇焉。」

六年春正月，以票騎將軍趙儼為司空。○吳太子和與魯王同宮，禮秩如一。羣臣多以為言，吳主乃命分宮別僚。二子由是有隙。衛將軍全琮遣其子寄事魯王，以書告丞相陸遜。遜報曰：「子弟苟有才，不憂不用，不宜私出以要榮利。若其不佳，終為取禍。且聞二宮勢敵，必有彼此。此古人之厚忌也。寄果阿附魯王，輕為交構，遜書與琮曰：「卿不師日磾而宿留阿寄，終為足下家門致禍矣。琮既不答，遜言更以致隙。魯王曲意交結，當時名士偏將軍朱績以膽力稱，王自至其廨，就之坐，欲與結好，績下地住立，辭而不當。績然之子也，於是自侍御賓客，造為二端，仇黨疑貳，滋延大臣舉國中分。吳主聞之，假以精學，禁斷賓客往來，督軍使者羊循上疏曰：「聞明詔省奪，二宮備衛，抑絕賓客，使四方禮敬不復得通，遠近悚然，大小失望。或謂二宮不遵典式，就如所嫌，猶宜補察，密加斟酌，不使遠近得容異言。臣恐積疑成謗，久將宣流而西北二隅去國不遠，將謂二宮有不順之愆，不審陛下何以解之。吳主長女魯班適左護軍全琮，少女小虎適驃騎將軍朱據，全公主與太子母王夫人有隙。吳主欲立王夫人為后，公主阻之，恐太子立怨己，心不自安。數譖毀太子，吳主寢疾，遣太子禱於長沙桓王廟。太子妃叔父張休居近廟，邀太子過所居，全公主使人覘視，因言太子不在廟中，專就妃家計議。又言王夫人見上寢疾，有喜色。吳主由是發怒，夫人以憂死。太子寵益衰，魯王之黨楊竺全寄、吳安、孫奇等共譖毀太子，吳主惑焉。陸遜上疏諫曰：「太子正統，宜有盤石之固。魯王藩臣，當使寵秩有差，彼此得所，上下獲安。書三四上，辭情危切。又欲詣都，口陳嫡庶之義。吳主不悅，太常顧譚遜之甥也，亦上疏曰：「臣聞有國家者，必明嫡庶之端，異尊卑之禮。使高下有差，等級踰邈，如此，則骨肉之恩全，覬覦之望絕。昔賈誼陳治安之計，論諸侯之執，以為執重雖親，必有逆節之累，執輕雖疏，必有保全之祚。故淮南親弟不終饗國，失之於勢重也。吳芮疏臣傳祚長沙，得之於勢輕也。昔漢文帝使慎夫人與皇后同席，袁盎退夫人之位，帝有

怒色及盜辨。上下之義陳人。毘之戒。帝既悅。憚夫人亦悟。今臣所陳。非有所偏。誠欲以安太子。而便魯王也。由是魯王與譚有隙。芍陂之役。譚弟承及張休。皆有功。全琮子端緒與之爭功。譚承休於吳主。吳主徙譚承休於交州。又追賜休死。太子太傅吾粲。請使魯王出鎮夏口。出楊竺等不得令在京師。又數以消息語陸遜。魯王與楊竺共譖之。吳主怒。收粲下獄。誅數遣中使責問陸遜。遜憤恚而卒。其子抗為建武校尉。代領遜衆。送葬東還。吳主以楊竺所白遜二十事問抗。抗事條答。吳主意乃稍解。○夏六月。都鄉穆侯趙儼卒。○秋七月。吳將軍馬茂謀殺吳主及大臣。以應魏。事泄。并黨與皆伏誅。○八月。以太常高柔為司空。○漢甘太后殂。○吳主遣校尉陳勳將屯田及作士三萬人。鑿句容中道。自小其至雲陽西城。通會市。作邸閣。○冬十一月。漢大司馬琬卒。○十二月。漢費禕至漢中。行圍守。○漢尚書令董允卒。以尚書呂乂為尚書令。董允秉心公亮。獻可替否。備盡忠益。漢主甚嚴憚之。宦人黃皓便僻佞慧。漢主愛之。允上則正色規主。下則數責於皓。皓畏允。不敢為非。終允之世。皓位不過黃門丞。費禕以選曹郎汝南陳祗代允。為侍中。祗矜厲有威容。多技藝。挾智數。故禕以為賢。越次而用之。祗與皓相表裏。皓始預政。累遷至中常侍。操弄威柄。終以覆國。自陳祗有寵。而漢主追怨董允日深。謂為自輕。由祗阿意迎合。而皓浸潤構間故也。

資治通鑑卷第七十四

資治通鑑卷第七十五

魏紀七

邵陵厲公中

正始七年春二月。吳車騎將軍朱然寇祖中。殺略數千人而去。○幽州刺史母丘儉。以高句驪王位宮。數為侵叛。督諸軍討之。位宮敗走。儉遂屠丸都。斬獲首虜以千數。句驪之臣得來。數諫位宮。位宮不從。得來歎曰。立見此地。將生蓬蒿。遂不食而死。儉令諸軍不壞其墓。不伐其樹。得其妻子。皆放遣之。位宮單將妻子逃竄。儉引軍還。未幾復擊之。位宮遂奔買溝。儉遣玄菟太守王頎追之。過沃沮。千有餘里。至肅慎氏南界。刻石紀功而還。所誅納八千餘口。論功受賞。侯者百餘人。○秋九月。吳主以驃騎將軍步騭為丞相。車騎將軍朱然為左大司馬。衛將軍全琮為右大司馬。分荊州為二郡。以鎮南將軍呂岱為上大將軍。督右部。自武昌以西。至蒲圻。以威北將軍諸葛恪為大將軍。督左部。代陸遜鎮武昌。○漢大赦。大司農河南孟光於衆中責費禕曰。夫赦者。偏枯之物。非明世所宜有也。衰敝窮極。必不得已。然後乃可權而行之耳。今主上仁賢。百僚稱職。何有旦夕之急。而數施非常之恩。以惠姦宄之惡乎。禕但願謝跟蹤而已。初丞相亮時。有言公惜赦者。亮答曰。治世以大德。不以小惠。故匡衡吳漢不願為赦。先帝亦言。吾周旋陳元方。鄭康成間。每見啓告治亂之道。悉矣。曾不語赦也。若劉景升季玉父子。歲歲赦宥。何益於治。由是蜀人稱亮之賢。知禕不及焉。

魏紀 邵陵厲公中正始七年

吳人不便大錢，乃罷之。○漢主以涼州刺史姜維爲衛將軍，與大將軍費禕並錄尚書事。汝山平康夷反，維討平之。漢主數出遊觀，增廣聲樂，太子家令巴西譙周上疏諫曰：昔王莽之敗，豪桀竝起，以爭神器，才智之士，思望所歸，未必以其勢之廣，惟其德之厚薄也。於時更始、公孫述等，多已廣大，然莫不快情恣欲，怠於爲善。世祖初入河北，馮異等勸之曰：當行人所不能爲者，遂務理冤獄，崇節儉，北州歌歎，聲布四遠。於是鄧禹自南陽追之，吳漢寇恂，素未之識，舉兵助之，其餘望風慕德，邳彤、耿純、劉植之徒，至於輿病齎棺，襁負而至，不可勝數。故能以弱爲彊，而成帝業。及在洛陽，嘗欲小出，銚期進諫，即時還車。及潁川盜起，寇恂請世祖身往臨賊，聞言即行，故非急務，欲小出，不敢。至於急務，欲自安，不爲。帝者之欲善如此，故傳曰：百姓不徒附，誠以德先之也。今漢遭厄運，天下三分，雄哲之士，思望之時也。臣願陛下復行人所不能爲者，以副人望，且承事宗廟，所以率民尊上也。今四時之祀，或有不臨，而池苑之觀，或有仍出，臣之愚滯，私不自安。夫憂責在身者，不暇盡樂，先帝之志，堂構未成，誠非盡樂之時。願省減樂官，後宮凡所增造，但奉脩先帝所施，下爲子孫節儉之教。漢主不聽。八年春正月，吳全琮卒。○二月，日有食之。時尚書何晏等，朋附曹爽，好變改法度。太尉蔣濟上疏曰：昔大舜佐治，戒在比周，周公輔政，慎於其朋。夫爲國法度，惟命世大才，乃能張其綱維，以垂於後。豈中下之吏，所宜改易哉？終無益於治，適足傷民。宜使文武之臣，各守其職，率以清平，則和氣祥瑞可感而致也。○吳主詔徙武昌宮材瓦，繕脩建業宮，有司奏言：武昌宮已二十八歲，恐不堪用，宜下所在，通更伐致。吳主曰：大禹以卑宮爲美，今軍事未已，所在賦斂，若更通伐，妨損農桑，徙武昌材瓦，自可用也。乃徙居南宮。三月，改作太初宮，令諸將及州郡皆義作。○大將軍爽用何晏、鄧颺、丁謐之謀，遷太后於永寧宮，專擅朝政，多樹親黨，屢改制度。太傅懿不能禁，與爽有隙。五月，懿始稱疾，不與政事。○吳丞相步騭卒。○帝好褻近羣小，遊

宴後園。秋七月，尚書何晏上言：自今御幸式乾殿，及遊後園，宜皆從大臣，詢謀政事，講論經義，爲萬世法。冬十二月，散騎常侍諫議大夫孔父上言：今天下已平，陛下可絕後園習騎乘馬，出必御輦乘車，天下之福，臣子之願也。帝皆不聽。○吳主大發衆集建業，揚聲欲入寇揚州，刺史諸葛誕使安豐太守王基策之。基曰：今陸遜等已死，孫權年老，內無賢嗣，中無謀主，權自出，則懼內，釁卒起，癰疽發潰，遣將則舊將已盡，新將未信，此不過欲補苴支黨，還自保護耳。已而吳果不出。○是歲，雍涼羌胡叛降漢，漢姜維將兵出隴右，以應之。與雍州刺史郭淮討蜀護軍夏侯霸，戰于洮西，胡王白虎文治無戴等，率部落降，維徙之入蜀。淮進擊羌胡餘黨，皆平之。

九年春二月，中書令孫資、癸巳，中書監劉放、三月甲午，司徒衛臻，各遜位，以侯就第。位特進。○夏四月，以司空高柔爲司徒，光祿大夫徐邈爲司空。邈嘆曰：三公論道之官，無其人，則缺。豈可以老病忝之哉？遂固辭不受。○五月，漢費禕出屯漢中，自蔣琬及禕，雖身居於外，慶賞刑威，皆遙先諮斷，然後乃行，禕雅性謙素，當國功名，略與琬比。○秋九月，以車騎將軍王凌爲司空。○涪陵夷反，漢車騎將軍鄧芝討平之。○大將軍爽驕奢無度，飲食衣服，擬於乘輿，尙方珍玩，充牣其家，又私取先帝才人，以爲伎樂，作窟室，綺疏四周，數與其黨何晏等縱酒，其中弟羲深以爲憂，數涕泣諫止之，爽不聽。爽兄弟數俱出遊，司農沛國桓範謂曰：總萬機，典禁兵，不宜竝出。若有閉城門，誰復內人者？爽曰：誰敢爾邪？初清河平原爭界，八年不能決，冀州刺史孫禮請天府所藏烈祖封平原時圖，以決之，爽信清河之訴，云圖不可用，禮上疏自辨，辭頗剛切，爽大怒，劾禮怨望，結刑五歲，久而復爲并州刺史，往見太傅懿，有忿色，而無言，懿曰：卿得并州，少邪？恚理分界，失分乎？禮曰：何明公言之乖也？禮雖不德，豈以官位往事爲意邪？本謂明公齊蹤伊呂，匡輔魏室，上報明帝之託，下建萬世之勳，今社稷將危，天下

究此禮之所以不悅也。因涕泣橫流。懿曰：且止。忍不可忍。冬，河南尹李勝出爲荊州刺史。過辭太傅懿，懿令兩婢侍持衣。衣落，指口言渴，婢進粥。懿不持杯而飲粥，皆流出，霑胸。勝曰：衆情謂明公舊風發動，何意尊體乃爾？懿使聲氣纒屬，說年老枕疾，死在旦夕。君當屈并州，并州近胡，好爲之備，恐不復相見。以子師昭兄弟爲託。勝曰：當還本州，非并州。懿乃錯亂其辭曰：君方到并州，勝復曰：當悉荊州。懿曰：年老意荒，不解君言。今還爲本州，盛德壯烈，好建功勳。勝退告爽曰：司馬公尸居餘氣，形神已離，不足慮矣。他日又向爽等垂泣曰：太傅病不可復濟，令人愴然。故爽等不復設備。何晏聞平原管輅明於術數，請與相見。十二月丙戌，輅往詣晏。晏與之論易，時鄧颺在坐，謂輅曰：君自謂善易，而語初不及易中辭義，何也？輅曰：夫善易者，不言易也。晏含笑贊之曰：可謂要言不煩也。因謂輅曰：試爲作一卦，知位當至三公不？又問：連夢見青蠅數十，來集鼻上，驅之不去，何也？輅曰：昔元凱輔舜，周公佐周，皆以和惠謙恭，享有多福。此非卜筮所能明也。今君侯位尊勢重，而懷德者鮮，畏威者衆，殆非小心求福之道也。又鼻者，天中之山，高而不危，所以長守貴。今青蠅臭惡而集之，位峻者顛，輕豪者亡，不可不深思也。願君侯哀多益寡，非禮勿履，然後三公可至。青蠅可驅也。颺曰：此老生之常譚。輅曰：夫老生者，見不生，常譚者，見不譚。輅還邑舍，具以語其舅。舅責輅言太切，至輅曰：與死人語，何所畏邪？舅大怒，以輅爲狂。○吳交趾九真夷賊攻沒城邑，交部騷動。吳主以衡陽督軍都尉陸胤爲交州刺史，安南校尉胤入境，喻以恩信，降者五萬餘家。州境復清。○太傅懿陰與其子中護軍師散騎常侍昭謀誅曹爽。嘉平元年春正月甲午，帝謁高平陵。大將軍爽與弟中領軍羲、武衛將軍訓、散騎常侍彥皆從。太傅懿以皇太后令閉諸城門，勒兵據武庫，授兵出屯洛水浮橋，召司徒高柔、假節行大將軍事據爽營。太僕王觀行中領軍事據羲營。因奏爽罪惡於帝曰：臣昔從遼東還，先帝詔

陛下秦王及臣升御牀，把臣臂，深以後事爲念。臣言太祖高祖亦屬臣以後事，此自陛下所見，無所憂苦。萬一有不如意，臣當以死奉明詔。今大將軍爽背棄顧命，敗亂國典，內則僭擬外則專權，破壞諸營，盡據禁兵，羣官要職皆置所親，殿中宿衛易以私人，根據盤互，縱恣日甚。又以黃門張當爲都監，伺察至尊，離間二宮，傷害骨肉，天下洶洶，人懷危懼。陛下便爲寄坐，豈得久安？此非先帝詔陛下及臣升御牀之本意也。臣雖朽邁，敢忘往言。太尉臣濟等皆以爽爲有無君之心，兄弟不宜典兵宿衛，奏永寧宮。皇太后令敕臣如奏施行，臣輒救主者及黃門令罷爽，義訓吏兵，以侯就第，不得逗留，以稽車駕。敢有稽留，便以軍法從事。臣輒力疾將兵屯洛水浮橋，伺察非常，爽得懿奏事不通，迫窘不知所爲，留車駕宿伊水南，伐木爲鹿角，發屯田兵數千人，以爲衛。懿使侍中高陽許允及尚書陳泰說爽，宜早自歸罪，又使爽所信殿中校尉尹大目謂爽，唯免官而已。以洛水爲誓，泰羣之子也。初，爽以桓範鄉里老宿，於九卿中特禮之，然不甚親也。及懿起兵，以太后令召範，欲使行中領軍。範欲應命，其子止之曰：車駕在外，不如南出。範乃出至平昌城門，城門已閉，門候司蕃故範舉吏也。範舉手中版示之，矯曰：有詔召我，卿促開門。蕃欲求見詔書，範呵之曰：卿非我故吏邪？何以敢爾？乃開之。範出城，顧謂蕃曰：太傅圖逆，卿從我去。蕃徒行不能及，遂避側。懿謂蔣濟曰：智囊往矣。濟曰：範則智矣，然驚馬戀棧豆，爽必不能用也。範至，勸爽兄弟以天子詣許昌，發四方兵以自輔。爽疑未決，範謂義曰：此事昭然，卿用讀書何爲邪？於今日卿等門戶求貧賤復可得乎？且匹夫質一人，尚欲望活，卿與天子相隨，令於天下誰敢不應也？俱不言。範又謂義曰：卿別營近在闕南，洛陽典農治在城外，呼召如意。今詣許昌，不過中宿，許昌別庫足相被假，所憂當在穀食，而大司農印章在我身，義兄弟默然不從。自甲夜至五鼓，爽乃投刀於地曰：我亦不失作富家翁。範哭曰：曹子丹佳人，生汝兄弟，豈積耳，何圖今日坐汝等族滅也。爽乃通懿奏。

事白帝下詔免己官奉帝還宮爽兄弟歸家懿發洛陽吏卒圍守之四角作高樓令人在樓上察視爽兄弟舉動爽挾彈到後園中樓上便唱言故大將軍東南行爽愁悶不知爲計戊戌有司奏黃門張當私以所擇才人與爽疑有姦收當付廷尉考實辭云爽與尚書何晏鄧颺丁謐司隸校尉畢軌荆州刺史李勝等陰謀反逆須三月中發於是收爽義訓晏颺謐軌勝并桓範皆下獄劾以大逆不道與張當俱夷三族初爽之出也司馬魯芝留在府聞有變將營騎斫津門出赴爽及爽解印綬將出主簿楊綜止之曰公挾主握權捨此以至東市乎有司奏收芝綜治罪太傅懿曰彼各爲其主也頃之以芝爲御史中丞綜爲尚書郎魯芝將出呼參軍辛敞欲與俱去敞毗之子也其姊憲英爲太常羊耽妻敞與之謀曰天子在外太傅閉城門人云將不利國家於事可得爾乎憲英曰以吾度之太傅此舉不過以誅曹爽耳敞曰然則事就乎憲英曰得無殆就爽之才非太傅之偶也敞曰然則敞可以無出乎憲英曰安可以不出職守人之大義也凡人在難猶或卹之爲人執鞭而棄其事不祥莫大焉且爲人任爲人死親昵之職也從衆而已敞遂出事定之後敞歎曰吾不謀於姊幾不獲於義先是爽辟王沈及太山羊祜沈勸祜應命祜曰委質事人復何容易沈遂行及爽敗沈以故吏免乃謂祜曰吾不忘卿前語祜曰此非始慮所及也爽從弟文叔妻夏侯令女早寡而無子其父文寧欲嫁之令女刀截兩耳以自誓居常依爽爽誅其家上書絕昏強迎以歸復將嫁之令女竊入寢室引刀自斷其鼻其家驚惋謂之曰人生世間如輕塵棲弱草耳何至自苦乃爾且夫家夷滅已盡守此欲誰爲哉令女曰吾聞仁者不以盛衰改節義者不以存亡易心曹氏前盛之時尙欲保終況今衰亡何忍棄之此禽獸之行吾豈爲乎司馬懿聞而賢之聽使乞子字養爲曹氏後何晏等方用事自以爲一時才傑人莫能及晏嘗爲名士品目曰唯深也故能通天下之志夏侯泰初是也唯幾也故能成天下之務司馬子元是也

唯神也不疾而速不行而至吾聞其語未見其人蓋欲以神況諸己也選部郎劉陶曄之子也少有口辯鄧颺之徒稱之以爲伊呂陶嘗謂傅玄曰仲尼不聖何以知之智者於羣愚如弄一丸於掌中而不能得天下何以爲聖玄不復難但語之曰天下之變無常也今見卿窮及曹爽敗陶退居里舍乃謝其言之過管輅之舅謂輅曰爾前何以知何鄧之敗輅曰鄧之行步筋不束骨脉不制肉起立傾倚若無手足此爲鬼躁何之視候則覓不守宅血不華色精爽煙浮容若槁木此爲鬼幽二者皆非退福之象也何晏性自喜粉白不去手行步顧影尤好老莊之書與夏侯玄荀粲及山陽王弼之徒競爲清談祖尙虛無謂六經爲聖人糟粕由是天下士大夫爭慕效之遂成風流不可復制焉粲或之子也○丙午大赦○丁未以太傅懿爲丞相加九錫懿固辭不受○初右將軍夏侯霸爲曹爽所厚以其父淵死於蜀常切齒有報仇之志爲討蜀護軍屯於隴西統屬征西征西將軍夏侯玄霸之從子爽之外弟也爽既誅司馬懿召玄詣京師以雍州刺史郭淮代之霸素與淮不叶以爲禍必相及大懼遂奔漢漢主謂曰卿父自遇害於行間耳非我先人之手刃也遇之甚厚姜維問於霸曰司馬懿既得彼政當復有征伐之志不霸曰彼方營立家門未遑外事有鍾士季者其人雖少若管朝政吳蜀之憂也士季者鍾繇之子尙書郎會也○三月吳左大司馬朱然卒然長不盈七尺氣候分明內行脩潔終日欽欽若在戰場臨急膽定過絕於人雖世無事每朝夕嚴鼓兵在營者咸行裝就隊以此玩敵使不知所備故出輒有功然寢疾增篤吳主晝爲減膳夜爲不寐中使醫藥口食之物相望於道然每遣使表疾病消息吳主輒召見口自問訊入賜酒食出賜布帛及卒吳主爲之哀慟○夏四月乙丑改元○曹爽之在伊南也昌陵景侯蔣濟與之書言太傅之旨不過免官而已爽誅濟進封都鄉侯上疏固辭不許濟病其言之失遂發病丙子卒○秋漢衛將軍姜維寇雍州依麴山築二城使牙門將句安李歆等守之聚

羌胡質任侵逼諸郡。征西將軍郭淮與雍州刺史陳泰禦之。泰曰：「麴城雖固，去蜀險遠，當須運糧。羌夷患維勞役，必不肯附。今圍而取之，可不血刃而拔其城。雖其有救，山道阻險，非行兵之地也。」淮乃使泰率討蜀護軍徐質、南安太守鄧艾進兵圍麴城，斷其運道。及城外流水安等挑戰不許，將士困窘，分糧聚雪，以引日月。維引兵救之，出自牛頭山，與泰相對。泰曰：「兵法貴在不戰而屈人，今絕牛頭，維無反道，則我之禽也。」敕諸軍各堅壘，勿與戰。遣使自淮使淮趣牛頭，截其還路。淮從之，進軍洮水。維懼遁走，安等孤絕，遂降。淮因西擊諸羌，鄧艾曰：「賊去未遠，或能復還，宜分諸軍以備不虞。」於是留艾屯白水北，三日。維遣其將廖化自白水南向艾結營。艾謂諸將：「維今卒還，吾軍人少，法當來渡，而不作橋，此維使化持吾令，不得還。維必自東襲取洮城。洮城在水北，去艾屯六十里。」艾即夜潛軍徑到維果來渡，而艾先至據城，得以不敗。漢軍遂還。○兖州刺史令狐愚司空王凌之甥也，屯於平阿。甥舅並典重兵，專淮南之任，凌與愚陰謀，以帝闇弱，制於彊臣，聞楚王彪有智勇，欲共立之，迎都許昌。九月，愚遣其將張式至白馬，與彪相聞，凌又遣舍人勞精詣洛陽，語其子廣。廣曰：「凡舉大事，應本人情，曹爽以驕奢失民，何平叔虛華不治，丁舉桓鄧雖並有宿望，皆專競於世，加變易朝典，政令數改，所存雖高，而事不下接，民習於舊，衆莫之從，故雖勢傾四海，聲震天下，同日斬戮，名士滅半，而百姓安之，莫之或哀，失民故也。今司馬懿情雖難量，事未有逆，而擢用賢能，廣樹勝己，脩先朝之政令，副衆心之所求，爽之所以為惡者，彼莫不必改。夙夜匪懈，以恤民為先，父子兄弟並握兵要，未易亡也。凌不從。」○冬十一月，令狐愚復遣張式詣楚王，未還，會愚病卒。○十二月辛卯，即拜王凌為太尉。庚子，以司隸校尉孫資為司空。○光祿大夫徐邈卒。邈以清節著名，盧欽嘗著書稱邈曰：「徐公志高行潔，才博氣猛，其施之也高，而不狷，潔而不介，博而守約，猛而能寬，聖人以清為難，而徐公之所易也。或問欽：徐公當武帝之時，人以為通，自

為涼州刺史，及還京師，人以為介，何也？欽答曰：「往者毛孝先、崔季珪用事，貴清素之士，于時皆變易車服，以求名高，而徐公不改其常，故人以為通。比來天下奢靡，轉相倣效，而徐公雅尚自若，不與俗同，故前日之通，乃今日之介也。是世人之無常，而徐公之有常也。」欽毓之子也。二年夏五月，以征西將軍郭淮為車騎將軍。○初，會稽潘夫人有寵於吳主，生少子亮。吳主愛之，全公主既與太子和有隙，欲豫自結，數稱亮美，以其夫之兄子尚女妻之。吳主以魯王霸結朋黨，以害其兄，心亦惡之，謂侍中孫峻曰：「子弟不睦，臣下分部，將有袁氏之敗，為天下笑。若使一人立者，安得不亂乎？」遂有廢和立亮之意。然猶沈吟者歷年。峻靜之，曾孫也。秋，吳主遂幽太子和，驃騎將軍朱據諫曰：「太子國之本根，加以雅性仁孝，天下歸心。昔晉獻用驪姬，而申生不存；漢武信江充，而戾太子冤死。臣竊懼太子不堪其憂，雖立思子之宮，無所復及矣。」吳主不聽。據與尚書僕射屈晃率諸將吏泥頭自縛，連日詣闕請和。吳主登白爵觀，見甚惡之，敕據晃等無事，忽無難督陳正。五營督陳象各上書切諫，據晃亦固諫不已。吳主大怒，族誅正象。牽據晃入殿，據晃猶口諫，叩頭流血，辭氣不撓。吳主杖之各一百。左遷據為新都郡丞，晃斥歸田里。羣司坐諫誅放者以十數。遂廢太子和為庶人，徙故鄣，賜魯王霸死。殺楊竺，流其尸於江，又誅全寄、吳安、孫奇，皆以其黨。霸譖和故也。初，楊竺少獲聲名，而陸遜謂之終敗，勸竺兄穆令與之別族。及竺敗，穆以數諫戒竺得免死。朱據未至官，中書令孫弘以詔書追賜死。○冬十月，廬江太守文欽僞叛，以誘吳偏將軍朱異，欲使異自將兵迎己。異知其詐，表吳主以為欽不可迎。吳主曰：「方今北土未一，欽欲歸命，宜且迎之。若嫌其有譎者，但當設計網以羅之，盛重兵以防之耳。」乃遣偏將軍呂據督二萬人與異并力。至北界，欽果不降。異桓之子據範之子也。○十一月，大和景侯孫禮卒。○吳主立子亮為太子。○吳主遣軍十萬作堂邑塗塘，以淹北道。○十二月甲辰，東海定王霖卒。○征南將軍王昶上言：「孫權

流放良臣。適庶分爭。可乘釁擊吳。朝廷從之。遣新城太守南陽州泰。襲巫秭歸。荆州刺史王基。向夷陵。昶向江陵。引竹緹為橋。渡水擊之。吳大將施績。夜遁入江陵。昶欲引致平地與戰。乃先遣五軍。案大道發還。使吳望見而喜。又以所獲鎧馬甲首。環城以怒之。設伏兵以待之。績果來追。昶與戰。大破之。斬其將鍾離茂。許旻。○漢姜維復寇西平。不克。

三年春正月。王基州泰擊吳兵。皆破之。降者數千口。○二月。以尚書令司馬孚為司空。○夏四月甲申。以王昶為征南大將軍。○壬辰。大赦。太尉王凌聞吳人塞涂水。欲因此發兵。大嚴諸軍。表求討賊。詔報不聽。凌遣將軍楊弘。以廢立事告兖州刺史黃華。華弘連名。以白司馬懿。懿將中軍乘水道討凌。先下赦。赦凌罪。又為書諭凌。已而大軍掩至百尺。凌自知執窮。乃乘船單出迎懿。遣掾王或謝罪。送印綬節鉞。懿軍到丘頭。凌面縛水次。懿承詔遣主簿解其縛。凌既蒙赦。加特舊好。不復自疑。徑乘小船欲趨懿。懿使人逆止之。住船淮中。相去十餘丈。凌知見外。乃遙謂懿曰。卿直以折簡召我。我當敢不至邪。而乃引軍來乎。懿曰。以卿非肯逐折簡者故也。凌曰。卿負我。懿曰。我寧負卿。不負國家。遂遣步騎六百送凌。西詣京師。凌試索棺釘。以觀懿意。懿命給之。五月甲寅。凌行到項。遂飲藥死。懿進至壽春。張式等皆自首。懿窮治其事。諸相連者。悉夷三族。發凌冢。剖棺暴尸於所近市三日。燒其印綬章服。親土埋之。初令狐愚為白衣時。常有高志。眾人謂愚必與令狐氏。族父弘農太守邵。獨以為愚性倜儻。不脩德而願大。必滅我宗。愚聞之。心甚不平。及邵為虎賁中郎將。而愚仕進已多。所更歷所在。有名稱。愚從容謂邵曰。先時聞大人謂愚為不繼。今竟云何邪。邵熟視而不答。私謂妻子曰。公治性度猶如故也。以吾觀之。終當敗滅。但不知我久當坐之。不邪。將逮汝曹耳。邵沒後十餘年。而愚族滅。愚在兖州。辟山陽單固為別駕。與治中楊康並為愚腹心。及愚卒。康應司徒辟。至洛陽。露愚陰事。愚由是敗。懿至壽春。見單固。問曰。令狐反乎。曰。無有。楊康白事。事與固

連。遂收捕固及家屬。皆繫廷尉。考實數十。固固云。無有。懿錄楊康與固對。相詰固辭窮。乃罵康曰。老傭。既負使君。又滅我族。顧汝當活邪。康初自冀封侯。後以辭頗參錯。亦并斬之。臨刑俱出獄。固又罵康曰。老奴。汝死自分耳。若令死者有知。汝何面目以行地下乎。詔以揚州刺史諸葛誕為鎮東將軍。都督揚州諸軍事。○吳主立潘夫人為皇后。大赦。改元太元。○六月。賜楚王彪死。盡錄諸王公置鄴。使有司察之。不得與人交關。○秋七月壬戌。皇后甄氏殂。○辛未。以司馬孚為太尉。○八月戊寅。舞陽宣文侯司馬懿卒。詔以其子衛將軍師為撫軍大將軍。錄尚書事。○初南匈奴。自謂其先本漢室之甥。因冒姓劉氏。太祖留單于呼厨泉於鄴。分其眾為五部。居并州境內。左賢王豹。單于於扶羅之子也。為左部帥。部族最彊。城陽太守鄧艾上言。單于在內。羌夷失統。合散無主。今單于之尊日疏。而外土之威日重。則胡虜不可不深備也。聞劉豹部有叛胡。可因叛。割為二國。以分其勢。去卑功顯前朝。而子不繼業。宜加其子顯號。使居鴈門。離國弱寇。追錄舊勳。此御邊長計也。又陳羌胡與民同處者。宜以漸出之。使居民表。以崇廉恥之教。塞姦宄之路。司馬師皆從之。○吳立節中郎將陸抗屯柴桑。詣建業治病。病差。當還。吳主涕泣與別。謂曰。吾前聽用讒言。與汝父大義不篤。以此負汝。前後所問。一焚滅之。莫令人見也。是時。吳主頗寤。太子和之無罪。冬十一月。吳主祀南郊。還得風疾。欲召和還。全公主及侍中孫峻。中書令孫弘。固爭之。乃止。吳主以太子亮幼少。議所付託。孫峻薦大將軍諸葛恪可付大事。吳主嫌恪剛狠自用。峻曰。當今朝臣之才。無及恪者。乃召恪於武昌。恪將行。上大將軍呂岱戒之曰。世方多難。子每事必十思。恪曰。昔季文子三思而後行。夫子曰。再思可矣。今君令恪十思。明恪之劣也。岱無以答。時咸謂之失言。

虞喜論曰。夫託以天下至重也。以人臣行主威至難也。兼二至而管萬機。能勝之者鮮矣。呂侯國之元者。志度經遠。甫以十思戒之。而便以示劣見。拒此元遜之疏。機神不俱者也。

若因十思之義廣諮當世之務聞善速於雷動從諫急於風移豈得隕身殿堂死於凶豎之刃世人奇其英辯造次可觀而晒呂侯無對為陋不思安危終始之慮是樂春藻之繁華忘秋實之甘口也昔魏人伐蜀蜀人禦之精嚴垂發而費禕方與來敏對某意無厭倦敏以為必能辦賊言其明略內定貌無憂色也況長寧以為君子臨事而懼好謀而成蜀為叢爾之國而方向大敵所規所圖唯守與戰何可矜己有餘晏然無戚斯乃禕性之寬簡不防細微卒為降人郭循所害豈非兆見於彼而禍成於此哉往聞長寧之甄文偉今觀元遜之逆呂侯二事體同皆足以為世鑒也

恪至建業見吳主於臥內受詔牀下以大將軍領太子太傅孫弘領少傅詔有司諸事一統於恪惟殺生大事然後以聞為制羣官百司拜揖之儀各有品序又以會稽太守北海滕胤為太常胤吳主婿也○十二月以光祿勳榮陽鄭冲為司空○漢費禕還成都望氣者云都邑無宰相位乃復北屯漢壽○是歲漢尚書令呂乂卒以侍中陳祗守尚書令四年春正月癸卯以司馬師為大將軍○吳主立故太子和為南陽王使居長沙仲姬子奮為齊王居武昌王夫人子休為琅邪王居虎林○二月立皇后張氏大赦后故涼州刺史既之孫東莞太守緝之女也召緝拜光祿大夫○吳改元神鳳大赦○吳潘后性剛戾吳主疾病后使人問孫弘以呂后稱制故事左右不勝其虐伺其昏睡縊殺之託言中惡後事泄坐死者六七八人吳主病困召諸葛恪孫弘滕胤及將軍呂據侍中孫峻入臥內屬以後事夏四月吳主殂孫弘素與諸葛恪不平懼為恪所治祕不發喪欲矯詔誅恪孫峻以告恪恪請弘咨事於坐中殺之乃發喪諡吳主曰大皇帝太子亮即位大赦改元建興閏月以諸葛恪為太傅滕胤為衛將軍呂岱為大司馬恪乃命罷視聽息校官原逋責除關稅崇恩澤衆莫不悅恪每出入百姓延頸思見其狀恪不欲諸王處濱江兵馬之地乃徙齊王奮於豫章琅邪

王休於丹陽奮不肯徙恪為賤以遺奮曰帝王之尊與天同位是以家天下臣父兄仇讎有善不得不舉親戚有惡不得不誅所以承天理物先國後家蓋聖人立制百代不易之道也昔漢初興多王子弟至於太彊輒為不軌上則幾危社稷下則骨肉相殘其後懲戒以為大諱自光武以來諸王有制惟得自娛於宮內不得臨民干與政事其與交通皆有重禁遂以全安各保福祚此則前世得失之驗也大行皇帝覽古戒今防牙遏萌慮於千載是以寢疾之日分遣諸王各早就國詔策勤渠科禁嚴峻其所戒救無所不至誠欲上安宗廟下全諸王各早就國承無凶國害家之悔也大王宜上惟太伯順父之志中念河間獻王東海王彊恭順之節下存前世驕恣荒亂之王以為警戒而聞頃至武昌以來多違詔敕不拘制度擅發諸將兵治護宮室又左右常從有罪過者當以表聞公付有司而擅私殺事不明自中書楊融親受詔敕所當恭肅乃云正自不聽禁當如我何聞此之日小大驚怪莫不寒心里語曰明鑑所以照形古事所以知今大王宜深以魯王為戒改易其行戰戰兢兢盡禮朝廷如此則無求不得若棄忘先帝法教懷輕慢之心臣下寧負大王不敢負先帝遺詔寧為大王所怨疾豈敢忘尊主之威而令詔敕不行於藩臣邪向使魯王早納忠直之言懷驚懼之慮則享祚無窮豈有滅亡之禍哉夫良藥苦口唯病者能甘之忠言逆耳唯達者能受之今者恪等懷懷欲為大王除危殆於萌芽廣福慶之基原是以不自知言至願蒙三思王得賤懼遂移南昌○初吳大帝築東興隄以遏巢湖其後入寇淮南敗以內船遂廢不復治冬十月太傅恪會衆於東興更作大隄左右結山俠築兩城各留千人使將軍全端守西城都尉留略守東城引軍而還鎮東將軍諸葛誕言於大將軍師曰今因吳內侵使文舒逼江陵仲恭向武昌以羈吳之上流然後簡精卒攻其兩城比救至可大獲也是時征南大將軍王昶征東將軍胡遵鎮南將軍母丘儉等各獻征吳之計朝廷以三征計異詔問尚書傅嘏嘏對曰議

者。或欲汎舟徑濟。橫行江表。或欲四道竝進。攻其城壘。或欲大佃疆場。觀釁而動。誠皆取賊之常計也。然自治兵以來。出入三載。非掩襲之軍也。賊之爲寇。幾六十年矣。君臣相保。吉凶共患。又喪其元帥。上下憂危。設令列船津要。堅城據險。橫行之計。其殆難捷。今邊壤之守。與賊相遠。賊設羅落。又特重密。間諜不行。耳目無聞。夫軍無耳目。校察未詳。而舉大眾以臨巨險。此爲希幸。微功先戰。而後求勝。非全軍之長策也。唯有進軍大佃。最差完牢。可詔昶遵等。擇地居險。審所錯置。及令三方一時前守。奪其肥壤。使還壻土。一也。兵出民表。寇鈔不犯。二也。招懷近路。降附日至。三也。羅落遠設。間構不來。四也。賊退其守。羅落必淺。佃作易立。五也。坐食積穀。士不運輸。六也。釁隙時聞。討襲速決。七也。凡此七者。軍事之急務也。不據則賊擅便資據之。則利歸於國。不可不察也。夫屯壘相逼。形勢已交。智勇得陳。巧拙得用。策之而知得失之計。角之而知有餘不足。虜之情僞。將焉所逃。夫以小敵大。則役煩力竭。以貧敵富。則斂重財匱。故曰。敵逸能勞之。飽能饑之。此之謂也。司馬師不從。十一月。詔王昶等三道擊吳。十二月。王昶攻南郡。母丘儉向武昌。胡遵諸葛誕率衆七萬攻東興。甲寅。吳太傅恪將兵四萬。晨夜兼行。救東興。胡遵等救諸軍。作浮橋以度。陳於堤上。分兵攻兩城。城在高峻。不可卒拔。諸葛恪使冠軍將軍丁奉與呂據留贊。唐咨爲前部。從山西上。奉謂諸將曰。今諸軍行緩。若賊據便地。則難以爭鋒。我請趨之。乃辟諸軍。使下道。奉自率麾下三千人徑進。時北風。奉舉帆。二日。卽至東關。遂據徐塘。時天雪寒。胡遵等方置酒高會。奉見其前部兵少。謂其下曰。取封侯爵賞。正在今日。乃使兵皆解鎧。去矛戟。但兜鍪刀楯。俛身緣塙。魏人望見。大笑之。不卽嚴兵。吳兵得上。便鼓譟。斫破魏前屯。呂據等繼至。魏軍驚擾散走。爭渡浮橋。橋壞絕。自投於水。更相蹈藉。前部督韓綜。樂安太守桓嘉等皆沒。死者數萬。綜故吳叛將。數爲吳害。吳大帝常切齒恨之。諸葛恪命送其首。以白大帝廟。獲車乘牛馬騾驢各以千數。資器山積。振旅

而歸。○初。漢姜維寇西平。獲中郎將郭循。漢人以爲左將軍。循欲刺漢主。不得親近。每因上壽。且拜且前。爲左右所遏。事輒不果。

資治通鑑卷第七十五

魏紀 邵陵厲公中嘉平四年

資治通鑑卷第七十六

魏紀八

邵陵厲公下

嘉平五年春正月朔蜀大將軍費禕與諸將大會於漢壽郭備在坐禕歡飲沈醉備起刺禕殺之禕資性汎愛不疑於人越嶲太守張嶷嘗以書戒之曰昔岑彭率師來歙杖節咸見害於刺客今明將軍位尊權重待信新附太過宜鑒前事少以爲警禕不從故及禍詔追封郭備爲長樂鄉侯使其子襲爵○王昶母丘儉聞東軍敗各燒屯走朝議欲貶黜諸將大將軍師曰我不聽公休以至於此此我過也諸將何罪悉宥之師弟安東將軍昭時爲監軍唯削昭爵而已以諸葛誕爲鎮南將軍都督豫州母丘儉爲鎮東將軍都督揚州是歲雍州刺史陳泰求救并州并力討胡師從之未集而新興厲門二郡胡以遠役遂驚反師又謝朝士曰此我過也非陳雍州之責是以人皆愧悅

習鑿齒論曰司馬大將軍引二敗以爲己過過消而業隆可謂智矣若乃諱敗推過歸咎萬物常執其功而隱其喪上下離心賢愚解體謬之甚矣君人者苟統斯理以御國行失而名揚兵挫而戰勝雖百敗可也況於再乎

光祿大夫張緝言於師曰恪雖克捷見誅不久師曰何故緝曰威震其主功蓋一國求不死得乎○二月吳軍還自東興進封太傅恪陽都侯加荆揚州牧督中外諸軍事恪遂有輕敵之心復欲出軍諸大臣以爲數出罷勞同辭諫恪恪不聽中散大夫蔣延固爭恪命扶出因

著論以諭衆曰凡敵國欲相吞即仇讎欲相除也有讎而長之禍不在己則在後人不可不爲遠慮也昔秦但得關西耳尚以并吞六國今以魏比古之秦土地數倍以吳與蜀比古六國不能半也然今所以能敵之者但以操時兵衆於今適盡而後生者未及長大正是賊衰少未盛之時加司馬懿先誅王凌續自隕斃其子幼弱而專彼大任雖有智計之士未得施用當今伐之是其厄會聖人急於趨時誠謂今日若順衆人之情懷偷安之計以爲長江之險可以傳世不論魏之終始而以今日遂輕其後此吾所以長歎息者也今聞衆人或以百姓尙貧欲務閑息此不知慮其大危而愛其小勤者也昔漢祖幸已自有三秦之地何不閉關守險以自娛樂空出攻楚身被創痍介胄生蟣蝨將士厭困苦豈甘鋒刃而忘安寧哉慮於長久不得兩存者耳每鑒荆邯說公孫述以進取之圖近見家叔父表陳與賊爭競之計未嘗不喟然歎息也夙夜反側所慮如此故聊疏愚言以達一二君子之末若一朝隕沒志畫不立貴令來世知我所憂可思於後耳衆人雖皆心以爲不可然莫敢復難丹陽太守聶友素與恪善以書諫恪曰大行皇帝本有遏東關之計計未施行寇遠自送將士憑賴威德出身用命一旦有非常之功豈非宗廟神靈社稷之福邪宜且案兵養銳觀釁而動今乘此勢欲復大出天時未可而苟任盛意私心以爲不安恪題論後爲書答友曰足下雖有自然之理然未見大數熟省此論可以開悟矣滕胤謂恪曰君受伊霍之託入安本朝出摧疆敵名聲振於海內天下莫不震動萬姓之心冀得蒙君而息今猥以勞役之後與師出征民疲力屈遠主有備若攻城不克野略無獲是喪前勞而招後責也不如案甲息師觀隙而動且兵者大事事以衆濟衆苟不悅君獨安之恪曰諸云不可皆不見計算懷居苟安者也而子復以爲然吾何望乎夫以曹芳闇劣而政在私門彼之民臣固有離心今吾因國家之資藉戰勝之威則何往而不克哉三月恪大發州郡二十萬衆復入寇以滕胤爲都下督掌統留

事。○夏四月大赦。○漢姜維自以練西方風俗兼負其才武欲誘諸羌胡以爲羽翼謂自隴以西可斷而有每欲興軍大舉費禕常裁制不從與其兵不過萬人曰吾等不如丞相亦已遠矣丞相猶不能定中夏況吾等乎不如且保國治民謹守社稷如其功業以俟能者無爲希冀微待決成敗於一舉若不如志悔之無及及禕死維得行其志乃將數萬人出石營圍狄道○吳諸葛恪入寇淮南驅略民人諸將或謂恪曰今引軍深入疆場之民必相率遠遁恐兵勞而功少不如止圍新城新城困救必至至而圖之乃可大獲恪從其計五月還軍圍新城詔太尉司馬孚督軍二十萬往赴之大將軍師問於虞松曰今東西有事二方皆急而諸將意沮若之何松曰昔周亞夫堅壁昌邑而吳楚自敗事有似弱而彊不可不察也今恪悉其銳衆足以肆暴而坐守新城欲以致一戰耳若攻城不拔請戰不可帥老衆疲勢將自走諸將之不徑進乃公之利也姜維有重兵而縣軍應恪投食我麥非深根之寇也且謂我并力於東西方必虛是以徑進今若使關中諸軍倍道急赴出其不意殆將走矣師曰善乃使郭淮陳泰悉關中之衆解狄道之圍救母丘儉案兵自守以新城委吳陳泰進至洛門姜維糧盡退還揚州牙門將涿郡張特守新城吳人攻之連月城中兵合三千人疾病戰死者過半而恪起土山急攻城將陷不可護特乃謂吳人曰今我無心復戰也然魏法被攻過百日而救不至者雖降家不坐自受敵以來已九十餘日矣此城中本有四千餘人戰死者已過半城雖陷尚有半人不欲降我當還爲相語條別善惡明日早送名且以我印綬去爲信乃投其印綬與之吳人聽其辭而不取印綬特乃投夜徹諸屋材柵補其缺爲二重明日謂吳人曰我但有鬪死耳吳人大怒進攻之不能拔會大暑吳士疲勞飲水泄下流腫病者太半死傷塗地諸營吏日白病者多恪以爲詐欲斬之自是莫敢言恪內惟失計而恥城不下忿形于色將軍朱異以軍事迂恪恪立奪其兵斥還建業都尉蔡林數陳軍計恪不能用策馬

來韓諸將伺知吳兵已疲乃進救兵秋七月恪引軍去士卒傷病流曳道路或頓仆坑塹或見略獲存亡哀痛大小嗟呼而恪晏然自若出住江渚一月圖起田於潯陽詔召相銜徐乃旋師由是衆庶失望怨譟興矣汝南太守鄧艾言於司馬師曰孫權已沒大臣未附吳名宗大族皆有部曲阻兵仗義足以違命諸葛恪新秉國政而內無其主不念撫恤上下以立根基競於外事虐用其民悉國之衆頓於堅城死者萬數載禍而歸此恪獲罪之日也昔子胥吳起商鞅樂毅皆見任時君主沒猶敗況恪才非四賢而不慮大患其亡可待也八月吳軍還建業諸葛恪陳兵導從歸入府館即召中書令孫嘿厲聲謂曰卿等何敢數妄作詔嘿懼懼辭出因病還家恪征行之後曹所奏署令長職司一更罷選愈治威嚴多所罪責當進見者無不竦息又改易宿衛用其親近復救兵嚴欲向青徐孫峻因民之多怨衆之所嫌構恪於吳主云欲爲變冬十月孫峻與吳主謀置酒請恪恪將入之夜精爽擾動通夕不寐又家數有妖怪恪疑之且日駐車宮門峻已伏兵於帷中恐恪不時入事泄乃自出見恪曰使君若尊體不安自可須後峻當具白主上欲以嘗知恪意恪曰當自力入散騎常侍張約朱恩等密書與恪曰今日張設非常疑有他故恪以書示滕胤胤勸恪還恪曰兒輩何能爲正恐因酒食中人耳恪入劍履上殿進謝還坐設酒恪疑未飲孫峻曰使君病未善平有常服藥酒可取之恪意乃安別飲所齎酒數行吳主還內峻起如廁解長衣著短服出曰有詔收諸葛恪恪驚起拔劍未得而峻刀交下張約從旁斫峻裁傷左手峻應手斫約斷右臂武衛之士皆趨上殿峻曰所取者恪也今已死悉令復刃乃除地更飲恪二子竦建聞難載其母欲來犇峻使人追殺之以葦席裹恪尸篋束置投之石子岡又遣無難督施寬就將軍施績孫壹軍殺恪弟奮威將軍融於公安及其三子恪外甥都鄉侯張震常侍朱恩皆夷三族臨淮臧均表乞收葬恪曰震雷電激不崇一朝大風衝發希有極日然猶繼之以雲雨因以潤物是則

天地之威不可經日浹辰帝王之怒不宜訖情盡意臣以狂愚不知忌諱敢冒破滅之罪以邀風雨之會伏念故太傅諸葛恪罪積惡盈自致夷滅父子三首梟市積日觀者數萬晉聲成風國之大刑無所不震長老孩幼無不畢見人情之於品物樂極則哀生見恪貴盛世莫與貳身處台輔中間歷年今之誅夷無異禽獸觀訖情反能不憮然且已死之人與土壤同域鑿掘斫刺無所復加願聖朝稽則乾坤怒不極旬使其鄉邑若故吏民收以士伍之服惠以三寸之棺昔項籍受殮葬之施韓信獲收斂之恩斯則漢高發神明之譽也惟陛下敦三皇之仁垂哀矜之心使國澤加於辜戮之骸復受不已之恩於以揚聲遐方沮勸天下豈不大哉昔爨布矯命彭越臣竊恨之不先請主上而專名以肆情其得不誅實為幸耳今臣不敢章宣愚情以露天恩謹伏手書冒昧陳聞乞聖明哀察於是吳主及孫峻聽故吏斂葬初恪少有盛名大帝深器重之而恪父瑾常以為戚曰非保家之主也父友奮威將軍張承亦以為恪必敗諸葛氏陸遜嘗謂恪曰在我前者吾必奉之同升在我下者則扶接之今觀君氣陵其上意蔑乎下非安德之基也漢侍中諸葛瞻亮之子也恪再攻淮南越嶠太守張嶷與瞻書曰東主初崩帝實幼弱太傅受寄託之重亦何容易親有周公之才猶有管蔡流言之變霍光受任亦有燕蓋上官逆亂之謀賴成昭之明以免斯難耳昔每聞東主殺生賞罰不任下人又今以垂沒之命卒召太傅屬以後事誠實可慮加吳楚剽急乃昔所記而太傅離少主履敵庭恐非良計長算也雖云東家綱紀肅然上下輯睦百有一失非明者之慮也取古則今今則古也自非郎君進忠言於太傅誰復有盡言者邪旋軍廣農務行德惠數年之中東西竝舉實為不晚願深探察恪果以此敗吳羣臣共議上奏推孫峻為太尉滕胤為司徒有媚峻者言曰萬機宜在公族若承嗣為亞公聲名素重衆心所附不可量也乃表峻為丞相大將軍督中外諸軍事又不置御史大夫由是士人失望滕胤女為恪子竦妻胤

以此辭位孫峻曰孫禹罪不相及滕侯何為峻與胤雖內不沾洽而外相苞容進胤爵高密侯共事如前齊王奮聞諸葛恪誅下住蕪湖欲至建業觀變傅相謝慈等諫奮殺之坐廢為庶人徙章安南陽王和妃張氏諸葛恪之甥也先是恪有遷都之意使治武昌宮民間或言恪欲迎和立之及恪被誅丞相峻因此奪和璽綬徙新都又遣使者追賜死初和妾何氏生子皓諸姬子德謙俊和將死與張妃別妃曰吉凶當相隨終不獨生亦自殺何姬曰若皆從死誰當字孤遂撫育皓及其三弟皆賴以獲全

高貴鄉公上

正元元年春二月殺中書令李豐初豐年十七八已有清名海內翕然稱之其父太僕恢不願其然敕使閉門斷客曹爽專政司馬懿稱疾不出豐為尚書僕射依違二公間故不與爽同誅豐子韜以選尚齊長公主司馬師秉政以豐為中書令是時太常夏侯玄有天下重名以曹爽親不得在執任居常怏怏張緝以後父去郡家居亦不得意豐皆與之親善師雖擢用豐豐私心常在玄豐在中書二歲帝數召豐與語不知所說師知其議已請豐相見以詰豐豐不以實告師怒以刀鑲築殺之送尸付廷尉遂收豐子韜及夏侯玄張緝等皆下廷尉鍾毓案治云豐與黃門監蘇鑠永寧署令樂敦允從僕射劉賢等謀曰拜貴人日諸營兵皆屯門陛下臨軒因此同奉陛下將羣僚人兵就誅大將軍陛下儻不從人便當劫將去耳又云謀以玄為大將軍緝為車騎將軍玄緝皆知其謀庚戌誅韜玄緝鑠敦賢皆夷三族夏侯霸之入蜀也邀玄欲與之俱玄不從及司馬懿薨中領軍高陽許允謂玄曰無復憂矣玄歎曰士宗卿何不見事乎此人猶能以通家年少遇我子元子上不吾容也及下獄玄不肯下辭鍾毓自臨治之玄正色責毓曰吾當何罪卿為令史責人也卿便為吾作毓以玄名士節

高不可屈。而獄當竟。夜為作辭。令與事相附。流涕以示玄。玄視領之而已。及就東市。顏色不變。舉動自若。李豐弟翼為兖州刺史。司馬師遣使收之。翼妻荀氏謂翼曰。中書事發。可及詔書未至赴吳。何為坐取死亡。左右可同赴水火者為誰。翼思未答。妻曰。君在大州。不知可與同死者。雖去亦不免。翼曰。二兒小。吾不去。今但從坐身死耳。二兒必免。乃止死。初李恢與尚書僕射杜畿及東安太守郭智善。智子冲有內實。而無外觀。州里弗稱也。冲嘗與李豐俱見畿。既退。畿歎曰。孝懿無子。非徒無子。殆將無家。君謀為不死也。其子足繼其業。時人皆以畿為誤。及豐死。冲為代郡太守。卒繼父業。正始中。夏侯玄。何晏。鄧颺。俱有盛名。欲交尚書郎傅嘏。嘏不受。嘏友人荀粲。怪而問之。嘏曰。太初志大。其量能合虛聲。而無實才。何平叔言遠而情近。好辯而無誠。所謂利口覆邦國之人也。鄧玄茂。有為而無終。外要名利。內無關鑰。貴同惡異。多言而妬前。多言多釁。妬前無親。以吾觀此三人者。皆將敗家。遠之猶恐禍及。況昵之乎。嘏又與李豐不善。謂同志曰。豐飾偽而多疑。矜小智而昧於權利。若任機事。其死必矣。○辛亥。大赦。○三月。廢皇后張氏。夏四月。立皇后王氏。奉車都尉夔之女也。○狄道長李簡。密書請降於漢。六月。姜維寇隴西。○中領軍許允。素與李豐。夏侯玄善。秋。允為鎮北將軍。假節。都督河北諸軍事。帝以允當出。詔會羣臣。帝特引允。以自近。允當與帝別。涕泣歎。允未發。有司奏。允前放散官物。收付廷尉。徙樂浪。未至。道死。○吳孫峻。驕於淫暴。國人側目。司馬桓慮謀殺峻。立太子登之子吳侯英。不克皆死。○帝以李豐之死。意殊不平。安東將軍。司馬昭。鎮許昌。詔召之。使擊姜維。九月。昭領兵入見。帝幸平樂觀。以臨軍。過。左右勸帝。因昭辭殺之。勒兵以退。大將軍。已書詔於前。帝懼不敢發。昭引兵入城。大將軍。乃謀廢帝。甲戌。師以皇太后令。召羣臣會議。以帝荒淫無度。褻近倡優。不可以承天緒。羣臣皆莫敢違。乃奏收帝璽綬。歸藩于齊。使郭芝入白太后。太后方與帝對坐。芝謂帝曰。大將軍欲廢陛下。立彭城。

王據。帝乃起去。太后不悅。芝曰。太后有子不能教。今大將軍意已成。又勒兵于外。以備非常。但當順旨。將復何言。太后曰。我欲見大將軍。口有所說。芝曰。何可見邪。但當速取璽綬。太后意折。乃遣傍侍御。取璽綬。著坐側。芝出報師。師甚喜。又遣使者授帝齊王印綬。出就西宮。帝與太后垂涕而別。遂乘王車。從太極殿南出。羣臣送者數十人。司馬孚。悲不自勝。餘多流涕。師又使使者請璽綬於太后。太后曰。彭城王。我之季叔也。今來立。我當何之。且明皇帝。當永絕嗣乎。高貴鄉公。文帝之長孫。明皇帝之弟子。於禮。小宗有後。大宗之義。其詳議之。丁丑。師更召羣臣。以太后令示之。乃定迎高貴鄉公。髦於元城。髦者。東海定王霖之子也。時年十四。使太常王肅持節迎之。師又使請璽綬。太后曰。我見高貴鄉公。小時識之。我自欲以璽綬手授之。冬十月己丑。高貴鄉公至玄武館。羣臣奏請舍前殿。公以先帝舊處。避止西廂。羣臣又請以法駕迎。公不聽。庚寅。公入于洛陽。羣臣迎拜。西掖門南。公下輿答拜。僕者請曰。儀不拜。公曰。吾入臣也。遂答拜。至止車門。下輿。左右曰。舊乘輿入。公曰。吾被皇太后徵。未知所為。遂步。至太極東堂。見太后。其日。即皇帝位於太極前殿。百僚陪位者。皆欣欣焉。大赦。改元。為齊王。築宮于河內。○漢姜維。自狄道進。拔河間臨洮。將軍徐質與戰。殺其盪寇將軍張嶷。漢兵乃還。○初揚州刺史文欽。驍果絕人。曹爽以其鄉里。故愛之。欽恃爽執多。所陵傲及爽。誅。又好增虜級。以邀功賞。司馬師常抑之。由是怨望。鎮東將軍母丘儉。素與夏侯玄。李豐善。玄等死。儉亦不自安。乃以計厚待欽。儉子治書侍御史甸。謂儉曰。大人。居方嶽重任。國家傾覆。而晏然自守。將受四海之責矣。儉然之。二年春正月。儉。矯太后詔。起兵於壽春。移檄州郡。以討司馬師。乃表言。相國懿。忠正有大勳於社稷。宜宥及後世。請廢師。以侯就第。以弟昭代之。太尉孚。忠孝小心。護軍望。忠公親事。皆宜親寵。授以要任。望孚之子也。儉又遣使。邀鎮南將軍諸葛誕。誕斬其使。儉將五六萬。

衆渡淮。西至項。儉堅守。使欽在外爲游兵。司馬師問計於河南尹王肅。肅曰：昔關羽虜于禁於漢濱。有北向爭天下之志。後孫權襲取其將士家屬。羽士衆一旦瓦解。今淮南將士父母妻子皆在內州。但急往禦衛。使不得前。必有關羽士崩之勢矣。時師新割目瘤。創甚。或以爲大將軍不宜自行。不如遣太尉孚拒之。唯王肅與尚書傅嘏中書侍郎鍾會勸師自行。師疑未決。嘏曰：淮楚兵勁。而儉等負力遠鬪。其鋒未易當也。若諸將戰有利鈍。大勢一失。則公事敗矣。師蹶然起曰：我請與疾而東。戊午。師率中外諸軍以討儉。欽以弟昭兼中領軍。留鎮洛陽。召三方兵。會于陳許。師問計於光祿勳鄭袤。袤曰：母丘儉好謀而不達事情。文欽勇而無算。今大軍出其不意。江淮之卒。銳而不能固。宜深溝高壘。以挫其氣。此亞夫之長策也。師稱善。師以荊州刺史王基爲行監軍。假節統許昌軍。基言於師曰：淮南之逆。非吏民思亂也。儉等誑誘迫脅。畏目下之戮。是以尙屯聚耳。若大兵一臨。必土崩瓦解。儉欽之首。不終朝而致於軍門矣。師從之。以基爲前軍。既而復敕基停駐。基以爲儉等舉軍足以深入。而久不進者。是其詐僞已露。衆心疑沮也。今不張示威形。以副民望。而停軍高壘。有似畏懦。非用兵之執也。若儉欽虜略民人以自益。又州郡兵家爲賊所得者。更懷離心。儉等所迫脅者。自顧罪重。不敢復還。此爲錯兵無用之地。而成姦宄之源。吳寇因之。則淮南非國家之有。譙沛汝豫。危而不安。此計之大失也。軍宜速進。據南頓。南頓有大邸閣。計足軍人四十日糧。保堅城。因積穀。先人有奪人之心。此平賊之要也。基屢請。乃聽。進據灑水。閏月甲申。師次于灑橋。儉將史招李續相次來降。王基復言於師曰：兵聞拙速。未覩爲巧之久也。方今外有彊寇。內有叛臣。若不時決。則事之深淺。未可測也。議者多言將軍持重。將軍持重是也。停軍不進。非也。持重非不行之謂也。進而不可犯耳。今保壁壘。以積實資虜。而遠運軍糧。甚非計也。師猶未許。基曰：將在軍。君令有所不受。彼得亦利。我得亦利。是謂爭地。南頓是也。遂輒進。據南頓。儉等從

項亦欲往爭。發十餘里。聞基先到。乃復還。保項。○癸未。征西將軍郭淮卒。以雍州刺史陳泰代之。○吳丞相峻率驃騎將軍呂據。左將軍會稽留贊襲壽春。司馬師命諸軍皆深壁高壘。以待東軍之集。諸將請進軍攻項。師曰：諸軍知其一。未知其二。淮南將士本無反志。儉說誘與之舉事。謂遠近必應。而事起之日。淮北不從。史招李續前後瓦解。內乖外叛。自知必敗。困獸思鬪。速戰更合其志。雖云必克。傷人亦多。且儉等欺誑將士。詭變萬端。小與持久。詐情自露。此不戰而克之術也。乃遣諸葛誕督豫州諸軍。自安風向壽春。征東將軍胡遵督青徐諸軍。出譙宋之間。絕其歸路。師屯汝陽。母丘儉進不得鬪。退恐壽春見襲。計窮不知所爲。淮南將士家皆在北。衆心沮散。降者相屬。惟淮南新附農民爲之用。儉之初起。遣建步騭書至兖州。兖州刺史鄧艾斬之。將兵萬餘人兼道前進。先趨樂嘉城。作浮橋以待師。儉使文欽將兵襲之。師自汝陽潛兵就艾於樂嘉。欽猝見大軍。驚愕未知所爲。欽子鴛年十八。勇力絕人。謂欽曰：及其未定。擊之可破也。於是分爲二隊。夜夾攻軍。鴛帥壯士先至鼓譟。軍中震擾。師驚駭。所病目突出。恐衆知之。齧被皆破。欽失期不應。會明。鴛見兵盛。乃引還。師謂諸將曰：賊走矣。可追之。諸將曰：欽父子驍猛。未有所屈。何苦而走。師曰：夫一鼓作氣。再而衰。三鼓而竭。其執已屈。不待何待。欽將引而東。鴛曰：不先折其執。不得去也。乃與驍騎十餘。摧鋒陷陳。所向皆披靡。遂引去。師使左長史司馬班率驍騎八千翼而追之。鴛以匹馬入數千騎中。輒殺傷百餘人。乃出。如此者六七。追騎莫敢逼。殿中人尹大目小爲曹氏家奴。常在天子左右。師將與俱行。大目知師一目已出。啓云：文欽本是明公腹心。但爲人所誤耳。又天子鄉里。素與大目相信。乞爲公追解語之。令還與公復好。師許之。大目單身乘大馬被鎧。貫追欽。遙相與語。大目心實欲爲曹氏謬言。君侯何苦不可復忍。數日中也。欲使欽解其言。欽殊不悟。乃更厲聲罵大目曰：汝先帝家人。不念報恩。反與司馬師作逆。不顧上天。天不祐汝。張弓

傳矢欲射大目大目涕泣曰世事敗矣善自努力是日母丘儉聞欽退恐懼夜走衆遂大潰欽還至項以孤軍無繼不能自立欲還壽春壽春已潰遂奔吳吳孫峻至東興聞儉等敗壬寅進至橐臯文欽父子詣軍降母丘儉走北至慎縣左右人兵稍棄儉去儉藏水邊草中甲辰安風津民張屬就殺儉傳首京師封屬爲侯諸葛誕至壽春壽春城中十餘萬口懼誅或流迸山澤或散走入吳詔以誕爲鎮東大將軍儀同三司都督揚州諸軍事夷母丘儉三族儉黨七百餘人繫獄侍御史杜友治之惟誅首事者十餘人餘皆奏免之儉孫女適劉氏當死以孕繫廷尉司隸主簿程咸議曰女適人者若已產育則成他家之母於防不足以懲姦亂之源於情則傷孝子之恩男不遇罪於他族而女獨嬰戮於二門非所以哀矜女弱均法制之大分也臣以爲在室之女可從父母之刑既醮之婦使從夫家之戮朝廷從之仍著於律令○舞陽忠武侯司馬師疾篤還許昌留中郎將參軍事賈充監諸軍事充達之子也衛將軍昭自洛陽往省師師令昭總統諸軍辛亥師卒于許昌中書侍郎鍾會從師典知密事會中詔敕尙書傅嘏以東南新定權留衛將軍昭屯許昌爲內外之援令嘏率諸軍還會與嘏謀使嘏表上輒與昭俱發還到洛水南屯住二月丁巳詔以司馬昭爲大將軍錄尙書事會由是常有自矜之色嘏戒之曰子志大其量而勳業難爲也可不慎哉○吳孫峻聞諸葛誕已據壽春乃引兵還以文欽爲都護鎮北大將軍幽州牧○三月立皇后卞氏大赦后武宣皇后弟秉之曾孫女也○秋七月吳將軍孫儀張怡林恂謀殺孫峻不克死者數十人全公主譖朱公主於峻曰與儀同謀峻遂殺朱公主峻使衛尉馮朝城廣陵功費甚衆舉朝莫敢言唯滕胤諫止之峻不從功卒不成○漢姜維復議出軍征西大將軍張翼廷爭以爲國小民勞不宜驩武維不聽率車騎將軍夏侯霸及翼同進八月維將數萬人至枹罕趨狄道征西將軍陳泰救雍州刺史王經進屯狄道須泰軍到東西合執乃進泰軍陳倉經所統諸軍於

故關與漢人戰不利經輒渡洮水泰以經不堅據狄道必有他變率諸軍以繼之經已與維戰於洮西大敗以萬餘人還保狄道城餘皆奔散死者萬計張翼謂維曰可以止矣不宜復進或毀此大功爲蛇畫足維大怒遂進圍狄道辛未詔長水校尉鄧艾行安西將軍與陳泰并力拒維戊辰復以太尉孚爲後繼泰進軍隴西諸將皆曰王經新敗賊衆大盛將軍以烏合之衆繼敗軍之後當乘勝之鋒殆必不可古人有言蝮蛇螫手壯士解腕孫子曰兵有所不擊地有所不守蓋小有所失而大有所全故也不如據險自保觀釁待敵然後進救此計之得者也泰曰姜維提輕兵深入正欲與我爭鋒原野求一戰之利王經當高壁深壘挫其銳氣今乃與戰使賊得計經既破走維若以戰克之威進兵東向據櫟陽積穀之實放兵收降招納羌胡東守關隴傳檄四郡此我之所惡也而乃以乘勝之兵挫峻城之下銳氣之卒屈力致命攻守執殊客主不同兵書曰脩櫓轡輜三月乃成拒堙三月而後已誠非輕軍遠入之利也今維孤軍遠僑糧穀不繼是我速進破賊之時所謂疾雷不及掩耳自然之執也洮水帶其表維等在其內今乘高據執臨其項領不戰必走寇不可縱圍不可久君等何言如是遂進軍度高城嶺潛行夜至狄道東南高山上多舉烽火鳴鼓角狄道城中將士見救至皆憤踊維不意救兵卒至緣山急來攻之泰與交戰維退泰引兵揚言欲向其還路維懼九月甲辰維遁走城中將士乃得出王經歎曰糧不至旬向非救兵速至舉城屠裂覆喪一州矣泰慰勞將士前後遣還更差軍守并治城壘還屯上邽泰每以一方有事輒以虛聲擾動天下故希簡上事驛書不過六百里大將軍昭曰陳征西沈勇能斷荷方伯之重救將陷之城而不求益兵又希簡上事必能辨賊者也都督大將不當爾邪姜維退駐鍾提○初吳大帝不立太廟以武烈嘗爲長沙太守立廟於臨湘使太守奉祠而已冬十月始作太廟於建業尊大帝爲太祖

資治通鑑卷第七十六

資治通鑑卷第七十七

魏紀九

高貴鄉公下

甘露元年春正月漢姜維進位大將軍○二月丙辰帝宴羣臣於太極東堂與諸儒論夏少
 康漢高祖優劣以少康為優○夏四月賜大將軍昭裊之服赤舄副焉○丙辰帝幸太學
 與諸儒論書易及禮諸儒莫能及帝嘗與中護軍司馬望侍中王沈散騎常侍裴秀黃門侍
 郎鍾會等講宴於東堂并屬文論特加禮異謂秀為儒林丈人沈為文籍先生帝性急請召
 欲速以望職在外特給追鋒車虎賁五人每有集會輒犇馳而至秀潛之子也○六月丙午
 改元○姜維在鍾提議者多以為維力已竭未能更出安西將軍鄧艾曰洮西之敗非小失
 也士卒彫殘倉廩空虛百姓流離今以策言之彼有乘勝之執我有虛弱之實一也彼上下
 相習五兵犀利我將易兵新器仗未復二也彼以船行吾以陸軍勞逸不同三也狄道隴西
 南安祁山各當有守彼專為一我分為四四也從南安隴西因食羌穀若趣祁山熟麥千頃
 為之外倉賊有黠計其來必矣秋七月姜維復率衆出祁山聞鄧艾已有備乃回從董亭趣
 南安艾據武城山以拒之維與艾爭險不克其夜渡渭東行緣山趣上邽艾與戰於段谷大
 破之以艾為鎮西將軍都督隴右諸軍事維與其鎮西大將軍胡濟期會上邽濟失期不至
 故敗士卒星散死者甚衆蜀人由是怨維維上書謝求自貶黜乃以衛將軍行大將軍事○
 八月庚午詔司馬昭加號大都督奏事不名假黃鉞癸酉以太尉司馬孚為太傅○九月以

魏紀 高貴鄉公下甘露元年

司徒高柔爲太尉。○文欽說吳人，以伐魏之利，孫峻使欽與驃騎將軍呂據及車騎將軍劉纂鎮南將軍朱異，前將軍唐咨，自江都入淮泗，以圖青徐。峻餞之於石頭，遇暴疾，以後事付從父弟偏將軍繇。丁亥，峻卒。吳人以繇爲侍中、武衛將軍，都督中外諸軍事。召呂據等還。○己丑，吳大司馬呂岱卒。年九十六。始岱親近吳郡徐原，慷慨有才志。岱知其可成，賜巾襦，與共言論。後遂薦拔，官至侍御史。原性忠壯，好直言。岱時有得失，原輒諫爭。又公論之，人或以告岱。岱歎曰：「是我所以貴德淵者也。」及原死，岱哭之甚哀。曰：「徐德淵，呂岱之益友。今不幸，岱復於何聞過，談者美之。」○呂據聞孫繇代孫峻輔政，大怒，與諸督將連名，共表薦滕胤爲丞相。繇更以胤爲大司馬，代呂岱。駐武昌。據引兵還，使人報胤，欲共廢繇。冬十月，繇遣從兄憲將兵逆據於江都，使中使敕文欽、劉纂、唐咨等共擊取據。又遣侍中左將軍華融、中書丞丁晏告諭胤，宜速去意。胤自以禍及，因留融、晏，勒兵自衛。召典軍楊崇、將軍孫咨，告以繇爲亂，迫融等使有書難繇。繇不聽，表言胤反，許將軍劉丞以封爵，使率兵騎攻圍胤。胤又劫融等，使詐爲詔發兵。融等不從，皆殺之。或勸胤引兵至蒼龍門，將士見公出，必委繇就公。時夜已半，胤恃與據期，又難舉兵向宮，乃約令部曲說呂侯兵已在近道，故皆爲胤盡死。無離散者。胤顏色不變，談笑如常。時大風比曉，據不至。繇兵大會，遂殺胤。及將士數十人。夷胤三族。己酉，大赦。改元太平。或勸呂據犇魏者。據曰：「吾恥爲叛臣，遂自殺。」○以司空鄭冲爲司徒。左僕射盧毓爲司空。毓固讓驃騎將軍王昶。光祿大夫王觀司隸校尉琅邪王祥。詔不許。祥性至孝。繼母朱氏遇之無道。祥愈恭謹。朱氏子覽年數歲，每見祥被楚撻，輒涕泣抱持母。母以非理使祥，覽輒與祥俱往。及長，娶妻，母虐使祥妻，覽妻亦趨而共之。母患之，爲之少止。祥漸有時譽。母深疾之，密使酖祥。覽知之，徑起取酒，祥爭而不與。母遽奪反之。自後，母賜祥饌，覽輒先嘗。母懼覽致斃，遂止。漢末遭亂，祥隱居三十餘年，不應州郡之命。母終，毀瘁杖而後起。徐

州刺史呂虔，檄爲別駕，委以州事。州界清靜，政化大行。時人歌之曰：「海沂之康，實賴王祥。邦國不空，別駕之功。」○十一月，吳孫繇遷大將軍，繇負貴倨傲，多行無禮。峻從弟憲嘗與誅諸葛恪，峻厚遇之。官至右將軍。無難督平九官事。繇遇憲薄，於峻時，憲怒，與將軍王惇謀殺繇。事泄，繇殺惇，憲服藥死。

二年春三月，大梁成侯盧毓卒。○夏四月，吳主臨正殿，大赦。始親政事。孫繇表奏，多見難問，又科兵子弟十八已下，十五以上，三千餘人。選大將子弟，年少有勇力者，使將之。日於苑中教習。曰：「吾立此軍，欲與之俱長。」又數出中書視大帝時舊事。問左右侍臣曰：「先帝數有特制，今大將軍問事，但令我書可邪？」嘗食生梅，使黃門至中藏取蜜，蜜中有鼠矢，召問藏吏。藏吏叩頭。吳主曰：「黃門從爾求蜜邪？」吏曰：「向求，實不敢與。」黃門不服。吳主令破鼠矢，矢中燥，因大笑。謂左右曰：「若矢先在蜜中，中外當俱濕。今外濕裏燥，此必黃門所爲也。」詰之，果服。左右莫不驚悚。○征東大將軍諸葛誕，素與夏侯玄、鄧颺等友善。玄等死，王凌、母丘儉相繼誅滅。誕內不自安，乃傾帑藏振施，曲赦有罪，以收衆心。畜養揚州輕俠數千人，以爲死士。因吳人欲向徐場，請十萬衆，以守壽春。又求臨淮築城，以備吳寇。司馬昭初秉政，長史賈充請遣參佐慰勞。四征且觀其志。昭遣充至淮南，充見誕，論說時事。因曰：「洛中諸賢皆願禪代，君以爲如何？」誕厲聲曰：「卿非賈豫州子乎？世受魏恩，豈可欲以社稷輸人乎？若洛中有難，吾當死之。充默然。還言於昭曰：「諸葛誕再在揚州，得士衆心。今召之，必不來。然反疾而禍小，不召則反遲而禍大。不如召之。」昭從之。甲子，詔以誕爲司空，召赴京師。誕得詔書，愈恐，疑揚州刺史樂綝間已遂殺繇。斂淮南及淮北郡縣屯田口十餘萬官兵，揚州新附勝兵者四五萬人。聚穀足一年食。爲閉門自守之計。遣長史吳綱將少子觀至吳，稱臣請救。并請以牙門子弟爲質。○吳滕胤、呂據之妻，皆夏口督孫壹之妹也。六月，孫繇使鎮南將軍朱異自虎林將兵襲壹。異

至武昌。壹將部曲來犇。乙巳。詔拜壹車騎將軍。交州牧。封吳侯。開府辟召。儀同三司。袁晁亦
易。事從豐厚。○司馬昭奉帝及太后。討諸葛誕。吳綱至吳。吳人大喜。使將軍全。端。唐咨。
王祚。將三萬衆。與文欽同救誕。以誕爲左都護。假節大司徒。驃騎將軍。青州牧。封壽春侯。憚。
琮之子。端。其從子也。六月。甲子。車駕次項。司馬昭督諸軍二十六萬。進屯丘頭。以鎮南將軍
王基。行鎮東將軍。都督揚豫諸軍事。與安東將軍陳騫等。圍壽春。基始至。圍城未合。文欽全
憚等。從城東北。因山乘險。得將其衆突入城。昭救基。斂軍堅壁。基累求進討。會吳朱異。率三
萬人。進屯安豐。爲文欽外執。詔基引諸軍。轉據北山。基謂諸將曰。今圍壘轉固。兵馬向集。但
當精修守備。以待越逸。而更移兵守險。使得放縱。雖有智者。不能善其後矣。遂守便宜。上疏
曰。今與賊家對敵。當不動如山。若遷移依險。人心搖蕩。於執大損。諸軍竝據深溝高壘。衆心
皆定。不可傾動。此御兵之要也。書奏。報聽。於是基等四面合圍。表裏再重。壘甚峻。文欽等
數出犯圍。逆擊走之。司馬昭又使奮武將軍監青州諸軍事石苞。督兗州刺史州泰。徐州刺
史胡質。簡銳卒爲游軍。以備外寇。泰擊破朱異於陽淵。異走。泰追之。殺傷二千人。秋。七月。吳
大將軍。綝。大發兵。出屯錢里。復遣朱異。帥將軍丁奉。黎斐等五人。前解壽春之圍。異留輜重
於都陸。進屯黎漿。石苞。州泰。又擊破之。太山太守胡烈。以奇兵五千。襲都陸。盡焚異資糧。異
將餘兵。食葛葉。走歸孫綝。綝使異更死戰。異以士卒乏食。不從。綝命。綝怒。九月。己巳。綝斬異
於錢里。辛未。引兵還建業。綝既不能拔。出諸葛誕。而喪敗士衆。自戮名將。由是。吳人莫不怨
之。司馬昭曰。異不得至壽春。而吳人殺之。非其罪也。欲以謝壽春。而堅誕意。使其猶望救耳。
今當堅圍。備其越逸。而多方以誤之。乃縱反間。揚言。吳救方至。大軍乏食。分遣羸疾。就穀淮
北。執不能久。誕等益寬恣食。俄而城中乏糧。外救不至。將軍蔣班。焦彝。皆誕腹心謀主也。言
於誕曰。朱異等。以大衆來。而不能進。孫綝殺異。而歸江東。外以發兵爲名。內實坐須成敗。今

宜及衆心尙固。士卒思用。并力決死。攻其一面。雖不能盡克。猶有可全者。空坐守死。無爲也。
文欽曰。公今舉十餘萬之衆。歸命於吳。而欽與全。端等。皆同居死地。父兄弟。盡在江表。就
孫綝不欲來。主上及其親戚。豈肯聽乎。且中國無歲無事。軍民竝疲。今守我一年。內變將起。
奈何舍此。欲乘危徼倖乎。班彝固勸之。欽怒。誕欲殺班彝二人。懼。十一月。奔誕。踰城來降。全
憚。兄子輝。儀。在建業。與其家內爭訟。攜其母。將部曲數十家來奔。於是憚與兄子靖。及全
弟翽。皆將兵。在壽春城中。司馬昭用黃門侍郎鍾會策。密爲輝。儀。作書。使輝。儀。所親信。齎
入城。告憚等。說吳中怒憚等。不能拔。壽春。欲盡誅諸將家。故逃來歸命。十二月。憚等。帥其衆
數千人。開門出降。城中震懼。不知所爲。詔拜憚。平東將軍。封臨湘侯。端等。封拜各有差。○漢
姜維聞魏分關中兵。以赴淮南。欲乘虛向秦川。率數萬人。出略谷。至沈嶺。時長城積穀甚多。
而守兵少。征西將軍都督雍涼諸軍事。司馬望。及安西將軍鄧艾。進兵據之。以拒維。維壁於
芒水。數挑戰。望艾不應。是時維數出兵。蜀人愁苦。中散大夫譙周。作仇國論。以諷之。曰。或問
往古能以弱勝彊者。其術如何。曰。吾聞之處大無患者。常多慢。處小有憂者。常思善。多慢則
生亂。思善則生治。理之常也。故周文養民。以少取多。句踐卹衆。以弱斃彊。此其術也。或曰。曩
者。項彊漢弱。相與戰爭。項羽與漢。約分鴻溝。各歸息民。張良以爲民志已定。則難動也。率兵
追羽。終斃項氏。豈必由文王之事乎。曰。當商周之際。王侯世尊。君臣久固。民習所專。深根者
難拔。據固者難遷。當此之時。雖漢祖安能杖劍鞭馬。而取天下乎。及秦罷侯置守之後。民疲
秦役。天下土崩。或歲易主。或月易公。鳥驚獸駭。莫知所從。於是豪彊竝爭。虎裂狼分。疾搏者
獲多。遲後者見吞。今我與彼。皆傳國易世矣。既非秦末鼎沸之時。實有六國竝據之執。故可
爲文王。難爲漢祖。夫民之疲勞。則騷擾之兆生。上慢下暴。則瓦解之形起。諺曰。射幸數跌。不
如審發。是故智者。不爲小利移目。不爲意似改步。時可而後動。數合而後舉。故湯武之師。不

再戰而克。誠重民勞，而度時審也。如遂極武黷征，土崩執生，不幸遇難，雖有智者，將不能謀之矣。

三年春正月，文欽謂諸葛誕曰：「蔣班、焦彝，謂我不能出而走，全端、全懌，又率衆逆降，此敵無備之時也。可以戰矣。」誕及唐咨等皆以爲然。遂大爲攻具，晝夜五六日，攻南圍，欲決圍而出。圍上諸軍臨高發石車、火箭，逆燒破其攻具，矢石雨下，死傷蔽地，血流盈壚，復還城。城內食轉竭，出降者數萬口。欽欲盡出北方人省食，與吳人堅守，誕不聽。由是爭恨。欽素與誕有隙，徒以計合，事急愈相疑。欽見誕計事，誕遂殺欽。欽子鴛、虎將兵在小城中，聞欽死，勒兵赴之。衆不爲用，遂單走踰城，出自歸於司馬昭。軍吏請誅之，昭曰：「欽之罪不容誅，其子固應就戮，然鴛、虎以窮歸命，且城未拔，殺之是堅其心也。乃赦鴛、虎，使將數百騎巡城，呼曰：『文欽之子，猶不見殺，其餘何懼？』又表鴛、虎皆爲將軍，賜爵關內侯，城內皆喜。且日益飢困，司馬昭身自臨圍，見城上持弓者不發，曰：『可攻矣。』乃四面進軍，同時鼓譟登城。二月乙酉，克之。誕窘急，單馬將其麾下突小城欲出，司馬胡奮部兵擊斬之。夷其三族。誕麾下數百人皆拱手爲列，不降。每斬一人輒降之，卒不變。以至於盡。吳將于詮曰：『大丈夫受命其主，以兵救人，既不能克，又束手於敵，吾弗取也。』乃免胄冒陳而死。唐咨、王祚等皆降。吳兵萬衆，器仗山積，司馬昭初圍壽春，王基、石苞等皆欲急攻之。昭以爲壽春城固而衆多，攻之必力屈。若有外寇表裏受敵，此危道也。今三叛相聚於孤城之中，天其或者使同就戮，吾當以全策糜之。但堅守三面，若吳賊陸道而來，軍糧必少。吾以游兵輕騎，絕其轉輸，可不戰而破也。吳賊破，欽等必成禽矣。乃命諸軍案甲而守之，卒不煩攻而破。議者又以爲淮南仍爲叛逆，吳兵室家在江南，不可縱，宜悉坑之。昭曰：「古之用兵，全國爲上，戮其元惡而已。吳兵就得亡還，適可以示中國之大度耳。一無所殺，分布三河近郡以安處之，拜唐咨安遠將軍，其餘裨將咸假位號，衆皆悅。」

服其淮南將士吏民爲誕所脅略者皆赦之。聽文鴛兄弟收斂父喪，給其車牛，致葬舊墓。昭遺王基書曰：「初議者云云，求移者甚衆，時未臨履，亦謂宜然。將軍深算利害，獨秉固志，上違詔命，下拒衆議，終至制敵禽賊，雖古人所述，不是過也。昭欲遣諸軍輕兵深入，招迎唐咨等子弟，因釁有滅吳之執。王基諫曰：『昔諸葛恪乘東關之勝，竭江表之兵，以圍新城，城既不拔，而衆死者大半。姜維因洮西之利，輕兵深入，糧餉不繼，軍覆上邽，夫大捷之後，上下輕敵，輕敵則慮難不深。今賊新敗於外，又內患未弭，是其修備設慮之時也。且兵出踰年，人有歸志，今俘馘十萬，罪人斯得，自歷代征伐，未有全兵獨克，如今之盛者也。』武皇帝克袁紹於官渡，自以所獲已多，不復追尋，懼挫威也。昭乃止。以基爲征東將軍，都督揚州諸軍事，進封東武侯，習鑿齒曰：『君子謂司馬大將軍於是役也，可謂能以德攻矣。夫建業者異道，各有所尚，而不能兼并也。故窮武之雄，斃于不仁，存義之國，喪於懦退。今一征而禽三叛，大虜吳衆，席卷淮浦，俘馘十萬，可謂壯矣。而未及安坐，賞王基之功，種惠吳人，結異類之情，寵鴛、葬欽，忘疇昔之隙，不咎誕衆，使揚土懷愧，功高而人樂其成，業廣而敵懷其德，武昭既敷，文算又洽，推是道也，天下其孰能當之哉？」

司馬昭之克壽春，鍾會謀畫居多。昭親待日隆，委以腹心之任。時人比之子房。○漢姜維聞諸葛誕死，復還成都，復拜大將軍。○夏五月，詔以司馬昭爲相國，封晉公，食邑八郡，加九錫。昭前後九讓，乃止。○秋七月，吳主封故齊王奮爲章安侯。○八月，以驃騎將軍王昶爲司空。○詔以關內侯王祥爲三老，鄭小同爲五更，帝率羣臣詣太學，行養老乞言之禮。小同、玄之孫也。○吳孫綝以吳主親覽政事，多所難問，甚懼，返自錢里，遂稱疾不朝。使弟威遠將軍據入倉龍門宿衛，武衛將軍恩、偏將軍幹、長水校尉闔分屯諸營，欲以自固。吳主惡之，乃推朱公主死意，全公主懼曰：「我實不知，皆朱據二子熊損所白。」是時熊爲虎林督，損爲外部督，吳主皆

殺之。損妻，卽孫峻妹也。琳諫不從，由是益懼。吳主陰與全公主及將軍劉丞謀誅琳。全后父尚爲太常衛將軍，吳主謂尚子黃門侍郎紀曰：「孫琳專執，輕小於孤，孤前勅之，使速上岸，爲唐咨等作援，而留湖中，不上岸一步，又委罪於朱異，擅殺功臣，不先表聞，築第橋南，不復朝見，此爲自在，無所復畏，不可久忍，今規取之。」卿父作中軍都督，使密嚴整士馬，孤當自出臨橋，率宿衛虎騎，左右無難，一時圍之，作版詔，敕琳所領，皆解散，不得舉手。正爾，自當得之。卿去，但當使密耳。卿宜詔卿父，勿令卿母知之。女人既不曉大事，且琳同堂姊，邂逅漏洩，誤孤非小也。紀承詔以告尚，尚無遠慮，以語紀母，母使人密語琳。九月，戊午，琳夜以兵襲尚，執之。遣弟恩，殺劉承於蒼龍門外。比明，遂圍宮。吳主大怒，上馬帶鞬，執弓欲出，曰：「孤，大皇帝適子，在位已五年，誰敢不從者？」侍中近臣及乳母共牽攀止之，不得出，歎咤不食。罵全后曰：「爾父憤憤，敗我大事，又遣呼紀，紀曰：『臣父奉詔不謹，負上，無面目復見。』因自殺。琳使光祿勳孟宗告太廟，廢吳主爲會稽王，召羣臣議曰：『少帝荒病昏亂，不可以處大位，承宗廟已告先帝，廢之。諸君若有不同者，下異議，皆震怖。』唯將軍令琳遣中書郎李崇，奪吳主璽綬，以吳主罪班告遠近。尚書桓彝不肯署名，琳怒殺之。典軍施正勸琳迎立琅邪王休，琳從之。己未，琳使宗正楷與中書郎董朝迎琅邪王於會稽，遣將軍孫耽送會稽王亮之國。亮時年十六，徙全尚於零陵，尋追殺之。遷全公主於豫章。冬十月，戊寅，琅邪王行至曲阿，有老公遮王，叩頭曰：「事久變生，天下喁喁，是日進及布塞亭，孫琳以琅邪王未至，欲入居宮中，召百官會議，皆惶怖失色，徒唯唯而已。選曹郎虞汜曰：『明公爲國伊周，處將相之任，擅廢立之威，將上安宗廟，下惠百姓，大小踴躍，自以伊霍復見，今迎王未至，而欲入宮，如是，羣下搖蕩，衆聽疑惑，非所以永終忠孝，揚名後世也。』琳不懌而止。汜翻之子也。琳命弟恩行丞相事，率百僚以乘輿法駕迎琅邪王於永昌亭。孫恩奉上璽符，王三讓乃受。羣臣以次奉引，王就乘輿，百官陪位。琳

以兵千人迎於半野，拜于道側。王下車答拜，卽日御正殿大赦。改元永安。孫琳稱艸莽臣，詣闕上書，上印綬節鉞，求避賢路。吳主引見慰諭，下詔以琳爲丞相，荊州牧，增邑五縣，以恩爲御史大夫，衛將軍，中軍督，封縣侯。孫據、幹、闓皆拜將軍，封侯。又以長水校尉張布爲輔義將軍，封永康侯。先是，丹陽太守李衡數以事侵琅邪王，其妻習氏諫之，衡不聽。琅邪王上書乞徙它郡，詔徙會稽。及琅邪王卽位，李衡憂懼，謂妻曰：「不用卿言，以至於此，吾欲奔魏，何如？」妻曰：「不可。君本庶民耳，先帝相拔過重，既數作無禮，而復逆自猜嫌，逃叛求活，以此北歸，何面目見中國人乎？」琅邪王素好善，慕名方，欲自顯於天下，終不以私嫌殺君明矣。可自囚詣獄，表列前失，顯求受罪。如此，乃當逆見優饒，非但直活而已。衡從之。吳主詔曰：「丹陽太守李衡，以往事之嫌，自拘司敗，夫射鉤斬祛，在君爲君，其遣衡還郡，勿令自疑。」又加威遠將軍，授以榮戟。己丑，吳主封故南陽王和子皓爲烏程侯。羣臣奏立皇后太子，吳主曰：「朕以寡德奉承洪業，涖事日淺，恩澤未敷，后妃之號，嗣子之位，非所急也。有司固請，吳主不許。孫琳奉牛酒詣吳主，吳主不受。齋詣左將軍張布，酒酣，出怨言曰：『初廢少主時，多勸吾自爲之者，吾以陛下賢明，故迎之，帝非我不立。今上禮見拒，是與凡臣無異。當復改圖耳。』布以告吳主，吳主銜之，恐其有變，數加賞賜。戊戌，吳主詔曰：「大將軍掌中外諸軍事，事統煩多，其加衛將軍，御史大夫，恩侍中，與大將軍分省諸事。或有告琳懷怨侮上，欲圖反者，吳主執以付琳，琳殺之。由是益懼。因孟宗求出屯武昌，吳主許之。琳盡敕所督中營精兵萬餘人，皆令裝載，又取武庫兵器，吳主咸令給與。琳求中書兩郎，典知荊州諸軍事。主者奏：『中書不應外出。』吳主特聽之。其所請求，一無違者。將軍魏逸說吳主曰：『琳居外，必有變。』武衛士施朔又告琳謀反。吳主將討琳，密問輔義將軍張布，布曰：『左將軍丁奉，雖不能吏書，而計畧過人，能斷大事。』吳主召奉告之，且問以計畫。奉曰：『丞相兄弟支黨甚盛，恐人心不同，不可卒制。可因臘會有陛兵以誅

之。吳主從之。十二月丁卯。建業中謠言。明會有變。綝聞之。不悅。夜大風發。屋揚沙。綝益懼。戊辰。臘會。綝稱疾不至。吳主彊起之。使者十餘輩。綝不得已將入。衆止焉。綝曰。國家屢有命。不可辭。可豫整兵。令府內起火。因是可得速還。遂入。尋而火起。綝求出。吳主曰。外兵自多。不足煩丞相也。綝起離席。奉布目左右縛之。綝叩頭曰。願徙交州。吳主曰。卿何不徙。滕胤呂據於交州乎。綝復曰。願沒爲官奴。吳主曰。卿何不。胤據爲奴乎。遂斬之。以綝首令其衆曰。諸與綝同謀者。皆赦之。放仗者五千人。孫闓乘船欲降北。追殺之。夷綝三族。發孫峻棺。取其印綬。斷其木而埋之。己巳。吳主以張布爲中軍督。改葬諸葛恪。滕胤呂據等。其懼恪等事遠徙者。一切召還。朝臣有乞爲諸葛恪立碑者。吳主詔曰。盛夏出軍。士卒傷損。無尺寸之功。不可謂能受託孤之任。死於豎子之手。不可謂智。遂寢。○初。漢昭烈留魏延鎮漢中。皆實兵諸圍。以禦外敵。敵若來攻。使不得入。及興勢之役。王平捍拒曹爽。皆承此制。及姜維用事。建議以爲錯守諸圍。適可禦敵。不獲大利。不若使敵至。諸圍皆斂。兵聚穀。退就漢樂二城。聽敵入平。重關頭鎮守。以捍之。令游軍旁出。以伺其虛。敵攻關不克。野無散穀。千里運糧。自然疲乏。引退之日。然後諸城竝出。與游軍并力搏之。此殄敵之術也。於是漢主令督漢中胡濟。却住漢壽。監軍王含守樂城。護軍蔣斌守漢城。

四年春正月。黃龍二見寧陵井中。先是。頓丘冠軍陽夏井中。屢有龍見。羣臣以爲吉祥。帝曰。龍者君德也。上不在天。下不在田。而數屈於井。非嘉兆也。作潛龍詩。以自諷。司馬昭見而惡之。夏六月。京陵穆侯王昶卒。○漢主封其子諶爲北地王。詢爲新興王。虔爲上黨王。尚書令陳祗以巧佞有寵於漢主。姜維雖位在祗上。而多率衆在外。希親朝政。權任不及祗。秋八月。丙子。祗卒。漢主以僕射義陽董厥爲尚書令。尚書諸葛瞻爲僕射。○冬十一月。車騎將軍孫壹爲婢所殺。○是歲。以王基爲征南將軍。都督荊州諸軍事。

元皇帝上

景元元年春正月朔。日有食之。○夏四月。詔有司。率遵前命。復進大將軍昭位相國。封晉公。加九錫。○帝見威權日去。不勝其忿。五月己丑。召侍中王沈。尚書王經。散騎常侍王業。謂曰。司馬昭之心。路人所知也。吾不能坐受廢辱。今日當與卿自出討之。王經曰。昔魯昭公不忍季氏。敗走失國。爲天下笑。今權在其門。爲日久矣。朝廷四方皆爲之致死。不顧逆順之理。非一日也。且宿衛空闕。兵甲寡弱。陛下何所資用。而一旦如此。毋乃欲除疾。而更深之邪。禍殆不測。宜見重詳。帝乃出懷中黃素詔。投地曰。行之決矣。正使死何懼。況不必死邪。於是入白太后。沈業奔走告昭。呼經欲與俱。經不從。帝遂拔劍升輦。率殿中宿衛。蒼頭官僮。鼓譟而出。昭弟屯騎校尉佃。遇帝於東止車門。左右呵之。佃衆奔走。中護軍賈充。自外入。逆與帝戰於南闕下。帝自用劍。衆欲退。騎督成倅弟太子舍人濟。問充曰。事急矣。當云何。充曰。司馬公畜養汝等。正爲今日。今日之事。無所問也。濟卽抽戈前刺帝。殞于車下。昭聞之大驚。自投於地。太傅孚奔往枕帝股。而哭甚哀。曰。殺陛下者。臣之罪也。昭入殿中。召羣臣會議。尚書左僕射陳泰不至。昭使其舅尚書荀顛召之。泰曰。世之論者。以泰方於舅。今舅不如泰也。子弟內外咸共逼之。乃入。見昭悲慟。昭亦對之泣。曰。玄伯。卿何以處我。泰曰。獨有斬賈充。少可以謝天下耳。昭久之曰。卿更思其次。泰曰。泰言惟有進於此。不知其次。昭乃不復更言。顛或之子也。太后下令。罪狀高貴鄉公。廢爲庶人。葬以民禮。收王經及其家屬。付廷尉。經謝其母。母顏色不變。笑而應曰。人誰不死。正恐不得其所。以此并命。何恨之有。及就誅。故吏向雄哭之。哀動一市。王沈以功封安平侯。庚寅。太傅孚等上言。請以王禮葬高貴鄉公。太后許之。使中護軍司馬炎。迎燕王宇之子常道鄉公璜於鄴。以爲明帝嗣。炎昭之子也。○辛卯。羣公奏太后。自今

令書皆稱詔制。○癸卯。司馬昭固讓相國晉公九錫之命。太后詔許之。○戊申。昭上言。成濟兄弟大逆不道。夷其族。○六月。癸丑。太后詔常道鄉公。更名奐。甲寅。常道鄉公入洛陽。是日。即皇帝位。年十五。大赦。改元。○丙辰。詔進司馬昭爵位。九錫如前。昭固讓。乃止。○癸亥。以尚書右僕射王觀為司空。○吳都尉嚴密。建議作浦里塘。羣臣皆以為難。唯衛將軍陳留濮陽興以為可成。遂會諸軍民就作。功費不可勝數。士卒多死亡。民大愁怨。○會稽郡謠言。王亮當還為天子。而亮宮人告亮。使巫禱祠。有惡言。有司以聞。吳主黜亮。為候官侯。遣之國。亮自殺。衛送者皆伏罪。○冬。十月。陽鄉肅侯王觀卒。○十一月。詔尊燕王。待以殊禮。○十二月。甲午。以司隸校尉王祥為司空。○尚書王沈為豫州刺史。初到。下教。敕屬城及士民曰。若有能陳長吏可否。說百姓所患者。給穀五百斛。若說刺史得失。朝政寬猛者。給穀千斛。主簿陳廙。褚碧入白曰。教旨。思聞苦言。示以勸賞。竊恐拘介之士。或憚賞而不言。貪昧之人。將慕利而妄舉。苟不合宜。賞不虛行。則遠聽者未知當否之所在。徒見言之不用。因謂設而不行。愚以為告下之事。可少須後。沈又教曰。夫興益於上。受分於下。斯乃君子之操。何不言之有。褚碧復白曰。堯舜周公。所以能致忠諫者。以其欵誠之心著也。冰炭不言。而冷熱之質自明者。以其有實也。若好忠直。如冰炭之自然。則諤諤之言。將不求而自至。若德不足以配唐虞。明不足以竝周公。實不可以同冰炭。雖懸重賞。忠諫之言。未可致也。沈乃止。

二年春。三月。襄陽太守胡烈。表言。吳將鄧由。李光等。十八屯。同謀歸化。遣使送質。任欲令郡兵。臨江迎拔。詔王基。部分諸軍。徑造沮水。以迎之。若由等如期到者。便當因此。震蕩江表。基馳驛。遣司馬昭書。說由等可疑之狀。且當清澄。未宜便舉重兵。深入應之。又曰。夷陵東西。皆險。陘竹木叢蔚。卒有要害。弩馬不陳。今者筋角濡弱。水潦方降。廢盛農之務。要難必之利。此事之危者也。姜維之趣。上邦文欽之據。壽春皆深入求利。以取覆沒。此近事之鑒戒也。嘉平

已來。累有內難。當今之宜。當務鎮安社稷。撫寧上下。力農務本。懷柔百姓。未宜動眾。以求外利也。昭累得基書。意狐疑。敕諸軍。已上道者。且權停住。所在須候節度。基復遣昭書曰。昔漢祖。納酈生之說。欲封六國。寤張良之謀。而趣銷印。基謀慮淺短。誠不及留侯。亦懼襄陽有食。其之謬。昭於是罷兵。報基書曰。凡處事者。多曲相從順。鮮能確然。共盡理實。誠感忠愛。每見規示。輒依來旨。已罷軍嚴。既而由等果不降。烈奮之弟也。○秋。八月。甲寅。復命司馬昭進爵位。如前。不受。○冬。十月。漢主以董厥為輔國大將軍。諸葛瞻為都護衛將軍。共平尚書事。以侍中樊建為尚書令。時中常侍黃皓用事。厥瞻皆不能矯正。士大夫多附之。唯建不與皓往來。祕書令郤正。久在內職。與皓比屋。周旋三十餘年。潛然自守。以書自娛。既不為皓所愛。亦不為皓所憎。故官不過六百石。而亦不懼其禍。漢主弟甘陵王永。憎皓。皓譖之。使十年不得朝見。吳主使五官中郎將薛瑒。聘于漢。及還。吳主問漢政得失。對曰。主闇而不知其過。臣下容身以求免罪。入其朝。不聞直言。經其野。民皆菜色。臣聞燕雀處堂。子母相樂。以為至安也。突決棟焚。而燕雀怡然。不知禍之將及。其是之謂乎。瑒綜之子也。○是歲。鮮卑索頭部大人拓跋力微。始遣其子沙漠汗入貢。因留為質。力微之先世居北荒。不交南夏。至可汗毛始彊大。統國三十六。大姓九十九。後五世。至可汗推寅。南遷大澤。又七世。至可汗鄰。使其兄弟七人。及族人乙旃氏。車毘氏。分統部眾。為十族。鄰老。以位授其子詰汾。使南遷。遂居匈奴故地。詰汾卒。力微立。復徙居定襄之盛樂。部眾浸盛。諸部皆畏服之。

資治通鑑卷第七十七

魏紀 元皇帝上景元二年

資治通鑑卷第七十八

魏紀十

元皇帝下

景元三年秋八月乙酉吳主立皇后朱氏朱公主之女也戊子立子璿為太子○漢大將軍姜維將出軍右車騎將軍廖化曰兵不戢必自焚伯約之謂也智不出敵而力小於寇用之無厭將何以存冬十月維入寇洮陽鄧艾與戰於侯和破之維退住沓中初維以羈旅依漢身受重任興兵累年功績不立黃皓用事於中與右大將軍閣宇親善陰欲廢維樹宇維知之言於漢主曰皓姦巧專恣將敗國家請殺之漢主曰皓趨走小臣耳往董允每切齒吾常恨之君何足介意維見皓枝附葉連懼於失言遜辭而出漢主敕皓詣維陳謝維由是自疑懼返自洮陽因求種麥沓中不敢歸成都○吳主以濮陽興為丞相廷尉丁密光祿勳孟宗為左右御史大夫初興為會稽太守吳主在會稽興遇之厚左將軍張布嘗為會稽王左右督將故吳主即位二人皆貴寵用事布典宮省興關軍國以佞巧更相表裏吳人失望吳主喜讀書欲與博士祭酒韋昭博士盛冲講論張布以昭冲切直恐其入侍言已陰過固諫止之吳主曰孤之涉學羣書略徧但欲與昭等講習舊聞亦何所損君特當恐昭等道臣下姦慝故不欲令入耳如此之事孤已自備之不須昭等然後乃解也布皇恐陳謝且言懼妨政事吳主曰王務學業其流各異不相妨也此無所為非而君以為不宜是以孤有所及耳不圖君今日在事更行此於孤也良甚不取布拜表叩頭吳主曰卿相開悟耳何至叩頭乎如君

之忠誠遠近所知吾今日之巍巍皆君之功也詩云靡不有初鮮克有終終之實難君其終之然吳主恐布疑懼卒如布意廢其講業不復使昭等入○譙郡嵇康文辭壯麗好言老莊而尚奇任俠與陳留阮籍籍兄子咸河內山濤河南向秀琅邪王戎沛國劉伶特相友善號竹林七賢皆崇尚虛無輕蔑禮法縱酒昏酣遺落世事阮籍為步兵校尉其母卒籍方與人圍碁對者求止籍留與決賭既而飲酒二斗舉聲一號吐血數升毀瘠骨立居喪飲酒無異平日司隸校尉何曾惡之面質籍於司馬昭座曰卿縱情背禮敗俗之人今忠賢執政綜核名實若卿之曹不可長也因謂昭曰公方以孝治天下而聽阮籍以重哀飲酒食肉於公座何以訓人宜擯之四裔無令污染華夏昭愛籍才常擁護之曾夔之子也阮咸素幸姑婢姑將婢去咸方對客遽借客馬追之累騎而還劉伶嗜酒常乘鹿車攜一壺酒使人荷鍤隨之曰死便埋我當時士大夫皆以為賢爭慕效之謂之放達鍾會方有寵於司馬昭聞嵇康名而造之康箕踞而鍛不為之禮會將去康曰何所聞而來何所見而去會曰聞所聞而來見所見而去遂深銜之山濤為吏部郎舉康自代康與濤書自說不堪流俗而非薄湯武昭聞而怒之康與東平呂安親善安兄巽誣安不孝康為證其不然會因譖康嘗欲助母丘儉且安康有盛名於世而言論放蕩害時亂教宜因此除之昭遂殺安及康康嘗詣隱者汲郡孫登登曰子才多識寡難乎免於今之世矣○司馬昭患姜維數為寇官騎路遺求為刺客入蜀從事中郎荀勗曰明公為天下宰宜杖正義以伐違貳而以刺客除賊非所以刑于四海也昭善之勗爽之曾孫也昭欲大舉伐漢朝世多以為不可獨司隸校尉鍾會勸之昭諭衆曰自定壽春以來息役六年治兵繕甲以擬二虜今吳地廣大而下濕攻之用功差難不如先定巴蜀三年之後因順流之執水陸並進此滅虢取虞之執也計蜀戰士九萬居守成都及備他境不下四萬然則餘衆不過五萬今絆姜維於沓中使不得東顧直指駱谷出其空

虛之地以襲漢中。以劉禪之闇而邊城外破。士女內震。其亡可知也。乃以鍾會爲鎮西將軍。都督關中。征西將軍鄧艾。以爲蜀未有覺。屢陳異議。昭使主簿師纂爲艾司馬。以諭之。艾乃奉命。○姜維表漢主。聞鍾會治兵關中。欲規進取。宜竝遣左右車騎張翼。廖化督諸軍。分護陽安關口。及陰平之橋頭。以防未然。黃皓信巫鬼。謂敵終不自致。啓漢主。寢其事。羣臣莫知。四年春正月。復命司馬昭進爵位如前。又辭不受。○吳交趾太守孫翊。貪暴。爲百姓所患。會吳主遣察戰鄧荀。至交趾。荀擅調孔奮三十頭。送建業。民憚遠役。因謀作亂。夏五月。郡吏呂興等殺。謂及荀。遣使來請太守及兵。九真日南皆應之。○詔諸軍大舉伐漢。遣征西將軍鄧艾督三萬餘人。自狄道趣甘松。杏中。以連綴姜維。雍州刺史諸葛緒督三萬餘人。自祁山趣武街橋頭。絕維歸路。鍾會統十餘萬衆。分從斜谷。駱谷。子午谷。趣漢中。以廷尉衛瓘持節監艾會軍事。行鎮西軍司。瓘。觀之子也。會過幽州刺史王雄之孫戎。問計將安出。戎曰。道家有言。爲而不恃。非成功難保之難也。或以問參相國軍事平原劉寔曰。鍾鄧其平蜀乎。寔曰。破蜀必矣。而皆不還。客問其故。寔笑而不答。秋八月。軍發洛陽。大賚將士。陳師誓衆。將軍鄧敦謂蜀未可討。司馬昭斬以狗。漢人聞魏兵且至。乃遣廖化將兵詣杏中。爲姜維繼援。張翼董厥等詣陽安關口。爲諸圍外助。大赦。改元炎興。敕諸圍皆不得戰。退保漢樂二城。城中各有兵五千人。翼厥北至陰平。聞諸葛緒將向建威。留住月餘。待之。鍾會率諸軍平行至漢中。九月。鍾會使前將軍李輔統萬人圍王含於樂城。護軍荀愷圍蔣斌於漢城。會徑過西趣陽安口。遣人祭諸葛亮墓。初。漢武興督蔣舒在事。無稱。漢朝令人代之。使助將軍傅僉守關口。舒由是恨。鍾會使護軍胡烈爲前鋒攻關口。舒詭謂僉曰。今賊至不擊。而閉城自守。非良圖也。僉曰。受命保城。惟全爲功。今違命出戰。若喪師負國。死無益矣。舒曰。子以保城獲全爲功。我以出戰克敵爲功。請各行其志。遂率其衆出。僉謂其戰也不設備。舒率其衆迎降。胡烈烈乘

虛襲城。僉格鬪而死。僉。彤之子也。鍾會聞關口已下。長驅而前。大得庫藏。積穀。鄧艾遣天水太守王頎直攻姜維營。隴西太守牽弘邀其前。金城太守楊欣趣甘松。維聞鍾會諸軍已入漢中。引兵還。欣等追躡於彊川口。大戰。維敗走。聞諸葛緒已塞道。屯橋頭。乃從孔函谷入北道。欲出緒後。緒聞之。却還三十里。維入北道三十餘里。聞緒軍却尋還。從橋頭過。緒趣截維。較一日不及。維遂還。至陰平。合集士衆。欲赴關城。聞其已破。退趣白水。遇廖化張翼董厥等。合兵守劍閣。以拒會。○安國元侯高柔卒。○冬十月。漢人告急於吳。甲申。吳主使大將軍丁奉督諸軍向壽春。將軍留平就施績於南郡。議兵所向。將軍丁封孫異如沔中。以救漢。○詔以征蜀諸將獻捷。交至。復命大將軍昭進位爵賜一如前詔。昭乃受命。昭辟任城魏舒爲相。國參軍。初。舒少時遲鈍。不爲鄉親所重。從叔父吏部郎衡有名當世。亦不知之。使守水碓。每歎曰。舒堪數百戶長。我願畢矣。舒亦不以介意。不爲皎厲之事。唯太原王父謂舒曰。卿終當爲台輔。常振其匱乏。舒受而不辭。年四十餘。郡舉上計掾。察孝廉。宗黨以舒無學業。勸令不就。可以爲高。舒曰。若試而不中。其負在我。安可虛竊不就之高。以爲己榮乎。於是自課。百日習一經。因而對策升第。累遷後將軍。鍾毓長史。毓每與參佐射。舒常爲畫籌而已。後遇朋友不足。以舒滿數。舒容範閒雅。發無不中。舉坐愕然。莫有敵者。毓歎而謝曰。吾之不足以盡卿才。有如此射矣。豈一事哉。及爲相國參軍。府朝碎務。未嘗見是非。至於廢興大事。衆人莫能斷者。舒徐爲籌之。多出衆議之表。昭深器重之。○癸卯。立皇后卞氏。昭烈將軍秉之孫也。○鄧艾進至陰平。簡選精銳。欲與諸葛緒自江油趣成都。緒以本受節度。邀姜維。西行非本詔。遂引軍向白水。與鍾會合。會欲專軍。執密白緒畏懦不進。檻車徵還。軍悉屬會。姜維列營守險。會攻之不能克。糧道險遠。軍食乏。欲引還。鄧艾上言。賊已摧折。宜遂乘之。若從陰平。由邪徑。經漢德陽亭。趣涪。出劍閣西百里。去成都三百餘里。奇兵衝其腹心。出其不意。劍閣之守必

還赴涪。則會方軌而進。劔閣之軍不還。則應涪之兵寡矣。遂自陰平。行無人之地。七百餘里。鑿山通道。造作橋閣。山谷高深。至爲艱險。又糧運將匱。瀕於危殆。艾以氈自裹。推轉而下。將士皆攀木緣崖。魚貫而進。先登至江油。蜀守將馬邈降。諸葛瞻督諸軍拒艾。至涪。停住不進。尙書郎黃崇。權之子也。屢勸瞻。宜速行據險。無令敵得入平地。瞻猶豫未納。崇再三言之。至于流涕。瞻不能從。艾遂長驅而前。擊破瞻前鋒。瞻退住縣竹。艾以書誘瞻曰。若降者。必表爲琅邪王。瞻怒。斬艾使。列陳以待艾。艾遣子惠。唐亭侯忠。出其右。司馬師纂等。出其左。忠纂戰不利。竝引還。曰。賊未可擊。艾怒曰。存亡之分。在此一舉。何不可之有。叱忠纂等將斬之。忠纂馳還更戰。大破斬瞻及黃崇。瞻子尙。歎曰。父子荷國重恩。不早斬黃皓。使敗國殄民。用生何爲。策馬冒陳而死。漢人不意魏兵卒至。不爲城守。調度。聞艾已入平土。百姓擾擾。皆避山澤。不可禁制。漢主使羣臣會議。或以蜀之與吳。本爲與國。宜可奔吳。或以爲南中七郡。阻險斗絕。易以自守。宜可奔南。光祿大夫譙周。以爲自古以來。無寄它國。爲天子者。若入吳國。亦當臣服。且治政不殊。則大能吞小。此數之自然也。由此言之。則魏能并吳。吳不能并魏。明矣。等爲稱臣。爲小孰與爲大。再辱之恥。何與一辱。且若欲奔南。則當蚤爲之計。然後可果。今大敵已近。禍敗將及。羣小之心。無一可保。恐發足之日。其變不測。何至南之有乎。或曰。今艾已不遠。恐不受降。如之何。周曰。方今東吳未賓。事執不得不受。受之不得。不禮。若陛下降魏。魏不裂土以封陛下者。周請身詣京都。以古義爭之。衆人皆從。周議漢主猶欲入南。狐疑未決。周上疏曰。南方遠夷之地。平常無所供爲。猶數反叛。自丞相亮以兵威逼之。窮乃率從。今若至南。外當拒敵。內供服御。費用張廣。他無所取。耗損諸夷。其叛必矣。漢主乃遣侍中張紹等。奉璽綬。以降於艾。北地王謀。怒曰。若理窮力屈。禍敗將及。便當父子君臣。背城一戰。同死社稷。以見先帝可也。奈何降乎。漢主不聽。是日。謀哭於昭烈之廟。先殺妻子。而後自殺。張紹等見。

鄧艾於雒。艾大喜。報書褒納。漢主遣太僕蔣顯。別敕姜維。使降鍾會。又遣尙書郎李虎。送士民簿於艾。戶二十八萬。口九十四萬。甲士十萬二千。吏四萬人。艾至成都。城北漢主率太子。諸王及羣臣六十餘人。面縛輿轎。詣軍門。艾持節解縛焚轎。延請相見。檢御將士。無得虜略。綏納降附。使復舊業。輒依鄧禹故事。承制拜漢主禪。行驃騎將軍。太子奉車。諸王駙馬都尉。漢羣司各隨高下。拜爲王官。或領艾官屬。以師纂領益州刺史。隴西太守牽弘等。領蜀中諸郡。艾聞黃皓姦險。收閉將殺之。皓賂艾左右。卒以得免。姜維等聞諸葛瞻敗。未知漢主所嚮。乃引軍東入于巴。鍾會進軍至涪。遣胡烈等追維。維至郫。得漢主敕命。乃令兵悉放仗。送節傳於胡烈。自從東道。與廖化。張翼。董厥等。同詣會降。將士咸怒。拔刀斫石。於是諸郡縣圍守。皆被漢主敕罷兵降。鍾會厚待姜維等。皆權還其印綬節蓋。○吳人聞蜀已亡。乃罷丁奉等兵。吳中書丞吳郡華覈。詣宮門上表曰。伏聞成都守不守。臣主播越。社稷傾覆。失委附之士。棄貢獻之國。臣以草芥。竊懷不寧。陛下聖仁。恩澤遠撫。卒聞如此。必垂哀悼。臣不勝忡悵之情。謹拜表以聞。魏之伐蜀也。吳人或謂襄陽張悌曰。司馬氏得政以來。大難屢作。百姓未服。今又勞力遠征。敗於不暇。何以能克。悌曰。不然。曹操雖功蓋中夏。民畏其威。而不懷其德也。丕叡承之。刑繁役重。東西驅馳。無有寧歲。司馬懿父子。累有大功。除其煩苛。而布其平惠。爲之謀主。而救其疾苦。民心歸之。亦已久矣。故淮南三叛。而腹心不擾。曹髦之死。四方不動。任賢使能。各盡其心。其本根固矣。茲計立矣。今蜀閹宦專朝。國無政令。而玩戎黷武。民勞卒敝。競於外利。不修守備。彼疆弱不同。智算亦勝。因危而伐。殆無不克。噫。彼之得志。我之憂也。吳人笑其言。至是乃服。○吳人以武陵五溪夷與蜀接界。蜀亡。懼其叛亂。乃以越騎校尉鍾離牧。領武陵太守。魏已遣漢葭縣長郭純。試守武陵太守。率涪陵民入遷陵界。屯于赤沙。誘動諸夷。進攻西陽郡。中震懼。牧問朝吏曰。西蜀傾覆。邊境見侵。何以禦之。皆對曰。今二縣山險。諸夷。

阻兵不可以軍驚擾。驚擾則諸夷盤結，宜以漸安。可遣恩信吏，宣教慰勞。牧曰：外境內侵，誑誘人民，當及其根柢未深，而撲取之。此救火貴速之執也。敕外趣嚴，撫夷將軍高尚謂牧曰：昔潘太常督兵五萬，然後討五溪夷。是時劉氏連和，諸夷率化。今既無往日之援，而郭純已據遷陵，而明府欲以三千兵深入，尙未見其利也。牧曰：非常之事，何得循舊？即帥所領晨夜進道，緣山險行，垂二千里，斬惡民懷異心者，魁帥百餘人，及其支黨凡千餘級，純等散走。五溪皆平。○十二月庚戌，以司徒鄭冲爲太保。○壬子，分益州爲梁州。○癸丑，特赦益州士民，復除租稅之半。五年，庚卯，以鄧艾爲太尉，增邑二萬戶。鍾會爲司徒，增邑萬戶。○皇太后郭氏殂。○鄧艾在成都，頗自矜伐，謂蜀士大夫諸君賴遭艾，故得有今日耳。如遇吳漢之徒，已殄滅矣。艾以書言於晉公昭曰：兵有先聲而後實者，今因平蜀之執，以乘吳，吳人震恐，席卷之時也。然大舉之後，將士疲勞，不可便用。且徐緩之，留隴右兵二萬人，蜀兵二萬人，煮鹽興冶，爲軍農要用，竝作舟船，豫爲順流之事，然後發使，告以利害，吳必歸化，可不征而定也。今宜厚劉禪，以致孫休，封禪爲扶風王，錫其資財，供其左右，郡有董卓塢，爲之宮舍，爵其子爲公侯，食郡內縣，以顯歸命之寵。開廣陵城陽，以待吳人，則畏威懷德，望風而從矣。昭使監軍衛瓘喻艾，事當須報，不宜輒行。艾重言曰：銜命征行，奉指授之策，元惡既服，至於承制拜假，以安初附，謂合權宜。今蜀舉衆歸命，地盡南海，東接吳會，宜早鎮定，若待國命，往復道途，延引日月，春秋之義，大夫出疆，有可以安社稷，利國家，專之可也。今吳未賓，執與蜀連，不可拘常，以失事機。兵法進不求名，退不避罪。艾雖無古人之節，終不自嫌，以損國家計也。鍾會內有異志，姜維知之，欲構成擾亂，乃說會曰：聞君自淮南已來，算無遺策，晉道克昌，皆君之力。今復定蜀，威德振世，民高其功，主畏其謀，欲以此安歸乎？何不法陶朱公，汎舟絕迹，全功保身邪？會曰：君言遠矣，我不能行，且爲今之道，或未盡於此也。維曰：其他則君智力之所能。

無煩於老夫矣。由是情好歡甚。出則同輦，坐則同席。會因鄧艾承制專事，乃與衛瓘密白艾有反狀。會善效人書，於劔閣要艾章表白事，皆易其言，令辭指悖傲，多自矜伐。又毀晉公昭報書，手作以疑之。

咸熙元年春正月壬辰，詔以檻車徵鄧艾。晉公昭恐艾不從命，敕鍾會進軍成都。又遣賈充將兵入斜谷，昭自將大軍從帝幸長安。以諸王公皆在鄴，乃以山濤爲行軍司馬，鎮鄴。初，鍾會以才能見任，昭夫人王氏言於昭曰：會見利忘義，好爲事端，寵過必亂，不可大任。及會將伐漢，西曹屬邵悌言於晉公曰：今遣鍾會率十餘萬衆伐蜀，愚謂會單身無任，不若使餘人行也。晉公笑曰：我寧不知此邪？蜀數爲邊寇，師老民疲，我今伐之，如指掌耳。而衆言蜀不可伐，夫人心豫怯，則智勇竝竭；智勇竝竭，而疆使之適，所以爲敵禽耳。惟鍾會與人意同，今遣會伐蜀，蜀必可滅。滅蜀之後，就如卿慮，何憂其不能辦邪？夫蜀已破亡，遺民震恐，不足與共圖事。中國將士各自思歸，不肯與同也。會若作惡，祇自滅族耳。卿不須憂此，慎勿使人聞也。及晉公將之長安，悌復曰：鍾會所統兵五六倍於鄧艾，但可敕會取艾，不須自行。晉公曰：卿忘前言邪？而云不須行乎？雖然，所言不可宣也。我要自當以信意待人，但人不當負我耳。我豈可先入人生心哉？近日賈護軍問我，頗疑鍾會不我答言。如今遣卿行，寧可復疑卿邪？賈亦無以易我語也。我到長安，則自了矣。鍾會遣衛瓘先至成都，收鄧艾，會以瓘兵少，欲令艾殺瓘，因以爲艾罪。瓘知其意，然不可得距，乃夜至成都，檄艾所統諸將稱奉詔收艾，其餘一無所問。若來赴官軍，爵賞如先，敢有不出，誅及三族。比至鷄鳴，悉來赴瓘。唯艾帳內在焉。平旦開門，瓘乘使者車徑入至艾所，艾尙臥未起，遂執艾父子置於檻車。諸將圖欲劫艾，整仗趣瑯營，瓘輕出迎之，僞作表草，將申明艾事，諸將信之而止。丙子，會至成都，送艾赴京師。會所憚惟艾父子既禽，會獨統大衆，威震西土，遂決意謀反。會欲使姜維將五萬人出斜谷。

爲前驅。會自將大衆隨其後。既至長安，令騎士從陸道，步兵從水道，順流浮渭入河，以爲五日可到。孟津與騎兵會洛陽。一旦天下可定也。會得晉公書，云：恐鄧艾或不就，徵今遣中護軍賈充將步騎萬人徑入斜谷，屯樂城。吾自將十萬屯長安，相見在近，會得書驚呼所親語之曰：但取鄧艾，相國知我獨辦之。今來大重，必覺我異矣。便當速發，事成可得天下，不成退保蜀漢，不失作劉備也。丁丑，會悉請護軍郡守牙門騎督以上，及蜀之故官，爲太后發哀於蜀朝堂。矯太后遺詔，使會起兵，廢司馬昭，皆班示坐上人，使下議訖，書版署置，更使所親信代領諸軍，所請羣官悉閉著益州諸曹屋中。城門宮門皆閉，嚴兵圍守。衛瓘詐稱疾篤，出就外廨，會信之。無所復懼。姜維欲使會盡殺北來諸將，已因殺會，盡坑魏兵，復立漢主。密書與劉禪曰：願陛下忍數日之辱，臣欲使社稷危而復安。日月幽而復明，會欲從維言，誅諸將，猶豫未決。會帳下督丘建，本屬胡烈，會愛信之。建慙烈獨坐，啓會使聽內一親兵，出取飲食，諸牙門隨例各內一人，烈給語親兵及疏與子淵曰：丘建密說消息，會已作大坑，白楮數千，欲悉呼外兵入，賜白帽，拜散將，以次楮殺。內坑中諸牙門親兵亦咸說此語。一夜轉相告，皆徧已卯。日中，胡淵率其父兵雷鼓出門，諸軍不期皆鼓譟而出，會無督促之者，而爭先赴城。惡當云何。維曰：但當擊之耳。會遣兵悉殺所閉諸牙門郡守，內人共舉机以拄門，兵斫門不能破。斯須城外倚梯登城，或燒城屋，蟻附亂進。矢下如雨。牙門郡守各緣屋出，與其軍士相得。姜維率會左右戰，手殺五六人。衆格斬維，爭前殺會。會將士死者數百人。殺漢太子璿及姜維妻子。軍衆鈔略，死喪狼籍。衛瓘部分諸將，數日乃定。鄧艾本營將士追出艾於檻車，迎還衛瓘，自以與會共陷艾，恐其爲變，乃遣護軍田續等將兵襲艾。遇於縣竹西，斬艾父子。艾之入江油也，田續不進，艾欲斬續，既而捨之，及瓘遣續謂曰：可以報江油之辱矣。鎮西長史杜

預言於衆曰：伯玉其不免乎。身爲名士，位望已高，既無德音，又不御下，以正將何以堪。其責乎。瓘聞之，不候駕而謝預。預恕之子也。鄧艾餘子在洛陽者，悉伏誅。徙其妻及孫於西城。鍾會兄毓嘗密言於晉公曰：會挾術難保，不可專任。及會反，毓已卒，晉公思鍾繇之勳，與毓之賢，特原毓子峻，迎官爵如故。會功曹向雄收葬會尸。晉公召而責之曰：往者王經之死，卿哭於東市，而我不問，鍾會躬爲叛逆，又輒收葬，若復相容，當如王法何。雄曰：昔先王掩骼埋胔，仁流朽骨，當時豈先卜其功罪，而後收葬哉。今王誅既加，於法已備，雄感義收葬，教亦無闕。法立于上，教弘于下，以此訓物，不亦可乎。何必使雄背死違生，以立于世。明公讎對枯骨，捐之中野，豈仁賢之度哉。晉公悅，與宴談而遣之。○二月丙辰，車駕還洛陽。○庚申，葬明元皇后。○初，劉禪使巴東太守襄陽羅憲將兵二千人守永安，聞成都敗，吏民驚擾，憲斬稱成都亂者一人，百姓乃定。及得禪手敕，乃帥所統臨于都亭三日。吳聞蜀敗，起兵西上，外託救援，內欲襲憲。憲曰：本朝傾覆，吳爲唇齒，不恤我難，而背盟徼利，不義甚矣。且漢已亡，吳何得久。我寧能爲吳降虜乎。保城繕甲，告誓將士，厲以節義，莫不憤激。吳人聞鍾鄧敗，百城無主，有兼蜀之志，而巴東固守，兵不得過。乃使撫軍步協率衆而西，憲力弱，不能禦，遣參軍楊宗突圍北出，告急於安東將軍陳騫。又送文武印綬，任子詣晉公，協攻永安，憲與戰大破之。吳主怒，復遣鎮軍陸抗等帥衆三萬人增憲之圍。○三月丁丑，以司空王祥爲太尉，征北將軍何曾爲司徒，左僕射荀顛爲司空。○己卯，進晉公爵爲王，增封十郡。王祥何曾荀顛共詣晉王，顛謂祥曰：相王尊重，何侯與一朝之臣，皆已盡敬，今日便當相率而拜，無所疑也。祥曰：相國雖尊，要是魏之宰相，吾等魏之三公，王公相去一階而已。安有天子三公可輒拜人者。損魏朝之望，虧晉王之德，君子愛人以禮，我不爲也。及入，顛遂拜，而祥獨長揖。王謂祥曰：今日然後知君見顧之重也。○劉禪舉家東遷洛陽，時擾攘倉猝，禪之大臣無從行者，惟祕書令郤

正及殿中督汝南張通捨妻子單身隨禪禪賴正相導宜適舉動無闕乃慨然歎息恨知正之晚初漢建寧太守霍弋都督南中聞魏兵至欲赴成都劉禪以備敵既定不聽成都守弋素服大臨三日諸將咸勸弋宜速降弋曰今道路隔塞未詳主之安危去就大故不可苟也若魏以禮遇主上則保境而降不晚也若萬一危辱吾將以死拒之何論遲速邪得禪東遷之間始率六郡將守上表曰臣聞人生在三事之如一惟難所在則致其命今臣國敗主附守死無所是以委質不敢有貳晉王善之拜南中都尉委以本任丁亥封劉禪爲安樂公子孫及羣臣封侯者五十餘人晉王與禪宴爲之作故蜀技旁人皆爲之感愴而禪喜笑自若王謂賈充曰人之無情乃至於此雖使諸葛亮在不能輔之久矣況姜維邪佗日王問禪曰頗思蜀否禪曰此間樂不思蜀也郤正聞之謂禪曰若王後問宜泣而答曰先人墳墓遠在岷蜀乃心西悲無日不思因閉其目會王復問禪對如前王曰何乃似郤正語邪禪驚視曰誠如尊命左右皆笑○夏四月新附督王稚浮海入吳句章略其長吏及男女二百餘口而還○五月庚申晉王奏復五等爵封騎督以上六百餘人○甲戌改元○癸未追命舞陽文宣侯懿爲晉宣王忠武侯師爲景王○羅憲被攻凡六月救援不到城中疾病太半或說憲奔城走憲曰吾爲城主百姓所仰危不能安急而奔之君子不爲也畢命於此矣陳騫言於晉王遣荆州刺史胡烈將步騎二萬攻西陵以救憲秋七月吳師退晉王使憲因仍舊任加陵江將軍封萬年亭侯○晉王奏使司空荀顛定禮儀中護軍賈充正法律尙書僕射裴秀議官制太保鄭冲總而裁焉○吳分交州置廣州○吳主寢疾口不能言乃手書呼丞相濮陽興入令子璋出拜之休把興臂指璋以託之癸未吳主殂諡曰景帝羣臣尊朱皇后爲皇太后吳人以蜀初亡交趾攜叛國內恐患欲得長君左典軍萬彧嘗爲烏程令與烏程侯皓相善稱皓之才識明斷長沙桓王之儔也又加之好學奉遵法度屢言之於丞相興左將

軍布與布說朱太后欲以皓爲嗣朱后曰我寡婦人安知社稷之慮苟吳國無隕宗廟有賴可矣於是遂迎立皓改元元興大赦○八月庚寅命中撫軍司馬炎副貳相國事○初鍾會之伐漢也辛憲英謂其夫之從子羊祜曰會在事縱恣非持久處下之道吾畏其有他志也會請其子郎中琇爲參軍憲英憂曰他日吾爲國憂今日難至吾家矣琇固請於晉王王不聽憲英謂琇曰行矣戒之軍旅之間可以濟者其惟仁恕乎琇竟以全歸詔以琇嘗諫會反賜爵關內侯○九月戊午以司馬炎爲撫軍大將軍○辛未詔以呂興爲安南將軍都督交州諸軍事以南中監軍霍弋遙領交州刺史得以便宜選用長吏弋表遣建寧蠻谷爲交趾太守率牙門董元毛吳孟幹孟通爨能李松王素等將兵助興未至興爲其功曹王統所殺○吳主貶朱太后爲景皇后追諡父和曰文皇帝尊母何氏爲太后○冬十月丁亥詔以壽春所獲吳相國參軍事徐紹爲散騎常侍水曹掾孫或爲給事黃門侍郎以使於吳其家八在此者悉聽自隨不必使還以開廣大信晉王因致書吳主諭以禍福○初晉王娶王肅之女生炎及攸以攸繼居相位百年之後大業宜歸攸炎立髮委地手垂過鄰嘗從容問裴者景王之天下也吾攝居相位百年之後大業宜歸攸炎立髮委地手垂過鄰嘗從容問裴秀曰人有相否因以異相示之秀由是歸心羊琇與炎善爲炎畫策察時政所宜損益皆令炎豫記之以備晉王訪問晉王欲以攸爲世子山濤曰廢長立少違禮不祥賈充曰中撫軍有君人之德不可易也何曾裴秀曰中撫軍聰明神武有超世之才人望既茂天表如此固非人臣之相也晉王由是意定丙午立炎爲世子○吳主封太子璋及其三弟皆爲王立妃滕氏爲皇后○初吳主之立發優詔恤士民開倉廩振貧乏科出宮女以配無妻者禽獸養於苑中者皆放之當時翕然稱爲明主及既得志羸暴驕盈多忌諱好酒色大小失望濮陽興張布竊悔之或譖諸吳主十一月朔興布入朝吳主執之徙於廣州道殺之夷三族以后

父滕收爲衛將軍。錄尚書事。收胤之族人也。○是歲罷屯田官。

資治通鑑卷第七十八

資治通鑑卷第七十九

晉紀一

世祖武皇帝上之上

泰始元年春三月。吳主使光祿大夫紀陟。五官中郎將洪璆。與徐紹。孫彧。偕來報聘。紹行至濡須。有言紹譽中國之美者。吳主怒。追還殺之。○夏四月。吳改元甘露。○五月。魏帝加文王殊禮。進王妃曰后。世子曰太子。○癸未。大赦。○秋七月。吳主逼殺景皇后。遷景帝四子於吳。尋又殺其長者二人。○八月辛卯。文王卒。太子嗣。爲相國晉王。○九月乙未。大赦。○戊午。以魏司徒何曾爲晉丞相。癸亥。以票騎將軍司馬望爲司徒。○乙亥。葬文王子崇陽陵。○冬。吳西陵督步闡表請吳主徙都武昌。吳主從之。使御史大夫丁固。右將軍諸葛靚守建業。闡。牖之子也。○十二月壬戌。魏帝禪位于晉。甲子。出舍于金墉城。太傅司馬孚拜辭。執帝手。流涕獻歎不自勝。曰。臣死之日。固大魏之純臣也。丙寅。王卽皇帝位。大赦。改元。丁卯。奉魏帝爲陳留王。卽宮于鄴。優崇之禮。皆倣魏初故事。魏氏諸王。皆降爲侯。追尊宣王爲宣皇帝。景王爲景皇帝。文王爲文皇帝。尊王太后曰皇太后。封皇叔祖孚爲安平王。叔父幹爲平原王。亮爲扶風王。佃爲東莞王。駿爲汝陰王。彤爲梁王。倫爲琅邪王。弟攸爲齊王。鑿爲樂安王。機爲燕王。又封羣從司徒望等十七人。皆爲王。以石苞爲大司馬。鄭冲爲太傅。王祥爲太保。何曾爲太尉。賈充爲車騎將軍。王沈爲驃騎將軍。其餘文武。增位進爵有差。乙亥。以安平王孚爲太宰。都督中外諸軍事。未幾。又以車騎將軍陳騫爲大將軍。與司徒義陽王望。司空荀顛。凡八

公同時並置。帝懲魏氏孤立之敝，故大封宗室，授以職任。又詔諸王，皆得自選國中長吏，衛將軍齊王攸獨不敢，皆令上請。○詔除魏宗室禁錮，罷部曲將及長吏，納質任。○帝承魏氏刻薄奢侈之後，矯以仁儉。太常丞許奇，允之子也。帝將有事於太廟，朝議以奇父受誅，不宜接近左右，請出為外官。帝乃追述允之宿望，稱奇之才，擢為祠部郎。有司言：御牛青絲紉斷，詔以青麻代之。○初置諫官，以散騎常侍傅玄、皇甫陶為之。玄，幹之子也。玄以魏末士風頹敝，上疏曰：臣聞先王之御天下，教化隆於上，清議行於下。近者，魏武好法術，而天下貴刑名。魏文慕通達，而天下賤守節。其後，綱維不攝，放誕盈朝。遂使天下無復清議。陛下龍興受禪，弘堯舜之化，惟未舉清遠有禮之臣，以敦風節。未退虛鄙之士，以懲不恪。臣是以猶敢有言。上嘉納其言，使玄草詔進之。然亦不能革也。○初，漢征西將軍司馬鈞生豫章太守量，量生穎川太守雋，雋生京兆尹防。防生宣帝。

二年春正月丁亥，即用魏廟祭征西府君以下，并景帝。凡七室。○尊景帝夫人羊氏曰景皇后。居弘訓宮。○丙午，立皇后弘農楊氏。后，魏通事郎文宗之女也。○羣臣奏：五帝即天帝也。王氣時異，故名號有五。自今明堂南郊宜除五帝座。從之。帝王肅外孫也。故郊祀之禮，有司多從肅議。○二月，除漢宗室禁錮。○三月，吳遣大鴻臚張儼、五官中郎將丁忠來弔祭。○吳散騎常侍王蕃體氣高亮，不能承顏順指。吳主不悅，散騎常侍萬彧、中書丞陳聲從而譖之。丁忠使還，吳主大會羣臣，蕃沈醉頓伏。吳主疑其詐，疊蕃出外。頃之召還，蕃好治威儀，行止自若。吳主大怒，呵左右於殿下斬之。出登來山，使親近擲蕃首。作虎跳狼爭，咋齧之，首皆碎壞。丁忠說吳主曰：北方無守戰之備，弋陽可襲而取。吳主以問羣臣，鎮西大將軍陸凱曰：北方新并巴蜀，遣使求和，非求援於我也。欲蓄力以俟時耳。敵執方彊，而欲徵幸求勝，未見其利也。吳主雖不出兵，然遂與晉絕。凱，遜之族子也。○夏五月壬子，博陵元公王沈卒。○六月丙

午晦，日有食之。○文帝之喪，臣民皆從權制。三日除服，既葬，帝亦除之。然猶素冠疎食，哀毀如居喪者。秋八月，帝將謁崇陽陵，羣臣奏言：秋暑未平，恐帝悲感摧傷。帝曰：朕得奉瞻山陵，體氣自佳耳。又詔曰：漢文不使天下盡哀，亦帝王至謙之志。當見山陵，何心無服。其議以衰絰從行。羣臣自依舊制，尚書令裴秀奏曰：陛下既除而復服，義無所依。若君服而臣不服，亦未之敢安也。詔曰：患情不能及耳。衣服何在。諸君勤勤之至，豈苟相違。遂止。中軍將軍羊祜謂傅玄曰：三年之喪，雖貴遂服禮也。今主上至孝，雖奪其服，實行喪禮。若因此復先王之法，不亦善乎。玄曰：以日易月，已數百年。一旦復古難行也。祜曰：不得使天下如禮。且使主上遂服，不猶愈乎。玄曰：主上不除，而天下除之，此為但有父子，無復君臣也。乃止。戊辰，羣臣奏請易服復膳。詔曰：每感念幽冥，而不得終苴絰之禮，以為沈痛。況當食稻衣錦乎。適足激切其心，非所以相解也。朕本諸生家，傳禮來久。何至一旦便易。此情於所天相從已多，可試省孔子答宰我之言，無事紛紜也。遂以疏素終三年。

臣光曰：三年之喪，自天子達于庶人。此先王禮經，百世不易者也。漢文師心不學，變古壞禮，絕父子之恩，虧君臣之義。後世帝王不能篤於哀戚之情，而羣臣諂諛，莫肯釐正。至于晉武獨以天性矯而行之，可謂不世之賢君。而裴、傅之徒，固陋庸臣，習常玩故，而不能將順其美，惜哉。

吳改元寶鼎。○吳主以陸凱為左丞相，萬彧為右丞相。吳主惡人視己，羣臣侍見，莫敢舉目。陸凱曰：君臣無不相識之道。若猝有不虞，不知所赴。吳主乃聽凱自視，而它人如故。吳主居武昌，揚州之民，泝流供給，甚苦之。又奢侈無度，公私窮匱。凱上疏曰：今四邊無事，當務養民豐財，而更窮奢極欲，無災而民命盡，無為而國財空。臣竊憂之。昔漢室既衰，三家鼎立。今曹劉失道，皆為晉有。此目前之明驗也。臣愚但為陛下惜國家耳。武昌土地危險，塔確非王者

之都且童謠云寧飲建業水不食武昌魚寧還建業死不止武昌居以此觀之足明人心與天意矣今國無一年之蓄民有離散之怨國有露根之漸而官吏務爲苛急莫之或恤大帝時後宮列女及諸織絡數不滿百景帝以來乃有千數此耗財之甚也又左右之臣率非其人羣黨相扶害忠隱賢此皆蠹政病民者也臣願陛下省息百役罷去苛擾料出宮女清選百官則天悅民附國家永安矣吳主雖不悅以其宿望特優容之○九月詔自今雖詔有所欲及已奏得可而於事不便者皆不可隱情○戊戌有司奏大晉受禪於魏宜一用前代正朔服色如虞遵唐故事從之○冬十月丙午朔日有食之○永安山賊施但因民勞怨聚衆數千人劫吳主庶弟永安侯謙作亂比至建業衆萬餘人未至三十里住擇吉日入城遣使以謙命召丁固諸葛靚固靚斬其使發兵逆戰於牛屯但兵皆無甲冑即時敗散謙獨坐車中生獲之固不敢殺以狀白吳主吳主并其母及弟俊皆殺之初望氣者云荊州有王氣當破揚州故吳主徙都武昌及但反自以爲得計遣數百人鼓譟入建業殺但妻子云天子使荊州兵來破揚州賊○十一月初并圓丘方丘之祀於南北郊○罷山陽國督軍除其禁制○十二月吳主還都建業使后父衛將軍錄尚書事滕牧留鎮武昌朝士以牧尊威頗推令諫爭滕后之寵由是漸衰更遣牧居蒼梧雖爵位不奪其實遷也在道以憂死何太后常保佑滕后太史又言中宮不可易吳主信巫覡故得不廢常供養升平宮不復進見諸姬佩皇后璽紱者甚衆滕后受朝賀表疏而已吳主使黃門徧行州郡料取將吏家女其二千石大臣子女歲歲言名年十五六一簡閱簡閱不中乃得出嫁後宮以千數而採擇無已三年春正月丁卯立子衷爲皇太子詔以近世每立太子必有赦今世運將平當示之以好惡使百姓絕多幸之望曲惠小人朕無取焉遂不赦○司隸校尉上黨李熹劾故立進令劉友前尚書山濤中山王陸尚書僕射武陵各占官稻田請免濤陸等官陔已亡請貶其諡詔

曰友侵剝百姓以繆惑朝士其考竟以懲邪佞濤等不貳其過皆勿有所問熹充志在公當官而行可謂邦之司直矣光武有云貴戚且斂手以避二鮑其申救羣僚各慎所司寬宥之恩不可數遇也陸宣帝之弟子也

臣光曰政之大本在於刑賞刑賞不明政何以成晉武帝赦山濤而褒李熹其於刑賞兩失之使熹所言爲是則濤不可赦所言爲非則熹不足褒褒之使言言而不用怨結於下威玩於上將安用之且四臣同罪劉友伏誅而濤等不問避貴施賤可謂政乎創業之初而政本不立將以垂統後世不亦難乎

帝以李熹爲太子太傅徵韃爲李密爲太子洗馬密以祖母老固辭許之密與人交每公議其得失而切責之常言吾獨立於世顧影無儔然而不懼者以無彼此於人故也○吳大赦以右丞相萬彧鎮巴丘○夏六月吳主作昭明宮二千石以下皆自入山督伐木大開苑囿起土山樓觀窮極伎巧功役之費以億萬計陸凱諫不聽中書丞華覈上疏曰漢文之世九州晏然賈誼獨以爲如抱火厝於積薪之下而寢其上今大敵據九州之地有大半之衆欲與國家爲相吞之計非徒漢之淮南濟北而已也比於賈誼之世孰爲緩急今倉庫空匱編戶失業而北方積穀養民專心東向又交趾淪沒嶺表動搖曾背有嫌首尾多難乃國朝之厄會也若舍此急務盡力功作卒有風塵不虞之變當委版築而應烽燧驅怨民而赴白刃此乃大敵所因以爲資者也時吳俗奢侈覈又上疏曰今事多而役繁民貧而俗奢百工作無用之器婦人爲綺靡之飾轉相倣效恥獨無有兵民之家猶復逐俗內無甌石之儲而出有綾綺之服上無尊卑等級之差下有耗財費力之損求其富給庸可得乎吳主皆不聽○秋七月王祥以睢陵公罷○九月甲申詔增吏俸○以何曾爲太保義陽王望爲太尉荀顛爲司徒○禁星氣讖緯之學○吳主以孟仁守丞相奉法駕東迎其父文帝神於明陵中使

相繼奉問起居。巫覡言見文帝被服顏色如平生。吳主悲喜，迎拜於東門之外。既入廟，比七日三祭，設諸倡伎，晝夜娛樂。○是歲遣鮮卑拓跋沙漢汗歸其國。四年春正月丙戌，賈充等上所刊修律令，帝親自臨講，使尚書郎裴楷執讀，楷秀之從弟也。待中盧瑛、中書侍郎范陽張華請抄新律死罪條目，懸之亭傳，以示民從之。又詔河南尹杜預爲黜陟之課，預奏古者黜陟擬議於心，不泥於法，末世不能紀遠而專求密微，疑心而信耳目，疑耳目而信簡書，簡書愈繁，官方愈僞。魏氏考課，卽京房之遺意，其文可謂至密，然失於苛細，以違本體，故歷代不能通也。豈若申唐堯之舊制，取大捨小，去密就簡，俾之易從也。夫曲盡物理，神而明之，存乎其人，去人而任法，則以文傷理，莫若委任達官，各考所統，歲第其人，言其優劣，如此六載，主者總集，探案其言，六優者超擢，六劣者廢免，優多劣少者平叙，劣多優少者左遷，其間所對不鈞，品有難易，主者固當準量輕重，微加降殺，不足曲以法盡也。其有優劣徇情，不叶公論者，當委監司隨而彈之。若令上下公相容過，此爲清議大頹，雖有考課之法，亦無益也。事竟不行。○丁亥，帝耕籍田於洛水之北。○戊子，大赦。○二月，吳主以左御史大夫丁固爲司徒，右御史大夫孟仁爲司空。○三月，戊子，皇太后王氏殂，帝居喪之制，一遵古禮。○夏四月，戊戌，睢陵元公王祥卒，門無雜弔之賓，其族孫戎歎曰：「太保當正始之世，不在能言之流，及問與之言，理致清遠，豈非以德掩其言乎。」○己亥，葬文明皇后，有司又奏，既虞除，衰服，詔曰：「受終身之愛，而無數年之報，情所不忍也。有司固請，詔曰：「患在不能篤孝，勿以毀傷爲憂。」前代禮典，質文不同，何必限以近制，使達喪闕然乎。羣臣請不已，乃許之。然猶素冠疏食，以終三年。如文帝之喪。○秋七月，衆星西流，如雨而隕。○己卯，帝謁崇陽陵。○九月，青徐兗豫四州大水，大司馬石苞久在淮南，威惠甚著，淮北監軍王琛惡之，密表苞與吳人交通，會吳人將入寇，苞築壘遏水，以自固，帝疑之。羊祜深爲帝言，苞必不然，帝

不信，乃下詔，以苞不料賊執，築壘遏水，勞擾百姓，策免其官，遣義陽王望帥大軍以徵之。苞辟河內孫鑠爲掾，鑠先與汝陰王駿善，駿時鎮許昌，鑠過見之，駿知臺已遣軍襲苞，私告之曰：「無與於禍。」鑠既出，馳詣壽春，勸苞放兵，步出都亭待罪。苞從之。帝聞之，意解。苞詣闕，以樂陵公還第。○吳主出東關，冬十月，使其將施績入江夏，萬或寇襄陽，詔義陽王望統中軍步騎二萬屯龍陂，爲二方聲援。會荊州刺史胡烈拒績，破之，望引兵還。○吳交州刺史劉俊、大都督修則將軍顧容前後三攻交趾，交趾太守楊稷皆拒破之。鬱林九真皆附於稷，稷遣將軍毛晃董元攻合浦，戰于古城，大破吳兵，殺劉俊，修則餘兵散還合浦。稷表晃爲鬱林太守，元爲九真太守。○十一月，吳丁奉諸葛靚出芍陂，攻合肥，安東將軍汝陰王駿拒却之。○以義陽王望爲大司馬，荀顛爲太尉，石苞爲司徒。五年春正月，吳主立子瑾爲皇太子。○二月，分雍涼梁州置秦州，以胡烈爲刺史。先是，鄧艾納鮮卑降者數萬，置於雍涼之間，與民雜居，朝廷恐其久而爲患，以烈素著名於西方，故使鎮撫之。○青徐兗三州大水。○帝有滅吳之志，壬寅，以尙書左僕射羊祜都督荊州諸軍事，鎮襄陽，征東大將軍衛瓘都督青州諸軍事，鎮臨菑，鎮東大將軍東莞王佃都督徐州諸軍事，鎮下邳，祜綏懷遠近，甚得江漢之心，與吳人開布大信，降者欲去，皆聽之。滅成邏之卒，以墾田八百餘頃，其始至也，軍無百日之糧，及其季年，乃有十年之積。祜在軍，常輕裘緩帶，身不被甲，鈴閣之下，侍衛不過十數人。○濟陰太守巴西文立上言，故蜀之名臣子孫流徙中國者，宜量才叙用，以慰巴蜀之心。以傾吳人之望。帝從之。己未，詔曰：「諸葛亮在蜀，盡其心力，其子瞻臨難而死，義其孫京，宜隨才署吏。又詔曰：「蜀將傅僉父子死於其主，天下之善一也，豈由彼此以爲異哉。僉息著募，沒入奚官，宜免爲庶人。」○帝以文立爲散騎常侍，漢故尙書程健爲瓊，雅有德業，與立深交。帝聞其名，以問立，對曰：「臣至知其人，但年垂八十，稟性謙退，無

復當時之望。故不以上聞耳。瓊聞之曰：廣休可謂不黨矣。此吾所以善夫人也。○秋九月，有星孛于紫宮。○冬十月，吳大赦，改元建衡。○封皇子景度爲城陽王。○初，汝南何定嘗爲吳大帝給使，及吳主卽位，自表先帝舊人，求還內侍。吳主以爲樓下都尉，典知酤糶事，遂專爲威福。吳主信任之，委以衆事。左丞相陸凱面責定曰：卿見前後事，主不忠，傾亂國政，寧有得以壽終者邪？何以專爲姦邪？塵穢天聽，宜自改厲。不然，方見卿有不測之禍。定大恨之。凱竭心公家，忠懇內發，表疏皆指事不飾，及疾病，吳主遣中書令董朝問所欲言。凱陳何定不可信用，宜授以外任。奚熙小吏，建起浦里塘，亦不可聽。姚信、樓玄、賀邵、張悌、郭遠、薛瑩、滕修及族弟喜，抗或清白忠勤，或資才卓茂，皆社稷之良輔，願陛下重留神思，訪以時務，使各盡其忠。拾遺萬一，邵、齊之孫瑩，綜之子玄，沛人。修，南陽人也。凱尋卒。吳主素銜其切直，且日聞何定之譖，久之，竟徙凱家於建安。○吳主遣監軍虞汜、威南將軍薛珣、蒼梧太守丹陽陶璜，從荆州道監軍李昺、督軍徐存，從建安海道，皆會於合浦，以擊交趾。○十二月，有司奏東宮施敬二傅，其儀不同。帝曰：夫崇敬師傅，所以尊道重教也。何言臣不臣乎？其令太子申拜禮。六年春正月，吳丁奉入渦口，揚州刺史牽弘擊走之。○吳萬彊，自巴丘還，建業。○夏四月，吳左大司馬施績卒。以鎮軍大將軍陸抗都督信陵、西陵、夷道、樂鄉、公安諸軍事，治樂鄉。抗以吳主政事多闕，上疏曰：臣聞德均則衆者勝，寡力侔則安者制危。此六國所以并於秦，西楚所以屈於漢也。今敵之所據，非特關右之地，鴻溝以西，而國家外無連衡之援，內非西楚之彊。庶政陵遲，黎民未乂，議者所持，徒以長江峻山，限帶封域，此乃守國之末事，非智者之所先也。臣每念及此，中夜撫枕，臨餐忘食。夫事君之義，犯而勿欺，謹陳時宜十七條，以聞。吳主不納。李昺以建安道不利，殺導將馮斐，引軍還。初，何定嘗爲子求婚於昺，昺不許。乃白昺枉殺馮斐，擅徵軍還，誅昺及徐存，并其家屬，仍焚昺尸。定又使諸將各上御犬，一犬至，直縑數

十四，縑直錢一萬，以捕兔供廚。吳人皆歸罪於定，而吳主以爲忠勤，賜爵列侯。陸抗上疏曰：小人不明理道，所見既淺，雖使竭情盡節，猶不足任。況其姦心素篤，而憎愛移易哉？吳主不從。○六月戊午，胡烈討鮮卑秃髮樹機能於萬斛堆，兵敗被殺。都督雍涼州諸軍事扶風王亮遣將軍劉旂救之。旂觀望不進，亮坐貶爲平西將軍。旂當斬，亮上言節度之咎，由亮而出，乞丐其死。詔曰：若罪不在旂，當有所在，乃免亮官。遣尚書樂陵石鑿行，安西將軍都督秦州諸軍事，討樹機能。樹機能兵盛，鑿使秦州刺史杜預出兵擊之。預以虜乘勝馬肥，而官軍縣乏，宜并力大運芻糧，須春進討。鑿奏預稽乏軍興，檻車徵詣廷尉，以贖論。既而鑿討樹機能卒，不能克。○秋七月乙巳，城陽王景度卒。○丁未，以汝陰王駿爲鎮西大將軍，都督雍涼等州諸軍事，鎮關中。○冬十一月，立皇子東爲汝南王。○吳主從弟前將軍秀爲夏口督。吳主惡之，民間皆言秀當見圖。會吳主遣何定將兵五千人獵夏口，秀驚，夜將妻子親兵數百人來奔。十二月，拜秀票騎將軍，開府儀同三司，封會稽公。○是歲，吳大赦。○初，魏人居南匈奴五部於并州諸郡，與中國民雜居，自謂其先漢氏外孫，因改姓劉氏。七年春正月，匈奴右賢王劉猛叛出塞。○豫州刺史石鑿坐擊吳軍，虛張首級，詔曰：鑿備大臣，吾所取信，而乃下同爲詐，義得爾乎？今遣歸田里，終身不得復用。○吳人刁玄詐增讖文曰：黃旗紫蓋，見於東南，終有天下者，荆揚之君。吳主信之。是月晦，大舉兵出華里，載太后。皇后及後宮數千人，從牛渚西上。東觀令華覈等固諫，不聽。行遇大雪，道途陷壞，兵士被甲持仗，百人共引一車，寒凍殆死。皆曰：若遇敵，便當倒戈。吳主聞之，乃還。帝遣義陽王望統中軍二萬騎三千屯壽春，以備之。聞吳師退，乃罷。○三月丙戌，鉅鹿元公裴秀卒。○夏四月，吳交州刺史陶璜襲九真太守董元，殺之。楊稷以其將王素代之。○北地胡寇金城，涼州刺史牽弘討之。衆胡皆內叛，與樹機能共圍弘於青山。弘軍敗而死。初，大司馬陳騫言於帝曰：胡烈

牽弘皆勇而無謀。彊於自用。非綏邊之材也。將為國恥。時弘為揚州刺史。多不承順。帝以爲騫與弘不協而毀之。於是徵弘。既至。尋復以爲涼州刺史。騫竊歎息。以爲必敗。二人果失羌戎之和。兵敗身沒。征討連年。僅而能定。帝乃悔之。○五月。立皇子憲。爲城陽王。○辛丑。義陽成王望卒。○侍中尚書令車騎將軍賈充。自文帝時。寵任用事。帝之爲太子。充頗有力。故益有寵於帝。充爲人巧諂。與太尉行太子太傅荀顗。侍中中書監荀勗。越騎校尉安平馮統。相爲黨友。朝野惡之。帝問侍中裴楷。以方今得失。對曰。陛下受命。四海承風。所以未比德於堯舜者。但以賈充之徒。尙在朝耳。宜引天下賢人。與弘政道。不宜示人以私。侍中樂安任愷。河南尹潁川庾純。皆與充不協。充欲解其近職。乃薦愷。忠貞。宜在東宮。帝以愷爲太子少傅。而侍中如故。會樹機能。寇亂秦雍。帝以爲憂。愷曰。宜得威望重臣。有智略者。以鎮撫之。帝曰。誰可者。愷因薦充。純亦稱之。秋。七月。癸酉。以充爲都督秦涼二州諸軍事。侍中車騎將軍如故。充患之。○吳大都督薛瑒。與陶璜等兵十萬。共攻交趾。城中糧盡。援絕。爲吳所陷。虜楊稷。毛吳等。瑒愛吳勇健。欲活之。吳謀殺瑒。瑒乃殺之。修則之子允。生剖其腹。割其肝。曰。復能作賊不。吳猶罵曰。恨不殺汝孫皓。汝父何死狗也。王素欲逃歸南中。吳人獲之。九真。日南。皆降於吳。吳大赦。以陶璜爲交州牧。瑒討降夷獠。州境皆平。○八月。丙申。城陽王憲卒。○分益州南中四郡置寧州。○九月。吳司空孟仁卒。○冬。十月。丁丑。朔。日有食之。○十一月。劉猛寇并州。并州刺史劉欽擊破之。○賈充將之鎮。公卿餞於夕陽亭。充私問計於荀勗。勗曰。公爲宰相。乃爲一夫所制。不亦鄙乎。然是行也。辭之實難。獨有結婚太子。可不辭而自留矣。充曰。然則孰可寄懷。勗曰。勗請言之。因謂馮統曰。賈公遠出。吾等失執。太子婚尙未定。何不勸帝納賈公之女乎。統亦然之。初。帝將納衛瑾女爲太子妃。充妻郭槐。賂楊后左右。使后說帝。求納其女。帝曰。衛公女有五可。賈公女有五不可。衛氏種賢而多子。美而長白。賈氏種妬而少

子。醜而短黑。后固以爲請。荀勗。馮統。皆稱充女絕美。且有才德。帝遂從之。留充復居舊任。○十二月。以光祿大夫鄭袤爲司空。袤固辭不受。○是歲。安樂思公劉禪卒。○吳以武昌都督廣陵范慎爲太尉。右將軍司馬丁奉卒。○吳改明年元曰鳳皇。八年春。正月。監軍何植討劉猛。屢破之。潛以利誘其左部帥李恪。恪殺猛以降。○二月。辛卯。皇太子納賈妃。妃年十五。長於太子二歲。妬忌多權詐。太子嬖而畏之。○壬辰。安平獻王孚卒。年九十三。孚性忠慎。宣帝執政。孚常自退損。後逢廢立之際。未嘗預謀。景文二帝。以孚屬尊。亦不敢逼。及帝卽位。恩禮尤重。元會。詔孚乘輿上殿。帝於阼階迎拜。既坐。親奉觴上壽。如家人禮。帝每拜。孚跪而止之。孚雖見尊寵。不以爲榮。常有憂色。臨終。遺令曰。有魏貞士河內司馬孚字叔達。不伊不周。不夷不惠。立身行道。終始如一。當衣以時服。斂以素棺。詔賜東園溫明祕器。諸所施行。皆依漢東平獻王故事。其家遵孚遺旨。所給器物。一不施用。○帝與右將軍皇甫陶論事。陶與帝爭言。散騎常侍鄭徽表請罪之。帝曰。忠讜之言。唯患不聞。徽越職妄奏。豈朕之意。遂免徽官。○夏。汝山白馬胡。侵掠諸種。益州刺史皇甫晏欲討之。典學從事蜀郡何旅等諫曰。胡夷相殘。固其常性。未爲大患。今盛夏出軍。水潦將降。必有疾疫。宜須秋冬圖之。晏不聽。胡康木子燒香言。軍出必敗。晏以爲沮衆。斬之。軍至觀阪。牙門張弘等以汝山道險。且畏胡衆。因夜作亂。殺晏。軍中驚擾。兵曹從事韃爲楊倉。勒兵力戰而死。弘遂誣晏云。率已共反。故殺之。傳首京師。晏主簿蜀郡何攀。方居母喪。聞之。詣洛。證晏不反。弘等縱兵抄掠。廣漢主簿李毅言於太守弘農王濬曰。皇甫侯起自諸生。何求而反。且廣漢與成都密邇。而統於梁州者。朝廷欲以制益州之衿領。正防今日之變也。今益州有亂。乃此郡之憂也。張弘小豎。衆所不與。宜即時赴討。不可失也。濬欲先上請。毅曰。殺主之賊。爲惡尤大。當不拘常制。何請之有。濬乃發兵討弘。詔以濬爲益州刺史。濬擊弘。斬之。夷三族。封濬關內侯。初。濬

爲羊祜參軍。祜深知之。祜兄子暨白潛爲人。志大奢侈。不可專任。宜有以裁之。祜曰。潛有大才。將以濟其所欲。必可用也。更轉爲車騎從事中郎。潛在益州。明立威信。蠻夷多歸附之。俄遷大司農。時帝與羊祜陰謀伐吳。祜以爲伐吳宜藉上流之執。密表留潛。復爲益州刺史。使治水軍。尋加龍驤將軍。監益梁諸軍事。詔潛罷屯田軍。大作舟艦。別駕何攀以爲屯田兵不過五六百人。作船不能猝辦。後者未成。前者已腐。宜召諸郡兵。合萬餘人。造之。歲終可成。潛欲先上須報。攀曰。朝廷猝聞。召萬兵。必不聽。不如輒召。設當見却。功夫已成。執不得已。潛從之。令攀典造舟艦器仗。於是作大艦。長百二十步。受二千餘人。以木爲城。起樓櫓。開四出門。其上皆得馳馬往來。時作船。木枋蔽江而下。吳建平太守吳郡吾彥。取流枋。以白吳主曰。晉必有攻吳之計。宜增建平兵。以塞其衝要。吳主不從。彥乃爲鐵鎖。橫斷江路。王濬雖受中制。募兵而無虎符。廣漢太守敦煌。張敷。收濬從事。列上。帝召敷還。責曰。何不密啓。而便收從事。敷曰。蜀漢絕遠。劉備嘗用之矣。輒收。臣猶以爲輕。帝善之。○壬辰。大赦。○秋七月。以賈充爲司空。侍中尙書令領兵如故。充與侍中任愷皆爲帝所寵任。充欲專名執。而忌愷。於是朝士各有所附。朋黨紛然。帝知之。召充愷。宴于式乾殿。而謂之曰。朝廷宜壹。大臣當和。充愷等各拜謝。既而充愷以帝已知而不責。愈無所懼。外相崇重。內怨益深。充乃薦愷爲吏部尙書。愷侍觀轉希。充因與荀勗。馮紘。承間共譖之。愷由是得罪。廢於家。○八月。吳主徵昭武將軍西陵督步闡。闡世在西陵。猝被徵。自以失職。且懼有讒。九月。據城來降。遣兄子璣。瑤。詣洛陽。爲任。詔以闡爲都督西陵諸軍事。衛將軍。開府。儀同三司。侍中。領交州牧。封宜都公。○冬十月。辛未朔。日有食之。○敦煌太守尹璩卒。涼州刺史楊欣。表敦煌令梁澄。領太守。功曹宋質。輒廢澄。表議郎令狐豐爲太守。楊欣遣兵擊之。爲質所敗。○吳陸抗聞步闡叛。亟遣將軍左奔。吾彥等討之。帝遣荊州刺史楊肇。迎闡於西陵。車騎將軍羊祜。帥步軍出江陵。巴東監軍徐

胤帥水軍。擊建平。以救闡。陸抗救西陵諸軍。築嚴圍。自赤谿至于故市。內以圍闡。外以禦晉兵。晝夜催切。如敵已至。衆甚苦之。諸將諫曰。今宜及三軍之銳。急攻闡。比晉救至。必可拔也。何事於圍。以敵士民之力。抗曰。此城處執既固。糧穀又足。且凡備禦之具。皆抗所宿規。今反攻之。不可猝拔。北兵至。而無備。表裏受難。何以禦之。諸將皆欲攻闡。抗欲服衆心。聽令一攻。果無利。圍備始合。而羊祜兵五萬。至江陵。諸將咸以抗不宜上。抗曰。江陵城固。兵足。無可憂者。假令敵得江陵。必不能守。所損者小。若晉據西陵。則南山羣夷。皆當擾動。其患不可量也。乃自帥衆。赴西陵。初。抗以江陵之北。道路平易。敕江陵督張咸。作大堰。遏水。漸漬平土。以絕寇叛。羊祜欲因所遏水。以船運糧。揚聲將破堰。以通步軍。抗聞之。使咸亟破之。諸將皆惑。屢諫不聽。祜至當陽。聞堰敗。乃改船以車運糧。大費功力。十一月。楊肇至西陵。陸抗令公安督孫遵。循南岸。拒羊祜。水軍督留慮。拒徐胤。抗自將大軍。憑圍對肇。將軍朱喬。營都督俞贊。亡詣肇。抗曰。贊軍中舊吏。知吾虛實。吾常慮夷兵。素不簡練。若敵攻圍。必先此處。即夜易夷兵。皆以精兵守之。明日。肇果攻。故夷兵處。抗命擊之。矢石雨下。肇衆死者相屬。十二月。肇計屈夜遁。抗欲追之。而慮步闡畜力伺間。兵不足分。於是但鳴鼓戒衆。若將追者。肇衆見懼。悉解甲挺走。抗使輕兵躡之。肇兵大敗。祜等皆引軍還。抗遂拔西陵。誅闡。及同謀將吏數十人。皆夷三族。自餘所請赦者數萬口。東還樂鄉。貌無矜色。謙冲如常。吳主加抗都護。羊祜坐貶平南將軍。楊肇免爲庶人。吳主既克西陵。自謂得天助。志益張大。使術士尙廣。筮取天下。對曰。吉。庚子歲。青蓋當入洛陽。吳主喜。不修德政。專爲兼并之計。○賈充與朝士宴飲。河南尹庾純。醉與充爭言。充曰。父老不歸供養。卿爲無天地。純曰。高貴鄉公何在。充慙怒。上表解職。純亦上表自劾。詔免純官。仍下五府。正其臧否。石苞以爲純榮官忘親。當除名。齊王攸等。以爲純於禮律。未有違。詔從攸議。復以純爲國子祭酒。○吳主之游華里也。右丞相萬彧。與右大司

馬丁奉左將軍留平密謀曰若至華里不歸社稷事重不得不自還吳主頗聞之以或等舊臣隱忍不發是歲吳主因會以毒酒飲或傳酒人私滅之又飲留平平覺之服它藥以解得不死或自殺平憂慙月餘亦死徙或子弟於廬陵初或請選忠清之士以補近職吳主以大司農樓玄爲宮下鎮主殿中事玄正身帥衆奉法而行應對切直吳主浸不悅中書令領太子太傅賀邵上疏諫曰自頃年以來朝列紛錯眞僞相質忠良排墜信臣被害是以正士摧方而庸臣苟媚先意承指各希時趣人執反理之評士吐詭道之論遂使清流變濁忠臣結舌陛下處九天之上隱百里之室言出風靡令行景從親洽寵媚之臣日聞順意之辭將謂此輩實賢而天下已平也臣聞興國之君樂聞其過荒亂之主樂聞其譽聞其過者過日消而福臻聞其譽者譽日損而禍至陛下嚴刑法以禁直辭黜善士以逆諫口杯酒造次死生不保仕者以退爲幸居者以出爲福誠非所以保光洪緒熙隆道化也何定本僕隸小人身無行能而陛下愛其佞媚假以威福夫小人求入必進奸利定間者妄與事役發江邊戍兵以驅麋鹿老弱飢凍大小怨歎傳曰國之興也視民如赤子其亡也以民爲草芥今法禁轉苛賦調益繁中官近臣所在與事而長吏畏罪苦民求辦是以人力不堪家戶離散呼嗟之聲感傷和氣今國無一年之儲家無經月之蓄而後宮之中坐食者萬有餘人又北敵注目伺國盛衰長江之限不可久恃苟我不能守一葦可杭也願陛下豐基疆本割情從道則成康之治興聖祖之祚隆矣吳主深恨之於是左右共誣樓玄賀邵相逢駐共耳語大笑謗訕政事俱被詰責送玄付廣州邵原復職既而復徙玄於交趾竟殺之久之何定姦穢發聞亦伏誅○羊祜歸自江陵務修德信以懷吳人每交兵刻日方戰不爲掩襲之計將帥有欲進譎計者輒飲以醇酒使不得言祜出軍行吳境刈穀爲糧皆計所侵送絹償之每會衆江河遊獵常止晉地若禽獸先爲吳人所傷而爲晉兵所得者皆送還之於是吳邊人皆悅服祜

與陸抗對境使命常通抗遣祜酒祜飲之不疑抗疾求藥於祜祜以成藥與之抗卽服之入多諫抗抗曰豈有醜人羊叔子哉抗告其邊戍曰彼專爲德我專爲暴是不戰而自服也各保分界而已無求細利吳主聞二境交和以詰抗抗曰一邑一鄉不可以無信義況大國乎臣不如是正是彰其德於祜無傷也吳主用諸將之謀數侵盜晉邊陸抗上疏曰昔有夏多罪而殷湯用師紂作淫虐而周武授鉞苟無其時雖復大聖亦宜養威自保不可輕動也今不務力農富國審官任能明黜陟任刑賞訓諸司以德撫百姓以仁而聽諸將徇名窮兵黷武動費萬計士卒彫瘁寇不爲衰而我已大病矣今爭帝王之資而昧十百之利此人臣之姦便非國家之良策也昔齊魯三戰魯人再克而亡不旋踵何則大小之執異也況今師所克獲不補所喪乎吳主不從羊祜不附結中朝權貴苟勗馮統之徒皆惡之從甥王衍嘗詣祜陳事辭甚清辯祜不然之衍拂衣去祜顧謂賓客曰王夷甫方當以盛名處大位然敗俗傷化必此人也及攻江陵祜以軍法將斬王戎衍戎之從弟也故二人皆憾之言論多毀祜時人爲之語曰二王當國羊公無德

資治通鑑卷第七十九

晉紀 世祖武皇帝上之上泰始八年

資治通鑑卷第八十

晉紀一一

世祖武皇帝上之下

泰始九年春正月辛酉密陵元侯鄭袤卒。○二月癸巳樂陵武公石苞卒。○三月立皇子祗為東海王。○吳以陸抗為大司馬荊州牧。○夏四月戊辰朔日有食之。○初鄧艾之死人皆冤之而朝廷無為之辯者及帝即位議郎敦煌段灼上疏曰鄧艾心懷至忠而荷反逆之名平定巴蜀而受三族之誅艾性剛急矜功伐善不能協同朋類故莫肯理之臣竊以為艾本屯田掌犢人寵位已極功名已成七十老公復何所求正以劉禪初降遠郡未附矯令承制權安社稷鍾會恃逆之心畏艾威名因其疑似構成其事艾被詔書即遣彊兵束身就縛不敢顧望誠知奉見先帝必無當死之理也會受誅之後艾官屬將吏愚戇相聚自共追艾破壞檻車解其囚執艾在困地狼狽失據未嘗與腹心之人有平素之謀獨受腹背之誅豈不哀哉陛下龍興闡弘大度謂可聽艾歸葬舊墓還其田宅以平蜀之功繼封其後使艾闔棺定諡死無所恨則天下狗名之士思立功之臣必投湯火樂為陛下死矣帝善其言而未從會帝問給事中樊建以諸葛亮之治蜀曰吾獨不得如亮者而臣之乎建稽首曰陛下知鄧艾之冤而不能直雖得亮得無如馮唐之言乎帝笑曰卿言起我意乃以艾孫朗為郎中。○吳人多言祥瑞者吳主以問侍中韋昭昭曰此家人筐篋中物耳昭領左國史吳主欲為其父作紀昭曰文皇不登極位當為傳不當為紀吳主不悅漸見責怒昭憂懼自陳衰老

求去侍史二官不聽時有疾病醫藥監護持之益恐吳主飲羣臣酒不問能否率以七升為限至昭獨以茶代之後更見偏強又酒後常使侍臣嘲弄公卿發摘私短以為歡時有愆失輒見收縛至於誅戮昭以為外相毀傷內長尤恨使羣臣不睦不為佳事故但難問經義而已吳主以為不奉詔命意不忠盡積前後嫌忿遂收昭付獄昭因獄上辭獻所著書冀以此求免而吳主怪其書垢故更被詰責遂誅昭徙其家於零陵。○五月以何曾領司徒。○六月乙未東海王祗卒。○秋七月丁酉朔日有食之。○詔選公卿以下女備六宮有蔽匿者以不敬論采擇未畢權禁天下嫁娶帝使楊后擇之后惟取潔白長大而捨其美者帝愛卞氏女欲留之后曰卞氏三世后族不可屈以卑位帝怒乃自擇之中選者以絳紗繫臂公卿之女為三夫人九嬪二千石將校女補良人以下。○九月吳主悉封其子弟為十一王王給三千兵大赦。○是歲鄭冲以壽光公罷。○吳主愛姬遣人至市奪民物司市中郎將陳聲素有寵於吳主繩之以法姬愬於吳主吳主怒假它事燒鋸斷聲頭投其身於四望之下。十年春正月乙未日有食之。○閏月癸酉壽光成公鄭冲卒。○丁亥詔曰近世以來多由內寵以登后妃亂尊卑之序自今不得以妾媵為正嫡。○分幽州置平州。○三月癸亥日有食之。○詔又取良家及小將吏女五千人入宮選之母子號哭於宮中聲聞於外。○夏四月己未臨淮康公荀顛卒。○吳左夫人王氏卒吳主哀念數月不出葬送甚盛時何氏以太后故宗族驕橫吳主舅子何都貌類吳主民間訛言吳主已死立者何都也會稽又訛言章安侯奮當為天子奮母仲姬墓在豫章豫章太守張俊為之掃除臨海太守奚熙與會稽太守郭誕書非議國政誕但白熙書不白妖言吳主怒收誕繫獄誕懼功曹邵疇曰疇在明府何憂遂詣吏自列白疇廁身本郡位極朝右以噂啗之語本非事實疾其醜聲不忍聞見欲含垢藏疾不彰之翰墨鎮躁歸靜使之自息故誕屈其所是默以見從此之為愆實由於疇不敢

逃死歸罪有司。因自殺。吳主乃免誕死。送付建安作船。遣其舅三郡督何植收奚熙。熙發兵自守。其部曲殺熙。送首建業。又車裂張俊。皆夷三族。并誅章安侯奮及其五子。○秋七月。丙寅。皇后楊氏殂。初。帝以太子不慧。恐不堪為嗣。常密以訪后。后曰。立子以長。不以賢。豈可動也。鎮軍大將軍胡奮女為貴嬪。有寵於帝。后疾篤。恐帝立貴嬪為后。致太子不安。枕帝膝泣曰。叔父駿女。有德色。願陛下以備六宮。帝流涕許之。○以前太常山濤為吏部尚書。濤典選十餘年。每一官缺。輒擇才資可為者。啓擬數人。得詔旨有所向。然後顯奏之。帝之所用。或非舉首。衆情不察。以濤輕重任意。言之於帝。帝益親愛之。濤甄拔人物。各為題目而奏之。時稱山公啓事。濤薦嵇紹於帝。請以為祕書郎。帝發詔徵之。紹以父康得罪。屏居私門。欲辭不就。濤謂之曰。為君思之久矣。天地四時。猶有消息。況於人乎。紹乃應命。帝以為祕書丞。初。東關之敗。文帝問僚屬曰。近日之事。誰任其咎。安東司馬王儀修之子也。對曰。責在元帥。文帝怒曰。司馬欲委罪孤邪。引出斬之。儀子哀痛。父非命。隱居教授。三徵七辟。皆不就。未嘗西向而坐。廬於墓側。旦夕攀柏悲號。涕淚著樹。樹為之枯。讀詩至哀哀父母。生我劬勞。未嘗不三復流涕。門人為之廢蓼莪。家貧。計口而田。度身而蠶。人或饋之。不受。助之。不聽。諸生密為刈麥。哀輒棄之。遂不仕而終。

臣光曰。昔舜誅鯀而禹事舜。不敢廢至公也。嵇康。王儀。死皆不以其罪。二子不仕晉室。可也。嵇紹苟無蕩陰之忠。殆不免於君子之譏乎。

吳大司馬陸抗疾病。上疏曰。西陵建平。國之蕃表。既處上流。受敵二境。若敵汎舟順流。星奔電邁。非可恃援他部。以救倒懸也。此乃社稷安危之機。非徒封疆侵陵小害也。臣父遜。昔在西垂。上言西陵。國之西門。雖云易守。亦復易失。若有不守。非但失一郡。荆州非吳有也。如其有虞。當傾國爭之。臣前乞屯精兵三萬。而主者循常。未肯差赴。自步關以後。益更損耗。今臣

所統千里外。禦疆對內。懷百蠻。而上下見兵。財有數萬。贏敵日久。難以待變。臣愚以為諸王幼冲。無用兵馬。以防要務。又黃門宦官。開立占募。兵民避役。逋逃入占。乞特詔簡閱。一切料出。以補疆場。受敵常處。使臣所部足滿八萬。省息衆務。并力備禦。庶幾無虞。若其不然。深可憂也。臣死之後。乞以西方為屬。及卒。吳主使其子晏。景。玄。機。雲。分將其兵。機。雲。皆善屬文。名重於世。初。周魴之子處。膂力絕人。不修細行。鄉里患之。處嘗問父老曰。今時和歲豐。而人不多。何邪。父老歎曰。三害不除。何樂之有。處曰。何謂也。父老曰。南山白額虎。長橋蛟。并子為三矣。處曰。若所患止此。吾能除之。乃入山求虎。射殺之。因投水搏殺蛟。遂從機雲受學。篤志讀書。砥節礪行。比及暮年。州府交辟。○八月。戊申。葬元皇后于峻陽陵。帝及羣臣除喪。即吉。博士陳遼議。以為今時所行。漢帝權制。太子無有國事。自宜終服。尚書杜預。以為古者天子諸侯。三年之喪。始同齊斬。既葬除服。諒闇以居。心喪終制。故周公不言高宗服喪三年。而云諒闇。此服心喪之文也。叔向不譏景王除喪。而譏其宴樂已早。明既葬應除。而違諒闇之節也。子之於禮。存諸內而已。禮非玉帛之謂喪。豈衰麻之謂乎。太子出則撫軍。守則監國。不為無事。宜卒哭除衰麻。而以諒闇終三年。帝從之。

臣光曰。規矩主於方圓。然庸工無規矩。則方圓不可得而制也。衰麻主於哀戚。然庸人無衰麻。則哀戚不可得而勉也。素冠之詩。正為是矣。杜預巧飾經傳。以附人情。辯則辯矣。臣謂不若陳遼之言。質略而敦實也。

九月。癸亥。以大將軍陳騫為太尉。○杜預以孟津渡險。請建河橋於富平津。議者以為殷周所都。歷聖賢而不作者。必不可立故也。預固請為之。及橋成。帝從百寮臨會。舉觴屬預曰。非君此橋不立。對曰。非陛下之明。臣亦無所施其巧。○是歲。邵陵厲公曹芳卒。初。芳之廢遷金墉也。太宰中郎陳留范粲。素服拜送。哀動左右。遂稱疾不出。陽狂不言。寢所乘車。足不履地。

子孫有婚宦大事。輒密諮焉。合者則色無變。不合則眠寢不安。妻子以此知其旨。子喬等三人。竝棄學業。絕人事。侍疾家庭。足不出邑里。及帝卽位。詔以二千石祿養病。加賜帛百匹。喬以父疾篤。辭不敢受。祭不言。凡三十六年。年八十四。終於所寢之車。○吳比三年。大疫。咸寧元年。春。正月。戊午朔。大赦。改元。○吳掘地得銀尺。上有刻文。吳主大赦。改元天冊。○吳中書令賀邵。中風不能言。去職數月。吳主疑其詐。收付酒藏。掠考千數。卒無一言。乃燒鋸斷其頭。徙其家屬於臨海。又誅樓玄子孫。○夏。六月。鮮卑拓拔力微。復遣其子沙漠汗入貢。將還。幽州刺史衛瓘。表請留之。又密以金賂其諸部大人。離間之。○秋。七月。甲申晦。日有食之。○冬。十二月。丁亥。追尊宣帝廟曰高祖。景帝曰世宗。文帝曰太祖。○大疫。洛陽死者以萬數。二年。春。令狐豐卒。弟宏繼立。楊欣討斬之。○帝得疾甚劇。及愈。羣臣上壽。詔曰。每念疫氣死亡者。爲之愴然。豈以一身之休息。忘百姓之艱難邪。諸上禮者。皆絕之。初。齊王攸有寵於文帝。每見攸。輒撫牀呼其小字曰。此桃符座也。幾爲太子者數矣。臨終。爲帝叙漢淮南王。魏陳思王事。而泣。執攸手以授帝。太后臨終。亦流涕謂帝曰。桃符性急。而汝爲兄不慈。我若不起。必恐汝不能相容。以是屬汝。勿忘我言。及帝疾甚。朝野皆屬意於攸。攸妃賈充之長女也。河南尹夏侯和。謂充曰。卿二婿親疎等耳。立人當立德。充不答。攸素惡荀勗。及左衛將軍馮統。傾詣勗。乃使統說帝曰。陛下前日。疾若不愈。齊王爲公卿百姓所歸。太子雖欲高讓。其得免乎。宜遣還藩。以安社稷。帝陰納之。乃徙和爲光祿勳。奪充兵權。而位遇無替。○吳施但之亂。或譖京下督孫楷於吳主曰。楷不時赴討。懷兩端。吳主數詰讓之。徵爲宮下鎮驃騎將軍。楷自疑懼。夏。六月。將妻子來犇。拜車騎將軍。封丹陽侯。秋。七月。吳人或言於吳主曰。臨平湖。自漢末歲塞。長老言。此湖塞。天下亂。此湖開。天下平。近無故忽更開通。此天下當太平。青蓋入洛之祥也。吳主以問奉禁都尉歷陽陳訓。對曰。臣止能望氣。不能達湖之開塞。退而告其友。

曰。青蓋入洛者。將有銜璧之事。非吉祥也。或獻小石。刻皇帝字。云得於湖邊。吳主大赦。改元天璽。湘東太守張詠。不出算繹。吳主就在所斬之。狗首諸郡。會稽太守車浚。公清有政績。值郡旱飢。表求振貸。吳主以爲收私恩。遣使梟首。尚書熊睦。微有所諫。吳主以刀環撞殺之。身無完肌。○八月。己亥。以何曾爲太傅。陳騫爲大司馬。賈充爲太尉。齊王攸爲司空。○吳歷陽山有七穿駢羅。穿中黃赤。俗謂之石印。云石印封發。天下當太平。歷陽長上言。石印發。吳主遣使者以太牢祠之。使者作高梯登其上。以朱書石曰。楚九州渚。吳九州都。揚州士作天子。四世治。太平始。還以聞。吳主大喜。封其山神爲王。大赦。改明年元曰天紀。○冬。十月。以汝陰王駿爲征西大將軍。羊祜爲征南大將軍。皆開府辟召。儀同三司。祜上疏請伐吳曰。先帝西平巴蜀。南和吳會。庶幾海內得以休息。而吳復背信。使邊事更興。夫期運雖天所授。而功業必因人而成。不一大舉掃滅。則兵役無時得息也。蜀平之時。天下皆謂吳當并亡。自是以來。十有三年矣。夫謀之雖多。決之欲獨。凡以險阻得全者。謂其執均力敵耳。若輕重不齊。強弱異執。雖有險阻不可保也。蜀之爲國。非不險也。皆云一夫荷戟。千人莫當。及進兵之日。曾無藩籬之限。乘勝席卷。徑至成都。漢中諸城。皆鳥栖而不敢出。非無戰心。誠力不足以相抗也。及劉禪請降。諸營堡索然俱散。今江淮之險。不如劔閣。孫皓之暴。過於劉禪。吳人之困。甚於巴蜀。而大晉兵力。盛於往時。不於此際。平壹四海。而更阻兵相守。使天下困於征戍。經歷盛衰。不可長久也。今若引梁益之兵。水陸俱下。荆楚之衆。進臨江陵。平南豫州。直指夏口。徐揚青兗。竝會秣陵。以一隅之吳。當天下之衆。執分形散。所備皆急。巴漢奇兵。出其空虛。一處傾壞。則上下震蕩。雖有智者。不能爲吳謀矣。吳緣江爲國。東西數千里。所敵者大。無有寧息。孫皓恣情任意。與下多忌。將疑於朝。士困於野。無有保世之計。一定之心。平常之日。猶懷去就。兵臨之際。必有應者。終不能齊力致死。已可知也。其俗急速。不能持久。弓弩戟楯。不如中國。

唯有水戰。是其所便。一入其境。則長江非復所保。還趣城池。去長入短。非吾敵也。官軍縣進。人有致死之志。吳人內顧。各有離散之心。如此。軍不踰時。克可必矣。帝深納之。而朝議方以秦涼為憂。祜復表曰。吳平。則胡自定。但當速濟大功耳。議者多有不同。賈充。苟勗。馮統。尤以伐吳為不可。祜歎曰。天下不如意事。十常居七八。天與不取。豈非更事者恨於後時哉。唯度支尚書杜預。中書令張華。與帝意合。贊成其計。○丁卯。立皇后楊氏。大赦。后。元皇后之從妹也。美而有婦德。帝初聘后。后叔父珣。上表曰。自古一門二后。未有能全其宗者。乞藏此表於宗廟。異日。如臣之言。得以免禍。帝許之。十二月。以后父鎮軍將軍駿。為車騎將軍。封臨晉侯。尚書褚翊。郭奕。皆表。駿小器。不可任。社稷之重。帝不從。駿驕傲自得。胡奮謂駿曰。卿恃女。更益豪邪。歷觀前世。與天家婚。未有不滅門者。但早晚事耳。駿曰。卿女不在天家乎。奮曰。我女與卿女作婢耳。何能為損益乎。

三年春正月丙子朔。日有食之。○立皇子裕為始平王。庚寅。裕卒。○三月。平虜護軍文鴛。督涼秦雍州諸軍。討樹機能。破之。諸胡二十萬口來降。○夏五月。吳將邵顛。夏祥。帥眾七千餘人來降。○秋七月。中山王睦。坐招誘連亡。貶為丹水縣侯。○有星孛于紫宮。○衛將軍楊琰等。建議以為古者封建諸侯。所以藩衛王室。今諸王公。皆在京師。非干城之義。又異姓諸將居邊。宜參以親戚。帝乃詔諸王。各以戶邑多少為三等。大國置三軍。五千人。次國二軍。三千人。小國一軍。一千一百人。諸王為都督者。各徙其國使相近。八月癸亥。徙扶風王亮為汝南王。出為鎮南大將軍。都督豫州諸軍事。琅邪王倫為趙王。督鄴城守事。勃海王輔為太原王。監并州諸軍事。以東莞王伯在徐州。徙封琅邪王。汝陰王駿在關中。徙封扶風王。又徙太原王顥為河間王。汝南王東為南陽王。輔。孚之子。顥。孚之孫也。其無官者。皆遣就國。諸王公戀京師。皆涕泣而去。又封皇子瑋為始平王。允為濮陽王。該為新都王。遐為清河王。其異姓之

臣有大功者。皆封郡公。郡侯。封賈充為魯郡公。追封王沈為博陵郡公。徙封鉅平侯羊祜為南城郡侯。祜固辭不受。祜每拜官爵。常多避讓。至心素著。故特見申於分列之外。祜歷事二世。職典樞要。凡謀議損益。皆焚其草。世莫得聞。所進達之人。皆不知所由。常曰。拜官公朝。謝恩私門。吾所不敢也。○兗豫徐青荆益梁七州大水。○冬十二月。吳夏口督孫慎。入江夏。汝南。略千餘家而去。詔遣侍臣。詰羊祜不追討之意。并欲移荊州。祜曰。江夏去襄陽八百里。比知賊間。賊已去經日。步軍安能追之。勞師以免責。非臣志也。昔魏武帝置都督。類皆與州相近。以兵執好。合惡離故也。疆場之間。一彼一此。慎守而已。若輒徙州。賊出無常。亦未知州之所宜據也。○是歲。大司馬陳騫。自揚州入朝。以高平公罷。○吳主以會稽張儉。多所譖白。甚見寵任。累遷司直中郎將。封侯。其父為山陰縣卒。知儉不良。上表曰。若用儉為司直。有罪。乞不從坐。吳主許之。儉表。置彈曲二十人。專糾司不法。於是吏民各以愛憎。互相告訐。獄犴盈溢。上下囂然。儉大為奸利。驕奢暴橫。事發。父子皆車裂。○衛瓘遣拓拔沙漠汗。歸國。自沙漠汗入質。力微可汗諸子在側者。多有寵。及沙漠汗歸。諸部大人。共譖而殺之。既而力微疾篤。烏桓王庫賢。親近用事。受衛瓘賂。欲擾動諸部。乃羈斧於庭。謂諸大人曰。可汗恨汝曹讒殺太子。欲盡收汝曹長子。殺之。諸大人懼。皆散去。力微以憂卒。時年一百四。子悉祿立。其國遂衰。初。幽并二州。皆與鮮卑接。東有務桓。西有力微。多為邊患。衛瓘密以計間之。務桓降。而力微死。朝廷嘉瓘功。封其弟為亭侯。

四年春正月庚午朔。日有食之。○司馬督東平馬隆。上言。涼州刺史楊欣。失羌戎之和。必敗。○夏六月。欣與樹機能之黨。若羅拔能等。戰于武威。敗死。○弘訓皇后羊氏殂。○羊祜以病求入朝。既至。帝命乘輦入殿。不拜而坐。祜面陳伐吳之計。帝善之。以祜病不宜數入。更遣張華。就問籌策。祜曰。孫皓暴虐已甚。於今可不戰而克。若皓不幸而沒。吳人更立令主。雖有百

萬之衆。長江未可窺也。將爲後患矣。華深然之。祐曰：成吾志者子也。帝欲使祐臥護諸將。祐曰：取吳不必臣行。但既平之後，當勞聖慮耳。功名之際，臣不敢居。若事了，當有所付授。願審擇其人也。○秋七月己丑，葬景獻皇后于峻平陵。○司冀兗豫荊揚州大水，螟傷稼。詔問主者，何以佐百姓度支。尚書杜預上疏，以爲今者水災，東南尤劇。宜敕兗豫等諸州，留漢氏舊陂，繕以蓄水。餘皆決瀝，令飢者盡得魚菜螺蚌之饒。此目下日給之益也。水去之後，溼淤之田，畝收數鍾。此又明年之益也。典牧種牛，有四萬五千餘頭，不供耕駕。至有老不穿鼻者，可分以給民。使及春耕，種穀登之後，責其租稅。此又數年以後之益也。帝從之。民賴其利。預在尚書七年，損益庶政，不可勝數。時人謂之杜武庫。言其無所不有也。○九月，以何曾爲太宰。辛巳，以侍中尚書令李胤爲司徒。○吳主忌勝己者，侍中中書令張尙絃之孫也。爲人辯捷，談論每出其表。吳主積以致恨。後問孤飲酒，可以方誰。尙曰：陛下有百觚之量。吳主曰：尙知孔丘不王，而以孤方之。因發怒，收尙公卿已下百餘人，詣宮叩頭，請尙罪，得減死。送建安作船，尋就殺之。○冬十月，徵征北大將軍衛瓘爲尙書令。是時，朝野咸知太子昏愚，不堪爲嗣。瓘每欲陳啓而未敢發。會侍宴陵雲臺，瓘陽醉，跪帝牀前曰：臣欲有所啓。帝曰：公所言何邪。瓘欲言而止者三。因以手撫牀曰：此座可惜。帝意悟，因謬曰：公真大醉邪。瓘於此不復有言。帝悉召東宮官屬爲設宴會，而密封尙書疑事，令太子決之。賈妃大懼，倩外人代對。多引古義，給使張泓曰：太子不學。陛下所知而答詔多引古義，必責作草主，更益譴負，不如直以意對。妃大喜，謂泓曰：便爲我好答。富貴與汝共之。泓卽具草，令太子自寫。帝省之甚悅。先以示瓘。瓘大踴躍。衆人乃知瓘嘗有言也。賈充密遣人語妃云：衛瓘老奴，幾破汝家。○吳人大佃皖城，欲謀入寇。都督揚州諸軍事王渾遣揚州刺史應綽攻破之，斬首五千級，焚其積穀百八十餘萬斛。踐稻田四千餘頃，毀船六百餘艘。○十一月辛巳，太醫司馬程據獻雉頭裘。帝焚

之於殿前。甲申，敕內外敢有獻奇技異服者，罪之。○羊祜疾篤，舉杜預自代。辛卯，以預爲鎮南大將軍，都督荊州諸軍事。祜卒，帝哭之甚哀。是日大寒，涕淚霑鬢，皆爲冰。祜遺令不得以南城侯印入樞。帝曰：祜固讓歷年，身沒讓存。今聽復本封，以彰高美。南州民聞祜卒，爲之罷市，巷哭聲相接。吳守邊將士亦爲之泣。祜好遊峴山，襄陽人建碑立廟於其地。歲時祭祀，望其碑者無不流涕。因謂之愷淚碑。杜預至鎮，簡精銳襲吳西陵督張政，大破之。政，吳之名將也。恥以無備取敗，不以實告吳主。預欲問之，乃表還其所獲。吳主果召政還，遣武昌監留憲代之。○十二月丁未，朗陵公何曾卒。曾厚自奉養，過於人主。司隸校尉東萊劉毅數劾奏曾侈汰無度。帝以其重臣，不問及卒。博士新興秦秀議曰：曾驕奢過度，名被九域。宰相大臣人之表儀，若生極其情，死又無貶。王公貴人復何畏哉。謹按諡法，名與實爽曰繆。怙亂肆行曰醜。宜諡醜繆公。帝策諡曰孝。前司隸校尉傅玄卒。玄性峻急，每有奏劾，或值日暮，捧白簡整簪帶，竦踊不寐，坐而待旦。由是貴游震懾。臺閣生風。玄與尙書左丞博陵崔洪善。洪亦清厲骨鯁，好面折人過，而退無後言。人以是重之。○鮮卑樹機能久爲邊患，僕射李熹請發兵討之。朝議皆以爲出兵重事，虜不足憂。五年春正月，樹機能攻陷涼州。帝甚悔之。臨朝而歎曰：誰能爲我討此虜者。司馬督馬隆進曰：陛下能任臣，臣能平之。帝曰：必能平賊，何爲不任。顧方略何如耳。隆曰：臣願募勇士三千人，無問所從來，帥之以西。虜不足平也。帝許之。乙丑，以隆爲討虜護軍。武威太守公卿皆曰：見兵已多，不宜橫設賞募。隆小將，妄言不足信也。帝不聽。隆募能引弓四鈞，挽弩九石者，取之立標簡試。自旦至日中，得三千五百人。隆曰：足矣。又請自至武庫，選仗。武庫令與隆忿爭。御史中丞劾奏隆。隆曰：臣當畢命戰場。武庫令乃給以魏時朽仗。非陛下所以使臣之意也。帝命惟隆所取，仍給三年軍資而遣之。○初，南單于呼厨泉以兄於扶羅子豹爲左賢王。及

魏武帝分匈奴爲五部。以豹爲左部帥。豹子淵。幼而雋異。師事上黨崔游。博習經史。嘗謂同門生上黨朱紀。雁門范隆曰。吾常恥隨陸無武。絳灌無文。隨陸遇高帝。而不能建封侯之業。絳灌遇文帝。而不能興庠序之教。豈不惜哉。於是兼學武事。及長。猿臂善射。膂力過人。姿貌魁偉。爲任子在洛陽。王渾及子濟。皆重之。屢薦於帝。帝召與語。悅之。濟曰。淵有文武長才。陛下任也。及涼州覆沒。帝問將於李熹。對曰。陛下誠能發匈奴五部之衆。假劉淵一將軍之號。使將之而西。樹機能之首。可指日而梟也。孔恂曰。淵果梟樹機能。則涼州之患。方更深耳。帝乃止。東萊王彌。家世二千石。彌有學術。勇略。善騎射。青州人。謂之飛豹。處士陳留董養。見而謂之曰。君好亂樂禍。若天下有事。不作士大夫矣。淵與彌友善。謂彌曰。王李以鄉曲見知。每相稱薦。適足爲吾患耳。因歔歔流涕。齊王攸聞之。言於帝曰。陛下不除劉淵。臣恐并州不得久安。王渾曰。大晉方以信懷殊俗。奈何以無形之疑。殺人侍子乎。何德度之不弘也。帝曰。渾言是也。會豹卒。以淵代爲左部帥。○夏四月。大赦。○除部曲督以下質任。○吳桂林太守修允卒。其部曲應分給諸將。督將郭馬。何典。王族等。累世舊軍。不樂離別。會吳主料實廣州戶口。馬等因民心不安。聚衆攻殺廣州督虞授。馬自號都督交廣二州諸軍事。使典攻蒼梧。族攻始興。秋八月。吳以軍師張悌爲丞相。牛渚部督何植爲司徒。執金吾滕修爲司空。未拜。更以修爲廣州牧。帥萬人從東道討郭馬。馬殺南海太守劉略。逐廣州刺史徐旗。吳主又遣徐陵督陶潛將七千人從西道與交州牧陶璜共擊馬。○吳有鬼目菜。生工人黃耆家。有買菜。生工人吳平家。東觀案圖書名鬼目曰芝草。買菜曰平慮草。吳主以耆爲侍芝郎。平爲平慮郎。皆銀印青綬。吳主每宴羣臣。咸令沈醉。又置黃門郎十人爲司過。宴罷之後。各奏其闕失。迂視謬言。罔有不舉。大者卽加刑戮。小者記錄爲罪。或剝人面。或鑿人眼。由是上下離心。莫爲

盡力。益州刺史王濬上疏曰。孫皓荒淫凶逆。宜速征伐。若一旦皓死。更立賢主。則疆敵也。臣作船七年。日有朽敗。臣年七十。死亡無日。三者一乖。則難圖也。誠願陛下無失事機。帝於是決意伐吳。會安東將軍王渾表孫皓欲北上。邊戍皆戒嚴。朝廷乃更議。明年出師。王濬參軍何攀奉使在洛。上疏稱皓必不敢出。宜因戒嚴掩取。甚易。杜預上表曰。自閏月以來。賊但敕嚴。下無兵上。以理執推之。賊之窮計。力不兩完。必保夏口。以東以延視息。無緣多兵西上。空其國都。而陛下過聽。便用委奔大計。縱敵患生。誠可惜也。嚮使舉而有敗。勿舉可也。今事爲之制。務從完牢。若或有成。則開太平之基。不成。不過費損日月之間。何惜而不一試之。若當須後年。天時人事不得若常。臣恐其更難也。今有萬安之舉。無傾敗之慮。臣心實了。不數以曖昧之見。自取後累。惟陛下察之。旬月未報。預復上表曰。羊祜不先博謀於朝臣。而密與陛下共施此計。故益令朝臣多異同之議。凡事當以利害相校。今此舉之利。十有八九。而其害一二。止於無功耳。必使朝臣言破敗之形。亦不可得。直是計不出己。功不在身。各恥其前言之失。而固守之也。自頃朝廷事無大小。異意鋒起。雖人心不同。亦由恃恩不慮後患。故輕相異同也。自秋已來。討賊之形頗露。今若中止。孫皓或怖而生計。徙都武昌。更完修江南諸城。遠其居民。城不可攻。野無所掠。則明年之計。或無所及矣。帝方與張華圍碁。預表適至。華推枰斂手曰。陛下聖武。國富兵彊。吳主淫虐。誅殺賢能。當今討之。可不勞而定。願勿以爲疑。帝乃許之。以華爲度支尚書。量計運漕。賈充。荀勗。馮統。固爭之。帝大怒。充免冠謝罪。僕射山濤退而告人曰。自非聖人。外寧必有內憂。今釋吳爲外懼。豈非算乎。冬十一月。大舉伐吳。遣鎮軍將軍琅邪王伷出涂中。安東將軍王渾出江西。建威將軍王戎出武昌。平南將軍胡奮出夏口。鎮南大將軍杜預出江陵。龍驤將軍王濬。巴東監軍魯國唐彬。下巴蜀。東西凡二十餘萬。命賈充爲使持節假黃鉞大都督。以冠軍將軍楊濟副之。充固陳伐吳不利。且自言衰老。

不堪元帥之任。詔曰：君若不行，吾便自出，充不得已，乃受節鉞，將中軍南屯襄陽，為諸軍節度。○馬隆西度，溫水樹機能等以衆數萬，據險拒之。隆以山路陝隘，乃作扁箱車，為木屋，施於車上，轉戰而前，行千餘里，殺傷甚衆。自隆之西，晉問斷絕，朝廷憂之，或謂已沒。後隆使夜到，帝撫掌歡笑，詰朝召羣臣，謂曰：若從諸卿言，無涼州矣。乃詔假隆節，拜宣威將軍，隆至武威，鮮卑大人猝跋韓且萬能帥萬餘落來降。十二月，隆與樹機能大戰，斬之。涼州遂平。○詔問朝臣以政之損益，司徒左長史傅咸上書，以為公私不足，由設官太多，舊都督有四，今并監軍，乃盈於十，禹分九州，今之刺史幾向一倍，戶口比漢十分之一，而置郡縣更多，虛立軍府，動有百數，而無益宿衛，五等諸侯，坐置官屬，諸所廩給，皆出百姓，此其所以困乏者也。當今之急，在於并官息役，上下務農而已。咸玄之子也。時又議省州郡縣半吏，以赴農功。中書監荀勗以為省吏不如省官，省官不如省事，省事不如清心。昔蕭曹相漢，載其清靜，民以寧一，所謂清心也。抑浮說，簡文案，略細苛，有小失，有好變，常以微利者，必行其誅，所謂省事也。以九寺併尚書，蘭臺付三府，所謂省官也。若直作大例，凡天下之吏皆減其半，恐文武衆官郡國職業，劇易不同，不可以一槩施之。若有曠闕，皆須臾復，或激而滋繁，亦不可不重也。

資治通鑑卷第八十

資治通鑑卷第八十一

晉紀三

世祖武皇帝中

太康元年春正月，吳大赦。○杜預向江陵，王渾出橫江，攻吳鎮戍，所向皆克。二月，戊午，王濬唐彬擊破丹陽監盛紀，吳人於江積要害之處，竝以鐵鎖橫截之。又作鐵錐，長丈餘，暗置江中，以逆拒舟艦。濬作大筏數十，方百餘步，縛草為人，被甲持仗，令善水者，以筏先行，遇鐵錐，雖輒著筏而去。又作大炬，長十餘丈，大數十圍，灌以麻油，在船前，遇鎖，然炬燒之，須臾融液斷絕。於是船無所礙。庚申，濬克西陵，殺吳都督留憲等。壬戌，克荆門夷道二城，殺夷道監陸晏。杜預遣牙門周旨等帥奇兵八百，汎舟夜渡江，襲樂鄉，多張旗幟，起火巴山。吳都督孫歆懼，與江陵督伍延書曰：北來諸軍，乃飛渡江也。旨等伏兵樂鄉城外，歆遣軍出拒。王濬大敗而還。旨等發伏兵，隨歆軍而入，歆不覺，直至帳下，虜歆而還。乙丑，王濬擊殺吳水軍都督陸景。杜預進攻江陵，甲戌，克之。斬伍延。於是沅湘以南，接于交廣，州郡皆望風送印綬。預杖節稱詔而綏撫之。凡所斬獲，吳都督監軍十四，牙門郡守百二十餘人。胡奮克江安，乙亥，詔王濬唐彬既定巴丘，與胡奮王戎共平夏口。武昌順流長，直造秣陵。杜預當鎮靜，零桂懷輯衡陽。大兵既過，荊州南境固當傳檄而定。預等各分兵，以益濬彬。太尉充移屯項，王戎遣參軍襄陽羅尚南陽劉喬將兵與王濬合攻武昌。吳江夏太守劉朗督武昌諸軍，虞尚皆降。尚翻之子也。杜預與衆軍會議，或曰：百年之寇，未可盡克。方春水生，難於久駐，宜俟來冬，更為

大舉。預曰：昔樂毅藉濟西一戰，以并疆齊。今兵威已振，譬如破竹，數節之後，皆迎刃而解，無復著手處也。遂指授羣帥方略，徑造建業。吳主聞王渾南下，使丞相張悌督丹陽太守沈瑩、護軍孫震、副軍師諸葛靚、帥衆三萬渡江逆戰。至牛渚，沈瑩曰：晉治水軍於蜀久矣，上流諸軍素無戒備，名將皆死，幼小當任，恐不能禦也。晉之水軍必至於此，宜畜衆力以待其來，與之一戰。若幸而勝之，江西自清。今渡江與晉大軍戰，不幸而敗，則大事去矣。悌曰：吳之將亡，賢愚所知，非今日也。吾恐蜀兵至此，衆心駭懼，不可復整。及今渡江，猶可決戰。若其敗喪，同死社稷，無所復恨。若其克捷，北敵奔走，兵執萬倍，便當乘勝南上，逆之中道，不憂不破也。若如子計，恐士衆散盡，坐待敵到，君臣俱降，無一人死難者，不亦辱乎？三月，悌等濟江，圍渾部。將城陽都尉張喬於楊荷，喬衆纔七千，閉柵請降。諸葛靚欲屠之，悌曰：疆敵在前，不宜先事其小，且殺降不祥。靚曰：此屬以救兵未至，力少不敵，故且僞降以緩我，非真伏也。若捨之而前，必爲後患。悌不從，撫之而進。悌與揚州刺史汝南周浚結陳相對，沈瑩帥丹陽銳卒，刀楯五千，三衝晉兵，不動。瑩引退，其衆亂，將軍薛勝、蔣班因其亂而乘之。吳兵以次奔潰，將帥不能止。張喬自後擊之，大敗吳兵于版橋。諸葛靚帥數百人遁去，使過迎張悌，悌不肯去，靚自往牽之，曰：存亡自有大數，非卿一人所支，奈何故自取死？悌垂涕曰：仲思，今日是我死日也。且我爲兒童時，便爲卿家丞相所識拔，常恐不得其死，負名賢知顧。今以身殉社稷，復何道邪？靚再三牽之，不動。乃流淚放去。行百餘步，顧之，已爲晉兵所殺。并斬孫震、沈瑩等七千八百級。吳人大震。初，詔書使王濬下建業，受杜預節度。至建業，受王渾節度。預至江陵，謂諸將曰：若濬得建平，則順流長驅，威名已著，不宜令受制于我。若不能克，則無緣得施節度。濬至西陵，預與之書曰：足下既摧其西藩，便當徑取建業。討累世之逋寇，釋吳人於塗炭，振旅還都，亦曠世一事也。濬大悅，表陳預書及張悌敗死。揚州別駕何惲謂周浚曰：張悌舉全吳精兵

殄滅於此，吳之朝野莫不震懼。今王龍驤既破武昌，乘勝東下，所向輒克，土崩之勢見矣。謂宜速引兵渡江，直指建業。大軍猝至，奪其膽氣，可不戰禽也。浚善其謀，使白王渾。渾曰：渾闔於事機，而欲慎，已免咎，必不我從。浚固使白之。渾果曰：受詔，但令屯江北，以抗吳軍，不使輕進。貴州雖武，豈能獨平江東乎？今者違命，勝不足多，若其不勝，爲罪已重。且詔令龍驤受我節度，但當具君舟楫，一時俱濟耳。渾曰：龍驤克萬里之寇，以既成之功，來受節度，未之聞也。且明公爲上將，見可而進，豈得一須詔令乎？今乘此渡江，十全必克，何疑何慮，而淹留不進？此鄙州上下所以恨恨也。渾不聽。王濬自武昌順流，徑趣建業。吳主遣遊擊將軍張象、帥舟師萬人禦之。象衆望旗而降。濬兵甲滿江，旌旗燭天，威執甚盛。吳人大懼。吳主之嬖臣岑昏以傾險諛佞，致位九列，好興功役，爲衆患苦。及晉兵將至，殿中親近數百人，叩頭請於吳主曰：北軍日近，而兵不舉刃，陛下將如之何？吳主曰：何故？對曰：正坐岑昏耳。吳主獨言，若爾，當以奴謝百姓。衆因曰：唯遂竝起收昏，吳主駭駭，追止，已屠之矣。陶濬將討郭馬，至武昌，聞晉兵大入，引兵東還。至建業，吳主引見，問水軍消息。對曰：蜀船皆小，今得二萬兵，乘大船以戰，自足破之。於是合衆授濬節，明日當發。其夜，衆悉逃潰。時王渾、王濬及琅邪王伧皆臨近境。吳司徒何植、建威將軍孫晏悉送印節，詣渾降。吳主用光祿勳薛瑩中書令胡冲等計，分遣使者奉書於渾、濬，以請降。又遣其羣臣書，深自咎責。且曰：今大晉平治四海，是英俊展節之秋，勿以移朝改朔，用損厥志。使者先送璽綬於琅邪王伧。壬寅，王濬舟師過三山，王渾遣信要濬，璽過論事。濬舉帆，直指建業。報曰：風利，不得泊也。是日，濬戎卒八萬，方舟百里，鼓譟入于石頭。吳主皓面縛輿櫬，詣軍門降。濬解縛焚櫬，延請相見，收其圖籍。克州四郡，四十萬戶，五十二萬三千兵，二十三萬。朝廷聞吳已平，羣臣皆賀。上壽，帝執爵流涕曰：此羊太傅之功也。票騎將軍孫秀不賀，南向流涕曰：昔討逆，弱冠以一校尉創業。今後主，舉江南而棄

之宗廟山陵於此爲墟。悠悠蒼天，此何人哉！吳之未下也，大臣皆以爲未可輕進。獨張華堅執以爲必克，賈充上表稱吳地未可悉定。方夏江淮下濕，疾疫必起，宜召諸軍還，以爲後圖。雖腰斬張華，不足以謝天下。帝曰：此是吾意。華但與吾同耳。苟易復奏，宜如充表。帝不從。杜預聞充奏，乞罷兵，馳表固爭，使至轅轅，而吳已降。充慚懼，詣闕請罪。帝撫而不問。夏四月甲申，詔賜孫皓爵歸命侯，乙酉大赦，改元大酺五日。遣使者分詣荆揚，撫慰吳牧守已下，皆不更易。除其苛政，悉從簡易。滕脩討郭馬，未克，聞晉伐吳，帥衆赴難。至巴丘，聞吳亡，縞素流涕。還與廣州刺史閻豐、蒼梧太守王毅各送印綬請降。孫皓遣陶璜之子融持手書諭璜，璜流涕數日。亦送印綬降。帝皆復其本職。王濬之東下也，吳城戍皆望風歛附。獨建平太守吾彥嬰城不下。聞吳亡，乃降。帝以彥爲金城太守。初，朝廷尊寵孫秀，孫楷欲以招來吳人。及吳亡，降秀爲伏波將軍，楷爲渡遼將軍。琅邪王伧遣使送孫皓及其宗族詣洛陽。五月丁亥朔，皓至，與其太子瑾等泥頭面縛詣東陽門。詔遣謁者解其縛，賜衣服車乘，田三十頃，歲給錢穀綿絹甚厚。拜瑾爲中郎，諸子爲王者皆爲郎中。吳之舊望隨才擢叙。孫氏將吏渡江者，復十年。百姓復二十年。庚寅，帝臨軒大會，文武有位及四方使者、國子學生皆預焉。引見歸命侯皓及吳降人。皓登殿稽顙，帝謂皓曰：朕設此座以待卿久矣。皓曰：臣於南方亦設此座以待陛下。賈充謂皓曰：聞君在南方，鑿人目，剝人面皮，此何等刑也。皓曰：人臣有弑其君及姦回不忠者，則加此刑耳。充默然甚愧。而皓顏色無怍。帝從容問散騎常侍薛瑩：孫皓所以亡，對曰：皓昵近小人，刑罰放濫，大臣諸將人不自保，此所以亡也。它日又問吾彥對曰：吳主英俊，宰輔賢明，帝笑曰：若是何故亡？彥曰：天祿永終，歷數有屬，故爲陛下禽耳。帝善之。王濬之入建業也，其明日王渾乃濟江，以濬不待己至，先受孫皓降，意甚愧忿。將攻濬，何攀勸濬送皓與渾，由是事得解。何憚以渾與濬爭功，與周浚牋曰：書貴克讓，易大謙光。前破張悝，吳人失

氣，龍驤因之陷其區宇，論其前後，我實緩師，既失機會，不及於事，而今方競其功，彼既不吞聲，將虧雍穆之弘，興矜爭之鄙，斯實愚情之所不取也。浚得牋，即諫止渾。渾不納，表濬違詔不受節度，誣以罪狀。渾子濟尚常山公主宗黨彊盛，有司奏請檻車徵濬，帝弗許。但以詔書責讓濬，以不從渾命，違制昧利。濬上書自理曰：前被詔書，令臣直造秣陵，又令受太尉充節度。臣以十五日，至三山，見渾軍在北岸，遣書邀臣。臣水軍風發，徑造賊城，無緣迴船過渾。臣以日中至秣陵，暮乃被渾所下當受節度之符，欲令臣明十六日悉將所領還圍石頭。又索蜀兵及鎮南諸軍人名定見。臣以爲皓已來降，無緣空圍石頭。又兵人定見，不可倉猝得就，皆非當今之急，不可承用。非敢忽弃明制也。皓衆叛親離，匹夫獨坐，雀鼠貪生，苟乞一活耳。而江北諸軍不知虛實，不早縛取，自爲小誤。臣至便得，更見怨恚，竝云守賊百日，而令他人得之。臣愚以爲事君之道，苟利社稷，死生以之。若其顧嫌疑，以避咎責，此是人臣不忠之利。實非明主社稷之福也。渾又騰周浚書云：濬軍得吳寶物，又云濬牙門將李高放火燒皓，僞宮濬復表曰：臣孤根獨立，結恨疆宗，夫犯上干主，其罪可救。乖忤貴臣，禍在不測。僞中郎將孔據說去二月，武昌失守，水軍行至，皓案行石頭還，左右人皆跳刀大呼云：要當爲陛下死戰決之。皓意大喜，意必能然，便盡出金寶以賜與之。小人無狀，得便馳走。皓懼，乃圖降首。降使適去，左右劫奪財物，略取妻妾，放火燒宮。皓逃身竄首，恐不脫死。臣至，遣參軍主者救斷其火耳。周浚先入皓宮，渾又先登皓舟。臣之入觀，皆在其後。皓宮之中，乃無席可坐。若有遺寶，則浚與渾先得之矣。浚等云：臣屯聚蜀人，不時送皓，欲有反狀。又恐動吳人言，臣皆當誅殺。取其妻子，翼其作亂，得騁私忿，謀反大逆。尚以見加，其餘謗嗜，故其宜耳。今年平吳，誠爲大慶。於臣之身，更受咎累。濬至京師，有司奏濬違詔大不敬，請付廷尉科罪。詔不許。又奏濬赦後燒賊船百三十五艘，輒敕付廷尉禁推，詔勿推。渾濬爭功不已，帝命守廷尉廣陵劉

頌校其事以渾爲上功。濬爲中功。帝以頌折法失理。左遷京兆太守。庚辰。增賈充邑八千戶。以王濬爲輔國大將軍。封襄陽縣侯。杜預爲當陽縣侯。王戎爲安豐縣侯。封琅邪王。荀勗以專典詔命。功封一子爲亭侯。其餘諸將及公卿以下。賞賜各有差。帝以平吳功。策告羊祜廟。乃封其夫人夏侯氏爲萬歲鄉君。食邑五千戶。王濬自以功大。而爲渾父子及黨與所挫抑。每進見。陳其攻伐之勞。及見枉之狀。或不勝忿憤。徑出不辭。帝每容恕之。益州護軍范通謂濬曰。卿功則美矣。然恨所以居美者。未盡善也。卿旋旆之日。角巾私第。口不言平吳之事。若有問者。則曰。聖人之德。羣帥之力。老夫何力之有。此蘭生所以屈廉頗也。王渾能無愧乎。濬曰。吾始懲鄧艾之事。懼禍及身。不得無言。其終不能遣諸曾中。是吾褊也。時人咸以濬功重報輕。爲之憤邑。博士秦秀等竝上表。訟濬之屈。帝乃遷濬鎮軍大將軍。王渾嘗詣濬。濬嚴設備衛。然後見之。杜預還襄陽。以爲天下雖安。忘戰必危。乃勤於講武。申嚴戍守。又引澗涓水。以浸田萬餘頃。開楊口。通零桂之漕。公私賴之。預身不跨馬。射不穿札。而用兵制勝。諸將莫及。預在鎮。數餉遺洛中。貴要或問其故。預曰。吾但恐爲害。不求益也。王渾遷征東大將軍。復鎮壽陽。諸葛靚逃竄不出。帝與靚有舊。靚姊爲琅邪王妃。帝知靚在姊間。因就見焉。靚逃于廁。帝又逼見之。謂曰。不謂今日復得相見。靚流涕曰。臣不能漆身皮面。復覩聖顏。誠爲慙恨。詔以爲侍中。固辭不拜。歸于鄉里。終身不向朝廷而坐。○六月。復封丹水侯陸爲高陽王。○秋。八月。己未。封皇弟延祚爲樂平王。尋薨。○九月。庚寅。賈充等以天下一統。屢請封禪。帝不許。○冬。十月。前將軍青州刺史淮南胡威卒。威爲尙書。嘗諫時政之寬。帝曰。尙書郎以下。吾無所假借。威曰。臣之所陳。豈在丞郎令史。正謂如臣等輩。始可以肅化明法耳。○是歲。以司隸所統郡置司州。凡州十九。郡國一百七十三。戶二百四十五萬九千八百四十。○詔

曰。昔自漢末。四海分崩。刺史內親民事。外領兵馬。今天下爲一。當罷罷干戈。刺史分職。皆如漢氏故事。悉去州郡兵。大郡置武吏百人。小郡五十人。交州牧陶瑣上言。交廣東西數千里。不賓屬者六萬餘戶。至於服從。役纔五千餘家。二州唇齒。唯兵是鎮。又寧州諸夷。接壤上流。水陸竝通。州兵未宜約損。以示單虛。僕射山濤亦言。不宜去州郡武備。帝不聽。及永寧以後。盜賊蜂起。州郡無備。不能禽制。天下遂大亂。如濤所言。然其後。刺史復兼兵民之政。州鎮愈重矣。○漢魏以來。羌胡鮮卑降者。多處之塞內。諸郡其後。數因忿恨。殺害長吏。深爲民患。侍御史西河郭欽上疏曰。戎狄彊獷。歷古爲患。魏初民少。西北諸郡。皆爲戎居。內及京兆。魏郡弘農。往往有之。今雖服從。若百年之後。有風塵之警。胡騎自平陽上黨。不三日而至孟津。北地西河太原馮翊安定上郡。盡爲狄庭矣。宜及平吳之威。謀臣猛將之略。漸徙內郡雜胡於邊地。峻四夷出入之防。明先王荒服之制。此萬世之長策也。帝不聽。二年春。三月。詔選孫皓宮人五千人入宮。帝既平吳。頗事遊宴。怠於政事。掖庭殆將萬人。常乘羊車。恣其所之。至便宴寢。宮人競以竹葉挿戶。鹽汁灑地。以引帝車。而后父楊駿及弟珧濟始用事。交通請謁。執傾內外。時人謂之三楊。舊臣多被疎退。山濤數有規諷。帝雖知而不能改。○初。鮮卑莫護跋始自塞外入居遼西棘城之北。號曰慕容部。莫護跋生木延。木延生涉歸。遷於遼東之北。世附中國。數從征討有功。拜大單于。冬。十月。涉歸始寇昌黎。○十一月。壬寅。高平武公陳騫薨。○是歲。揚州刺史周浚移鎮秣陵。吳民之未服者。屢爲寇亂。浚皆討平之。賓禮故老。搜求俊乂。威惠竝行。吳人悅服。三年春。正月。丁丑朔。帝親祀南郊。禮畢。喟然問司隸校尉劉毅曰。朕可方漢之何帝。對曰。桓靈。帝曰。何至於此。對曰。桓靈賣官。錢入官庫。陛下賣官。錢入私門。以此言之。殆不如也。帝大笑曰。桓靈之世。不聞此言。今朕有直臣。固爲勝之。毅爲司隸。糾繩豪貴。無所顧忌。皇太子鼓吹

入東掖門。毅劾奏之。中護軍散騎常侍羊琇與帝有舊恩。典禁兵。豫機密。十餘年。恃寵驕侈。數犯法。毅劾奏琇罪當死。帝遣齊王攸。私請琇於毅。毅許之。都官從事廣平程衛。徑馳入護軍營。收琇屬吏。考問陰私。先奏琇所犯狼藉。然後言於毅。帝不得已。免琇官。未幾。復使以白衣領職。琇景獻皇后之從父弟也。後將軍王愷。文明皇后之弟也。散騎常侍石崇。苞之子也。三人皆富於財。競以奢侈相高。愷以粉。澳。釜。崇以蠟。代薪。愷作紫絲步障四十里。崇作錦步障五十里。崇塗屋以椒。愷用赤石脂。帝每助愷。嘗以珊瑚樹賜之。高二尺許。愷以示石崇。崇便以鐵如意碎之。愷怒。以爲疾。己之寶。崇曰。不足多恨。今還卿。乃命左右。悉取其家珊瑚樹。高三四尺者六七株。如愷比者甚衆。愷怏然自失。車騎司馬傅咸。上書曰。先王之治天下。食肉衣帛。皆有其制。竊謂奢侈之費。甚於天災。古者人稠地狹。而有儲蓄。由於節也。今者土廣人稀。而患不足。由於奢也。欲人崇儉。當詰其奢。奢不見詰。轉相高尚。無有窮極矣。○尚書張華。以文學才識名重一時。論者皆謂華宜爲三公。中書監荀勗。侍中馮紇。以伐吳之謀。深疾之。會帝問華。誰可託後事者。華對以明德至親。莫如齊王。由是忤旨。勗因而譖之。甲午。以華都督幽州諸軍事。華至鎮。撫循夷夏。譽望益振。帝復欲徵之。馮紇侍帝。從容語及鍾會。紇曰。會之反。頗由太祖。帝變色曰。卿是何言邪。紇免冠謝曰。臣聞善御者。必知六轡緩急之宜。故孔子以仲由兼人而退之。冉求退弱而進之。漢高祖尊寵五王。而夷滅光武。抑損諸將。而克終。非上有仁暴之殊。下有愚智之異也。蓋抑揚與奪。使之然耳。鍾會才智有限。而太祖誇獎無極。居以重執。委以大兵。使會自謂算無遺策。功在不賞。遂構凶逆。耳。向令太祖錄其小能。節以大禮。抑之以威。權納之以軌。則亂心無由生矣。帝曰。然。紇稽首曰。陛下既然。臣之言宜。思堅冰之漸。勿使如會之徒。復致傾覆。帝曰。當今豈復有如會者邪。紇因屏左右而言曰。陛下謀畫之臣。著大功于天下。據方鎮。總戎馬者。皆在陛下。聖慮矣。帝默然。由是止不徵華。

○三月。安北將軍嚴詢。敗慕容涉歸於昌黎。斬獲萬計。○魯公賈充老病。上遣皇太子。省視起居。充自憂。諡傳從子模曰。是非久自見。不可掩也。夏。四月。庚午。充薨。世子黎民早卒。無嗣。妻郭槐。欲以充外孫韓謐爲世孫。郎中令韓咸。中尉曹軫。諫曰。禮。無異姓爲後之文。今而行之。是使先公受譏於後世。而懷愧於地下也。槐不聽。咸等上書。求改立嗣。事寢不報。槐遂表陳之。云。充遺意。帝許之。仍詔。自非功如太宰。始封無後者。皆不得以爲比。及太常議諡。博士秦秀曰。充悖禮溺情。以亂大倫。昔鄧養。外孫莒公子。爲後。春秋書莒人滅鄧。絕父祖之血食。開朝廷之亂原。案諡法。昏亂紀度曰荒。請諡荒公。帝不從。更諡曰武。○閏月。丙子。廣陸成侯李胤薨。○齊王攸。德望日隆。荀勗。馮紇。楊珧。皆惡之。紇言於帝曰。陛下詔諸侯之國。宜從親者。始親者。莫如齊王。今獨留京師。可乎。勗曰。百僚內外。皆歸心齊王。陛下萬歲後。太子不得立矣。陛下試詔齊王之國。必舉朝以爲不可。則臣言驗矣。帝以爲然。冬。十二月。甲申。詔曰。古者九命作伯。或入毗朝政。或出御方嶽。其揆一也。侍中司空齊王攸。佐命立勳。劬勞王室。其以爲大司馬。都督青州諸軍事。侍中如故。仍加崇典禮。主者詳案舊制。施行。以汝南王亮。爲太尉。錄尚書事。領太子太傅。光祿大夫。山濤爲司徒。尚書令衛瓘爲司空。征東大將軍王渾。上書。以爲攸至親。盛德。侔於周公。宜贊皇朝。與聞政事。今出攸之國。假以都督虛號。而無典戎幹方之實。虧友于歎篤之義。懼非陛下追述先帝文明太后待攸之宿意也。若以同姓寵之大厚。則有吳楚逆亂之謀。漢之呂霍王氏。皆何人也。歷觀古今。苟事之輕重所在。無不爲害。唯當任正道。而求忠良耳。若以智計猜物。雖親見疑。至于疏者。庸可保乎。愚以爲太子太保缺。宜留攸居之。與汝南王亮。楊珧。共幹朝事。三人齊位。足相持正。既無偏重。相傾之執。又不失親親仁覆之恩。計之盡善者也。於是扶風王駿。光祿大夫李熹。中護軍羊琇。侍中王濟。甄德。皆切諫。帝並不從。濟使其妻常山公主。及德妻長廣公主。俱入。稽顙涕泣。請帝留攸。帝怒。

謂侍中王戎曰。兄弟至親。今出齊王。自是朕家事。而甄德。王濟。連遣婦來。生哭人邪。乃出濟。爲國子祭酒。德爲大鴻臚。羊琇與北軍中候成粲。謀見楊珧。手刃殺之。珧知之。辭疾不出。諷有司奏琇。左遷太僕。琇憤怨發病卒。李憲亦以年老遜位。卒於家。憲在朝。姻親故人。與之分衣共食。而未嘗私以王官人以此稱之。○是歲。散騎常侍薛瑩卒。或謂吳郡陸喜曰。瑩於吳士。當爲第一乎。喜曰。瑩在四五之間。安得爲第一。夫以孫皓無道。吳國之士。沈默其體。潛而勿用者。第一也。避尊居卑。祿以代耕者。第二也。侃然體國。執正不懼者。第三也。斟酌時宜。時獻微益者。第四也。溫恭脩慎。不爲諂首者。第五也。過此以往。不足復數。故彼上士。多淪沒而遠悔吝。中士有聲位而近禍殃。觀瑩之處。身本末。又安得爲第一乎。

四年春正月甲申。以尙書右僕射魏舒爲左僕射。下邳王晃爲右僕射。晃。孚之子也。○戊午。新沓康伯山濤薨。○帝命太常議崇錫齊王之物。博士庾粲。太叔廣。劉噉。繆蔚。郭頤。秦秀。傅珍。上表曰。昔周。選建明德。以左右王室。周公。康叔。聃季。皆入爲三公。明股肱之任重。守地之位輕也。漢諸侯王。位在丞相三公上。其入讚朝政者。乃有兼官。其出之國。亦不復假台司虛名。爲隆寵也。今使齊王賢邪。則不宜以母弟之親尊。居魯衛之常職。不賢邪。不宜大啓土宇。表見東海也。古禮三公無職。坐而論道。不聞以方任嬰之。惟宣王救急朝夕。然後命召穆公。征淮夷。故其詩曰。徐方不回。王曰旋歸。宰相不得久在外也。今天下已定。六合爲家。將數延三事。與論太平之基。而更出之。去王城二千里。違舊章矣。粲。純之子。噉。毅之子也。粲既具草。先以呈純。純不禁。事過太常。鄭默。博士祭酒曹志。志愴然歎曰。安有如此之才。如此之親。不得樹本助化。而遠出海隅。晉室之隆。其殆矣乎。乃奏議曰。古之夾輔王室。同姓則周公。異姓則太公。皆身居朝廷。五世反葬。及其衰也。雖有五霸。代興。豈與周召之治。同日而論哉。自羲皇以來。豈一姓所能獨有。當推至公之心。與天下共其利害。乃能享國久長。是以秦魏欲獨

擅其權。而纔得沒身。周漢能分其利。而親疎爲用。此前事之明驗也。志以爲當如博士等議。帝覽之。大怒曰。曹志尙不明吾心。況四海乎。且謂博士不答所問。而答所不問。橫造異論。下有司策免鄭默。於是尙書朱整。褚碧。奏志等。侵官離局。迷罔朝廷。崇飾惡言。假託無諱。請收志等。付廷尉科罪。詔免志官。以公還第。其餘皆付廷尉科罪。庾純詣廷尉自首。粲以議草見示。愚淺聽之。詔免純罪。廷尉劉頌奏。粲等大不敬。當棄市。尙書奏請報聽。廷尉行刑。尙書夏侯駿曰。官立八座。正爲此時。乃獨爲駁議。左僕射下邳王晃。亦從駁議。奏留中七日。乃詔曰。粲是議主。應爲戮首。但粲家人自首。宜并廣等七人。皆丐其死命。並除名。二月。詔以濟南郡益齊國。己丑。立齊王攸子長樂亭侯寔爲北海王。命攸備物典策。設軒縣之樂。六佾之舞。黃鉞朝車。乘輿之副。從焉。○三月辛丑朔。日有食之。○齊獻王攸。憤怨發病。乞守先后陵。帝不許。遣御醫診視。諸醫希旨。皆言無疾。河南尹向雄。諫曰。陛下子弟雖多。然有德望者少。齊王臥居京邑。所益實深。不可不思也。帝不納。雄憤恚而卒。攸疾轉篤。帝猶催上道。攸自強入辭。素持容儀。疾雖困。尙自整厲。舉止如常。帝益疑其無疾。辭出數日。歐血而薨。帝往臨喪。攸子問號踊。訴父病。爲醫所誣。詔即誅醫。以罔爲嗣。初。帝愛攸甚篤。爲荀勗馮統等所構。欲爲身後之慮。故出之。及薨。帝哀慟不已。馮統侍側曰。齊王名過其實。天下歸之。今自薨殞。社稷之福也。陛下何哀之過。帝收淚而止。詔攸喪禮。依安平獻王故事。攸舉動以禮。鮮有過事。雖帝亦敬憚之。每引之同處。必擇言而後發。○夏五月己亥。琅邪武王伉薨。○冬十一月。以尙書左僕射魏舒爲司徒。○河南及荆揚等六州大水。○歸命侯孫皓卒。○是歲。鮮卑慕容涉歸卒。弟刪篡立。將殺涉歸子廆。廆亡匿于遼東徐郁家。

以吏部不能審覈天下之士故令郡國各置中正州置大中正皆取本土之人任朝廷官德充才盛者爲之使銓次等級以爲九品有言行脩著則升之道義虧缺則降之吏部憑之以補授百官行之浸久中正或非其人姦蔽日滋劉毅上疏曰今立中正定九品高下任意榮辱在手操人主之威福奪天朝之權執公無考校之負私無告訐之忌用心百態營求萬端廉讓之風滅爭訟之俗成臣竊爲聖朝恥之蓋中正之設於損政之道有八高下逐彊弱是非隨興衰一人之身旬日異狀上品無寒門下品無執族一也置州都者本取州里清議咸所歸服將以鎮異同一言議也今重其任而輕其人使駁違之論橫於州里嫌讐之隙結於大臣二也本立格之體爲九品者謂才德有優劣倫輩有首尾也今乃使優劣易地首尾倒錯三也陛下賞善罰惡無不裁之以法獨置中正委以一國之重曾無賞罰之防又禁人不得訴訟使之縱橫任意無所顧憚諸受枉者抱怨積直不獲上聞四也一國之士多者千數或流徙異邦或取給殊方面猶不識況盡其才而中正知與不知皆當品狀采譽於臺府納毀於流言任己則有不識之蔽聽受則有彼此之偏五也凡求人才欲以治民也今當官著効者或附卑品在官無績者更獲高叙是爲抑功實而隆空名長浮華而廢考績六也凡官不同人事不同能今不狀其才之所宜而但第爲九品以品取人或非才能之所長以狀取人則爲本品之所限徒結白論而品狀相妨七也九品所下不彰其罪所上不列其善各任愛憎以植其私天下之人焉得不懈德行而銳人事八也由此論之職名中正實爲姦府事名九品而有八損古今之失莫大於此愚臣以爲宜罷中正除九品棄魏氏之敝法更立一代之美制太尉汝南王亮司空衛瓘亦上疏曰魏氏承喪亂之後人士流移考詳無地故立九品之制粗且爲一時選用之本耳今九域同規大化方始臣等以爲宜皆蕩除末法咸用士斷自公卿以下以所居爲正無復縣客遠屬異土盡除中正九品之制使舉善進才各由

鄉論則華競自息各求於己矣始平王文學江夏李重上疏以爲九品既除宜先開移徙聽相并就則士斷之實行矣帝雖善其言而終不能改也○冬十二月庚午大赦○閏月當陽成侯杜預卒○是歲塞外匈奴太阿厚帥部落二萬九千三百人來降帝處之塞內西河

○罷寧州入益州置南夷校尉以護之
六年春正月尚書左僕射劉毅致仕尋卒○戊辰以王渾爲尚書左僕射渾子濟爲侍中渾主者處事不當濟明法繩之濟從兄佑素與濟不協因毀濟不能容其父帝由是疎濟後坐事免官濟性豪侈帝謂侍中和嶠曰我將罵濟而後官之如何嶠曰濟俊爽恐不可屈帝召濟切讓之既而曰頗知愧不濟曰尺布斗粟之謠常爲陛下愧之他人能令親者疎臣不能令親者親以此愧陛下耳帝默然嶠洽之孫也○青梁幽冀州旱○秋八月丙戌朔日有食之○冬十二月庚子襄陽武侯王濬卒○是歲慕容暉爲其所殺部衆復迎涉歸子暉而立之涉歸與宇文部素有隙暉請討之朝廷弗許暉怒入寇遼西殺略甚衆帝遣幽州軍討暉戰于肥如暉衆大敗自是每歲犯邊又東擊扶餘扶餘王依慮自殺子弟走保沃沮暉夷其國城驅萬餘人而歸
七年春正月甲寅朔日有食之魏舒稱疾固請遜位以劇陽子罷舒所爲必先行而後言遜位之際莫有知者衛瓘與舒書曰每與足下共論此事日日未果可謂瞻之在前忽焉在後矣○夏慕容廆寇遼東故扶餘王依慮子依羅求帥見人還復舊國請援于東夷校尉何龕龕遣督護賈沈將兵送之廆遣其將孫丁帥騎邀之於路沈力戰斬丁遂復扶餘○秋匈奴胡都大博及萎莎胡各帥種落十萬餘口詣雍州降○九月戊寅扶風武王駿薨冬十一月壬子以隴西王泰都督關中諸軍事泰宣帝弟道之子也○是歲鮮卑拓跋悉鹿卒弟綽立八年春正月戊申朔日有食之○太廟殿陷九月改營太廟作者六萬人○是歲匈奴都督

大豆得一育鞠等復帥衆落萬一千五百口來降。九年春正月壬申朔日有食之。○夏六月庚子朔日有食之。○郡國三十三大旱。○秋八月壬子星隕如雨。○地震。

資治通鑑卷第八十一

資治通鑑卷第八十二

晉紀四

世祖武皇帝下

太康十年夏四月太廟成乙巳祫祭大赦。○慕容廆遣使請降五月詔拜廆鮮卑都督廆謁見何龕以士大夫禮巾衣到門龕嚴兵以見之廆乃改服戎衣而入人問其故廆曰主人不以禮待客客何為哉龕聞之甚慙深敬異之時鮮卑宇文氏段氏方彊數侵掠廆廆卑辭厚幣以事之段國單于階以女妻廆生皝仁昭廆以遼東僻遠徙居徒河之青山。○冬十月復明堂及南郊五帝位。○十一月丙辰尙書令濟北成侯荀勗卒勗有才思善伺人主意以是能固其寵久在中書專管機事及遷尙書甚罔恨人有賀之者勗曰奪我鳳皇池諸君何賀邪。○帝極意聲色遂至成疾楊駿忌汝南王亮排出之甲申以亮為侍中大司馬假黃鉞大都督督豫州諸軍事治許昌徙南陽王東為秦王都督關中諸軍事始平王瑋為楚王都督荊州諸軍事濮陽王允為淮南王都督揚江二州諸軍事並假節之國立皇子又為長沙王穎為成都王晏為吳王熾為豫章王演為代王皇孫遙為廣陵王又封淮南王子迪為漢王楚王子儀為毗陵王徙扶風王暢為順陽王暢弟歆為新野公暢駿之子也琅邪王觀弟澹為東武公絳為東安公觀佃之子也初帝以才人謝玖賜太子生皇孫遙宮中嘗夜失火帝登樓望之遙年五歲牽帝裾入閣中曰暮夜倉猝宜備非常不可令照見人主帝由是奇之嘗對羣臣稱遙似宣帝故天下咸歸仰之帝知太子不才然恃遙明慧故無廢立之心復用

王佑之謀以太子母弟東瑋允分鎮要害又恐楊氏之偪復以佑為北軍中候典禁兵帝為皇孫遜高選僚佐以散騎常侍劉寔志行清素命為廣陵王傅寔以時俗喜進趣少廉讓欲令初除官通謝章者必推賢讓能乃得通之一官缺則擇為人所讓最多者用之以為人情爭則欲毀己所不如讓則競推於勝己故世爭則優劣難分時讓則賢智顯出當此時也能退身脩己則讓之者多矣雖欲守貧賤不可得也馳騫進趨而欲人見讓猶却行而求前也淮南相劉頌上疏曰陛下以法禁寬縱積之有素未可一旦以直繩御下此誠時宜也然至于矯世救弊自宜漸就清肅譬猶行舟雖不橫截迅流然當漸靡而往稍向所趨然後得濟也自秦始皇以來將三十年凡諸事業不茂既往以陛下明聖猶未反叔世之敝以成始初之隆傳之後世不無慮乎使夫異時大業或有不妥其憂責猶在陛下也臣聞為社稷計莫若封建親賢然宜審量事勢可使諸侯率義而動者其力足以維帶京邑若包藏禍心其執不足獨以有為其齊此甚難陛下宜與達古今之士深共籌之周之諸侯有罪誅放其身而國祚不泯漢之諸侯有罪或無子者國隨以亡今宜反漢之敝循周之舊則下固而上安矣天下至大萬事至衆人君至少同於天日是以聖王之化執要於己委務於下非惡勞而好逸誠以政體宜然也夫居事始以別能否甚難察也因成敗以分功罪甚易識也今陛下每精於造始而怠於考終此政功所以未善也人主誠能居易執要論功罪於成敗之後則羣下無所逃其誅賞矣古者六卿分職冢宰為師秦漢已來九列執事丞相都總今尚書制斷諸卿奉成於古制為太重可出衆事付外寺使得專之尚書統領大綱若丞相之為歲終課功校簿賞罰而已斯亦可矣今動皆受成於上上之所失不得復以罪下歲終事功不建不知所責也夫細過謬妄人情之所必有而悉糾以法則朝野無立人矣近世以來為監司者類大綱不振而微過必舉蓋由畏避豪強而又懼職事之曠則謹密網以羅微罪使奏劾相接

狀似盡公而撓法在其中矣是以聖王不善碎密之案必責凶猾之奏則害政之姦自然禽矣夫創業之勳在于立教定制使遺風繫人心餘烈匡幼弱後世憑之雖昏猶明雖愚若智乃足尚也至夫脩飾官署凡諸作役恒傷太過不惠不舉此將來所不須於陛下而自能者也今勤所不須以傷所憑竊以為過矣帝皆不能用○詔以劉淵為匈奴北部都尉淵輕財好施傾心接物五部豪桀幽冀名儒多往歸之奚軻男女十萬口來降

孝惠皇帝上之上

永熙元年春正月辛酉朔改元太熙○己巳以王渾為司徒○司空侍中尚書令衛瓘子宣尚繁昌公主宣嗜酒多過失楊駿惡瓘欲逐之乃與黃門謀共毀宣勸武帝奪公主瓘慙懼告老遜位詔進瓘位太保以公就第○劇陽康子魏舒薨○三月甲子以右光祿大夫石鑿為司空○帝疾篤未有顧命勳舊之臣多已物故侍中車騎將軍楊駿獨侍疾禁中大臣皆不得在左右駿因輒以私意改易要近樹其心腹會帝小間見其新所用者正色謂駿曰何得便爾時汝南王亮尚未發乃令中書作詔以亮與駿同輔政又欲擇朝士有聞望者數人佐之駿從中書借詔觀之得便藏去中書監華廙恐懼自往索之終不與會帝復迷亂皇后奏以駿輔政帝領之夏四月辛丑皇后召華廙及中書令何劭口宣帝旨作詔以駿為太尉太子太傅都督中外諸軍事侍中錄尚書事詔成后對廙劭以呈帝帝視而無言廙欲之孫劭曾之子也遂趣汝南王亮赴鎮帝尋小間問汝南王來未左右言未至帝遂因篤己酉崩于含章殿帝字量弘厚明達好謀容納直言未嘗失色於人太子即皇帝位大赦改元尊皇后曰皇太后立妃賈氏為皇后楊駿入居太極殿梓宮將殯六宮出辭而駿不下殿以虎賁百人自衛詔石鑿與中護軍張劭監作山陵汝南王亮畏駿不敢臨喪哭於大司馬門外出

營城外。表求過葬而行。或告亮欲舉兵討駿者。駿大懼。白太后。令帝爲手詔。與石鑿張劭使。帥陵兵討亮。劭駿甥也。卽帥所領。趣鑿速發。鑿以爲不然。保持之。亮問計於廷尉易昂曰。今朝野皆歸心于公。公不討人。而畏人討邪。亮不敢發。夜馳赴許昌。乃得免。駿弟濟。及甥河南尹李斌。皆勸駿留亮。駿不從。濟謂尙書左丞傅咸曰。家兄若徵大司馬。退身避之。門戶庶幾可全。咸曰。宗室外戚。相恃爲安。但召大司馬還。共崇至公。以輔政。無爲避也。濟又使侍中石崇見駿言之。駿不從。五月辛未。葬武帝于峻陽陵。楊駿自知素無美望。欲依魏明帝卽位故事。普進封爵。以求媚于衆。左軍將軍傅祗與駿書曰。未有帝王始崩。臣下論功者也。駿不從。祗。駿之子也。丙子。詔中外羣臣。皆增位一等。預喪事者增二等。二千石已上。皆封關中侯。復租調一年。散騎常侍石崇。散騎侍郎何攀。共上奏。以爲帝正位東宮。二十餘年。今承大業。而班賞行爵。優於泰始革命之初。及諸將平吳之功。輕重不稱。且大晉卜世無窮。今之開制。當垂于後。若有爵必進。則數世之後。莫非公侯矣。不從。詔以太尉駿爲太傅。大都督。假黃鉞。錄朝政。百官總己以聽。傅咸謂駿曰。諒闇不行久矣。今聖上謙冲。委政於公。而天下不以爲善。懼明公未易當也。周公大聖。猶致流言。況聖上春秋非成王之年乎。竊謂山陵旣畢。明公當審思進退之宜。苟有以察其忠款。言豈在多。駿不從。咸數諫。駿漸不平。欲出咸爲郡守。李斌曰。斥逐正人。將失人望。乃止。楊濟遺咸書曰。諺云。生子癡。了官事。官事未易了也。想慮破頭。故具有白。咸復書曰。衛公有言。酒色殺人。甚於作直。坐酒色死。人不爲悔。而逆畏以直致禍。此由心不能正。欲以苟且爲明哲耳。自古以直致禍者。當由矯枉過正。或不忠篤。欲以冗厲爲聲。故致忿耳。安有慳慳忠益。而返見怨疾乎。楊駿以賈后險悍多權略。忌之。故以其甥段廣爲散騎常侍。管機密。張劭爲中護軍。典禁兵。凡有詔命。帝省訖。入呈太后。然後行之。駿爲政。嚴碎專復。中外多惡之。馮翊太守孫楚謂駿曰。公以外戚居伊霍之任。當以至公誠信。

謙順處之。今宗室彊盛。而公不與共參萬機。內懷猜忌。外樹私昵。禍至無日矣。駿不從。楚資之孫也。弘訓少府嗣欽。駿之姑子也。數以直言犯駿。他人皆爲之懼。欽曰。楊父長雖闇。猶知人之無罪。不可妄殺。不過疎我。我得疎。乃可以免。不然。與之俱族矣。駿辟匈奴東部人王彰爲司馬。彰逃避不受。其友新興張宣子怪而問之。彰曰。自古一姓二后。未有不敗。況楊太傅昵近小人。疎遠君子。專權自恣。敗無日矣。吾踰海出塞。以避之。猶懼及禍。奈何。應其辟乎。且武帝不惟社稷大計。嗣子既不克負荷。受遺者復非其人。天下之亂。可立待也。秋八月壬午。立廣陵王通爲皇太子。以中書監何劭爲太子太師。衛尉裴楷爲少師。吏部尙書王戎爲太傅。前太常張華爲少傅。衛將軍楊濟爲太保。尙書和嶠爲少保。拜太子母謝氏爲淑媛。賈后常置謝氏於別室。不聽與太子相見。初。和嶠嘗從容言于武帝曰。皇太子有淳古之風。而未世多僞。恐不了陛下家事。武帝默然。後與荀勗等同侍武帝。武帝曰。太子近入朝。差長進。卿可俱詣之。粗及世事。既還。勗等竝稱太子明識雅度。誠如明詔。嶠曰。聖質如初。武帝不悅。而起。及帝卽位。嶠從太子通入朝。賈后使帝問曰。卿昔謂我不了家事。今日定如何。嶠曰。臣昔事先帝。曾有斯言之不效。國之福也。○冬十月辛酉。以石鑿爲太尉。隴西王泰爲司空。○以劉淵爲建威將軍。匈奴五部大都督。元康元年春正月乙酉朔。改元永平。○初。賈后之爲太子妃也。嘗以妬手殺數人。又以戟擲孕妾。子隨刃墮。武帝大怒。脩金墉城。將廢之。荀勗馮統楊珧及充華趙粲共營救之。曰。賈妃年少。妬者婦人常情。長自當差。楊后曰。賈公闕有大勳於社稷。妃親其女。正復妬忌。豈可遽忘其先德邪。妃由是得不廢。后數誚厲妃。妃不知后之助已。返以后爲構。已於武帝更恨之。及帝卽位。賈后不肯以婦道事太后。又欲干預政事。而爲太傅駿所抑。殿中郎渤海孟觀。李肇皆駿所不禮也。陰構駿云。將危社稷。黃門董猛素給事東宮。爲寺人監。賈后密使猛與。

觀肇謀誅駿。廢太后又使肇報汝南王亮使舉兵討駿。亮不可。肇報都督荊州諸軍事楚王瑋。瑋欣然許之。乃求入朝。駿素憚瑋勇銳。欲召之而未敢。因其求朝。遂聽之。二月癸酉。瑋及都督揚州諸軍事淮南王允來朝。三月辛卯。孟觀李肇啓帝。夜作詔。誣駿謀反。中外戒嚴。遣使奉詔廢駿。以侯就第。命東安公繇帥殿中四百人討駿。楚王瑋屯司馬門。以淮南相劉頌爲三公。尚書屯衛殿中。段廣跪言於帝曰。楊駿孤公無子。豈有反理。願陛下審之。帝不答。時駿居曹爽故府。在武庫南。聞內有變。召衆官議之。太傅主簿朱振說駿曰。今內有變。其趣可知。必是閹豎爲賈后設謀。不利於公。宜燒雲龍門以脅之。索造事者首。開萬春門。引東宮及外營兵。擁皇太子入宮。取姦人殿內震懼。必斬送之。不然。無以免難。駿素怯懦。不決。乃曰。雲龍門。魏明帝所造。功費甚大。奈何燒之。侍中傅祗白駿。請與尚書武茂入宮。觀察事。執因謂羣僚曰。宮中不宜空。遂揖而下階。衆皆走。茂猶坐。祗顧曰。君非天子臣邪。今內外隔絕。不知國家所在。何得安坐。茂乃驚起。駿黨左軍將軍劉豫。陳兵在門。遇右軍將軍裴頌。問太傅所在。頌給之曰。向於西掖門。遇公乘素車。從二人西出矣。豫曰。吾何之。頌曰。宜至廷尉。豫從頌言。遂委而去。尋詔頌代豫領左軍將軍。屯萬春門。頌秀之子也。皇太后題帛爲書。射之城外。曰。救太傅者有賞。賈后因宣言。太后同反。尋而殿中兵出。燒駿府。又令弩手於閣上。臨駿。而射之。駿兵皆不得出。駿逃于馬廄。就殺之。孟觀等遂收駿弟珣。濟。張劭。李斌。段廣。劉豫。武茂。及散騎常侍楊逸。中書令蔣俊。東夷校尉文鴛。皆夷三族。死者數千人。珣臨刑。告東安公繇曰。表在石函。可問張華。衆謂宜依鍾毓例。爲之申理。繇不聽。而賈氏族黨。趣使行刑。珣號叫不已。刑者以刀破其頭。繇諸葛誕之外孫也。故忌文鴛。以爲駿黨。而誅之。是夜誅賞。皆自繇出。威振內外。王戎謂繇曰。大事之後。宜深遠權執。繇不從。壬辰。赦天下。改元。賈后矯詔。使後軍將軍荀悝。送太后於永寧宮。特全太后母高都君龐氏之命。聽就太后居。尋復諷羣公。

有司奏曰。皇太后陰漸姦謀。圖危社稷。飛箭繫書。要募將士。同惡相濟。自絕于天。魯侯絕文姜。春秋所許。蓋奉祖宗。任至公於天下。陛下雖懷無已之情。臣下不敢奉詔。詔曰。此大事。更詳之。有司又奏。宜廢太后曰。峻陽庶人。中書監張華議。太后非得罪於先帝。今黨其所親。爲不母於聖世。宜依漢廢趙太后爲孝成后故事。貶皇太后之號。還稱武皇后。居異宮。以全始終之恩。左僕射荀悝與太子少師下邳王晃等議曰。皇太后謀危社稷。不可復配先帝。宜貶尊號。廢詣金墉城。於是。有司奏。從晃等議。廢太后爲庶人。詔可。又奏。楊駿造亂。家屬應誅。詔原其妻龐命。以尉太后之心。今太后廢爲庶人。請以龐付廷尉。行刑。詔不許。有司復固請。乃從之。龐臨刑。太后抱持號叫。截髮稽顙。上表詣賈后。稱妾。請全母命。不見省。董養遊太學。升堂。歎曰。朝廷建斯堂。將以何爲乎。每覽國家赦書。謀反大逆。皆赦。至於殺祖父母。母。不赦者。以爲王法所不容故也。奈何公卿處議。文飾禮典。乃至此乎。天人之理。既滅。大亂將作矣。有司收駿官屬。欲誅之。侍中傅祗啓曰。昔魯芝爲曹爽司馬。斬關赴爽。宣帝用爲青州刺史。駿之僚佐。不可悉加罪。詔赦之。壬寅。徵汝南王亮爲太宰。與太保衛瓘。皆錄尚書事。輔政。以秦王東爲大將軍。東平王琳爲撫軍大將軍。楚王瑋爲衛將軍。領北軍中候。下邳王晃爲尚書令。東安公繇爲尚書左僕射。進爵爲王。琳望之子也。封董猛爲武安侯。三兄皆爲亭侯。亮欲取悅衆心。論誅楊駿之功。督將侯者千八十一人。御史中丞傅咸遺亮書曰。今封賞熏赫。震動天地。自古以來。未之有也。無功而獲賞。則人莫不樂國之有禍。是禍原無窮也。凡作此者。由東安公人謂殿下既至。當有以正之。正之道。衆亦何怒。衆之所怒者。在於不平耳。而今皆更倍論。莫不失望。亮頗專權。執威復諫曰。楊駿有震主之威。委任親戚。此天下所以誼譁。今之處重。宜反此失。靜默頤神。有大得失。乃維持之。自非大事。一皆抑遣。比過尊門。冠蓋車馬。填塞街衢。此之翕習。既宜弭息。又夏侯長容。無功而暴擢。爲少府。論者謂長容公之姻家。

故至於此。流聞四方，非所以爲益也。亮皆不從。賈后族兄車騎司馬模，從舅右衛將軍郭彰，女弟之子賈謐，與楚王瑋、東安王綏，竝預國政。賈后暴戾日甚，綏密謀廢后，賈氏憚之。綏兄東武公澹，素惡綏，屢譖之於太宰亮曰：「綏專行誅賞，欲擅朝政。庚戌，詔免綏官。又坐有悖言，廢徙帶方。於是賈謐、郭彰，權執愈盛。賓客盈門，謐雖驕奢而好學，喜延士大夫。郭彰、石崇、陸機、機弟雲、和郁，及滎陽潘岳、清河崔基、勃海歐陽建、蘭陵繆徵、京兆杜斌、摯虞、琅邪諸葛詮、弘農王粹、襄城杜育、南陽鄒捷、齊國左思、沛國劉瓌、周恢、安平牽秀、潁川陳陔、高陽許猛、彭城劉訥、中山劉輿、輿弟琨，皆附於謐。號曰二十四友。郁、嶠之弟也。崇與岳，尤諂事謐。每候謐及廣城君郭槐出，皆降車路左，望塵而拜。」○太宰亮、太保瓊，以楚王瑋剛愎好殺，惡之，欲奪其兵權。以臨海侯裴楷代瑋爲北軍中候。瑋怒，楷聞之，不敢拜。亮復與瓊謀，遣瑋與諸王之國。瑋益忿怨。瑋長史公孫宏舍人岐盛，皆有寵於瑋，勸瑋自昵於賈后，后留瑋，領太子少傅。盛素善於楊駿，衛瓊惡其反覆，將收之。盛乃與宏謀，因積弩將軍李肇，矯稱瑋命，譖亮瓊於賈后。云：「將謀廢立，后素怨瓊，且患二公執政，已不得專恣。」夏六月，后使帝作手詔賜瑋曰：「太宰、太保欲爲伊霍之事，王宜宣詔，令淮南、長沙、成都王屯諸宮門，免亮及瓊官，夜使黃門齎以授瑋。瑋欲覆奏，黃門曰：『事恐漏泄，非密詔本意也。』瑋亦欲因此復私怨，遂勒本軍復矯詔，召三十六軍，告以二公潛圖不軌，吾今受詔，都督中外諸軍，諸在直衛者，皆嚴加警備。其在外營，便相帥徑詣行府，助順討逆。又矯詔，亮瓊官屬一無所問，皆罷遣之。若不奉詔，便軍法從事。遣公孫宏、李肇，以兵圍亮府。侍中清河王遐收瓊，亮帳下督李龍曰：『外有變，請拒之。』亮不聽。俄而兵登牆大呼，亮驚曰：『吾無貳心，何故至此？』詔書其可見乎？宏等不許，趣兵攻之。長史劉準謂亮曰：『觀此，必是姦謀。』府中俊父如林，猶可力戰，又不聽。遂爲肇所執，歎曰：『我之赤心，可破示天下也。』與世子矩俱死。衛瓊左右亦疑遐矯詔，請拒之，須自表得報，就戮未晚。瓊

不聽。初，瓊爲司空，帳下督榮晦，有罪，斥遣之。至是，晦從遐收瓊，輒殺瓊，及子孫共九人。遐不能禁，岐盛說瑋，宜因兵執，遂誅賈郭，以正王室。安天下，瑋猶豫未決。會天明，太子少傅張華、使董猛說賈后曰：「楚王既誅，二公則天下威權盡歸之矣。人主何以自安？宜以瑋專殺之罪，誅之。賈后亦欲因此除瑋，深然之。是時，內外擾亂，朝廷恟懼，不知所出。張華白帝，遣殿中將軍王宮齎虞幡，出麾衆曰：『楚王矯詔，勿聽也。衆皆釋仗而走。瑋左右無復一人。窘迫不知所爲，遂執之。下廷尉。乙丑，斬之。』瑋出懷中青紙詔，流涕以示監刑尙書劉頌曰：『幸託體先帝，而受枉乃如此乎？』公孫宏、岐盛、竝夷三族。瑋之起兵也，隴西王泰嚴兵將助瑋，祭酒丁綏諫曰：「公爲宰相，不可輕動。且夜中倉猝，宜遣人參審定問。泰乃止。衛瓊女與國臣書曰：『先公名諡未顯，每怪一國蔑然無言。春秋之失，其咎安在？於是太保主簿劉繇等執黃幡，搥登聞鼓。』上言曰：『初，矯詔者至，公即奉送章綬，單車從命。如矯詔之文，唯免公官，而故給使榮晦，輒收公父子及孫，一時斬戮，乞驗盡情，僞加以明刑。乃詔族誅榮晦，追復亮爵位。諡曰：『文成。』封瓊爲蘭陵郡公。諡曰：『成。』於是賈后專朝，委任親黨，以賈模爲散騎常侍，加侍中。賈謐與后謀，以張華庶姓，無逼上之嫌，而儒雅有籌略，爲衆望所依，欲委以朝政。疑未決，以問裴頠。頠贊成之，乃以華爲侍中，中書監，頠爲侍中。又以安南將軍裴楷爲中書令，加侍中，與右僕射王戎、竝管機要。華盡忠，帝室彌縫遺闕。賈后雖凶險，猶知敬重華。賈模與華頠同心輔政，故數年之間，雖闇主在上，而朝野安靜。華等之功也。」○秋七月，分荆揚十郡爲江州。○八月，辛未，立隴西王泰世子越爲東海王。○九月，甲午，秦獻王柬薨。○辛丑，徵征西大將軍梁王彤爲衛將軍。錄尙書事。

二年春二月己酉，故楊太后卒於金墉城。是時，太后尙有侍御十餘人。賈后悉奪之，絕膳。八日而卒。賈后恐太后有靈，或訴冤於先帝，乃覆而殯之，仍施諸厭劾符書藥物等。○秋八月

壬子赦天下。

三年夏六月弘農雨雹深三尺。○鮮卑宇文莫槐為其下所殺弟普撥立。○拓拔綽卒子弗立。

四年春正月丁酉安昌元公石鑿薨。○夏五月匈奴郝散反攻上黨殺長吏。八月郝散帥眾降馮翊都尉殺之是歲大饑。○司隸校尉傅咸卒咸性剛簡風格峻整初為司隸校尉上言貨賂流行所宜深絕時朝政寬弛權豪放恣咸奏免河南尹澹等官京師肅然。○慕容廆徙居大棘城。○拓拔弗卒叔父祿官立。

五年夏六月東海雨雹深五寸。○荆揚兗豫青徐六州大水。○冬十月武庫火焚累代之寶及二百萬人器械十二月丙戌新作武庫大調兵器。○拓拔祿官分其國為三部一居上谷之北濡源之西自統之一居代郡參合陂之北使兄沙漠汗之子猗屯統之一居定襄之盛樂故城使猗屯弟猗盧統之猗盧善用兵西擊匈奴烏桓諸部皆破之代人衛操與從子雄及同郡箕澹往依拓跋氏說猗屯猗盧招納晉人猗屯悅之任以國事晉人附者稍衆。

六年春正月赦天下。○下邳獻王晃薨以中書監張華為司空太尉隴西王泰行尚書令徙封高密王。○夏郝散弟度元與馮翊北地馬蘭羌盧水胡俱反殺北地太守張損敗馮翊太守歐陽建征西大將軍趙王倫信用嬖人琅邪孫秀與雍州刺史濟南解系爭軍事更相表奏歐陽建亦表倫罪惡朝廷以倫撓亂關右徵倫為車騎將軍以梁王彤為征西大將軍都督雍涼二州諸軍事系與其弟御史中丞結皆表請誅秀以謝氏羌張華以告梁王彤使誅之彤許諾秀友人辛冉為之說彤曰氏羌自反非秀之罪秀由是得免倫至洛陽用秀計深交賈郭賈后大愛信之倫因求錄尚書事又求尚書令張華表頌固執以為不可倫秀由是怨之秋八月解系為郝度元所敗秦雍氏羌悉反立氏帥齊萬年為帝圍涇陽御史中丞周

處彈劾不避權戚梁王彤嘗違法處按劾之冬十一月詔以處為建威將軍與振威將軍盧播俱隸安西將軍夏侯駿以討齊萬年中書令陳準言於朝曰駿及梁王皆貴戚非將帥之才進不求名退不畏罪周處吳人忠直勇果有仇無援宜詔積弩將軍孟觀以精兵萬人為處前鋒必能殄寇不然梁王當使處先驅以不救而陷之其敗必也朝廷不從齊萬年聞處來曰周府君嘗為新平太守有文武才若專斷而來不可當也或受制於人此成禽耳。○關中饑疫。○初略陽清水氏楊駒始居仇池仇池方百頃其旁平地二十餘里四面斗絕而高為羊腸蟠道三十六回而上至其孫千萬附魏封為百頃王千萬孫飛龍浸疆盛徙居略陽飛龍以其甥令狐茂搜為子茂搜避齊萬年之亂十二月自略陽帥部落四千家還保仇池自號輔國將軍右賢王關中人士避亂者多依之茂搜迎接撫納欲去者衛護資送之。○是歲以揚烈將軍巴西趙廞為益州刺史發梁益兵糧助雍州討氏羌。

七年春正月齊萬年屯梁山有衆七萬梁王彤夏侯駿使周處以五千兵擊之處曰軍無後繼必敗不徒亡身為國取恥彤駿不聽逼遣之癸丑處與盧播解系攻萬年於六陌處軍士未食彤促令速進自旦戰至暮斬獲甚衆弦絕矢盡救兵不至左右勸處退處按劍曰是吾効節致命之日也遂力戰而死朝廷雖以尤彤而亦不能罪也。○秋七月雍秦二州大旱疾疫米斛萬錢。○丁丑京陵元公王渾薨九月以尚書右僕射王戎為司徒太子太師何劭為尚書左僕射戎為三公與時浮沉無所匡救委事僚案輕出遊放性復貪吝園田徧天下每自執牙籌晝夜會計常若不足家有好李賣之恐人得種常鑽其核凡所賞拔專事虛名阮咸之子瞻嘗見戎戎問曰聖人貴名教老莊明自然其旨同異瞻曰將無同戎咨嗟良久遂辟之時人謂之三語掾是時王衍為尚書令南陽樂廣為河南尹皆善清談宅心事外名重當世朝野之人爭慕效之衍與弟澄好題品人物舉世以為儀準衍神情明秀少時山濤見

之嗟歎良久曰。何物老嫗。生寧馨兒。然誤天下蒼生者。未必非此人也。樂廣性冲約。與物無競。每談論。以約言析理。厭人之心。而其所不知。默如也。凡論人。必先稱其所長。則所短不言。自見。王澄及阮咸。咸從子脩。泰山胡毋輔之。陳國謝鯤。城陽王巨。新蔡畢卓。皆以任放爲達。至於醉狂裸體。不以爲非。胡毋輔之嘗酣飲。其子謙之闕。而厲聲呼其父字曰。彥國。年老不得爲爾。輔之歡笑。呼入共飲。畢卓嘗爲吏部郎。比舍郎釀熟。卓因醉。夜至甕間。盜飲之。爲掌酒者所縛。明旦視之。乃畢吏部也。樂廣聞而笑之曰。名教內自有樂地。何必乃爾。初何晏等祖述老莊立論。以爲天地萬物。皆以無爲本。無也者。開物成務。無往而不存者也。陰陽恃以化生。賢者恃以成德。故無之爲用。無爵而貴矣。王衍之徒。皆愛重之。由是朝廷士大夫。皆以浮誕爲美。弛廢職業。裴頠著崇有論。以釋其蔽曰。夫利欲可損。而未可絕。有也。事務可節。而未可全無也。蓋有飾爲高談之具者。深列有形之累。盛陳空無之美。形器之累。有徵。空無之義難檢。辯巧之文可悅。似象之言足惑。衆聽眩焉。溺其成說。雖頗有異。此心者。辭不獲濟。屈於所習。因謂虛無之理。誠不可蓋。一唱百和。往而不反。遂薄綜世之務。賤功利之用。高浮游之業。卑經實之賢。人情所徇。名利從之。於是文者衍其辭。訥者贊其旨。立言藉於虛無。謂之玄妙。處官不親所職。謂之雅遠。奉身散其廉操。謂之曠達。故砥礪之風。彌以陵遲。放者因斯。或悖吉凶之禮。忽容止之表。瀆長幼之序。混貴賤之級。甚者至于裸裎褻慢。無所不至。士行又虧矣。夫萬物之有形者。雖生于無。然生以有爲己分。則無是有所遺者也。故養既化之。有非無用之所能全也。治既有之衆。非無爲之所能脩也。心非事也。而制事必由於心。然不可謂心爲無也。匠非器也。而制器必須於匠。然不可謂匠非有也。是以欲收重淵之鱗。非偃息之所能獲也。隕高墉之禽。非靜拱之所能捷也。由此而觀。濟有者皆有也。虛無奚益於已有之羣生哉。然習俗已成。頽論亦不能救也。○拓跋猗奴。度漠北。巡因西略諸國。積五歲。降

附者三十餘國。

八年春三月壬戌。赦天下。○秋九月。荆豫徐揚冀五州大水。○初。張魯在漢中。賈人李氏。自巴西宕渠往依之。魏武帝克漢中。李氏將五百餘家歸之。拜爲將軍。遷于略陽北土。號曰巴西。其孫特。庠流。皆有材武。善騎射。性任俠。州黨多附之。及齊萬年反。關中荐饑。略陽天水六郡民流移就穀。入漢川者數萬家。道路有疾病窮乏者。特兄弟常營護振救之。由是得衆心。流民至漢中。上書求寄食。巴蜀朝議不許。遣侍御史李苾持節慰勞。且監察之。不令入劔閣。苾至漢中。受流民賂。表言流民十萬餘口。非漢中一郡所能振贍。蜀有倉儲。人復豐稔。宜令就食。朝廷從之。由是散在梁益。不可禁止。李特至劔閣。太息曰。劉禪有如此地。面縛於人。豈非庸才邪。聞者異之。○張華。陳準。以趙王梁王相繼在關中。皆雍容驕貴。師老無功。乃薦孟觀。沈毅。有文武才用。使討齊萬年。觀身當矢石。大戰十數。皆破之。

資治通鑑卷第八十二

晉紀 孝惠皇帝上之上元康八年

資治通鑑卷第八十三

晉紀五

孝惠皇帝上之下

元康九年春正月孟觀大破氐衆於中亭獲齊萬年太子洗馬陳留江統以爲戎狄亂華宜早絕其原乃作徙戎論以警朝廷曰夫夷蠻戎狄地在要荒禹平九土而西戎卽叙其性氣貪婪凶悍不仁四夷之中戎狄爲甚弱則畏服彊則侵叛當其彊也以漢高祖困於白登孝文軍於霸上及其弱也以元成之微而單于入朝此其已然之效也是以有道之君牧夷狄也惟以待之有備禦之有常雖稽顙執贄而邊城不弛固守彊暴爲寇而兵甲不加遠征期令境內獲安疆場不侵而已及至周室失統諸侯專征封疆不固利害異心戎狄乘間得入中國或招誘安撫以爲己用自是四夷交侵與中國錯居及秦始皇并天下兵威旁達攘胡走越當是時中國無復四夷也漢建武中馬援領隴西太守討叛羌徙其餘種於關中居馮翊河東空地數歲之後族類蕃息既恃其肥彊且苦漢人侵之永初之元羣羌叛亂覆沒將守屠破城邑鄧騭敗北侵及河內十年之中夷夏俱敝任尙馬賢僅乃克之自此之後餘燼不盡小有際會輒復侵叛中世之寇惟此爲大魏興之初與蜀分隔疆場之戎一彼一此武帝徙武都氐於秦州欲以弱寇彊國扞禦蜀虜此蓋權宜之計非萬世之利也今者當之已受其敝矣夫關中土沃物豐帝王所居未聞戎狄宜在此土也非我族類其心必異而因其衰敝遷之畿服土庶翫習侮其輕弱使其怨恨之氣毒於骨髓至於蕃育衆盛則坐生其心

以貪悍之性挾憤怒之情候隙乘便輒爲橫逆而居封域之內無障塞之隔掩不備之人收散野之積故能爲禍滋蔓暴害不測此必然之執已驗之事也當今之宜宜及兵威方盛衆事未罷徙馮翊北地新平安定界內諸羌著先零罕开析支之地徙扶風始平京兆之氐出還隴右著陰平武都之界廩其道路之糧令足自致各附本種反其舊土使屬國撫夷就安集之戎晉不難竝得其所縱有猾夏之心風塵之警則絕遠中國隔閩山河雖爲寇暴所害不廣矣難者曰氐寇新平關中饑疫百姓愁苦咸望寧息而欲使疲悴之衆徙自猜之寇恐執盡力屈緒業不卒前害未及弭而後變復橫出矣答曰子以今者羣氐爲尙挾餘資悔惡反善懷我德惠而來柔附乎將執窮道盡智力俱困懼我兵誅以至於此乎曰無有餘力執窮道盡故也然則我能制其短長之命而令其進退由己矣夫樂其業者不易事安其居者無遷志方其自疑危懼畏怖促遽故可制以兵威使之左右無違也迨其死亡流散離邊未鳩與關中之人戶皆爲讐故可遷遠處令其心不懷土也夫聖賢之謀事也爲之於未治之於未亂道不著而平德不顯而成其次則能轉禍爲福因敗爲功值困必濟遇否能通今子遭敵事之終而不圖更制之始愛易轍之勤而遵覆車之軌何哉且關中之人百餘萬口率其少多戎狄居半處之與遷必須口實若有窮乏糝粒不繼者故當傾關中之穀以全其生生之計必無擠於溝壑而不爲侵掠之害也今我遷之傳食而至附其種族自使相瞻而秦地之人得其半穀此爲濟行者以廩糧遺居者以積倉寬關中之逼去盜賊之原除旦夕之損建終年之益若憚甄舉之小勞而忘永逸之弘策惜日月之煩苦而遺累世之寇敵非所謂能創業垂統謀及子孫者也并州之胡本實匈奴桀惡之寇也建安中使右賢王去卑誘質呼廚泉聽其部落散居六郡咸熙之際以一部太彊分爲三率秦始之初又增爲四於是劉猛內叛連結外虜近者郝散之變發於穀遠今五部之衆戶至數萬人口之盛過於西

晉紀 孝惠皇帝上之下元康九年

戎其天性驍勇。弓馬便利。倍於氏羌。若有不虞風塵之慮。則并州之域。可爲寒心。正始中。母丘儉討句驪。徙其餘種於滎陽。始徙之時。戶落百數。子孫孳息。今以千計。數世之後。必至殷熾。今百姓失職。猶或亡叛。犬馬肥充。則有噬齧。況於夷狄。能不爲變。但顧其微弱。執力不逮耳。夫爲邦者。憂不在寡。而在不安。以四海之廣。士民之富。豈須夷虜在內。然後取足哉。此等皆可申諭發遣。還其本域。慰彼羈旅懷土之思。釋我華夏纖介之憂。惠此中國。以綏四方。德施永世。於計爲長也。朝廷不能用。○散騎常侍賈謐。侍講東宮。對太子倨傲。成都王穎見而叱之。謐怒。言於賈后。出穎爲平北將軍。鎮鄴。徵梁王彤爲大將軍。錄尚書事。以河間王顥爲鎮西將軍。鎮關中。初武帝作石函之制。非至親不得。鎮關中。顥輕財愛士。朝廷以爲賢。故用之。○夏。六月。戊戌。高密文獻王泰薨。○賈后淫虐日甚。私於太醫令程據等。又以籠箱載道上。年少入宮。復恐其漏泄。往往殺之。賈模恐禍及己。甚憂之。裴頠與模及張華議廢后。更立謝淑妃。模華皆曰。主上自無廢黜之意。而吾等專行之。儻上心不以爲然。將若之何。且諸王方彊。朋黨各異。恐一旦禍起。身死國危。無益社稷。頠曰。誠如公言。然中宮逞其昏虐。亂可立待也。華曰。卿二人於中宮皆親戚。言或見信。宜數爲陳禍福之戒。庶無大悖。則天下尙未至於亂。吾曹得以優游卒歲而已。頠旦夕說其從母廣城君。令戒諭賈后。以親厚太子。賈模亦數爲后言禍福。后不能用。反以模爲毀己。而疎之。模不得志。憂憤而卒。秋八月。以裴頠爲尚書僕射。頠雖賈后親屬。然雅望素隆。四海惟恐其不居權位。尋詔頠專任門下事。頠上表固辭。以賈模適亡。復以臣代之。崇外戚之望。彰偏私之舉。爲聖朝累。不聽。或謂頠曰。君可以言。當盡言於中宮。言而不從。當遠引而去。儻二者不立。雖有十表。難以免矣。頠慨然久之。竟不能從。帝爲人巖駮。嘗在華林園。聞蝦蟆。謂左右曰。此鳴者爲官乎。爲私乎。時天下荒饉。百姓餓死。帝聞之曰。何不食肉糜。由是權在羣下。政出多門。執位之家。更相薦託。有如互市。賈郭恣橫。

貨賂公行。南陽魯褒作錢神論以譏之曰。錢之爲體。有乾坤之象。親之如兄。字曰孔方。無德而尊。無執而熱。排金門。入紫闈。危可使安。死可使活。貴可使賤。生可使殺。是故忿爭非錢不勝。幽滯非錢不拔。怨讎非錢不解。令聞非錢不發。洛中朱衣當塗之士。愛我家兄。皆無己已。執我之手。抱我終始。凡今之人。惟錢而已。又朝臣務以苛察相高。每有疑議。羣下各立私意。刑法不壹。獄訟繁滋。裴頠上表曰。先王刑賞相稱。輕重無二。故下聽有常。羣吏安業。去元康四年。大風廟闕屋瓦。有數枚傾落。免太常荀勗。事輕責重。有違常典。五年二月。有大風。蘭臺主者。懲懼前事。求索阿棟之間。得瓦小邪十五處。遂禁止太常。復興刑獄。今年八月。陵上荆一枝。圍七寸二分者。被斫。司徒太常犇走道路。雖知事小。而按劾難測。搔擾驅馳。各競免負。于今太常禁止未解。夫刑書之文有限。而舛違之故無方。故有臨時議處之制。誠不能皆得。循常也。至於此等。皆爲過當。恐姦吏因緣。得爲淺深也。既而曲議猶不止。三公尙書劉頌。復上疏曰。自近世以來。法漸多門。令甚不一。吏不知所守。下不知所避。姦僞者。因以售其情。居上者。難以檢其下。事同議異。獄犴不平。夫君臣之分。各有所司。法欲必奉。故令主者守文。理有窮塞。故使大臣釋滯。事有時宜。故人主權斷。主者守文。若釋之。執犯蹕之平也。大臣釋滯。若公孫弘斷郭解之獄也。人主權斷。若漢祖戮丁公之爲也。天下萬事。自非此類。不得出意妄議。皆以律令從事。然後法信於下。人聽不惑。吏不容姦。可以言政矣。乃下詔。郎令史復出。法駁案者。隨事以聞。然亦不能革也。頠遷吏部尙書。建九班之制。欲令百官居職。希遷。考課能否。明其賞罰。賈郭用權。仕者欲速。事竟不行。裴頠薦平陽韋忠於張華。華辟之。忠辭疾不起。人問其故。忠曰。張茂先華而不實。裴逸民愆而無厭。棄典禮而附賊后。此豈大丈夫之所爲哉。逸民每有心託我。我常恐其溺於深淵。而餘波及我。況可褰裳而就之哉。關內侯敦煌索靖。知天下將亂。指洛陽宮門銅駝。歎曰。會見汝在荆棘中耳。○冬十一月甲子朔。日有食。

之。○初廣城君郭槐以賈后無子常勸后使慈愛太子賈謐驕縱數無禮於太子廣城君恒切責之廣城君欲以韓壽女爲太子妃太子亦欲婚韓氏以自固壽妻賈午及后皆不聽而爲太子聘王衍少女太子聞衍長女美而后爲賈謐聘之心不能平頗以爲言及廣城君病臨終執后手令盡心於太子言甚切至又曰趙榮賈午必亂汝家事我死後勿復聽入深記吾言后不從更與榮午謀害太子太子幼有令名及長不好學惟與左右嬉戲賈后復使黃門輩誘之爲奢靡威虐由是名譽浸減驕慢益彰或廢朝侍而縱遊逸於宮中爲市使人屠酤手揣斤兩輕重不差其母本屠家女也故太子好之東宮月俸錢五十萬太子常探取二月用之猶不足又令西園賣葵菜藍子雞麵等物而收其利又好陰陽小數多所拘忌洗馬江統上書陳五事一曰雖有微苦宜力疾朝侍二曰宜勤見保傅咨詢善道三曰畫室之功可宜減省後園刻鏤雜作一皆罷遣四曰西園賣葵藍之屬虧敗國體貶損令聞五曰繕牆正瓦不必拘攀小忌太子皆不從中舍人杜錫恐太子不得安其位每盡忠諫勸太子修德業保令名言辭懇切太子患之置針著錫常所坐氈中刺之血流錫預之子也太子性剛知賈謐恃中宮騎貴不能假借之謐時爲侍中至東宮或捨之於後庭遊戲詹事裴權諫曰謐后所親昵一旦交構則事危矣不從謐譖太子於后曰太子多畜私財以結小人者爲賈氏故也若宮車晏駕彼居大位依楊氏故事誅臣等廢后於金墉如反手耳不如早圖之更立慈順者可以自安后納其言乃宣揚太子之短布於遠近又詐爲有娠內囊物產具取妹夫韓壽子慰祖養之欲以代太子於是朝野咸知賈后有害太子之意中護軍趙俊請太子廢后太子不聽左衛率東平劉卞以賈后之謀問張華華曰不聞卞曰卞自須昌小吏受公成拔以至今日士咸知己是以盡言而公更有疑於卞邪華曰假令有此君欲如何卞曰東宮俊父如林四率精兵萬人公居阿衡之任若得公命皇太子因朝入錄尙書事廢賈后於金

墉城兩黃門力耳華曰今天子當陽太子人子也吾又不受阿衡之命忽相與行此是無君父而以不孝示天下也雖能有成猶不免罪況權威滿朝威柄不一成可必乎賈后常使親黨微服聽察於外頗聞卞言乃遷卞爲雍州刺史卞知言泄飲藥而死十二月太子長子彭病太子爲彭求王爵不許彭疾篤太子爲之禱祀求福賈后聞之乃詐稱帝不豫召太子入朝既至后不見置子別室遣婢陳舞以帝命賜太子酒三升使盡飲之太子辭以不能飲三升舞逼之曰不幸邪天賜汝酒而不飲酒中有惡物邪太子不得已彊飲至盡遂大醉后使黃門侍郎潘岳作書草令小婢承福以紙筆及草因太子醉稱詔使書之文曰陛下宜自了不自了吾當入了之中宮又宜速自了不自了吾當手了之并與謝妃共要刻期兩發勿疑猶豫以致後患茹毛飲血於三辰之下皇天許當掃除患害立道文爲王蔣氏爲內主願成當以三牲祠北君太子醉迷不覺遂依而寫之其字半不成后補成之以呈帝壬戌帝幸式乾殿召公卿入使黃門令董猛以太子書及青紙詔示之曰謫書如此令賜死徧示諸公王莫有言者張華曰此國之大禍自古以來常因廢黜正嫡以致喪亂且國家有天下日淺願陛下詳之裴頌以爲宜先檢校傳書者又請比校太子手書不然恐有詐妄賈后乃出太子啓事十餘紙衆人比視亦無敢言非者賈后使董猛矯以長廣公主辭白帝曰事宜速決而羣臣各不同其不從詔者宜以軍法從事議至日西不決后見華等意堅懼事變乃表免太子爲庶人詔許之於是使尙書和郁等持節詣東宮廢太子爲庶人太子改服出再拜受詔步出承華門乘羸犢車東武公濟以兵仗送太子及妃王氏三子彭臧尙同幽于金墉城王衍自表離婚許之妃慟哭而歸殺太子母謝淑媛及彭母保林蔣俊永康元年春正月癸亥朔赦天下改元○西戎校尉司馬閻續與棺詣闕上書以爲漢戾太子稱兵拒命言者猶曰罪當答耳今遙受罪之日不敢失道猶爲輕於戾太子宜重選師傅

先加嚴誨。若不悛改，弃之未晚也。書奏，不省。續圍之孫也。賈后使黃門自首，欲與太子爲逆。詔以黃門首辭，班示公卿。遣東武公濟以千兵防衛太子。幽于許昌宮，令持書御史劉振持節守之。詔宮臣不得辭送。洗馬江統、潘滔、舍人王敦、杜蕤、魯瑤等，冒禁至伊水，拜辭涕泣。司隸校尉滿奮收縛統等，送獄。其繫河南獄者，樂廣悉解遣之。繫洛陽縣獄者，猶未釋。都官從事孫琰說賈謐曰：「所以廢徙太子，以其爲惡故耳。今宮臣冒罪拜辭，而加以重辟，流聞四方，乃更彰太子之德也。不如釋之。」謐乃語洛陽令曹攄，使釋之。廣亦不坐。敦覽之，孫攄之孫也。太子至許，遣王妃書自陳，誣枉妃父衍，不敢以聞。○丙子，皇孫彪卒。○三月，尉氏雨，血妖星見南方。太白晝見。中台星拆，張華少子躄，勸華遜位。華不從曰：「天道幽遠，不如靜以待之。」○太子既廢，衆情憤怒。右衛督司馬雅常從督許超，皆嘗給事東宮，與殿中郎士猗等謀廢賈后，復太子。以張華表願安常保位，難與行權。右將軍趙王倫執兵柄，性貪冒，可假以濟事。乃說孫秀曰：「中宮凶妬無道，與賈謐等共誣廢太子。今國無嫡嗣，社稷將危。大臣將起大事，而公名奉事中宮，與賈郭親善，太子之廢，皆云豫知。一朝事起，禍必相及。何不先謀之乎？」秀許諾。言於倫，倫納焉。遂告通事令史張林及省事張衡等，使爲內應。事將起，孫秀言於倫曰：「太子聰明剛猛，若還東宮，必不受制於人。明公素黨於賈后，道路皆知之。今雖建大功於太子，太子謂公特逼於百姓之望，翻覆以免罪耳。雖含忍宿忿，必不能深德。明公若有瑕釁，猶不免誅。不若遷延緩期，賈后必害太子。然後廢賈后，爲太子報讎，豈徒免禍而已。乃更可以得志。倫然之。秀因使人行反間，言殿中人欲廢皇后，立太子。賈后數遣宮婢微服於民間聽察，聞之甚懼。倫秀因勸謐等早除太子，以絕衆望。癸未，賈后使太醫令程據和毒藥，矯詔使黃門孫慮至許昌，毒太子。太子自廢黜，恐被毒，常自煮食於前。慮以告劉振，振乃徙太子於小坊中，絕其食。宮人猶竊於牆上過食與之。慮逼太子以藥，太子不肯服。慮以藥杵椎

殺之。有司請以庶人禮葬。賈后表請以廣陵王禮葬之。○夏四月辛卯朔，日有食之。○趙王倫、孫秀將討賈后，告右衛侯飛督閭和，和從之。期以癸巳丙夜一籌，以鼓聲爲應。癸巳，秀使司馬雅告張華曰：「趙王欲與公共匡社稷，爲天下除害。使雅以告華，拒之。雅怒曰：「刃將加頸，猶爲是言邪？」不顧而出。及期，倫矯詔敕三部司馬曰：「中宮與賈謐等殺吾太子，今使車騎入廢中宮，汝等皆當從命。事畢，賜爵關中侯。不從者，誅三族。衆皆從之。又矯詔開門夜入，陳兵道南。遣翊軍校尉齊王罔將百人排闥而入。華林令駱休爲內應，迎帝幸東堂，以詔召賈謐於殿前，將誅之。謐走入西鍾下，呼曰：「阿后救我。」就斬之。賈后見齊王罔，驚曰：「卿何爲來？」罔曰：「有詔收后。」后曰：「詔當從我出，何詔也？」后至上閣，遙呼帝曰：「陛下有婦，使人廢之，亦行自廢矣。是時，梁王彤亦預其謀。后問罔曰：「起事者誰？」罔曰：「梁趙后曰：「繫狗當繫頸，反繫其尾，何得不然。」遂廢后爲庶人。幽之於建始殿。收趙榮、賈午等，付暴室考竟。詔尙書收捕賈氏親黨，召中書監侍中黃門侍郎八座，皆夜入殿。尙書始疑詔有詐。郎師景露版奏請手詔。倫等斬之以徇。倫陰與秀謀篡位，欲先除朝望。且報宿怨。乃執張華、裴頠，解系。解結等於殿前。華謂張林曰：「卿欲害忠臣邪？」林稱詔詰之曰：「卿爲宰相，太子之廢，不能死節，何也？」華曰：「式乾之議，臣諫事具存，可覆按也。」林曰：「諫而不從，何不去位？」華無以對。遂皆斬之。仍夷三族。解結女適裴氏。明日當嫁，而禍起。裴氏欲認活之。女曰：「家既若此，我何以活爲？」亦坐死。朝廷由是議革舊制。女不從死。甲午，倫坐端門，遣尙書和郁持節送賈庶人于金墉，誅劉振、董猛、孫慮、程據等。司徒王戎及內外官坐張華親黨，黜免者甚衆。閭續撫張華尸，慟哭曰：「早語君遜位，而不肯。今果不免命也。」於是趙王倫稱詔赦天下，自爲使持節都督中外諸軍事，相國，侍中。一依宣文輔魏故事，置府兵萬人。以其世子散騎常侍琇領冗從僕射。子馥爲前將軍，封濟陽王。虔爲黃門郎，封汝陰王。詔爲散騎侍郎，封霸城侯。孫秀等皆封大郡。竝據兵權。文武官封侯者數

千人百官總己以聽於倫。倫素庸愚，復受制于孫秀，秀爲中書令，威權振朝廷，天下皆事秀，而無求於倫。詔追復故太子遜位號，使尙書和郁、帥東宮官屬迎太子喪于許昌，追封遜子彪爲南陽王，封彪弟臧爲臨淮王，尙爲襄陽王，有司奏尙書令王衍備位大臣，太子被誣，志在苟免，請禁錮終身，從之。相國倫欲收人望，選用海內名德之士，以前平陽太守李重、滎陽太守荀組爲左右長史，東平王堪、沛國劉謨爲左右司馬，尙書郎陽平束皙爲記室，淮南王文、學荀崧、殿中郎陸機爲參軍，組、昂之子崧或之玄孫也。李重知倫有異志，辭疾不就。倫逼之不已，憂憤成疾，扶曳受拜，數日而卒。○丁酉，以梁王彤爲太宰，左光祿大夫何劭爲司徒，右光祿大夫劉寔爲司空。○太子遜之廢也，將立淮南王允爲太弟，議者不合。會趙王倫廢賈后，乃以允爲驃騎將軍，開府儀同三司，領中護軍。○己亥，相國倫矯詔遣尙書劉弘、賈金屑、酒賜賈后死于金墉城。○五月，己巳，詔立臨海王臧爲皇太孫，還妃王氏，以母之。太子官屬卽轉爲太孫官屬，相國倫行太孫太傅。○己卯，諡故太子曰愍懷。六月，壬寅，葬于顯平陵。○清河康王遐薨。○中護軍淮南王允性沈毅，宿衛將士皆畏服之，允知相國倫及孫秀有異志，陰養死士謀討之。倫秀深憚之。秋八月，轉允爲太尉，外示優崇，實奪其兵權。允稱疾不拜。秀遣御史劉機逼允收其官屬以下，劾以拒詔，大逆不敬。允視詔，乃秀手書也，大怒，收御史將斬之，御史走免，斬其令史二人。厲色謂左右曰：趙王欲破我家，遂帥國兵及帳下七百人直出，大呼曰：趙王反，我將討之。從我者左袒，於是歸之者甚衆。允將赴宮，尙書左丞王與閉掖門，允不得入，遂圍相府。允所將兵皆精銳，倫與戰屢敗，死者千餘人。太子左率陳徽勒東宮兵，鼓譟於內，以應允。允結陳於承華門前，弓弩齊發，射倫，飛矢雨下。主書司馬睦祕以身蔽倫，箭中其背而死。倫官屬皆隱樹而立，每樹輒中數百箭，自辰至未，中書令陳淮徽之兄也，欲應允，言於帝曰：宜遣白虎幡以解鬪，乃使司馬督護伏胤將騎四百持幡從宮中出。

侍中汝陰王虔在門下省，陰與胤誓曰：富貴當與卿共之。胤乃懷空板出，詐言有詔，助淮南王。允不之覺，開陣內之下車，受詔胤因殺之，并殺允子秦王郁、漢王迪，坐允夷滅者數千人。曲赦洛陽，初孫秀嘗爲小吏，事黃門郎潘岳，岳屢撻之，衛尉石崇之甥歐陽建素與相國倫有隙，崇有愛妾曰綠珠，孫秀使求之，崇不與，及淮南王允敗，秀因稱石崇、潘岳、歐陽建奉允爲亂，收之。崇歎曰：奴輩利吾財爾。收者曰：知財爲禍，何不早散之。崇不能答。初潘岳母常謂責岳曰：汝當知足，而乾沒不已乎。及敗，岳謝母曰：負阿母，遂與崇建皆族誅。籍沒崇家。相國倫收淮南王母弟吳王晏欲殺之。光祿大夫傅祗爭之於朝堂，衆皆諫止，倫乃貶晏爲賓徒。縣王齊王冏以功遷游擊將軍，冏意不滿，有恨色。孫秀覺之，且憚其在內，乃出爲平東將軍。鎮許昌。○以光祿大夫陳準爲太尉，錄尙書事。未幾薨。○孫秀議加相國倫九錫，百官莫敢異議。吏部尙書劉頌曰：昔漢之錫魏，魏之錫晉，皆一時之用，非可通行。周勃、霍光，其功至大，皆不聞有九錫之命也。張林積忿不已，以頌爲張華之黨，將殺之。孫秀曰：殺張裴已傷時望，不可復殺。頌林乃止。以頌爲光祿大夫，遂下詔加倫九錫，復加其子芳撫軍將軍。虔中軍將軍，詔爲侍中，又加孫秀侍中，輔國將軍，相國司馬，右率如故。張林等竝居顯要，增相府兵爲二萬人，與宿衛同，并所隱匿之兵，數踰三萬。九月，改司徒爲丞相，以梁王彤爲之。彤固辭不受。倫及諸子皆頑鄙，無識，秀狡黠貪淫，所與共事者皆邪佞之士，惟競榮利，無遠謀深略。志趣乖異，互相憎嫉。秀子會爲射聲校尉，形貌短陋，如奴僕之下者。秀使尙帝女河東公主。○冬十一月甲子，立皇后羊氏。赦天下。后尙書郎泰山羊玄之女也。外祖平南將軍樂安孫旂與孫秀善，故秀立之。拜玄之光祿大夫，特進散騎常侍，封興晉侯。○詔徵益州刺史趙廞爲大長秋，以成都內史中山耿騰爲益州刺史。廞、賈后之姻親也，聞徵甚懼，且以晉室衰亂，陰有據蜀之志，乃傾倉廩賑流民，以收衆心，以李特兄弟材武，其黨類皆巴西人，與廞同郡，厚

遇之。以為爪牙。特等。憑恃。厥執。專聚衆為盜。蜀人患之。滕數密表。流民剛剽。蜀人懦弱。主不能制。客必為亂。階宜使還本居。若留之險地。恐秦雍之禍。更移于梁益矣。獻聞而惡之。州被詔書。遣文武千餘人迎滕。是時成都治少城。益州治太城。獻猶在太城。未去。滕欲入州。功曹陳恂諫曰。今州郡構怨日深。入城必有禍。不如留少城。以觀其變。檄諸縣合村保。以備秦氏。陳西夷行至。且當待之。不然。退保犍為。西渡江源。以防非常。滕不從。是日。帥衆入州。獻遣兵逆之。戰于西門。滕敗死。郡吏皆竄走。惟陳恂面縛詣獻。請滕死。獻義而許之。獻又遣兵逆西夷校尉陳總。總至江陽。聞獻有異志。主簿蜀郡趙模曰。今州郡不協。必生大變。當速行赴之。府是兵要。助順討逆。誰敢動者。總更緣道停留。比至南安魚涪津。已遇獻軍。模白總。散財募士。以拒戰。若克州軍。則州可得。不克。順流而退。必無害也。總曰。趙益州忿耿侯。故殺之。與吾無嫌。何為如此。模曰。今州起事。必當殺君。以立威。雖不戰無益也。言至垂涕。總不聽。衆遂自潰。總逃草中。模著總服格戰。獻兵殺模。見其非是。更搜求。得總殺之。獻自稱大都督。大將軍。益州牧。署置僚屬。改易守令。王官被召。無敢不往。李庠。帥妹婿李含。天水任回。上官晶。扶風李攀。始平費他。氏苻成。隗伯等。四千騎。歸獻。獻以庠為威寇將軍。封陽泉亭侯。委以心膂。使招合六郡壯勇。至萬餘人。以斷北道。

資治通鑑卷第八十三

資治通鑑卷第八十四

晉紀六

孝惠皇帝中之上

永寧元年春正月。以散騎常侍安定張軌為涼州刺史。軌以時方多難。陰有保據河西之志。故求為涼州。時州境盜賊縱橫。鮮卑為寇。軌至。以宋配汜瑗為謀主。悉討破之。威著西土。○相國倫與孫秀使牙門趙奉詐傳宣帝神語云。倫宜早入西宮。散騎常侍義陽王威望之孫也。素諂事倫。倫以威兼侍中。使威逼奪帝璽綬。作禪詔。又使尚書令滿奮持節奉璽綬。禪位於倫。左衛將軍王興。前軍將軍司馬雅等。帥甲士入殿。曉諭三部司馬。示以威賞。無敢違者。張林等屯守諸門。乙丑。倫備法駕入宮。即帝位。赦天下。改元建始。帝自華林西門出。居金墉城。倫使張衡將兵守之。丙寅。尊帝為太上皇。改金墉曰永昌宮。廢皇太孫為濮陽王。立世子苒為皇太子。封子馥為京兆王。虔為廣平王。詔為霸城王。皆侍中。將兵。以梁王彤為宰衡。何劭為太宰。孫秀為侍中。中書監。票騎將軍。儀同三司。義陽王威為中書令。張林為衛將軍。其餘黨與皆為卿將。超階越次。不可勝紀。下至奴卒。亦加爵位。每朝會。貂蟬盈座。時人為之諺曰。貂不足。狗尾續。是歲。天下所舉賢良秀才。孝廉。皆不試。郡國計吏及太學生。年十六以上者。皆署吏。守令。赦日。在職者皆封侯。郡綱紀竝為廉吏。府庫之儲不足。以供賜與。應侯者多。鑄印不給。或以白板封之。初。平南將軍孫旂之子弼。弟子髦。輔。琰。皆附會孫秀。與之合族。旬月間。致位通顯。及倫稱帝。四子皆為將軍。封郡侯。以旂為車騎將軍。開府。旂

以弼等受倫官爵過差必為家禍遣幼子回責之弼等不從旂不能制慟哭而已○癸酉殺
 濮陽哀王臧孫秀專執朝政倫所出詔令秀輒改更與奪自書青紙為詔或朝行夕改百官
 轉易如流張林素與秀不相能且怨不得開府潛與太子苻賤言秀專權不合衆心而功臣
 皆小人撓亂朝廷可悉誅之苻以書白倫倫以示秀秀勸倫收林殺之夷其三族秀以齊王
 冏成都王穎河間王顒各擁彊兵據方面惡之乃盡用其親黨為三王參佐加冏鎮東大將
 軍穎征北大將軍皆開府儀同三司以寵安之○李庠驍勇得衆心趙獻浸忌之而未言長
 史蜀郡杜淑張祭說獻曰將軍起兵始爾而遽遣李庠握彊兵於外非我族類其心必異此
 倒戈授人也宜早圖之會庠勸獻稱尊號淑祭因白獻以庠大逆不道引斬之并其子姪十
 餘人時李特李流皆將兵在外獻遣人慰撫之曰庠非所宜言罪應死兄弟罪不相及復以
 特流為督將特流怨獻引兵歸縣竹獻牙門將涪陵許弇求為巴東監軍杜淑張祭固執不
 許弇怒手殺淑祭於獻閣下淑祭左右復殺弇三人皆獻之腹心也獻由是遂衰獻遣長史
 韃為費遠蜀郡太守李苾督護常俊督萬餘人斷北道屯縣竹之石亭李特密收兵得七千
 餘人夜襲遠等軍燒之死者十八九遂進攻成都費遠李苾及軍祭酒張微夜斬關走文武
 盡散獻獨與妻乘小船走至廣都為從者所殺特入成都縱兵大掠遣使詣洛陽陳獻罪狀
 初梁州刺史羅尚聞趙獻反表獻非雄才蜀人不附敗亡可計日而待詔拜尚平西將軍益
 州刺史督牙門將王敦蜀郡太守徐儉廣漢太守辛冉等七千餘人入蜀特等聞尚來甚懼
 使其弟驥於道奉迎并獻珍玩尚悅以驥為騎督特流復以牛酒勞尚於縣竹王敦辛冉說
 尚曰特等專為盜賊宜因會斬之不然必為後患尚不從冉與特有舊謂特曰故人相逢不
 吉當凶矣特深自猜懼三月尚至成都汶山羌反尚遣王敦討之為羌所殺○齊王冏謀討
 趙王倫未發會離狐王盛穎川處穆聚衆於濁澤百姓從之日以萬數倫以其將管襲為齊

王軍司討盛穆斬之冏因收襲殺之遂與豫州刺史何曷龍驤將軍董艾等起兵遣使告成
 都王穎河間王顒常山王父及南中郎將新野公歆移檄征鎮州郡縣國稱逆臣孫秀迷誤
 趙王當共誅討有不從命者誅及三族使者至鄴成都王穎召鄴令盧志謀之志曰趙王篡
 逆人神共憤殿下收英俊以從人望杖大順以討之百姓必不召自至攘臂爭進蔑不克矣
 穎從之以志為諮議參軍仍補左長史志毓之孫也穎以兖州刺史王彥冀州刺史李毅督
 護趙驤石超等為前鋒遠近響應至朝歌衆二十餘萬超苞之孫也常山王父在其國與太
 原內史劉暉各帥衆為穎後繼新野公歆得冏檄未知所從嬖人王綏曰趙親而彊齊疎而
 弱公宜從趙參軍孫洵大言於衆曰趙王凶逆天下當共誅之何親疎彊弱之有歆乃從冏
 前安西參軍夏侯爽在始平合衆數千人以應冏遣使邀河間王顒顒用長史隴西李含謀遣
 振武將軍河間張方討擒爽及其黨腰斬之冏檄至揚州州人皆欲應冏刺史郝隆慮之玄孫
 華陰顧聞二王兵盛復召方還更附二王冏檄至揚州州人皆欲應冏刺史郝隆慮之玄孫
 也兄子鑒及諸子悉在洛陽疑未決悉召僚吏謀之主簿淮南趙誘前秀才虞潭皆曰趙
 王篡逆海內所疾今義兵四起其敗必矣為明使君計莫若自將精兵徑赴許昌上策也遣
 將將兵會之中策也量遣小軍隨形助勝下策也隆退密與別駕顧彥謀之彥曰誘等下策
 乃上計也治中留寶主簿張褒西曹留承聞之請見曰不審明使君今當何施隆曰我俱受
 二帝恩無所偏助欲守州而已承曰天下世祖之天下也太上承代已久今上取之不齊
 王順時舉事成敗可見使君不早發兵應之狐疑遷延變難將生此州豈可保也隆不應潭
 翻之孫也隆停檄六日不下將士憤怨參軍王邃鎮石頭將士爭往歸之隆遣從事於牛渚
 禁之不能止將士遂奉邃攻隆隆父子及顧彥皆死傳首於冏安南將軍監河北諸軍事孟
 觀以為紫宮帝座無他變倫必不敗乃為之固守倫秀聞三王兵起大懼詐為冏表曰不知

何賊猝見攻圍。臣懦弱不能自固。乞中軍見救。庶得歸死。以其表宣示內外。遣上軍將軍孫輔。折衝將軍李嚴。帥兵七千。自延壽關出。征虜將軍張泓。左軍將軍蔡瑁。前軍將軍閻和。帥兵九千。自嶓阪關出。鎮軍將軍司馬雅。揚威將軍莫原。帥兵八千。自成阜關出。以拒罔。遣孫秀子會。督將軍士猗。許超。帥宿衛兵三萬。以拒穎。召東平王琳。為衛將軍。都督諸軍。又遣京兆王馥。廣平王虔。帥兵八千。為三軍繼援。倫秀。日夜禱祈。厭勝。以求福。使巫覡選戰日。又使人於嵩山。著羽衣。詐稱仙人王喬。作書。述倫祚長久。欲以惑眾。○閏月。丙戌朔。日有食之。自正月。至于五月。五星互經天。縱橫無常。張泓等。進據陽翟。與齊王罔戰。屢破之。罔軍頽陰。夏四月。泓乘勝逼之。罔遣兵逆戰。諸軍不動。而孫輔。徐建軍夜亂。徑歸洛。自首曰。齊王兵盛。不可當。泓等已沒矣。趙王倫大恐。祕之。而召其子虔及許超。還會泓。破罔。露布至。倫乃復遣之。泓等悉帥諸軍。濟穎。攻罔營。罔出兵擊其別將孫髦。司馬譚等破之。泓等乃退。孫秀詐稱。已破罔營。擒得罔。令百官皆賀。成都王穎前鋒。至黃橋。為孫會士猗許超所敗。殺傷萬餘人。士眾震駭。穎欲退保朝歌。盧志。王彥曰。今我軍失利。敵新得志。有輕我之心。我若退縮。士氣沮。不可復用。且戰何能無勝負。不若更選精兵。星行倍道。出敵不意。此用兵之奇也。穎從之。倫賞黃橋之功。士猗。許超。與孫會。皆持節。由是各不相從。軍政不一。且恃勝輕穎。而不設備。穎帥諸軍擊之。大戰于淇水。會等大敗。棄軍南走。穎乘勝。長驅濟河。自罔等起兵。百官將士。皆欲誅倫。秀懼。不敢出中書省。及聞河北軍敗。憂懣不知所為。孫會許超。士猗等至。與秀謀。或欲收餘卒出戰。或欲焚宮室。誅不附己者。挾倫南就孫旂孟觀。或欲乘船東走入海。計未決。辛酉。左衛將軍王興。與尚書廣陵公灌。帥營兵七百餘人。自南掖門入宮。三部司馬。為應於內。攻孫秀許超。士猗於中書省。皆斬之。遂殺孫奇。孫弼。及前將軍謝悛等。灌。伯之子也。王興屯雲龍門。召八坐。皆入殿中。使倫為詔曰。吾為孫秀所誤。以怒三王。今已誅秀。其迎太

上皇復位。吾歸老于農畝。傳詔以騶虞幡。敕將士解兵。黃門將倫。自華林東門出。及太子苻。皆還汝陽里第。遣甲士數千。迎帝于金墉城。百姓咸稱萬歲。帝自端門入。升殿。羣臣頓首謝罪。詔送倫等。赴金墉城。廣平王虔。自河北還。至九曲。聞變。棄軍。將數十人。歸里第。癸亥。赦天下。改元。大酺五日。分遣使者慰勞三王。梁王彤等表。趙王倫。父子凶逆。宜伏誅。丁卯。遣尚書袁敞。持節。賜倫死。收其子苻。馥。虔。皆誅之。凡百官。為倫所用者。皆斥免。臺省府衛。僅有存者。是日。成都王穎至。己巳。河間王顥至。穎使趙驤。石超。助齊王罔。討張泓等。於陽翟。泓等皆降。自兵興。六十餘日。戰鬪死者。近十萬人。斬張衡。閻和。孫髦于東市。蔡瑁自殺。五月。誅義陽王威。襄陽太守宗岱。承罔檄。斬孫旂。永饒。冶。令空桐。機。斬孟觀。皆傳首洛陽。夷三族。○立襄陽王尚。為皇太孫。○六月。乙卯。齊王罔。帥眾入洛陽。頓軍通章署。甲士數十萬。威震京都。○戊辰。赦天下。○復封賓徒王晏。為吳王。○甲戌。詔以齊王罔。為大司馬。加九錫。備物典策。如宣景文武。輔魏故事。成都王穎。為大將軍。都督中外諸軍事。假黃鉞。錄尚書事。加九錫。入朝。不趨。劍履上殿。河間王顥。為侍中。太尉。加三賜之禮。常山王。又為撫軍大將軍。領左軍。齊廣陵公。灌。爵為王。領尚書。加侍中。進新野公。歌。爵為王。都督荊州諸軍事。加鎮南大將軍。齊成都河間三府。各置掾屬四十人。武號森列。文官備員而已。識者知兵之未戢也。己卯。以梁王彤。為太宰。領司徒。光祿大夫。劉蕃女。為趙世子苻。妻。故蕃及二子。散騎侍郎興。冠軍將軍。現。皆為趙王倫所委任。大司馬罔。以現父子有才望。特宥之。以興為中書郎。現為尚書左丞。又以前司徒王戎。為尚書令。劉敞。為御史中丞。王衍。為河南尹。新野王歆。將之鎮。與罔同乘謁陵。因說罔曰。成都王至親。同建大勳。今宜留之。與輔政。若不能爾。當奪其兵。權常山王。又與成都王穎。俱拜陵。又謂穎曰。天下者。先帝之業。王宜維正之。聞其言者。莫不憂懼。盧志謂穎曰。齊王眾號百萬。與張泓等相持。不能決。大王逕前濟河。功無與貳。今齊王欲與大王共

輔朝政志聞兩雄不俱立宜因太妃微疾求還定省委重齊王以收四海之心此計之上也
穎從之帝見穎于東堂慰勞之穎拜謝曰此大司馬罔之勳臣無豫焉因表稱罔功德宜委
以萬機自陳母疾請歸藩卽辭出不復還營便謁太廟出自東陽城門遂歸鄴遣信與罔別
罔大驚馳出送穎至七里澗及之穎住車言別流涕滂沱惟以太妃疾苦爲憂不及時事由
是士民之譽皆歸穎罔辟新興劉殷爲軍諮祭酒洛陽令曹攄爲記室督尚書郎江統陽平
太守河內荀晞參軍事吳國張翰爲東曹掾孫惠爲戶曹掾前廷尉正顧榮及順陽王豹爲
主簿惠賁之曾孫榮雍之孫也殷幼孤貧養曾祖母以孝聞人以穀帛遺之殷受而不謝直
云待後貴當相酌耳及長博通經史性倜儻有大志儉而不陋清而不介望之頽然而不可
侵也罔以何曷爲中領軍董艾典樞機又封其將佐有功者葛旗路秀衛毅劉眞韓泰皆爲
縣公委以心膂號曰五公成都王穎至鄴詔遣使者就申前命穎受大將軍讓九錫殊禮表
論興義功臣皆封公侯又表稱大司馬前在陽翟與賊相持既久百姓困敝乞運河北邸閣
米十五萬斛以賑陽翟饑民造棺八千餘枚以成都國秩爲衣服斂祭黃橋戰士旌顯其家
加常戰亡二等又命溫縣瘞趙王倫戰士萬四千餘人皆盧志之謀也穎貌美而神昏不知書
然氣性敦厚委事於志故得成其美焉詔復遣使諭穎入輔并使受九錫穎嬖人孟玖不欲
還洛又程太妃愛戀鄴都故穎終辭不拜初大司馬罔疑中書郎陸機爲趙王倫撰禪詔收
欲殺之大將軍穎爲之辯理得免死因表爲平原內史以其弟雲爲清河內史機友人顧榮
及廣陵戴淵以中國多難勸機還吳機以受穎全濟之恩且謂穎有時望可與立功遂留不
去○秋七月復封常山王父爲長沙王遷開府驃騎將軍○東萊王蕤凶暴使酒數陵侮大
司馬罔又從罔求開府不得而怨之密表罔專權與左衛將軍王興謀廢罔事覺八月詔廢
蕤爲庶人誅興三族徙蕤於上庸上庸內史陳鍾承罔旨潛殺之○赦天下○東武公澹坐

不孝徙遼東九月徵其弟東安王繇復舊爵拜尚書左僕射繇舉東平王楙爲平東將軍都
督徐州諸軍事鎮下邳○初朝廷符下秦雍州使召還流民入蜀者又遣御史馮該張昌督
之李特兄輔自略陽至蜀言中國方亂不足復還特然之累遣天水閻式詣羅尚求權停至
秋又納賂於尚及馮該尚該許之朝廷論討厥功拜特宣威將軍弟流奮武將軍皆封侯
璽書下益州條列六郡流民與特同討厥者將加封賞廣漢太守辛冉欲以滅厥爲己功寢
朝命不以實上衆咸怨之羅尚遣從事督遣流民限七月上道時流民布在梁益爲人傭力
聞州郡逼遣人人愁怨不知所爲且水潦方盛年穀未登無以爲行資特復遣閻式詣尚求
停至冬辛冉及犍爲太守李茲以爲不可尚舉別駕蜀郡杜叟秀才爲叟說逼移利害叟
亦欲寬流民一年尚用冉茲之謀不從叟乃致秀才板出還家冉性貪暴欲殺流民首領取
其資貨乃與茲白尚言流民前因請厥之亂多所剽掠宜因移設關以奪取之尚移書梓潼
太守張演於諸要施關搜索寶貨特數爲流民請留流民皆感而恃之多相帥歸特特乃結
大營於縣竹以處流民移辛冉求自寬冉大怒遣人分勝通衢購募特兄弟許以重賞特見
之悉取以歸與弟驥改其購云能送六郡會豪李任閻趙楊上官及氏叟侯王一首賞百匹
於是流民大懼歸特者愈衆旬月間過二萬人流亦聚衆數千人特又遣閻式詣羅尚求
期式見營柵衝要謀擒流民歎曰民心方危今而速之亂將作矣又知辛冉李茲意不可回
乃辭尚還縣竹尚謂式曰子且以吾意告諸流民今聽寬矣式曰明公惑於姦說恐無寬理
弱而不可輕者民也今趣之不以理衆怒難犯恐爲禍不淺尚曰然吾不欺子子其行矣式
至縣竹言於特曰尚雖云爾然未可信也何者尚威刑不立冉等各擁疆兵一旦爲變亦非
尚所能制深宜爲備特從之冬十月特分爲二營特居北營流居東營繕甲厲兵戒嚴以待
之冉茲相與謀曰羅侯貪而無斷日復一日令流民得展姦計李特兄弟竝有雄才吾屬將

為所虜矣。宜為決計。羅侯不足復問也。乃遣廣漢都尉曾元、牙門張顯、劉竝等潛帥步騎三萬襲特營。羅尚聞之，亦遣督護田佐助元。元等至，特安臥不動，待其衆半入，發伏擊之，死者甚衆。殺田佐，曾元、張顯傳首以示尚。冉尚謂將佐曰：「此虜成去矣，而廣漢不用吾言，以張賊勢。今若之何？」於是六郡流民李含等共推特，行鎮北大將軍，承制封拜。以其弟流行鎮東大將軍，號東督護，以相鎮統。又以兄輔為驃騎將軍，弟驥為驍騎將軍，進兵攻冉於廣漢。尚遣李苾、費遠帥衆救冉，畏特不敢進，冉出戰屢敗。潰圍奔德陽，特入據廣漢。以李超為太守，進兵攻尚於成都。尚以書諭閻式，式復書曰：「辛冉傾巧，曾元小豎，李叔平非將帥之才。式前為節下，及杜景文論留徙之宜，人懷桑梓，孰不願之。但往日初至，隨穀庸貨一室五分，復值秋潦，乞須冬熟而終不見聽，繩之太過，窮鹿抵虎，流民不肯延頸受刀，以致為變。即聽式言，寬使治嚴，不過去九月盡集，十月進道，今達鄉里，何有如此也。特以兄輔弟驥子始、蕩、雄及李含、含子國、離、任、回、李攀、攀弟恭、上官晶、任、臧、楊、褒、上官惇等為將帥，閻式、李遠等為僚佐。羅尚素貪殘，為百姓患，特與蜀民約法三章，施捨賑貸，禮賢拔滯，軍政肅然。蜀民大悅，尚頗為特所敗，乃阻長圍，緣郫水作營，連延七百里，與特相拒，求救於梁州及南夷校尉。○十二月，顯昌康公何劭薨。○封大司馬問子冰為樂安王，英為濟陽王，超為淮南王。太安元年春三月，冲太孫尚薨。○夏五月乙酉，梁孝王彤薨。○以右光祿大夫劉寔為太傅，尋以老病罷。○河間王顥遣督護衛博討李特，軍于梓潼。朝廷復以張微為廣漢太守，軍于德陽。羅尚遣督護張龜、軍于繁城，特使其子鎮軍將軍蕩等襲博，而自將擊龜，破之。蕩敗，博兵於陽沔，梓潼太守張演委城走。巴西丞毛植以郡降，蕩進攻博於葭萌，博走，其衆盡降。河間王顥更以許雄為梁州刺史，特自稱大將軍，益州牧都督梁益二州諸軍事。○大司馬問欲入專大政，以帝子孫俱盡，大將軍顯有次立之執，清河王覃退之子也。方八歲，乃上表請

立之。癸卯，立覃為皇太子，以問為太子太師，東海王越為司空，領中書監。○秋八月，李特攻張微，微擊破之，遂進攻特營。李蕩引兵救之，山道險隘，蕩力戰而前，遂破微兵。特欲還涪，蕩及司馬王幸諫曰：「微軍已敗，智勇俱竭，宜乘銳氣，遂禽之。特復進攻，微殺之，生禽微子，存以微喪還之。特以其將睿、碩守德陽，李驥軍毗橋，羅尚遣軍擊之，屢為驥所敗。驥遂進攻成都，燒其門。李流軍成都之北，尚遣精勇萬人攻驥，驥與流合擊，大破之。還者什一二。許雄數遣軍攻特，特不勝。特勢益盛，建寧大姓李叡、毛詵逐太守許俊，朱提大姓李猛逐太守雍約，以應特。衆各數萬。南夷校尉李毅討破之，斬詵。李猛奉牋降，而辭意不遜。毅誘而殺之。冬十一月，丙戌，復置寧州，以毅為刺史。齊武閔王問既得志，頗驕奢擅權，大起府第，壞公私廬舍，以百數。制與西宮等，中外失望。侍中嵇紹上疏曰：「存不忘亡，易之善戒也。臣願陛下無忘金墉，大司馬無忘穎上，大將軍無忘黃橋，則禍亂之萌，無由而兆矣。又與問書，以為唐虞茅茨，夏禹卑宮，今大興第舍，及為三王立宅，豈今日之急邪？問遜辭謝之，然不能從。問耽於宴樂，不入朝見，坐拜百官符敕，三臺選舉不均，嬖寵用事，殿中御史桓豹奏事，不先經問府，即加考覈。南陽處士鄭方上書諫，問曰：「今大王安不慮危，宴樂過度，一失也。宗室骨肉，當無纖介，今則不然，二失也。蠻夷不靜，大王謂功業已隆，不以為念，三失也。兵革之後，百姓窮困，不聞賑救，四失也。大王與義兵盟約，事定之後，賞不踰時，而今猶有功未論者，五失也。問謝曰：「非子孤不聞過。孫惠上書曰：「天下有五難，四不可，而明公皆居之。冒犯鋒刃，一難也。聚致英豪，二難也。與將士均勞苦，三難也。以弱勝強，四難也。興復皇業，五難也。大名不可久荷，大功不可久任，大權不可久執，大威不可久居，大王行其難，而不以為難，處其不可，而謂之可，惠竊所不安也。明公宜思功成身退之道，崇親推近，委重長沙，成都二王長揖歸藩，則太伯子臧不專美於前矣。今乃忘高亢之可危，貪權執以受疑，雖遨遊高臺之上，逍遙重墉之內，愚竊謂危

亡之憂過於在穎翟之時也。罔不能用。惠辭疾去。罔謂曹攄曰。或勸吾委權還國。何如。攄曰。物禁太盛。大王誠能居高慮危。褻裳去之。斯善之善者也。罔不聽。張翰。顧榮。皆慮及禍。翰因秋風起。思菰菜。蓴鱸魚。歎曰。人生貴適志耳。富貴何爲。卽引去。榮故酣飲。不省府事。長史葛旗。以其廢職。白罔。徙榮爲中書侍郎。穎川處士庾袞。聞罔暮年不朝。歎曰。晉室卑矣。禍亂將興。帥妻子逃於林慮山中。王豹致牋於罔曰。伏思元康以來。宰相在位。未有一人獲終者。乃事執使。然非皆爲不善也。今公克平禍亂。安國定家。乃復尋覆車之軌。欲冀長存。不亦難乎。今河間樹根於關右。成都盤桓於舊魏。新野大封於江漢。三王各以方剛強盛之年。並典戎馬。處要害之地。而明公以難賞之功。挾震主之威。獨據京都。專執大權。進則亢龍有悔。退則據于蒺藜。冀此求安。未見其福也。因請悉遣王侯之國。依周召之法。以成都王爲北州伯。治鄴。罔自爲南州伯。治宛。分河爲界。各統王侯。以夾輔天子。罔優令答之。長沙王又見豹牋。謂罔曰。小子離骨肉。何不銅駝下打殺。罔乃奏豹。讒內間外。坐生猜嫌。不忠不義。鞭殺之。豹將死曰。縣吾頭大司馬門。見兵之攻齊也。罔以河間王。顯本附趙王倫。心常恨之。梁州刺史安定皇甫商。與顯長史李含。不平。含被徵爲翊軍校尉。時商參罔軍事。夏侯爽兄亦在罔府。含心不自安。又與罔右司馬趙驤。有隙。遂單馬奔顯。詐稱受密詔。使顯誅罔。因說顯曰。成都王至親。有大功。推讓還藩。甚得衆心。齊王越親而專政。朝廷側目。今檄長沙王使討齊。齊王必誅長沙。吾因以爲齊罪。而討之。必可禽也。去齊立成都。除逼建親。以安社稷。大勳也。顯從之。是時武帝族弟范陽王虓。都督豫州諸軍事。顯上表陳罔罪狀。且言勒兵十萬。欲與成都王穎。新野王歆。范陽王虓。共會洛陽。請長沙王又廢罔。還第。以穎代罔。輔政。顯遂舉兵。以李含爲都督。帥張方等。趨洛陽。復遣使邀穎。將應之。盧志諫不聽。十二月丁卯。顯表至。罔大懼。會百官議之曰。孤首唱義兵。臣子之節。信著神明。今二王信讒作難。將若之何。尙書

令王戎曰。公勳業誠大。然賞不及勞。故人懷貳心。今二王兵盛。不可當也。若以王就第。委權崇讓。庶可求安。罔從事中郎葛旗。怒曰。三臺納言。不恤王事。賞報稽緩。責不在府。讒言逆亂。當共誅討。奈何。虛承僞書。遽令公就第乎。漢魏以來。王侯就第。寧有得保妻子者邪。議者可斬。百官震悚失色。戎僞藥發。墮廁得免。李含屯陰盤。張方帥兵二萬。軍新安。檄長沙王又使討罔。罔遣董艾。襲又。又將左右百餘人。馳入宮。閉諸門。奉天子。攻大司馬府。董艾陳兵宮西。縱火燒千秋神武門。罔使人執騶虞幡。唱云。長沙王又矯詔。又稱大司馬謀反。是夕。城內大戰。飛矢雨集。火光屬天。帝幸上東門。矢集御前。羣臣死者相枕。連戰三日。罔衆大敗。大司馬長史趙淵。殺何晏。因執罔以降。罔至殿前。帝惻然欲活之。又叱左右。輒牽出。斬於闔闔門外。徇首六軍。同黨皆夷。三族死者二千餘人。囚罔子超。水英於金墉城。廢罔弟北海王寔。赦天下。改元。李含等聞罔死。引兵還長安。長沙王又雖在朝廷。事無巨細。皆就鄴。諮大將軍穎。穎以孫惠爲參軍。陸雲爲右司馬。○是歲。陳留王薨。諡曰魏元皇帝。○鮮卑宇文單于莫圭。部衆彊盛。遣其弟屈雲。攻慕容廆。廆擊其別帥素怒延。破之。素怒延恥之。復發兵十萬。圍廆於棘城。廆衆皆懼。廆曰。素怒延兵雖多。而無法制。已在吾算中矣。諸君但爲力戰。無所憂也。遂出擊。大破之。追奔百里。俘斬萬計。遼東孟暉。先沒於宇文部。帥其衆數千家。降于廆。廆以爲建威將軍。廆以其臣慕輿。句。勤。恪。廉。靖。使掌府庫。句。心。計。默。識。不。按。簿。書。始。終。無。漏。以。慕。輿。河。明。敏。精。審。使。典。獄。訟。覆。訊。清。允。

資治通鑑卷八十四

晉紀 孝惠皇帝中之上 太安元年

資治通鑑卷第八十五

晉紀七

孝惠皇帝中之下

太安二年春正月李特潛渡江擊羅尚水上軍皆散走蜀郡太守徐儉以少城降特入據之惟取馬以供軍餘無侵掠赦其境內改元建初羅尚保太城遣使求和於特蜀民相聚為塢者皆送款於特特遣使就撫之以軍中糧少乃分六郡流民於諸塢就食李流言於特曰諸塢新附人心未固宜質其大姓子弟聚兵自守以備不虞又與特司馬上官惇書曰納降如受敵不可易也前將軍雄亦以為言特怒曰大事已定但當安民何為更逆加疑忌使之離叛乎朝廷遣荊州刺史宗岱建平太守孫阜帥水軍三萬以救羅尚岱以阜為前鋒進逼德陽特遣李蕩及蜀郡太守李璜就德陽太守任臧共拒之岱軍勢甚盛諸塢皆有貳志益州兵曹從事蜀郡任叡言於羅尚曰李特散眾就食驕怠無備此天亡之時也宜密約諸塢刻期同發內外擊之破之必矣尚使叡夜縋出城宣旨於諸塢期以二月十日同擊特叡因詣特詐降特問城中虛實叡曰糧儲將盡但餘貨帛耳叡求出省家特許之遂還報尚二月尚遣兵掩襲特營諸塢皆應之特兵大敗斬特及李輔李遠皆焚尸傳首洛陽流民大懼李流李蕩李雄收餘眾還保赤祖流自稱大將軍大都督益州牧保東營蕩雄保北營孫阜破德陽獲塞頌任臧退屯涪陵二月羅尚遣督護何冲常深等攻李流涪陵民藥紳亦起兵攻流流與李驥拒深使李蕩李雄拒紳何冲乘虛攻北營氏苻成隗伯在營中叛應之蕩母羅氏擐甲拒戰伯手刃傷其目

羅氏氣益壯營垂破會流等破深紳引兵還與冲等戰大破之成伯率其黨突出詣尚流等乘勝進抵成都尚復閉城自守蕩馳馬逐北中矛而死朝廷遣侍中燕國劉沈假節統羅尚許雄等軍討李流行至長安河間王顥留沈為軍師遣席蓮代之李流以李特李蕩繼死宗岱孫阜將至甚懼李含勸流降流從之李驥李雄迭諫不納夏五月流遣其子世及含子胡為質於阜翁不從奈何離曰當劫之耳雄大喜乃共說流民曰吾屬前已殘暴蜀民今一旦束手便為魚肉惟有同心襲阜以取富貴耳眾皆從之雄遂與離襲擊阜軍大破之會宗岱卒於墊江荊州軍遂退流甚慙由是奇雄才軍事悉以任之○新野莊王歆為政嚴急失蠻夷心義陽蠻張昌聚黨數千人欲為亂荊州以壬午詔書發武勇赴益州討李流號壬午兵民憚遠征皆不欲行詔書督遣嚴急所經之界停留五日者二千石免官由是郡縣官長皆親出驅逐展轉不遠輒復屯聚為羣盜時江夏大稔民就食者數千口張昌因之誑惑百姓更姓名曰李辰募眾於安陸石巖山諸流民及避戍役者多往從之太守弓欽遣兵討之不勝昌遂攻郡欽兵敗與部將朱伺犇武昌欽遣騎督靳滿討之滿復敗走昌遂據江夏造妖言云當有聖人出為民主得山都縣吏丘沈更其姓名曰劉尼詐云漢後奉以為天子曰此聖人也昌自為相國詐作鳳皇玉璽之瑞建元神鳳郊祀服色悉依漢故事有不應募者族誅之士民莫敢不從又流言云江淮已南皆反官軍大起當悉誅之互相扇動人情惶懼江河間所在起兵以應昌旬月間眾至三萬皆著絳帽以馬尾作髻詔遣監軍華宏討之敗于障山欽上言妖賊犬羊萬計絳頭毛面挑刀走戟其鋒不可當請臺勅諸軍三道救助朝廷以屯騎校尉劉喬為豫州刺史寧朔將軍沛國劉弘為荊州刺史又詔河間王顥遣雍州刺史劉沈將州兵萬人并征西府五千人出藍田關以討昌顥不奉詔沈自領州兵至藍田顥又逼奪其眾於是

劉喬屯汝南。劉弘及前將軍趙驤、平南將軍羊伊、屯宛。昌遣其將黃林帥二萬人向豫州。劉喬擊却之。初，歆與齊王冏善。冏敗，歆懼，自結於大將軍穎。及張昌作亂，歆表請討之。時長沙王乂已與穎有隙，疑歆與穎連謀，不聽。歆出兵，昌衆日盛。從事中郎孫洵謂歆曰：「公爲岳牧，受閩外之託，拜表輒行，有何不可？而使姦凶滋蔓，禍釁不測，豈藩翰王室、鎮靜方夏之義乎？」歆將出兵，王綏曰：「昌等小賊，偏裨自足，制之何必違詔命？親矢石也。」昌至樊城，歆乃出拒之。衆潰，爲昌所殺。詔以劉弘代歆爲鎮南將軍、都督荊州諸軍事。六月，弘以南蠻長史廬江陶侃爲大都護，參軍劄恒爲義軍督護，牙門將皮初爲都戰帥，進據襄陽。張昌并軍圍宛，敗趙驤軍，殺羊伊。劉弘退屯梁。昌進攻襄陽，不克。○李雄攻殺汶山太守陳圖，遂取郫城。秋七月，李流徙屯郫，蜀民皆保險結塢，或南入寧州，或東下荊州，城邑皆空。野無煙火，流虜掠無所得。士衆饑乏，唯涪陵千餘家依青城山處士范長生。平西參軍涪陵徐舉說羅尚求爲汶山太守，邀結長生與共討流，尚不許。舉怒，出降於流。流以舉爲安西將軍，舉說長生使資給流軍糧。長生從之。流軍由是復振。○初，李含以長沙王乂微弱，必爲齊王冏所殺，因欲以爲冏罪而討之。遂廢帝，立大將軍穎，以河間王顥爲宰相，已得用事，既而冏爲乂所殺，穎頗猶守藩，不如所謀。穎恃功驕奢，百度弛廢，甚於冏時。猶嫌乂在內，不得逞其欲，欲去之。時皇甫商復爲乂參軍，商兄重爲秦州刺史，含說顥曰：「商爲乂所任，重終不爲人用，宜早除之，可表遷重爲內職，因其過長安，執之，重知之，露檄上尚書，發隴上兵以討含，乂以兵方少息，遣使詔重罷兵，徵含爲河南尹，含就徵，而重不奉詔，顥遣金城太守游楷、隴西太守韓稚等合四郡兵攻之。顥密使含與侍中馮蓀、中書令卞粹謀殺乂。皇甫商以告乂，收含蓀粹殺之。驃騎從事琅邪諸葛攻前司徒長史武邑牽秀，皆出犇郫。○張昌黨石冰寇揚州，敗刺史陳徽，諸郡盡沒。又攻破江州，別將陳貞等攻武陵、零陵、豫章、武昌、長沙，皆陷之。臨淮人封雲起兵寇徐州，以應

水。於是荆江徐揚豫五州之境，多爲昌所據。昌更置牧守，皆桀盜小人，專以劫掠爲務。劉弘遣陶侃等攻昌於竟陵。劉喬遣其將李揚等向江夏。侃等屢與昌戰，大破之。前後斬首數萬級。昌逃于下雋山，其衆悉降。初，陶侃少孤貧，爲郡督郵。長沙太守萬嗣過廬江，見而異之，命其子結友而去。後察孝廉，至洛陽。豫章國郎中令楊倬薦之於顧榮。侃由是知名。既克張昌，劉弘謂侃曰：「吾昔爲羊公參軍，謂吾後當居身處今觀卿，必繼老夫矣。」弘之退屯於梁也，征南將軍范陽王虓遣前長水校尉張奕領荊州。弘至，奕不受代，舉兵拒弘。弘討奕，斬之。時荊部守宰多缺，弘請補選。詔許之。弘叙功銓德，隨才授任，人皆服其公當。弘表皮初補襄陽太守。朝廷以初雖有功，而望淺，更以弘婿前東平太守夏侯陟爲襄陽太守。弘下教曰：「夫治一國者，宜以一國爲心，必若姻親，然後可用。則荊州十郡，安得十女婿？然後爲政哉？乃表陟姻親，舊制不得相監。皮初之勳，宜見酬報，詔聽之。弘於是勸課農桑，寬刑省賦，公私給足。百姓愛悅。○河間王顥聞李含等死，即起兵討長沙王乂。大將軍穎上表請討張昌，許之。聞昌已平，因欲與顥共攻乂。盧志諫曰：「公前有大功，而委權辭寵，時望美矣。今若頓軍關外，文服入朝，此霸王之事也。參軍魏郡邵續曰：「人之有兄弟，如左右手。明公欲當天下之敵，而先去其一，手可乎？穎皆不從。八月，顥與穎共表，乂論功不平，與右僕射羊玄之、左將軍皇甫商專擅朝政，殺害忠良，請誅玄之。商遣乂還國，詔曰：「顥敢舉大兵，內向京輦，吾當親率六軍以誅姦逆。其以乂爲太尉，都督中外諸軍事，以禦之。顥以張方爲都督，將精兵七萬，自函谷東趨洛陽。穎引兵屯朝歌，以平原內史陸機爲前將軍，前鋒都督，督北中郎將王粹、冠軍將軍牽秀。中護軍石超等軍二十餘萬，南向洛陽。機以羈旅事穎。一旦頓居諸將之右，王粹等心皆不服。白沙督孫惠與機親厚，勸機讓都督於粹。機曰：「彼將謂吾首鼠兩端，適所以速禍也。遂行。穎列軍自朝歌至河橋，鼓聲聞數百里。乙丑，帝如十三里橋。太尉乂使皇甫商將萬餘人拒張方於

宜陽已巳。帝還軍宣武場。庚午。舍于石樓。九月。丁丑。屯于河橋。壬午。張方襲皇甫商敗之。甲申。帝軍于芒山。丁亥。帝幸偃師。辛卯。舍于豆田。大將軍穎進屯河南。阻清水爲壘。癸巳。羊玄之憂懼而卒。帝旋軍城東。丙申。幸緱氏。擊牽秀走之。大赦。張方入京城。大掠。死者萬計。○李流疾篤。謂諸將曰。驍騎仁明。固足以濟大事。然前軍英武。殆天所相。可共受事於前軍。流卒。衆推李雄爲大都督。大將軍益州牧。治郫城。雄使武都朴泰。給羅尚。使襲郫城。云已爲內應。尚使陳伯將兵攻郫。泰約舉火爲應。李驥伏兵於道。泰出長梯於外。陳伯兵見火起。爭緣梯上。驥縱兵擊。大破之。追奔。夜至城下。詐稱萬歲曰。已得郫城矣。入少城。尚乃覺之。退保太城。陳伯創甚。雄生獲之。赦不殺。李驥攻犍爲。斷尚運道。獲太守龔恢。殺之。○石超進逼緱氏。冬十月。壬寅。帝還宮。丁未。敗牽秀於東陽門外。大將軍穎遣將軍馬威助陸機。戊申。太尉又奉帝與機戰于建春門。又司馬王瑚使數千騎擊戟於馬。以突威陳。威軍亂。執而斬之。機軍大敗。赴七里澗。死者如積。水爲之不流。斬其大將賈崇等十六人。石超遁去。初。宦人孟玖有寵於大將軍穎。玖欲用其父爲郟鄏令。左長史盧志等皆不敢違。右司馬陸雲固執不許曰。此縣公府掾資。豈有黃門父居之邪。玖深怨之。玖弟超領萬人爲小督。未戰。縱兵大掠。陸機錄其主者。超將鐵騎百餘人直入機麾下。奪之。顧謂機曰。貉奴能作督不。機司馬吳郡孫拯勸機殺之。機不能用。超宣言於衆曰。陸機將反。又還書與玖言。機持兩端。故軍不速決。及戰。超不受機節度。輕兵獨進。敗沒。玖疑機殺之。譖之於穎曰。機有貳心於長沙。牽秀素諂事玖。將軍王闡郝昌帳下督陽平公師藩皆玖所引用。相與共證之。穎大怒。使秀將兵收機參軍事。王彰諫曰。今日之舉。疆弱異勢。庸人猶知必克。況機之明達乎。但機吳人。殿下用之太過。北土舊將皆疾之耳。穎不從。機聞秀至。釋戎服著白帢。與秀相見。爲賤辭。穎既而歎曰。華亭鶴唳可復聞乎。秀遂殺之。穎又收機弟清河內史雲。平東祭酒耽及孫拯皆下獄。記室江統陳

留蔡克。穎川棗嵩等上疏。以爲陸機淺謀致敗。殺之可也。至於反逆。則衆共知其不然。宜究檢校機反狀。若有徵驗。誅雲等。未晚也。統等懇請不已。穎遲迴者三日。蔡克入至穎前。叩頭流血曰。雲爲孟玖所怨。遠近莫不聞。今果見殺。竊爲明公惜之。僚屬隨克入者數十人。流涕固請。穎惻然。有雲色。孟玖扶穎入。催令殺雲。耽夷機三族。獄吏考掠孫拯數百。兩踝骨見。終言機冤。吏知拯義烈。謂拯曰。二陸之枉。誰不知之。君可不愛身乎。拯仰天歎曰。陸君兄弟。世之奇士。吾蒙知愛。今既不能救其死。忍復從而誣之乎。玖等知拯不可屈。乃令獄吏詐爲拯辭。穎既殺機。意常悔之。及見拯辭。大喜。謂玖等曰。非卿之忠。不能窮此姦。遂夷拯三族。拯門人費慈。幸意。二人詣獄。明拯冤。拯譬遣之曰。吾義不負二陸。死自吾分。卿何爲爾邪。曰。君既不負二陸。僕又安可負君。固言拯冤。玖又殺之。太尉又奉帝攻張方。方兵望見乘輿。皆退走。方遂大敗。死者五千餘人。方退屯十三里橋。衆懼。欲夜遁。方曰。勝負。兵家之常。善用兵者。能因敗爲成。今我更前作壘。出其不意。此奇策也。乃夜潛進逼洛城。七里築壘。數重。外引廩穀。以足軍食。又既戰勝。以爲方不足憂。聞方壘成。十一月。引兵攻之。不利。朝議以爲。又穎兄弟。可辭說而釋。乃使中書令王衍等往說。穎令與又分陝而居。穎不從。又因致書於穎。爲陳利害。欲與之和解。穎復書。請斬皇甫商等首。則引兵還鄴。又不可。穎進兵逼京師。張方決千金塢。水碓皆涸。乃發王公奴婢。手舂給兵。一品已下。不從征者。男子十三以上。皆從。役。又發奴助兵。公私窮蹙。米石萬錢。詔命所行。一城而已。驃騎主簿范陽祖逖言於又曰。劉沈忠義。果毅。雍州兵力。足制河間。宜啓上。爲詔與沈。使發兵襲穎。穎窘急。必召張方。以自救。此良策也。又從之。沈奉詔。馳檄四境。諸郡多起兵。應之。沈合七郡之衆。凡萬餘人。趣長安。又使皇甫商間行。齎帝手詔。命游楷等罷兵。救皇甫重。進軍討穎。商行至新平。遇其從甥。從甥素憎商。以告穎。穎捕商殺之。○十二月。議郎周玘前南平內史。長沙王矩起兵江東。以討石冰。推

前吳興太守吳郡顧祕都督揚州九郡諸軍事傳檄州郡殺冰所署將吏於是前侍御史賀循起兵於會稽廬江內史廣陵華譚及丹陽葛洪甘卓皆起兵以應祕玘處之子循邵之子卓寧之曾孫也冰遣其將羌壽帥兵數萬拒玘玘擊斬之冰自臨淮退趨壽春征東將軍劉準聞冰至惶懼不知所爲廣陵度支廬江陳敏統衆在壽春謂準曰此等本不樂遠戍逼迫成賊烏合之衆其執易離敏請督帥運兵爲公破之準乃益敏兵使擊之○閏月李雄急攻羅尚尚軍無食留牙門張羅守城夜由牛鞞水東走羅開門降雄入成都軍士饑甚乃帥衆就穀於鄴掘野芋而食之許雄坐討賊不進徵卽罪○安北將軍都督幽州諸軍事王浚以天下方亂欲結援夷狄乃以一女妻鮮卑段務勿塵一女妻素怒延又表以遼西郡封務勿塵爲遼西公浚沈之子也○毛詵之死也李叡犇五苓夷帥于陵丞于陵丞詣李叡爲叡請命叡許之叡至殺之于陵丞怒帥諸夷反攻叡○尚書令樂廣女爲成都王妃或譖諸太尉父又以問廣廣神色不動徐曰廣豈以五男易一女哉父猶疑之

永興元年春正月丙午樂廣以憂卒○長沙厲王父屢與大將軍穎戰破之前後斬獲六七萬人而又未嘗虧奉上之禮城中糧食日窘而士卒無離心張方以爲洛陽未可克欲還長安而東海王越慮事不濟癸亥潛與殿中諸將夜收又送別省甲子越啓帝下詔免又官置金墉城大赦改元城既開殿中將士見外兵不盛悔之更謀劫出又以拒穎越懼欲殺又以絕衆心黃門侍郎潘滔曰不可將自有靜之者乃遣人密告張方丙寅方取又於金墉城至營炙而殺之方軍士亦爲之流涕公卿皆詣鄴謝罪大將軍穎入京師復還鎮于鄴詔以穎爲丞相加東海王越守尚書令穎遣奮武將軍石超等率兵五萬屯十二城門殿中宿所忌者穎皆殺之悉代去宿衛兵表盧志爲中書監留鄴參署丞相府事○河間王顥頓軍於鄴爲東軍聲援聞劉沈兵起還鎮渭城遣督護虞夔逆戰於好時夔兵敗顥懼退入長安急召

張方方掠洛中官私奴婢萬餘人而西軍中乏食殺人雜牛馬肉食之劉沈渡渭而軍與顥戰顥屢敗沈使安定太守衙博功曹皇甫澹以精甲五千襲長安入其門力戰至顥帳下沈兵來遲馮翊太守張輔見其無繼引兵橫擊之殺博及澹兵遂敗收餘卒而退張方遣其將敦偉夜擊之沈軍驚潰沈與麾下南走追獲之沈謂顥曰知己之惠輕君臣之義重沈不可以違天子之詔量彊弱以苟全投袂之日期之必死蒞醢之戮其甘如飴顥怒鞭之而後腰斬新平太守江夏張光數爲沈畫計顥執而詰之光曰劉雍州不用鄙計故令大王得有今日顥壯之引與歡宴表爲右衛司馬○羅尚逃至江陽遣使表狀詔尚權統巴東巴郡涪陵以供軍賦尚遣別駕李興詣鎮南將軍劉弘求糧弘綱紀以運道阻遠且荊州自空乏欲以零陵米五千斛與尚弘曰天下一家彼此無異吾今給之則無西顧之憂矣遂以三萬斛給之尚賴以自存李興願留爲弘參軍弘奪其手版而遣之又遣治中何松領兵屯巴東爲尚後繼于時流民在荊州者十餘萬戶羈旅貧乏多爲盜賊弘大給其田及種糧擢其賢才隨資叙用流民遂安○二月乙酉丞相穎表廢皇后羊氏幽于金墉城廢皇太子覃爲清河王○陳敏與石冰戰數十合冰衆十倍於敏敏擊之所嚮皆捷遂與周玘合攻冰於建康三月冰北走投封雲雲司馬張統斬冰及雲以降揚徐二州平周玘賀循皆散衆還家不言功賞朝廷以陳敏爲廣陵相○河間王顥表請立丞相穎爲太弟戊申詔以穎爲皇太弟都督中外諸軍事丞相如故大赦乘輿服御皆遷于鄴制度一如魏武帝故事以顥爲太宰大都督雍州牧前太傅劉寔爲太尉寔以老固讓不拜○太弟穎僭侈日甚嬖倖用事大失衆望司空東海王越與右衛將軍陳豨及長沙故將上官巳等謀討之秋七月丙申朔陳豨勒兵入雲龍門以詔召三公百僚入殿中戒嚴討穎石超犇鄴戊戌大赦復皇后羊氏及太子覃已亥越奉帝北征以越爲大都督徵前侍中嵇紹詣行在侍中秦準謂紹曰今往安危難測卿

有佳馬乎。紹正色曰：臣子扈衛乘輿，死生以之。佳馬何爲？越檄召四方兵，赴者雲集。比至安陽，衆十餘萬，鄴中震恐。穎會羣僚問計。東安王繇曰：天子親征，宜釋甲縞素，出迎訶罪。穎不從。遣石超、帥衆五萬拒戰，折衝將軍喬智明勸穎奉迎乘輿。穎怒曰：卿名曉事，以身事孤，今主上爲羣小所逼，卿奈何欲使孤束手就刑邪？陳陟、二弟匡、規自鄴赴行在云：鄴中皆已離散，由是不甚設備。己未，石超軍奄至，乘輿敗績於蕩陰。帝傷頰中三矢，百官侍御皆散。稽紹朝服，下馬登輦，以身衛帝。兵人引紹於轅中，斫之。帝曰：忠臣也，勿殺。對曰：奉太弟令，惟不犯陛下一人耳。遂殺紹，血濺帝衣。帝愠於草中，亡六璽。石超奉帝幸其營，帝餒甚，超進水。左右奉秋桃，穎遣盧志迎帝，庚申入鄴。大赦，改元曰建武。左右欲浣帝衣，帝曰：稽侍中血勿浣也。陳陟、上官已等奉太子覃守洛陽。司空越奔下邳，徐州都督東平王楙不納。越徑還東海。太弟穎以越兄弟宗室之望，下令招之。越不應命。前奮威將軍孫惠上書勸越要結藩方，同獎王室。越以惠爲記室參軍，與參謀議。北軍中候苟晞奔范陽，王虓、虓承制以晞行兗州刺史。○初三王之起兵，討趙王倫也。王浚擁衆挾兩端，禁所部士民不得赴三王召募。太弟穎欲討之，而未能。浚心亦欲圖穎，穎以右司馬和演爲幽州刺史，密使殺浚。演與烏桓單于審登謀，與浚游，薊城南清泉，因而圖之。會天暴雨，兵器霑濕，不果而還。審登以爲浚得天助，乃以演謀告浚。浚與審登密嚴兵，約并州刺史東嬴公騰共圍演殺之。自領幽州營兵，騰、越之弟也。太弟穎稱詔徵浚，浚與鮮卑段務勿塵、烏桓羯朱及東嬴公騰同起兵討穎。穎遣北中郎將王斌及石超擊之。○太弟穎怨東安王繇前議，八月戊辰，收繇殺之。初，繇兄琅邪恭王觀薨，子容嗣。容沈敏有度量，爲左將軍，與東海參軍王導善。導敦之從父弟也。識量清遠，以朝廷多故，每勸容之國。及繇死，容從帝在鄴，恐及禍，將逃歸。穎先敕關津無得出貴人。容至河陽，爲津吏所止。從者宋典自後來，以鞭拂容而笑曰：舍長官禁貴人，汝亦被拘邪？吏乃聽過。

至洛陽，迎太妃夏侯氏俱歸國。○丞相從事中郎王澄發孟玖姦利事，勸太弟穎誅之。穎從之。○上官已在洛陽，殘暴縱橫，守河南尹周馥。浚之從父弟也，與司隸滿奮等謀誅之。事洩，奮等死。馥走得免。司空越之討太弟穎也，太宰頤遣右將軍馮翊太守張方將兵二萬救之。聞帝已入鄴，因命方鎮洛陽，已與別將苗願拒之。大敗而還。太子覃夜襲，已願出走。方入洛陽，覃於廣陽門迎，方而拜，方下車扶止之。復廢覃及羊后。○初，太弟穎表匈奴左賢王劉淵爲冠軍將軍，監五部軍事，使將兵在鄴。淵子聰、驍勇絕人，博涉經史，善屬文，彎弓三百斤，弱冠游京師，名士莫不與交。穎以聰爲積弩將軍，淵從祖右賢王宣謂其族人曰：自漢亡以來，我單于徒有虛號，無復尺土。自餘王侯降同編戶，今吾衆雖衰，猶不減二萬，奈何斂手受役，奄過百年？左賢王英武超世，天苟不欲興匈奴，必不虛生此人。今司馬氏骨肉相殘，四海鼎沸，復呼韓邪之業，此其時矣。乃相與謀，推淵爲大單于，使其黨呼延攸詣鄴告之。淵自穎請歸會葬，穎不許。淵令攸先歸告宣等，使招集五部及雜胡，聲言助穎實欲叛之。及王浚、東嬴公騰起兵，淵說穎曰：今二鎮跋扈，衆十餘萬，恐非宿衛及近郡士衆所能禦也。請爲殿下還說五部，以赴國難。穎曰：五部之衆，果可發否？就能發之，鮮卑烏桓未易當也。吾欲奉乘輿還洛陽，以避其鋒。徐傳檄天下，以逆順制之。君意何如？淵曰：殿下武皇帝之子，有大勳於王室，威恩遠著，四海之內，孰不願爲殿下盡死力者？何難發之？有。王浚、豎子、東嬴疎屬，豈能與殿下爭衡邪？殿下發鄴宮，示弱於人，洛陽不可得而至。雖至洛陽，威權不復在殿下也。願殿下撫勉士衆，靖以鎮之。淵請爲殿下以二部摧東嬴，三部梟王浚，二豎之首，可指日而懸也。穎悅，拜淵爲北單于，參丞相軍事。淵至左國城，劉宣等上大單于之號。二旬之間，有衆五萬，都於離石。以聰爲鹿蠡王，遣左於陸王宏、帥精騎五千，會穎將王粹拒東嬴公騰。粹已爲騰所敗，宏無及而歸。王浚、東嬴公騰合兵擊王斌，大破之。浚以主簿祁弘爲前鋒，敗石